

平成28年度 人材力活性化に関する
調査研究事業

報告書

平成29年3月

総務省地域力創造グループ地域自立応援課
人材力活性化・連携交流室

<< 目 次 >>

序章 調査の目的	1
1. 調査の目的	1
2. 調査研究事業	1
第Ⅰ章 全国地域づくり人財塾	2
1. 全国地域づくり人財塾とは	2
2. 本年度の実施状況	4
3. 全国地域づくり人財塾フォローアップ研修	16
第Ⅱ章 全国地域づくり人財塾課題解決編	19
1. 全国地域づくり人財塾課題解決編とは	19
2. フィールドワーク型の実施状況	19
第Ⅲ章 人材力活性化研究会	22
1. 人材力活性化研究会とは	22
2. 第19回研究会	23
3. 第20回研究会	25
第Ⅳ章 本年度の調査研究事業の成果と今後の方向性	30
1. 本年度の調査研究事業の成果と課題の確認	30
2. 今後の展開に向けて	35
参考資料	
参考資料1. 全国地域づくり人財塾 初級編 受講者アンケート等	37
参考資料2. 全国地域づくり人財塾 課題解決編（フィールドワーク型） 受講者アンケート・リーフレット	226
参考資料3. 人材力活性化研究会 資料	239

序章 調査の目的

1. 調査の目的

総務省では、地域活性化の基本的な要素である人材力の強化を図るため、NPO・企業等の「民」と国・地方公共団体等の「官」の連携方策も含めた課題を抽出したうえで、地方公共団体や地域活性化に関わる団体等が、人材力の活性化に取り組む場合の参考として用いることを想定し、「地域づくり人」を育成するために3つのテキスト（「人材力活性化プログラム」「地域づくり活動のリーダー育成のためのカリキュラム」及び「地域づくり人の育成に関する手引き」）及びこれらを取りまとめた「地域づくり人育成ハンドブック」を作成するとともに、地域づくり人育成のための研修会を開催し、地域づくり人の広がりや質の向上を図ってきたところである。

平成28年度においては、これらを基本テキストとした人材力活性化のための講座開催や今後の展開を念頭に置いた調査研究等を行う。

2. 調査研究事業

本年度行った調査研究事業は、以下のとおり。

研修事業	調査研究事業
■全国地域づくり人財塾 ●通常開催(JIAM、JAMP、自治大大学校) ●地方開催(IN 仙台) ■全国地域づくり人財塾 課題解決編 ●フィールドワーク型	■人材力活性化研究会

第 I 章 全国地域づくり人財塾

1. 全国地域づくり人財塾とは

地域活性化の取組においては、様々な知識・経験を持った人が、その知識・経験とアイデアを活かしながら、それぞれ活動に取り組み、地域で様々な活動が展開されている状況こそが大切である。

このような状況を生み出すため、地域づくりに関する行政職員およびNPOなどの民間団体のスタッフ等を対象に、年3回、地域づくり活動を自らの手で企画し実践できる人材、すなわち「地域づくり人」を育成する全国地域づくり人財塾を開催している。

図表 これまで実施された全国地域づくり人財塾

研修名	会場	開催時期
平成 23 年度 地域づくり人育成講座	自治大学校	H23. 8. 8～ 9
	全国市町村国際文化研修所	H23. 12. 13～15
	市町村職員中央研修所	H24. 3. 12～14
平成 24 年度 地域づくり人育成講座	自治大学校	H24. 7. 26～27
	全国市町村国際文化研修所	H25. 1. 9～11
	市町村職員中央研修所	H25. 3. 11～13
平成 25 年度 全国地域づくり人財塾	自治大学校	H25. 8. 1～ 2
	全国市町村国際文化研修所	H25. 9. 25～27
	市町村職員中央研修所	H25. 10. 30～11. 1
平成 26 年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H26. 6. 18～20
	自治大学校	H26. 7. 24～25
	市町村職員中央研修所	H26. 10. 29～31
平成 27 年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H27. 5. 12～14
	自治大学校	H27. 6. 4～ 5
	市町村職員中央研修所	H27. 10. 28～30
平成 24 年度 「域学連携」地域づくり人 育成支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ○最上のまちづくり地域リーダー塾（山形県最上市）12月～1月 ○つくば発！地域力コーディネーター養成講座（茨城県つくば市）2月 ○近江地域づくり人交座（滋賀県彦根市）1月～2月 ○きくち地域づくり人育成塾（熊本県菊池市）11月～2月 ○やんばる地域づくり人育成講座（沖縄県浦添市）11月～2月 	
平成 25 年度 地域づくり人育成支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ○「たまるくと地域づくり人」育成講座（東京都多摩六市）2月 ○平成25年度石川地域づくり塾（石川県内）11月～2月 ○愛媛県中予地域づくり人育成事業（愛媛県中予地域）12月～2月 ○つくば発！地域力コーディネーター養成講座（茨城県つくば市）2月 ○「域学連携」地域づくり人育成支援事業（沖縄県やんばる地域）11月～2月 	

図表 本年度実施した全国地域づくり人財塾

研修名	会場	開催時期
平成 28 年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H28. 5. 11～13
	自治大学校	H28. 6. 2～ 3
	IN 仙台	H28. 8. 1～ 2
	市町村職員中央研修所	H28. 10. 26～28

2. 本年度の実施状況

(1) 全国市町村国際文化研修所 (JIAM) 編

①開催概要

- 日時：平成 28 年 5 月 11 日（水）～13 日（金）
- 場所：全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）
- 参加者数：36 名（自治体職員 32 名、その他 4 名）
- 研修概要：地域づくりに取り組む市区町村等職員及び NPO 関係者等を対象とした 2 泊 3 日の合宿型研修。

座学による講義のほか、講師との直接対話、グループワークを通じて、地域リーダーとして必要な心構えやノウハウ等を学習するとともに、個人ワークとして研修終了後に「自分が現場で取り組むべき具体的な行動」を取りまとめた。

②カリキュラム（敬称略・役職は当時のもの）

月日	時限	時間	講義内容
5月11日（水）	1限目	9:25 ～ 10:35	
	2限目	10:50 ～ 12:00	11:00～ 入寮受付 11:30～ 昼食 12:45～ 開講オリエンテーション・入寮オリエンテーション
	3限目	13:00 ～ 14:10	【講義1:導入】（13:00～13:15） 「人材力の活性化について」 清水 隆教（総務省 人材力活性化・連携交流室課長補佐） 【講義2:実践事例】（13:15～14:10） 「NPO フュージョン長池の実践～多様で美しい共生の地域を創造する人財とは～」 富永 一夫 講師（特定非営利活動法人 NPO フュージョン長池 会長）
	4限目	14:25 ～ 15:35	【講義3:実践事例】 「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」 豊重 講師（柳谷自治公民館長）
	5限目	15:50 ～ 17:00	【講義4:実践事例】 「地域の資源に新たな価値を創造する挑戦」 磯村 賢一 講師（山梨市 管財課副主幹）
	課外	17:00 ～	【グループ・トーク】（17:00～17:30） 本日の振り返り

月日	時限	時間	講義内容
5月12日(木)	課外	9:00 ～ 9:25	【グループトーク】 (9:00～9:25)
	1限目	9:25 ～ 10:35	【講義5:実践事例】 「地域づくりのマネジメントーつながりをつくり創発を生む仕組みづくりー」 飯盛 義徳 講師 (慶應義塾大学 SFC 研究所所長／総合政策学部教授)
	2限目	10:50 ～ 12:00	【講義6:実践事例】 「ICTを活用した地域活性化の道すじ」 牧野 益巳 講師 (日本マイクロソフト(株) 会長室業務執行役員シチズンシップリード)
	3限目	13:00 ～ 14:10	【講師との直接対話】 (13:00～17:00) 飯盛 義徳 講師 (慶應義塾大学 SFC 研究所所長／総合政策学部教授) 富永 一夫 講師 (特定非営利活動法人 NPO フェュージョン長池 会長)
	4限目	14:25 ～ 15:35	豊重 哲郎 講師 (柳谷自治公民館長) 前神 有里 講師 (一般財団法人地域活性化センター 総務企画部クリエイティブ事業室長)
	5限目	15:50 ～ 17:00	牧野 益巳 講師 (日本マイクロソフト(株) 会長室業務執行役員シチズンシップリード)
	課外	17:00 ～	【グループトーク】 (17:00～17:30)
5月13日(金)	課外	9:00 ～ 9:25	【グループトーク】 (9:00～9:25)
	1限目	9:25 ～ 10:35	【講義7:事例報告①】 全国地域づくり人財塾既受講者からの報告 ・石塚 匠 講師 (埼玉県志木市 企画部秘書広報課兼危機管理室) ・上野 伊代 講師 (高知県須崎市 元気創造課元気創造係)
	2限目	10:50 ～ 12:00	【講義8:事例報告②】 全国地域づくり人財塾既受講者からの報告 ・波多野 翼 講師 (福井県越前市 総務部秘書広報課) ・戸田 由美 講師 (滋賀県高島市 政策部秘書広報課)
	3限目	13:00 ～ 14:10	【成果発表と振り返り】
	4限目	14:25 ～ 15:35	【閉講】 (14:10～14:40)

③受講者の評価（受講者アンケート抜粋）

（研修時間・研修内容関係）

- 講義の時間を約1時間とし、その後質疑応答の時間を確保するとよかったのではないか。
- オフィスアワーは1人の講師のみならず他の講師のところへも行けるとよかったのではないか。
- グループで何か企画するようなカリキュラムがあればよいのではないか。

（今後受けたいステップアップ研修について）

- 修了生が地域に帰り、研修で得た知識をどのように活用して地域づくりに役立っているのか、実際に現地で視察する研修。
- 各受講生が事例や課題を発表し、それについて改善策や解決策を検討するプログラムが良い。
- 地域づくり活動を実践した後の悩みや失敗を相談したり、アドバイスをもらえるような、今回の直接対話のような時間があれば良い。
- 地域資源発掘のフィールドワークがあれば参加したい。



実践事例（豊重講師）



実践事例（磯村講師）



実践事例（飯盛講師）



実践事例（牧野講師）



講師との直接対話（前神講師）



受講生による成果発表と振り返り

■参考資料

参考資料 1. 全国地域づくり人財塾 初級編

1. 全国市町村国際文化研修所（JIAM）編 受講者アンケート：P37～

(2) 自治大学校編

①開催概要

■日時：平成 28 年 6 月 2 日（木）～3 日（金）

■場所：自治大学校（東京都立川市）

■参加者数：108 名（自治体職員 105 名、その他 3 名）

■研修概要：自治大学校「政策専門課程」受講生を対象とした研修。

人材力活性化研究会構成員、学識者、実践者による講義を通じて、人財塾 OB の事例報告を通じて、地域づくりについて学習した。

②カリキュラム（敬称略）

月日	時 限	時 間	講義内容
6 月 2 日 （ 木 ）	2 限 目	10：50 ～ 12：00	【開講挨拶】（10：50～11：00） 原田 淳志（総務省地域力創造審議官） 【合同講義】（11：00～12：00） 「多様で美しい共生の地域を創造する人財とは ～NPO フュージョン長池の実践～」 富永 一夫 講師（特定非営利活動法人 NPO フュージョン長池 会長）
	3 限 目	13：00 ～ 14：10	【合同講義】 「人を巻き込む政策デザインの方法 – 「協創」と「幸せ」の視点から–」 前野 隆司 講師 （慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）
	4 限 目	14：25 ～ 15：35	
	5 限 目	15：50 ～ 17：00	【合同講義】 「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」 豊重 哲郎 講師（柳谷自治公民館長）
6 月 3 日 （ 金 ）	1 限 目	9：25 ～ 10：35	【合同講義】 「進学校を地域再生人材の育成拠点にするための施策」 浦崎 太郎 講師 （岐阜県立可児高等学校教諭、文部科学省中央教育審議会生涯学習分科 会学校地域協働部会 専門委員）
	2 限 目	10：50 ～ 12：00	
	3 限 目	13：00 ～ 14：10	【合同講義】 「教育から始まる地域活性化と地方創生 ～全国に広がる教育魅力化プロジェクト～」 藤岡 慎二 講師（(株)Prima Piguino 代表取締役）
	4 限 目	14：25 ～ 15：35	【合同講義】（11：00～12：00） 「地域づくりのマネジメント –つながりをつくり創発を生む仕組みづくり–」 飯盛 義徳 講師（慶應義塾大学 SFC 研究所所長／総合政策学部教授）

③受講者の評価（受講者アンケート抜粋）

（研修時間・参加内容関係）

- 1 コマ 70 分にとらわれることなく講義時間を設定してはどうか。
- 質疑の時間も含め講義時間を長くしてはどうか。
- 講義内容を多様なジャンルから構成して欲しい。
- 具体的な行動のヒントが得られるよう、実践を交えた話が聞きたい。
- 成功事例のみならず、失敗事例も聞きたい。
- グループトークの時間が欲しい。

（今後受けてみたいステップアップ研修について）

- 実際に活動に取り組み、その活動について受講後も持ち寄って検証したり振り返りができたりする場があるとよい。
- 行政から地域へのアプローチ事例や講義で紹介のあった取り組みの視察。
- 受講生同士の意見交換ができるワークショップ型の研修。



合同講義（前野 講師）

■ 参考資料

1. 全国地域づくり人財塾 初級編
2. 自治大学校編 受講者アンケート：P67～

(3) 地方開催 (IN 仙台) 編

①開催概要

■日時：平成 28 年 8 月 1 (月) ～2 日 (火)

■場所：仙台国際センター展示棟会議室

■参加者数：84 名 (自治体職員 58 名、その他 26 名)

■研修概要：全国地域づくり人財塾としては、初めての地方開催。

人材力活性化研究会構成員が実践事例を基に研修及び直接対話を実施するほか、東北地域で活躍する人材を外部講師とした講義・パネルディスカッションを通じて、地域づくりについて学習した。

②カリキュラム (敬称略)

月日	時間	講義内容
8 月 1 日 (月)	12:00～13:00	受付
	13:20～13:30	開講・オリエンテーション
	13:30～13:45	【導入講義】 「人材力の活性化に向けて」 飯塚 秋成 (総務省人材力活性化・連携交流室長)
	13:45～14:40	【講義】 「『創業の人財』 & 『継承の人財』 ～NPO フェージョン長池の実践～」 富永 一夫 講師 (特定非営利活動法人 NPO フェージョン長池 会長)
	14:55～16:05	【講義】 「地域再生～行政に頼らない地域づくり～」 豊重 哲郎 講師 (柳谷自治公民館 館長)
	16:20～17:30	【講義】 「地域づくりのマネジメント — つながりをつくり創発を生む仕組みづくり —」 飯盛 義徳 講師 (慶應義塾大学 SFC 研究所所長／総合政策学部教授)
	17:30～17:35	オリエンテーション
	17:35～17:50	振り返り

月日	時間	講義内容	
8月2日 (火)	8:50~9:00	オリエンテーション	
	9:00~10:10	【講義】 「震災復興を契機とした創造的まちづくりモデル 『世界で一番面白いまちをつくろう』」 松村 豪太 講師 (一般社団法人 ISHINOMAKI 2.0 代表理事)	
	10:10~10:15	オリエンテーション	
	10:25~11:55 【選択講義1】	【講師との直接対話】 ・飯盛 義徳 講師 (慶應義塾大学 SFC 研究所 所長/総合政策学部 教授) ・富永 一夫 講師 (特定非営利活動法人 NPO フュージョン長池 会長) ・豊重 哲郎 講師 (柳谷自治公民館 館長) ・小澤 浩子 講師 (赤羽消防団 副団長) ・前神 有里 講師 (一般財団法人地域活性化センター 総務企画部クリエイティブ事業室長)	【リレー講義】 ・牧野 益巳 講師 (日本マイクロソフト(株) 会長室業務執行役員シチズンシップリード) 『ICTを活用した地域づくり』 ・飯塚 秋成 (総務省地域力活性化・連携交流室長) 『地域力創造施策の動向』
	12:45~14:15 【選択講義2】		
	14:30~16:00	【パネルディスカッション】 テーマ：地方創生の本格化と人材育成について ＜コーディネーター＞ 飯盛 義徳 講師 (慶應義塾大学 SFC 研究所 所長/総合政策学部 教授) ＜パネリスト＞ 豊重 哲郎 講師 (柳谷自治公民館 館長) 小澤 浩子 講師 (赤羽消防団 副団長) 島 康子 講師 (津軽海峡マグロ女子会) 竹川 隆司 講師 (一般社団法人 IMPACT Foundation Japan エグゼクティブ・ディレクター) 渡辺 一馬 講師 (一般社団法人ワカツク 代表理事)	
	16:00	行動宣言・閉講	

③受講者の評価 (受講者アンケート抜粋)

(研修全体)

- 講義の中で、成功だけでなく失敗した点についても話が聞きたい。
- 直接対話では講師全員まわれるようにすると良い。
- 受講生同士がもっと交流できるようにしてほしい。

(今後受けたいステップアップ研修について)

- ディスカッション等の少人数講座があれば参加したい。
- ケースを用いてファシリテーション研修やフィールドワーク型の研修に参加したい。
- 受講生同士の実際抱えている課題について議論したい。

(フォローアップについて)

- 研修後、それぞれの地域での取組について話し合う場がほしい。

(仙台開催について)

●仙台開催はとても良かった。東北地域間の人をつながりを作ることが出来た。



講義 (松村講師)



講義 (富永講師)



講義 (豊重講師)



講義 (飯盛講師)



振り返り



講師との直接対話 (小澤講師)



パネルディスカッション



パネルディスカッション
左) 島講師 右) 渡辺講師

■参考資料

参考資料1. 全国地域づくり人財塾 初級編

3. 地方開催 (IN 仙台) 編 受講者アンケート・リーフレット: P117~

(4) 市町村アカデミー（JAMP）編

①開催概要

■日時：平成28年10月26日（水）～10月28日（金）

■場所：市町村アカデミー（千葉県千葉市）

■参加者数：94名（自治体職員89名、その他5名）

■研修概要：地域づくりに取り組む市区町村等職員及びNPO関係者等を対象とした2泊3日の合宿型研修。

座学による講義のほか、講師との直接対話、グループワークを通じて、地域リーダーとして必要な心構えやハウツー等を学習するとともに、個人ワークとして研修終了後に「自分が現場で取り組むべき具体的な行動」を取りまとめた。

②カリキュラム（敬称略）

月日	時限	時間	講義内容
10月26日（水）	1限目	9:25 ～ 10:35	
	2限目	10:50 ～ 12:00	11:00～ 入寮受付 11:30～ 昼食 12:30～ 開講オリエンテーション
	3限目	13:00 ～ 14:10	【導入】（13:00～13:15） 「人材力の活性化について」 飯塚 秋成（総務省 人材力活性化・連携交流室長） 【実践事例】（13:15～14:25） 「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」 豊重 哲郎 講師（柳谷自治公民館長）
	4限目	14:25 ～ 15:35	【実践事例】（14:40～15:35） 「NPO フュージョン長池の実践 ～多様で美しい共生の地域を創造する人財とは～」 富永 一夫 講師（特定非営利活動法人NPO フュージョン長池 会長）
	5限目	15:50 ～ 17:00	【実践事例】 「農家のヨメが語る“隗より始めよ”～できるかできないか、ではなく、やるかやらないか」 大津 愛梨 講師（特定非営利活動法人田舎のヒロインズ理事長）
	課外	17:00 ～	【グループトーク】（17:00～17:30） 【情報・意見交換会】（18:00～）

月日	時限	時間	講義内容
10月27日(木)	課外	9:00 ～ 9:25	【グループトーク】
	1限目	9:25 ～ 10:35	【実践事例】 「地域づくりのマネジメントーつながりをつくり創発を生む仕組みづくりー」 飯盛 義徳 講師 (慶應義塾大学 SFC 研究所所長/総合政策学部教授)
	2限目	10:50 ～ 12:00	【実践事例】 「地域にチャレンジを生み出す基盤を創り出すために」 宮城 治男 講師 (特定非営利活動法人 ETIC. 代表理事)
	3限目	13:00 ～ 14:10	【講師との直接対話】 飯盛 義徳 講師 (慶應義塾大学 SFC 研究所所長/総合政策学部教授) 富永 一夫 講師 (特定非営利活動法人 NPO フェージョン長池 会長) 小澤 浩子 講師 (赤羽消防団副団長)
	4限目	14:25 ～ 15:35	前神 有里 講師 (一般財団法人地域活性化センター総務企画部クリエイティブ事業室長)
	5限目	15:50 ～ 17:00	牧野 益巳 講師 (元日本マイクロソフト(株) 会長室業務執行役員シチズンシップリード) 宮城 治男 講師 (特定非営利活動法人 ETIC. 代表理事) 飯塚 秋成 (総務省人材力活性化・連携交流室長)
課外	17:00 ～	【グループトーク】 (17:00～17:30) 【課題 (講師との直接対話)】 (19:00～20:10)	
10月28日(金)	課外	9:00 ～ 9:25	【グループトーク】
	1限目	9:25 ～ 10:35	【事例報告】 齋藤 拓也 講師 (置賜広域行政事務組合) 今村 智子 講師 (福井県大野市産経建設部建築営繕課)
	2限目	10:50 ～ 12:00	【事例報告】 秋山 歌南子 講師 (千葉県館山市経済観光部商工観光課主事) 田中 慶悟 講師 (鹿児島県志布志市企画政策課)
	3限目	13:00 ～ 14:10	【成果発表と振り返り】
4限目	14:25 ～ 15:35	【閉講式】 (14:10～)	

③受講者の評価（受講者アンケート抜粋）

（研修全般）

- 研修生同士議論する時間が短かったので、より深く議論する時間がほしい。
- 参加者が多いように感じた。
- 講義以外にも直接対話できる機会があり、有意義であった。

（ステップアップ研修の要望等）

- 地方での研修を開催してほしい。
- 先進事例を用いたケーススタディやグループ討議があれば参加したい。
- 直接対話に人財塾既受講者も呼んでみてはどうか。

（フォローアップについて）

- 定期的な報告会等があれば参加したい。



会場の様子



人財塾修了生（田中講師）による事例報告

■参考資料

参考資料1. 全国地域づくり人財塾 初級編

4. 市町村職員中央研修所（JAMP）編 受講者アンケート：P153～

3. 全国地域づくり人財塾フォローアップ研修

(1) 全国地域づくり人財塾フォローアップ研修とは

これまで実施した「全国地域づくり人財塾」の修了生が自主的に集まり、定期的に勉強会（フォローアップ研修）を実施している。

これまで、大きくは東日本と西日本で活動があり、平成 28 年度の地方開催を機に仙台での自主研修がスタートした。

フォローアップ研修の活動概要

年度	日時	場所	テーマ	
東日本支部	25	平成 25 年 4 月 17 日	長池公園自然館 あったらいいな、こんな〇〇（市）	
	平成 25 年 7 月 19 日			
	平成 25 年 10 月 3 日			
	平成 26 年 1 月 29 日			
	26	平成 26 年 4 月 23 日	長池公園自然館	あったらいいな、こんな〇〇（市）
	平成 26 年 7 月 9 日	地域活性化センター	あったらいいな、こんな〇〇（市）	
	平成 26 年 10 月 8 日	地域活性化センター	よりよい“コーディネーター”とは？	
	平成 27 年 1 月 7 日	地域活性化センター	人財塾での行動宣言の実践状況の報告、抱負	
	27	平成 27 年 4 月 15 日	地域活性化センター	今、これから
	平成 27 年 7 月 29 日	長池公園自然館	指定管理者制度の 10 年を検証する	
	平成 27 年 10 月 21 日	ルネこだいら	“みんなが集まる場”とは？	
	平成 28 年 1 月 21 日	フォーシーズンズ 志木ふれあいプラザ	地域とかかわる“楽しさ”と“難しさ”	
	28	平成 28 年 4 月 28 日	千葉市生涯学習センター	地域の未来イメージをつくる～千葉市の新たな取り組みをケースに～
	平成 28 年 7 月 28 日	山武市ふれあいセンター	図書館が発信する山武市の魅力！	
	平成 28 年 11 月 7 日	首都大学東京	学生との交流で、新たな創発を！	
	平成 29 年 1 月 20 日	地域活性化センター	人財力とは何か・・・いま再び考える	

年度	日時	場所	テーマ
西日本	25 平成 26 年 2 月 23 日 ～25 日	松山市ほか	移住対策
	26 平成 26 年 10 月 11 日 ～12 日	周南市	若手による地域づくり
	27 平成 27 年 9 月 26 日 ～27 日	河内長野市	開催地における地域づくり（中山間地の活動拠点整備・運用、地区まちづくり会の活動）
仙台	28 平成 28 年 8 月 2 日	仙台国際センター	地域と関わる中であなたが大切にしたいことは？

（２）本年度の実施状況

①全国地域づくり人財塾・東日本支部

- ・平成 24 年度の全国地域づくり人財塾（市町村アカデミー編）の修了生が中心となって企画・開催している。
- ・平成 25 年 4 月以降、3 か月毎に開催し、平成 28 年度までに 16 回開催されている。
- ・平成 26 年度末に今後の運営のあり方について意見交換を行った結果、平成 27 年度以降は、参加者による持ち回り担当制により開催されている。
- ・本年度の研修内容は、人材力活性化研究会の構成員や大学とタイアップした講義のほか、参加者が自分の地域についてプレゼンを行い、それに対して他の参加者からフィードバックを行う形式で開催している。

開催時の様子



左上：第 13 回：副座長講義

右上：第 14 回：グループワーク

左下：第 15 回：首都大学東京とのコラボレーション企画

右下：第 16 回：座長講義

②西日本

- ・西日本においてはこれまで四国、中国、関西地区において、それぞれテーマを設定して不定期に開催されている。

③仙台

- ・「全国地域づくり人財塾 IN 仙台」の開催に合わせて、平成 28 年 8 月 2 日に仙台国際センターで開催した。
- ・東北圏の市町村、NPO 職員を中心に 10 名程度が参加した。
- ・平成 26 年度の全国地域づくり人財塾（市町村アカデミー編）で活動事例報告を行った修了生が中心となって企画・開催した。
- ・「小さなことでもいいから一歩踏み出す」ことをねらいとして、学んだことの活動や仕事への活かし方を考える場を提供。
- ・山形県朝日町の元地域おこし協力隊、現在は地域振興サポート会社「まよひが企画」代表の佐藤恒平氏をお招きし、『非主流』のまちおこしについての講義ほか、ワールドカフェ：テーマ「地域と関わる中であなたが大切にしたいことは？」などを行った。



ワールドカフェの様子

第Ⅱ章 全国地域づくり人財塾課題解決編

1. 全国地域づくり人財塾課題解決編とは

「全国地域づくり人財塾課題解決編」は、「全国地域づくり人財塾」等の修了生等をはじめ、地域づくりの実践活動を始めた方等を対象に、課題解決の糸口発見や更なる活動へのステップアップの場として実施している。

本年度は、事前課題とフィールドワークを通じて地域づくりの実行計画を策定する「フィールドワーク型」を開催した。

2. フィールドワーク型の実施状況

(1) 開催概要

■日時：平成 28 年 10 月 12 日（水）～14 日（金）〔2 泊 3 日〕

■場所：石川県鳳珠郡穴水町、石川県七尾市

■参加者数：14 名（自治体職員 2 名、地域おこし協力隊 12 名） ※定員：15 名

■研修概要：

- ・地方公共団体職員又は地域づくりに取り組む NPO 関係者等を対象とした 2 泊 3 日の合宿型研修。
- ・カリキュラムは、グループワークを中心に構成。初日、各自の事前課題プレゼンテーションの後、グループでケーススタディのテーマを選択し、実行計画案を策定する演習を行う。
- ・研修二日目には、地域づくりの現場を訪ねるフィールドワークを行い、地域課題の解決方法等の理解を深める。
- ・三日目にまた、フィールドワークの結果等も踏まえ実行計画を立案と発表を行うとともに、その検討を踏まえ、地域に帰ってからの個人の実行計画（行動宣言）も作成する。
- ・このような学習作業を通じて、課題解決力およびプレゼンテーション力の向上を図った。

(2) カリキュラム

月日	時間	内容
10月12日 (水)	11:00～	集合（金沢駅）
	11:30～ 13:30	出発（バス）・開講・オリエンテーション
	14:00～ 16:10	【事前課題の発表】 ①前課題プレゼンテーション ②講評
	16:30～ 17:00	【講義①】 牧野 益巳 講師 （元日本マイクロソフト(株) 会長室業務執行役員シチズンシップリード）
	17:00～ 19:10	【グループワーク①】 テーマ選定 事前課題発表を踏まえて、グループワークによるテーマ選定と討議。
10月13日 (木)	9:30～ 12:00	【フィールドワーク①】 春蘭の里（能登町） 多田 喜一郎 講師（春蘭の里実行委員会 事務局長）
	13:30～ 15:30	【フィールドワーク②】 (株) 御祓川（七尾市） 森山 奈美 講師（(株)御祓川 代表取締役社長）
	16:00～ 16:50	【講義②】 実践事例を基に講義 飯盛 義徳 講師（慶應義塾大学 SFC 研究所所長／総合政策学部教授）
	16:50～ 19:00	【グループワーク②】 グループ討議 実行計画の作成と、プレゼンテーションの準備
	22:00～	【課外作業】 グループ討議 実行計画の作成・プレゼンテーションの準備
10月14日 (金)	8:30～ 9:30	【グループワーク③】 グループ討議
	9:30～ 10:50	【最終発表】 グループワーク成果発表・講師講評
	11:00～ 13:00	【個人ワーク①】 行動宣言作成・発表
	13:45～ 14:35	【総括講義】
	14:35～ 14:50	閉講式
	17:00	解散（金沢駅）

(3) 受講者の評価（受講者アンケート抜粋）

(研修全般)

- グループワークは十分な内容、時間だった。
- フィールドワーク先のもっと内に入り込んで話を聞きたかった。
- 協力隊と行政職員の比率の調整が必要。

(ステップアップ研修の要望等)

- ケーススタディを利用した研修があれば参加したい。
- 自分の事業計画書を持ち寄ってブラッシュアップさせる研修があれば参加したい。



事前課題の発表



講義（飯盛講師）



講義（牧野講師）



フィールドワーク
春蘭の里 多田講師



フィールドワーク
(株) 御祓川 森山講師



現地視察（御祓川）



グループワーク



課外でのグループ討議



実行計画案発表



行動宣言

■参考資料

参考資料2. 全国地域づくり人財塾 課題解決編（フィールドワーク型）

1. 受講者アンケート・リーフレット：P231～

第Ⅲ章 人材力活性化研究会

1. 人材力活性化研究会とは

人材力活性化の具体的な施策・目標の検討や、研修に係るカリキュラムやハンドブック等の作成、全国地域づくり人財塾の進め方等の検討を行うことを目的に、有識者や実践者による「人材力活性化研究会」を平成 22 年に設置している。

本年度は、第 19 回と第 20 回の研究会を開催した。

人材力活性化研究会の設置目的

地域活性化の基本的な要素である人材力の強化を図るため、「人材力活性化研究会」を開催し、NPO・企業等との連携方策も含めた課題を抽出したうえで、人材力活性化の具体的な施策・目標の検討や人材力の相互交流とネットワーク形成の進め方等の検討を行い、人材力の強化・活性化に取り組もうとしている様々な主体の今後の指針となるプログラムを策定。あわせて、人材力活性化の事例の調査等を行い、その充実を図る。

人材力活性化研究会の検討事項

- (1) 人材力活性化の取組の現状と課題の抽出、対応策の検討
- (2) 人材力活性化プログラム等の検討・策定
- (3) 人材力活性化プログラム及びプログラムに基づき実施する施策の充実
- (4) その他、人材力活性化プログラムに関し検討が必要なこと

研究会構成員（平成 29 年 3 月現在）

座長	飯盛 義徳（慶應義塾大学 SFC 研究所所長／総合政策学部教授）
	小澤 浩子（赤羽消防団副団長）
	谷 和樹（玉川大学教職大学院教授）
	玉沖 仁美（(株)紡代表取締役）
副座長	富永 一夫（特定非営利活動法人 NPO フュージョン長池 会長）
	豊重 哲郎（柳谷自治公民館長）
	前神 有里（一般財団法人地域活性化センター総務企画部クリエイティブ事業室長）
	牧野 益巳（元日本マイクロソフト(株) 会長室業務執行役員シチズンシップリード）
	宮城 治男（特定非営利活動法人 ETIC. 代表理事）

（敬称略、50 音順）

2. 第19回研究会

(1) 開催概要

- 日時：平成28年6月17日（金）13:00～15:00
- 場所：中央合同庁舎第7号館西館14階1415会議室
- 出席者（敬称略：50音順）

<構成員>

飯盛 義徳（座長）、富永 一夫（副座長）、豊重 哲郎、小澤 浩子、玉沖 仁美、前神 有里、
牧野 益巳、宮城 治男

<事務局>

須藤人材力活性化・連携交流室長

(2) 議事概要

①「全国地域づくり人財塾」実績報告について

- ・「オフィスアワー」において、受講生から、講義中抜けて、他の講師の元へは移動しづらいという意見があった。これは今回1グループの人数が少なかったからかもしれない。人数が少ないと、講義の途中で抜けると目立つので躊躇する。もう少し1グループの人数を増やすと自由に行き来しやすかったのではないかという印象を持った。
- ・今の点については、ネーミングの問題もあるかもしれない。「オフィスアワー」という言葉の主旨が受講生に伝わらなかったのではないか。また、外部講師や実践事例報告者と気軽に意見交換等をする機会を設定しても良いのではないか。
- ・講師サイドがテーマを示すことも必要だ。ただ“フリータイムだ”と言っても受講生は移動しようという感覚にならないかなと思うので、申し込み時に受講生がもつ課題を把握した上で、各講師の視点やキーワードを示してみる。また、ムードづくりも重要だ。少し小さな部屋で顔を突き合わせるように工夫すれば、受講生もより積極的に発言するようになるのではないかと思う。

②平成28年度および今後の人財塾の展開について

- ・以前、これまで人財塾に派遣していない市町村について議論になった。今回検討している地方開催は、市町村からの出づらいという状況の解消につながらないか。
- ・地方自治体の職員は出張費が手当できないのが実情だ。地方都市で人財塾を開催することは、受講しやすい環境づくりにつながると思う。また、どの市町村がどこの研修を受講させているか等を把握した上で対策を検討してはどうか。
- ・受講する市町村が増えないという現状を打破するには、内容はもちろん、人財塾自体を大きく進化させないと駄目だと思う。「やねだん」では受講対象者を広げたり、鹿児島県に交渉して受講料等の助成制度を設けてもらうなど、受講生を派遣する市町村を増やす努力をしている。
- ・今回、国の呼びかけで全国の自治体が地方版総合戦略を策定した。同様に自治体職員自身による人材育成を推進する仕組み作りはできないか。
- ・これまでも受講市町村を増やしていくという議論の中で、称号付与などの形で受講のインセンティブを高めてはどうかといった意見が交わされてきた。多くの人財塾の修了生は、地域活動に関わらない

部署に異動しても、熱心に地域づくりの活動を継続している。修了生に役所の中の地域づくりコンシエールとして位置づける称号を与えるというのも有効ではないか。

- ・インセンティブ付与の方法として「地域力創造アドバイザー」の適用が資料の中で説明されているが、それよりライトな形の方が良いのではないか。ただし、予算措置等の支援の枠組みはもう少し広げた方が良いと感じている。
- ・受講生にとって「地域力創造アドバイザー」はハードルが高いのではないか。もっとシンプルなお墨付きみたいなものでもいいのではないか。昨年の人財育成の自治体アンケート結果をみると、一定の規模以上の自治体は自前で予算化して取り組んでいる。であれば、この人財塾でなければ得られない特徴を伝えていく必要があると思う。その特徴の大きな1つは修了生が全国から来ることだろう。このネットワークの効果を我々はもっと知り、そのネットワークが活発に動いていく流れを作っていく必要性を感じている。
- ・現在、人財塾の初級編では、修了生の中で頑張ってる人が登壇して活動報告をしている。ある程度絞った上で、活動報告してもらっているので、ここでの活動報告者に称号を与えることも有効ではないか。そう考えると、修了生報告の枠をもっと増やしたいと思う。
- ・人財塾の初級、中級、上級の段階的な受講と、その過程の実績もセットで考えて「地域力創造アドバイザー」を育てるといった形態はどうか。これにトライする人は、人財としての進化が著しいと思う。人間的にも大きく成長してほしいという願いも含めて実践力を持った人財養成が必要だろう。
- ・インセンティブという意味では、例えば名刺に記載できるなどといったベーシックな名称も有効だと思う。最近の例でいうとファンドレイジング協会の「認定ファンドレイザー」がある。やっぱり名刺にあるとある種一目置いてもらえる存在になる。それに相応しい名称とか、発信の仕方の工夫は必要だか、それは設計可能だと思う。



研究会の様子



飯盛座長



左から、宮城氏、前神氏、豊重氏



左から、富永氏、小澤氏、玉沖氏、牧野氏

■参考資料

参考資料3. 人材力活性化研究会 資料

1. 第19回人材力活性化研究会：P243～

2. 第20回研究会

(1) 開催概要

■日時：平成29年2月22日（火）13:00～15:00

■場所：総務省11階会議室

■出席者（敬称略）

<構成員>

飯盛 義徳（座長）、富永 一夫（副座長）、豊重 哲郎、小澤 浩子、玉沖 仁美、前神 有里、
牧野 益巳、宮城 治男

<事務局>

時澤地域力創造審議官、飯塚人材力活性化・連携交流室長

(2) 議事概要

①「全国地域づくり人財塾」実施報告

■全体

- ・受講生には、言われたから来た人もいる。しかし、言われたから来た人でも、受講がきっかけで、地域づくりに踏み出し、勉強会や支部活動などを始めている人は必ずいる。そして、Aさんと、Bさんなど、よく名前を聞く人も出現しており、修了生の事例報告も結果として他の受講生の目標になりつつある。この良いサイクルを次につなげていくために何が必要かを、皆さんと意見交換したい。

■地方開催について

- ・初めての地方開催は大変熱気があり、特に、これまで参加が少なかった東北の方が突出して多かった。この点を考えると地方開催の価値を強く感じている。
- ・私も仙台開催の参加状況を拝見して地方開催の大切さを感じた。やはり身近なところで活動を広げられる環境を整えることは大切なので、他にも集まれる機会が必要だと思っている。

■フォローアップ研修について

- ・フォローアップ研修の西日本は、現在、山口県周南市のCさんが中国地方での平成29年度開催を呼びかけている。彼は今フェンドレイザーとして各地で活躍している中で様々な修了生に出会っており、そのつながりも含めて集まる機会を調整している。
- ・本年度の「全国地域づくり人財塾 IN 仙台」を契機に、東北でフォローアップ研修が実施されたので東北が立ち上がったように思う。このため、東日本支部は関東支部にしたいと思い始めている。皆さんのご意見を伺えればと思う。
- ・仙台のフォローアップ研修は、山形と秋田の修了生が中心となった。現在、山形と秋田の修了生は「やねだん」の卒塾生も交えて定期的に集まっている。スカイプやiPhoneを使って活性化センターとつないだ。今度、北海道ともつながろうと話が持ち上がっている。個人のつながりで東北は動き始めているところだ。
- ・参加者同士のディスカッションや、講師の傍で自分たちの議論の磨き合うなどのニーズが、回を重ねるごとに高くなっているように感じた。ならば、支部の運用では、その活動やしやすくなる支援が必

要だと思う。特に、場所決め、声をかけ、資金準備などの事務局が大変という声を聞く。ならば、その事務局をサポートしてはどうか。

■フィールドワーク型について

- ・少人数形式のフィールドワーク型も非常に熱心に盛り上がった。現場に行き直に話を聞き、その現場の空気の中で、自分たちの問題解決のための議論をする仕組みは、非常に大事だと感じた。
- ・ディスカッションファシリテーターを行った中で感じたことだが、事業化やプロジェクト組成などのスキル養成は、どちらかというところから正面から関わってこなかった。このビジネススキルを短時間でかなりなところまで仕上げるカリキュラムのため、参加者の負荷も大きいと感じている。特に、参加者の経験の程度等に格差がある中で、受講の達成感や成果の実感には、相当の工夫が必要と思い始めている。

(2) 今後の地域づくり人財塾の展開について

■定員設定・受講資格について

- ・カリキュラムの「オフィスアワー」または「講師の直接対話」のやり方が永遠の課題となっている。何をどうしても受講生から色々意見が出て、「帯に短し、たすきに長し」になる。受講生が多いことが一番の要因と思うが、一定人数は受け入れる必要がある。そこも含めて皆さんからご意見を伺えればと思う。
- ・人数制限がなければスクリーニングの問題はない。制限がある場合は、回数を増やすか。スクリーニングを行うかだ。その場合、ポリシーを考える必要がある。ある市町村の支援員研修で任期満了直前の受講生がいた。残りの任期を考えると、地域として受講させる意味があるのか疑問がある。また、受講生の知見を継承できる体制がなければ参加を認めない人財育成塾もある。「全国地域づくり人財塾」では、地域還元には軸足を置くのか、人の育成に軸足を置くのか、改めて考える必要がある。その共有が人財塾のポリシーだと思う。
- ・この研修は入口なので、できるだけ集まってもらい、多様なものを多様なまま受けとめるということで割り切るほうが良いような気がしている。
- ・「全国地域づくり人財塾」は、総務省の事業なのだから、僕はもっと集まったほうが良いと思う。企画力を学びに来るといって人たちが集まる仕掛けは、この塾の評価になる。
- ・以前、受講生にいた税務官が、最初業務に関係ないと思っていたが、いい勉強ができたと言っていた。たとえば、滞納のとき、全部差し押さえるのか、それとも、その人の状況に目を向け、よその課と連携して、その人の生活を考えた分納計画を立てるのか、入口が違えば出口も変わってくるのを学んだと言われていた。なので、何課でも私はいいのではないかと思う。特に、修了生同士は色々情報交換をして、横の連携がみられている。縦はすぐにつながるが、横とはなかなか繋がらない。その意味で、いろいろな人材が多様に育っていく中で、横をつなぐほうが私は効果が高いと思う。

■オフィスアワー等の運用

- ・どのやり方でも、アンケートで色々意見が出るのは仕方がないと思うが、オフィスアワーが動きにくかった理由を聞いたところ、始まってしまえば出づらいいという意見が多かった。以前、グループワー

クの部屋に全講師が待機していて、呼ばれたら、そのグループに講師が行くというスタイルがあった。最後の時間はそれを復活させても良い。

- ・やはり時間中動いてもいいと言われても、講師に失礼と考えているようだ。だから、ある時間だけ以前の方法に戻すのも有効だと思う。
- ・「やねだん」では「直接対話」は5割だ。夜中の2時ごろまでかかる。主催が総務省の塾なので、本気の人をいかに応募させて、修了生がリピーターを送り込んでくるレベルにしたい。極端な話だが、僕は「直接対話」は時間無制限という覚悟で、こちらの本気度を伝えていくことも必要だと思う。
- ・聞いてみたかったのだが、優先順位の関係で聞けなかったという受講生がいるのであれば、講義の映像を後でも見られる仕掛けも考えられる。

■テーマ設定や新たなコース設定

- ・受講生の年齢差や職歴、経験の差、テーマの差など色々な差がある。アンケート結果を参考に、テーマや対象者等を絞った展開が必要だろう。
- ・今、話があった支部などをリードする熱意をもった人は、修了生の割合から言うと少ない。だから、そういう人たちを次のランク、指導者的リーダーに育成することが必要かもしれない。その人たちが今の状況に不満感を持ってしまうと、つながり自体が薄れていく気がする。
- ・「ハイパー人材」育成を目的としたクラスがあっても良いと思う。ただ、そのプログラムは机上での議論より、議論と現場へのフィードバックの双方向が必要だ。
- ・たとえば、1年目と3年目の地域おこし協力隊はまるで違う。だから、2ステップ目の多様な講座を生み出すことは、僕らのほうが手分けして多様な講座を生み出すということをやれば良いと思う。

■地方開催地について

- ・地方開催の場については、例えば、今回は東北なので、九州など西の方が考えられる。また、受講する自治体の偏りが見られるのであれば、その地域で開催することも考えられる。
- ・過去、一日研修を松山や滋賀で行ったことがある。
- ・青森でも行った。九州と中国では開催していない。福岡あたりだと、中国地方や南九州からも来やすい。どうだろうか。
- ・九州であれば、被災した熊本県での開催も応援となる。
- ・福岡は、今、難しいが、九州にしたいと思う。施設の関係があるので、事務局と相談して、また協議したい。

③修了生の活動に対する支援

■顕彰について

- ・顕彰となると、基準と審査委員会の設置と、公正な運営の必要がでてくるなど、何か主旨が違ってくる気がする。
- ・顕彰する場合は、たとえば支部創設に頑張った人を表彰するくらいにしないと、修了生の多くが公務員という状況を考えると立場上、辞退する人が多いと感じる。地方普及を図る意味で支部創設と顕彰をセットにする方法も考えられる。
- ・アワードは、受賞した方のモチベーションアップにはつながると思うが、基準やプロセスの公開など

誰もが納得する仕組みが必要になる。そのアワードにどんどん権威づけをしていくことで、受賞された人によりフォーカスが当たっていったら、私もやってみようという動きは出てくるだろうと思うが、運用の難しさがあると感じる。

- ・一番はじめに作成したハンドブックには、モデルになるようなリーダーを育成するだけでなく、それぞれの役割を生かした地域づくりができる人材を育てようとスタートした。表彰などの議論がこれまで話が出なかったのは、そこがあったからだったと思う。インセンティブ付与を表彰とすると基準が出て来る。すると、いろんな人に色々な役割があるという、この研究会の原点と、何となく違って来る気がする。

■名刺等への表記

- ・僕が関係した八王子市の志民塾では、八王子市にお願いをして「八王子市志民塾卒塾生」という八王子市のマークつけた名刺を持たせた。すると、いろんなところに1人で出かけていける人が何人も出た。だから、全国地域づくり人財塾修了生という呼称とロゴマークがついた名刺をつくるだけでも良いと思う。
- ・「やねだん」は何期卒塾生と名刺に書いている。併せて「やねだん」バッジを贈呈している。
- ・名刺で頑張れる人という人はたくさんいて、そういう人たちは自分たちの発表会や勉強会をよく行っている。それが盛り上がると支部の動きもでてくる。そこを応援する仕組みにすると、「やねだん」支部応援との関係が似てくる。

■講師の出張

- ・「やねだん」の卒塾生は全国に838名おり、3つの支部ができています。その支部に「やねだん」は支援している。支部が勉強会をする場合は、毎回、僕は行く。
- ・フォローアップ研修への支援としてのまた、各地で10名程度の修了生を集めて、委員がそこに出向き、懇談会でも良いので半日程度の研修を地方で開催できないかと考えている。委員は大変となるが、みんなの手分けしても、求められる地域のフォローを行えばと思うがどうであろうか。

■気軽に集まれる場の設定

- ・「やねだん」卒塾生が運営する霞が関ナレッジスクエアのレストランでは、用務で上京した「やねだん」卒塾生が無料でカレーを食べられる仕組みを作った。そういうオフィシャルな修了生が持てる何かがあると、多分喜んで使う。
- ・地域リーダー養成塾では、修了者研修会を毎年やっている。修了生の集いみたいな場をオフィシャルで用意すると、何か励みにもなるし、接点が持てていいと思う。

■修了生へのインセンティブの考え方への提案

- ・地域で開催することを促すインセンティブであれば、その成果から逆算した打ち手を考える必要があり、お墨つきを考える場合は、それによって何を生み出すかの狙いを決める必要がある。以前、議論があった資格については、市民にはインセンティブになるが、公務員の場合は、どのような資格にすると有効か考える必要がある。
- ・インセンティブの付与には、2軸のレイヤーがあると今の議論を聞いて感じた。例えば観光庁の「観

光カリスマ」の場合は、ハードルの低くして裾野を広げたやり方だ。観光庁が認知度を上げる努力をしたので、観光関係者は広く認識している。ただ、ここにある「地域経営学者」や「認定ファンドレーザー」という名称の場合は、誰でも該当がするものではない感じがする。

- ・いろいろご意見いただいたので、もう少し時間をかけて議論したい。

④報告書骨子

- ・報告書の骨子（案）に対し、何かご意見やコメントはあるか。このまま進めてよろしいか。
- ・異議なし

⑤その他

- ・人材育成に積極的ではない行政対策は、永遠のテーマだという議論が以前からある。その中で、鹿児島県は昨年度から特定の研修に参加する市町村職員の費用を交付金で対応している。佐賀県も同様なことを行っている。予算の問題はあるが、都道府県にこういったリードを促していくことも必要ではないか。そして、その案内をすると行政マンも喜ぶかもしれない。
- ・地域づくりの重要なポイントを突き詰めていくと、やはり人材の確保・育成に尽きる。今度の慶應義塾大学の論文集は「新・地方創生」がテーマで、各識者に地方創生の次の一手に関する論文を寄稿いただいたが、皆、同様に人財の重要性を指摘していた。まさしく、人財は人財塾の「財」だ。そういった観点からも、地域づくりに係る方、理解のある方、関心のある方を少しでも増やしていくことが、地域全体の浮揚につながり、国の全体の活性化にもつながっていくと考えている。ぜひ、皆様方からのいろんなご示唆、ご指導をお願いしたい。

■参考資料

- 参考資料3. 人材力活性化研究会 資料
2. 第20回人材力活性化研究会：P253～

第IV章 本年度の調査研究事業の成果と今後の方向性

1. 本年度の調査研究事業の成果と課題の確認

本年度も地域づくり人の育成に向け、スタートアップの課程として位置づけている「地域づくり人財塾」(以下、「人財塾」という)を開催した。これに加え、修了生あるいは実践者のステップアップ課程として位置づけている「課題解決編」の「フィールドワーク型」を開催した。

調査研究事業では、「人材力活性化研究会」において「人財塾」のカリキュラムや修了者に対する支援の方法等について検討した。

ここでは、これらの取組を振り返り、本年度の成果と課題を確認するとともに、次年度以降の方向性について検討・整理を行った。

(1) 全国地域づくり人財塾

①成果の確認

■322名の修了生の輩出と地域活動への貢献

- ・本年度も、全国市町村国際文化研修所(JIAM)、市町村アカデミー(JAMP)、自治大学校の3か所で「全国地域づくり人財塾」を実施するとともに、仙台でも開催した。
- ・本年度は、トータル322名の修了生を輩出し、地域力創造および地域づくり活動の活発化に向けた地域づくり人材のすそ野の拡充につながった。

■地方部における初めての開催(IN仙台)

- ・これまで「人財塾」では、身近な場所での開催を目的に「一日人材力活性化研究会」という形式で半日を日程とした簡易なカリキュラムを平成23年度に実施した。しかし、平成24年度以降は、その実施は停止されていた。
- ・本年度は、1泊2日のカリキュラムとなったが、初めてスタンダードスタイルによる地方開催を実施した。
- ・参加者をみると、これまで参加者が少なかった東北地方の市町村、各種団体の参加割合が7割を超え、地元参加の吸引力の強さが確認された。
- ・また、「IN仙台」の開催に合わせ、山形・秋田の修了生がフォローアップ研修を開催するなど、地方開催を行う意義とその役割が確認された。

参考 一日人材力活性化研究会

- 「一日人材力活性化研究会「おおやけ塾 in 福山」
開催場所：福山市役所本庁舎3階大会議室
開催日時：平成24年2月25日(土)13時00分～17時00分
- 「一日人材力活性化研究会 in 青森」
開催場所：青森市文化観光交流施設「ワ・ラッセ」
開催日時：平成24年1月24日(火)13時30分～17時30分
- 「一日人材力活性化研究会 in 佐賀」
開催場所：佐賀市文化会館「大会議室」

開催日時：平成 23 年 12 月 3 日（土）13 時 00 分～17 時 00 分

● 「一日人材力活性化研究会 in 滋賀」

開催場所：滋賀県近江八幡市「酒游館」

開催日時：平成 23 年 10 月 31 日（月）13 時 30 分～17 時 30 分

● 「一日人材力活性化研究会 in 愛媛」

開催場所：愛媛県美術館「講堂」

開催日時：平成 23 年 10 月 20 日（木）13 時～16 時

■フォローアップ研修会の継続と、新しい取組への後押し

- ・「全国地域づくり人財塾」の修了生が自主的に集まり、勉強会等を開催している「フォローアップ研修」がなされている。
- ・「西日本」は本年度の開催はなかったが、「東日本支部」では本年度も 4 回開催された。特に、「東日本支部」のフォローアップ研修は、修了生の発表だけではなく、外部講師の招へい等もなされており、本年度は、地域の大学とのコラボレーション企画による勉強会が実施されるなど、創意工夫がなされている。
- ・また、「全国地域づくり人財塾 IN 仙台」の開催に合わせ、山形・秋田の修了生がフォローアップ研修を開催し、新しい取組もスタートした。

■質の高いカリキュラムの構築

- ・本年度も「人材力活性化研究会」の構成員による講義に加え、全国的に注目、あるいは活躍されている学識者や有識者を招いての講義、受講生が抱える課題について講師と議論する「講師との直接対話」、グループワーク（グループ討議等）を組み合わせて、地域づくり人としての心構えや地域づくり活動に関するノウハウを学ぶ研修を実施してきた。
- ・また、修了生の地域活動継続の意欲醸成と、活躍の場の提供を目的に行っている「全国地域づくり人財塾既受講生からの報告」の時限は、発表を希望する修了生も出現するなど、修了生の目標にもなっている。
- ・これらの取組の結果、研修終了後の受講者アンケートでは、各講義とも高い満足度が確認されるとともに、前述のように、修了生の自主的な取組が継続している。

②課題の確認

■受講者満足度の向上とクラス分けの検討

- ・「全国地域づくり人財塾」では、毎回受講者アンケートの結果等を踏まえ、カリキュラム編成や講義方法を見直してきた。
- ・このため、一般講義では意見・指摘等は少なく、満足度・活用度とも高い満足度が得られているが、「講師との直接対話」や「オフィス・アワー」（課外時間等）に対しては、満足度・活用度は高いものの、「人数が多い」、「もっとも長く講師と話がしたい（または時間が短い）」、「全講師を回りたい」などの意見が繰り返しみられている。
- ・また、受講生同士、交流が行える単元を求める意見もみられている。
- ・これに対し、受講生のプロフィールカードや論点（知りたいことと背景）カードの事前提出など、議論時間を増やす試みや、単元数の増加、途中退出の承認、食事時間の活用等も採用しているが、

定員が数十名を超える現状では、全てのニーズに応えることが難しい。

- ・「人材力活性化研究会」では、定員の抑制等も議論されたが、塾の性格を考えた場合、これ以上の定員の抑制は不相当とし、これら課題については、時間外の増加や、時間内の効率化など、できる限りの対応が確認された。
- ・また、以前実施した、グループワークの時間に全講師が教室に待機し、要望が出たグループに出向きアドバイスをする方式を再度取り入れることも確認された。

■受講生相互の交流機会・時間の拡充

- ・受講者アンケートでは、受講生相互の交流時間の充実や、受講生ネットワークづくりに対する要望がみられた。
- ・このため、グループワークの充実やカリキュラムの時間配分の調整などにより、受講生相互の交流機会と時間の充実を図る必要がある。

■参加が少ない市町村等への訴求

- ・平成 23 年度からスタートした「全国地域づくり人財塾」（従前は「地域づくり人養成講座」）であるが、受講生が少ない地域があることが毎回確認されている。
- ・本年度の「人材力活性化研究会」での議論でも、これまで受講生を派遣していない（あるいは少ない）市町村に対する訴求について議論された。
- ・この一つの対策として、本年度地方開催による効果が期待できるのではないかが議論された。

■修了生に対する活動支援の方策の検討

- ・平成 27 年度の『「全国地域づくり人財塾」修了者の地域づくり活動調査』において、修了生が地域づくり活動の中心メンバーとなり活動しているケースや、他の地域と連携して広域の活動しているケース等が多数展開されている状況が明らかになった。
- ・この結果を踏まえ、修了生に対する活動支援方策の検討を、本年度の「人材力活性化研究会」の一つの議題とし、インセンティブ付与なども含めた活動を積極的に後押しする支援措置について議論した。
- ・第 19 回と第 20 回の研究会において、様々なアイデアの提示や議論がなされたが、その一方で「全国地域づくり人財塾」の理念との整合性や、事実上の効果等についての意見も多くだされたことから、本件については継続審議となった。

(2) 全国地域づくり人財塾 課題解決編

①成果の確認

■受講生の要望に即した実践性の高いカリキュラムの構築

- ・「全国地域づくり人財塾」での受講生アンケートや、『「全国地域づくり人財塾」修了者の地域づくり活動調査』でも要望が高い、ステップアップ研修として「全国地域づくり人財塾課題解決編フィールドワーク型」を本年度も実施した。
- ・「フィールドワーク型」では、プランニング力の養成を目的に、グループワークや講師とのディスカッションに重点を置いたカリキュラムになっている中、昨年度、本年度は、事業化やプロジェクト組成等のスキル養成に重点を置いたカリキュラムとした。
- ・この結果、受講生からの評価は極めて高いものとなっている。

■修了生の競争資金獲得事例の出現

- ・昨年度の受講生の一人が、平成 28 年度の「地域おこし協力隊ビジネスアワード事業」に採択され、また、もう一人の修了生が行う取組ではクラウドファンディングに応募し目標額を達成するなど、その成果がみられている。

②課題の確認

■開催周知方法の検討

- ・本年度の「フィールドワーク型」は定員に達したが、その多くは地域おこし協力隊員であり、「全国地域づくり人財塾」の修了生の参加はゼロとなった。
- ・その理由を修了生に尋ねたところ、開催告知が1カ月前と直前であり、参加の調整が難しいといった点が挙げられた。
- ・特に、これまでも修了生要件を外す募集では、受講対象者が各段に多くなることから、応募が多くなる。このことから受講ニーズが高いことがうかがえるが、修了生を要件とする場合は、対象者が絞られることから、その周知期間を長くとることが必要と考えられる。

■受講生レベル差対策

- ・これまでも修了生要件を外す募集では応募が多くなる一方で、受講生の経験に差が生じてしまう傾向がうかがえる。
- ・課題解決型では、ビジネススキルを短時間でかなりなところまで仕上げるカリキュラムのため、参加者の経験の程度等に格差がある中で、受講の達成感や成果の実感には、相当の工夫が必要となる。
- ・このため、事前に経験値や希望等を図る事前アンケートを丁寧に実施し、それに応じたチーム編成が必要と考えられる。

(3) 全国地域づくり人財塾フォローアップ研修

①成果の確認

■フォローアップ研修の開催と定型化

- ・「全国地域づくり人財塾・東日本支部」は、本年度も4回開催され、継続した開催が定型化している。
- ・「西日本」は本年度の開催はみられなかったが、平成29年度開催が企画されている。
- ・また、本年度は「全国地域づくり人財塾 IN 仙台」を契機に、山形や秋田の修了生を中心に東北地方の修了生を対象としたフォローアップ研修が開催された。

②課題の確認

■身近な場所でのフォローアップ機会づくり

- ・受講者アンケートでは、地域ブロックごとのフォローアップ研修や、修了生の活動報告会などに対する要望がみられた。
- ・「人材力活性化研究会」でも、身近に集まれる場が必要との意見がみられ、沙龙的な場の設置や、修了生が定期的集まれる交流機会の開催等の意見がみられた。

■継続に対するサポート

- ・「全国地域づくり人財塾フォローアップ研修・東日本支部」では、年4回の開催が定型化しているが、他の地域では不定期開催となっている。
- ・このため、継続開催をサポートするため、開催の呼びかけや日程調整等を行う事務局サポート等の実施が想定できる。

2. 今後の展開に向けて

「1. 本年度の調査研究事業の成果と課題」を踏まえ、次年度以降の方向性は、次のように整理できる。

(1) 全国地域づくり人財塾

①通常開催の実施

- ・来年度も「人財塾」をJIAM、JAMP、自治大において通常開催を行う。
- ・定員については、多様な場面で活躍することができる人財を養成する観点から、可能な限り多くの受講生を受け入れることを目指して広報事務等を充実・強化すべきである。

②地方開催の実施

- ・「人財塾 IN 仙台」の成功を踏まえ、今後も地方開催の実施を検討する。
- ・開催場所については、本年度は東日本（仙台市）において実施したことから、次回は西日本を想定し、九州地方を候補とする。この際、実施地域の修了生におけるフォローアップの取組などに資するよう内容を工夫すること。

③課題解決編の実施

- ・本年度の「課題解決編（フィールドワーク型）」の成果を踏まえ、来年度も引き続き「課題解決編（フィールドワーク型）」の開催を検討する。
- ・募集期間を十分に確保できるよう、開催日についてはできる限り早く設定できるよう配慮する。

(2) 「全国地域づくり人財塾」修了生に対する支援の検討

- ・「全国地域づくり人財塾」の修了生が、地域づくり活動の中心メンバーとして継続して活動している状況や、自らの地域に限らず広域において活動している状況等が確認されている。人材力活性化研究会においては、修了生の地域づくり活動にインセンティブを付与する仕組みを検討し、その活動を積極的に後押しするための支援措置について引き続き必要な検討を行う。
- ・平成 28 年度の研究会においては、どのような仕組みが、インセンティブの付与につながるのか、また、修了生が地域に戻った際に新たな取組につながるのか、について議論したところ。
- ・当該仕組みに関し、名刺に明示する等により、地域づくりの活動が認められ、職場においても活動しやすくなるような位置づけ等について議論がなされ、具体的な仕組みに係る検討を深めることとなった。

参 考 資 料

■参考資料 1. 全国地域づくり人財塾 初級編 受講者アンケート等

1. 全国市町村国際文化研修所（JIAM）編 受講者アンケート..... 37
2. 自治大学校編 受講者アンケート..... 67
3. 地方開催（IN 仙台）編 受講者アンケート・リーフレット..... 117
4. 市町村職員中央研修所（JAMP）編 受講者アンケート..... 153

■参考資料 2. 全国地域づくり人財塾 課題解決編（フィールドワーク型）

1. 受講者アンケート・リーフレット..... 231

■参考資料 3. 人材力活性化研究会 資料

1. 第 19 回人材力活性化研究会 247
2. 第 20 回人材力活性化研究会 257

■参考資料 1. 全国地域づくり人財塾 初級編 受講者アンケート等

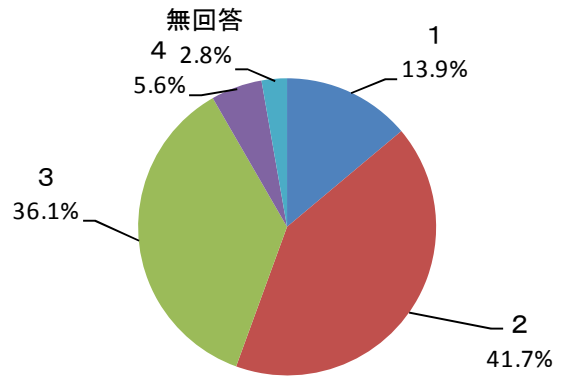
1. 全国市町村国際文化研修所 (JIAM) 編 [平成 28 年 5 月 11 日～13 日]

①各プログラムに対する評価

【講義 1】「人材力の活性化について」総務省人材力活性化・連携交流室 課長補佐 清水 隆教

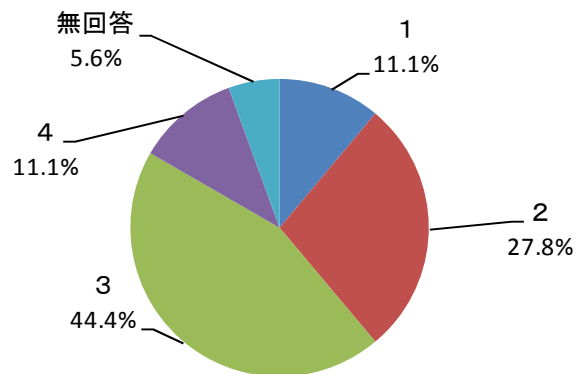
N=36

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	5	13.9%
	2	15	41.7%
	3	13	36.1%
	4	2	5.6%
	無回答	1	2.8%
合計		36	100.0%



N=36

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	4	11.1%
	2	10	27.8%
	3	16	44.4%
	4	4	11.1%
	無回答	2	5.6%
合計		36	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・地方創生について再認識できた。
- ・国の考え方がよく分かりました。
- ・時間が短いのもあってか、早口で理解が難しかったです。資料を見て勉強します。

◎活用度 3

- ・国が力を入れて地域を活性化していきたいということが理解できた。
- ・国が本気でやろうとしていることが伝わった。ガイドブックは良かった。
- ・国としての取組内容は概ね理解できた。一方で各自治体の取組を超えた面的な取組が今後重要だと思った。

- ・これまでぼんやりとしていた「地方創生」という言葉が少し具体的になりました。
- ・地域創生に関して、総務用がどのような仕事をされているのかも知る機会になり、勉強になりました。
- ・研修の主旨を理解し、活かせるように研修に取り組んでいきたい。
- ・地方創生には人材力の育成が不可欠という点が共感できた。
- ・時間が短かったこともあり、早口でついていけないところがあった。取り組みについてはレジュメがあったため、よく分かった。
- ・短時間のため、早口で理解するのが難しい感がありました。今後、制度を理解するよう努力します。
- ・総務省の「思い」を伝えて欲しかったです。
- ・講義全体を通して、あっという間に終わってしまったように感じ、もっとお話がうかがえれば理解度が高くなると思った。
- ・短い時間でしたが有難うございました。今後とも地方と日本をよろしくお願いします。

◎活用度 2

- ・もう少しゆっくりお話したかったです。
- ・そもそも、この内容を 15 分で説明しようとすることに無理があるのでは。
- ・ゆっくり説明してほしかったです。
- ・総合戦略が分かっていないと難しいと思われる。
- ・地方創生、まち・ひと・しごと創生に関して反芻が必要だと感じました。
- ・15 分しかない中、理解するには難しかった。
- ・1 億総活躍の全体像が国民に示しきれていない気がする。
- ・国の取組の大枠は理解できました。

◎活用度 1

- ・これまで聴講した人の中で最も早口で聞き取りづらかった。相手へ伝えることよりも自分が話すことを目的としているように見受けられた。持ち時間に合った話ができないのであれば他のコマの時間を長くした方が生産的。

◎活用度 無回答

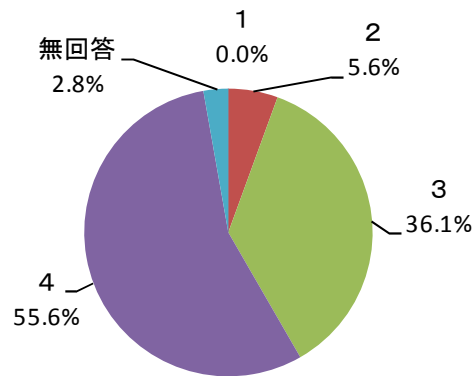
- ・国の取り組みが、地域活性に本気なんだと実感できました。地域、人が。

【講義2】「NPO フュージョン長池の実践 ～多様で美しい共生の地域を創造する人財とは～」

特定非営利活動法人 NPO フュージョン長池 会長 富永 一夫 講師

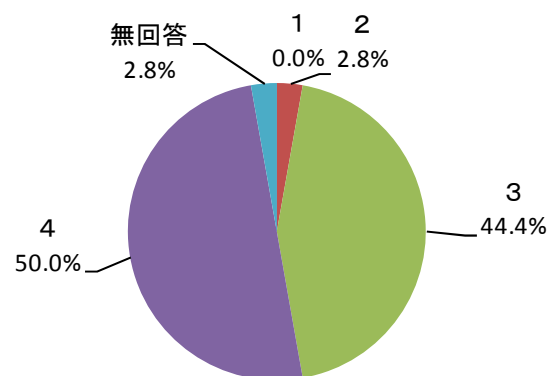
N=36

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	5.6%
	3	13	36.1%
	4	20	55.6%
	無回答	1	2.8%
合計		36	100.0%



N=36

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.8%
	3	16	44.4%
	4	18	50.0%
	無回答	1	2.8%
合計		36	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ゼロから NPO を立ち上げ、多くの市民を広く関わりが持てる仕組みづくりは魅力的だと思った。様々な人を取り込み、それぞれの強みを最大限活かしている点はとても参考になった。
- ・ゼロからここまでものを作ったことが、とにかくすごいなと思いました。「そこにいる全ての人 が人財」という言葉が印象的でした。
- ・地域をつくる人は特別な人ではない。各々が特技を持っていて人財であるという言葉がすごく心に残りました。
- ・お祭りで焼ソバを買ってくれる方も”人財”との言葉に、新たな”視点””ものの見方”を教わりました。
- ・これまでの考え方が 180 度変わる目からウロコの内容でした。ありがとうございました。
- ・納得して賛同者を増やしていく。よそ者ばかり若者、ババジジと、とてもイメージしやすい講義だ。
- ・自らも今はよそ者。活動するヒントが得られた。
- ・「みんな違ってみんな良い」の精神を持ちたいと思います。
- ・実践から学べる学習となった。リーダー、チームのあり方について理論的に語られていて一般化への手立てとなった。
- ・非常に実践的でとても役立ちました。
- ・先生のパワーを感じました。地域で取り組める事例なので提案していければと思います。

- ・決断力がすごいと思いました。
- ・やると決めると協力者が出てくるという話が良かったです。
- ・出来ない理由を探してブレーキをかけるのではなく、できることを広げていきたいと思った。
- ・公園の運営、経営と所有の分離は大変参考になりました。
- ・今、市で取り組もうとしている公民館のコミューン化について学べた。
- ・市内にも新しい行政区が出来、新住民 vs 旧住民の争いがある。
- ・話し方が上手でした。

◎活用度 3

- ・管理運営に経営の視点で臨む。あらゆるパターンを想定して結果として楽しむ。
- ・経営手法がしっかりされており、様々な案を考えて運営されていると感じたので、見習っていききたい。
- ・所有と経営を分けた運営を図で示していただき分かりやすかったです。物語にして映像化、言葉の見える化に努めたいと思いました。
- ・「NPO フェージョン長池」がどのように稼いでいるのか、詳細まで分からなかった。個人的に質問します。
- ・指定管理において収益を上げることは大切であり、人財活用の多様性を認識できた。
- ・「人は宝」本当にそうだと思います。地域に入り住民との信頼関係を築きながら地域づくりを進めていきたいと思います。
- ・地域づくりをする上で大切な人財は、特別なものではないということを理解できた。今後の地域へのアドバイスの参考とします。
- ・地域をつくるのは特別な人ではない。個々の特性を総動員してつくっていくものということに気付いた。
- ・地域をつくる人が特別な人ではない。一人一人が価値があり人財なんだ！！に感銘を受けた。
- ・熱意と覚悟、行動、それがお金にも行政の信頼も勝ち取っているという現状に大変勉強させられました。
- ・よそものから地域を再生してその将来の展望できるすごさに感動しました。
- ・NPO 法人との関わり方について考えました。
- ・講義の内容はNPOの活動報告のようなイメージを受けた。後に話されていた苦労話をもっとたくさん講義で聞きたかった。
- ・行政は文句がないようにしようとしていますが、文句があるということは関心があるということであるというのが印象に残りました。文句が出てもひるまずに行動したいです。

◎活用度 2

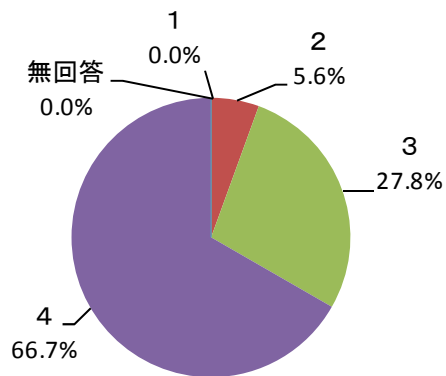
- ・ニュータウンで0からのスタートでこれだけの成果を挙げており驚かされた。

◎活用度 無回答

- ・多くの犠牲の中で得た人のコミュニティの場所。本当に本気で向き合われて来られた事に背中を押されました。NPOの活動の可能性と、街を変えられると、勇気が出ました。

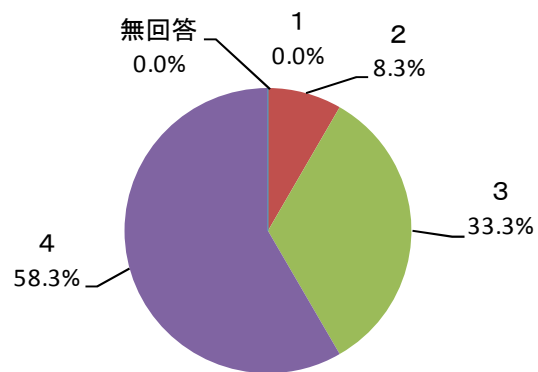
N=36

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	5.6%
	3	10	27.8%
	4	24	66.7%
	無回答	0	0.0%
合計		36	100.0%



N=36

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	8.3%
	3	12	33.3%
	4	21	58.3%
	無回答	0	0.0%
合計		36	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・76歳にしてあのパワー！！圧倒されました。でもあれだけの人物だからこそ、あれだけのことができたんだと身をもって感じました。
- ・熱い講義でした。熱量持って企画に取り組みます。
- ・先生から頂いた言葉はこれからの私の人生に影響を与え続けてくれると思います。やねだんも豊重先生も日本一です。本当にありがとうございました。
- ・先生の迫力、熱意に圧倒されました。
- ・先生のパワーがすごかったです。本気に取り組まれている姿を地域に伝えていければと思います。豊重先生の全力投球で取り組む姿勢に感銘を受けました。また熱さも伝わってきました。
- ・熱意が伝わってきました。もっと具体的な取り組み内容をお伺いしたいです。
- ・非常に強い情熱を感じた。組織をまとめ、持続可能は住民自治を確立するためのポイントが良く分かった。一人一人の能力の引き出し方、財務会計の考え方、先を見据え老若男女の巻き込み方を良く理解できた。
- ・実践から学べる学習となった。理屈だけでなく、パッションの大切さ、人づくり、チームづくりの方策を学んだ。
- ・自分が動くこと。
- ・人にやらせるのではなく気付かせる。
- ・市民に指示を出して動かすのではなく、長所ややる気を引き出すことが重要だと分かった。
- ・人を動かすのは、命令ではなく納得してもらうこと、そして感動と感謝の輪転が地域を動かすことに感銘を受けた。

- ・気配り・心配り・目配り、相手への思いやりが人の心をゆさぶるという事がよく伝わった。
- ・行政区で稼ぐという発想がすごい。
- ・地元住民で自主財源を稼ぐ方法は素晴らしい。全ての自治体で活用できると思う。
- ・物事をはじめる時な入口だけを見るのではなく出口も見なければいけないと言われていて、驚きました。企画は最後まで計画しなければいけないことを実感しました。
- ・”数字で示して納得してもらおう”自分に欠けているこの部分の重要性を教わりました。
- ・講義全般に地域づくりについて理解できた。
- ・だんだん薄れてしまっている地域の絆を取り戻すために白川町流の切り口目配りで考えていきたいと思った。
- ・一番会いたかった方ですので三度もお話が聞けてうれしかったです。

◎活用度 3

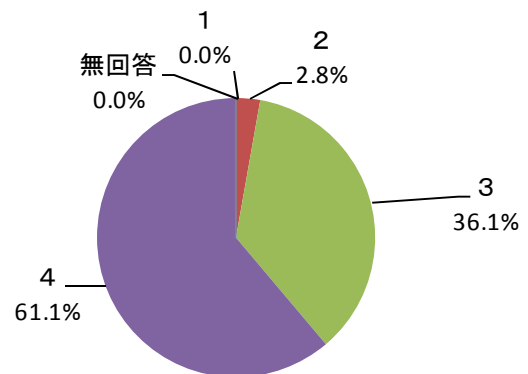
- ・カリスマ性を保つのは難しいと思う。信頼を得るために努力はすごい。
- ・参考になったが、カリスマ的なリーダーの必要性を感じた。
- ・豊重先生にパワーを吸い取られた。という位、パワーがありました。
- ・非常にパワフルな方で、自治会の運営にも経営的な観点から、様々な事業を行われており、驚いた。
- ・人はこんなにもパワーがあるんだと思い、非常に刺激を受けました。今後の不安要素を考え、思考力、創造力、アイデアを発揮し、これからの道づくり、地域づくりができるヒントを得て、本当に良かったです。
- ・人を動かすために努力されているところに大変感動しました。
- ・まだまだ知らなければ、学ばなければならないことが多いが、本気度がすごく伝わり感動しました。
- ・立ち位置を変えて10年20年先を考える。相手のことを考えて、まごころで接する。
- ・トークに引き込まれました。
- ・EDUCE=引き出す、をキーワードに無関心層の心を揺さぶれるようにしていきたいです。

◎活用度 2

- ・圧倒されました。自主財源が大事。情熱発信どこまでできるか。
- ・御大のエネルギーに圧倒されました。
- ・強い意志の元、地域を再生するパワーにすごさを感じました。

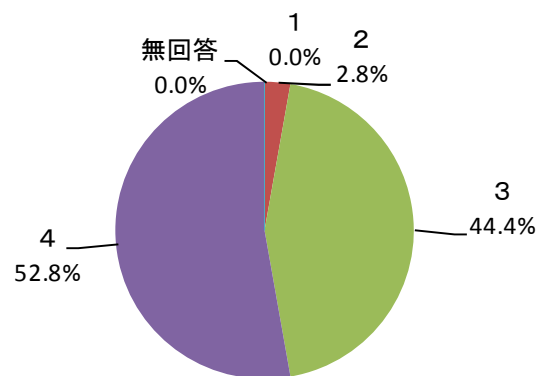
N=36

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.8%
	3	13	36.1%
	4	22	61.1%
	無回答	0	0.0%
合計		36	100.0%



N=36

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.8%
	3	16	44.4%
	4	19	52.8%
	無回答	0	0.0%
合計		36	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・磯村先生の講義は、市役所の立場を越えて、自分自身が動くことで、人脈を広げまちづくりができるということを改めて考えさせてもらった講義でした。感動しました。
- ・同じ自治体職員として地域づくりに関わっている姿を見て「どこの部署にいても地域づくりはできる」という言葉に勇気づけられました。
- ・同じ職員として頑張られている姿を見れたので私も頑張らなければと感じました。
- ・同じ立場として、非常に良いお話を聞けました。裏ワザも聞けて良かったです。
- ・行政職員でも一住民として活動している事に感銘を受けた。
- ・行政の役割が大きいということに感銘を受けた。行政の後方支援の重要性を実感できた。
- ・公務員が飛び出していく様子に勇気づけられた。
- ・公務員も悪くないと思える講義でした。
- ・市役所職員以外に、NPO 法人、ウェイトリフティング審判、副住職等、様々な立場で活動されており、地域に出る姿勢を見習っていきたい。
- ・市の職員として何でもできるんだと思った。
- ・何でもできる人だと思った。
- ・「弱みを強みに」簡単にはできないことだが、強い意志を持って取り組む大切さを理解できた。
- ・一見するとデメリットに思えることでも、視点を変えれば価値が生まれる、という点は地元へ持ち帰って活用できる。

- ・地域の良さの発見の仕方、活用方法、弱みを活かす所が勉強になりました。
- ・見方を変える。リノベーション・・・その発想力をどう培うか、課題だ。
- ・スポーツイベントの企画から実施までをもっと詳しく聞きたかったです。
- ・一番分かりやすい講義でした。やっちゃいましょう！
- ・カッコよかったです。

◎活用度 3

- ・同じ公務員、市役所の職員であるバイタリティに驚きました。永ちゃんのように「やっちゃいます！」
- ・同じ公務員と思えないほどバイタリティがある人で驚きました。
- ・同じ公務員として、モチベーション等上げないといけないと思いました。
- ・同じ市役所職員ではあるが、個人のバイタリティはすごいと感心させられました。
- ・行政職員の立場で事例紹介されていてよく理解できました。
- ・公務員という肩書でいながら地域で一步を進めているすごさ。
- ・公務員としての立場やNPOとしての立場など、その時々で立ち位置を変え、まちづくりを行っている点。人と人をつないで大きな力を生み出す点は参考になった。
- ・様々な顔を持っており、多忙そうだが、どれも楽しんでやっているようで刺激になった。
- ・自分自身が地域活動に取り組む重要性をひしひしと感じた。
- ・地域資源の再発見のヒントをいただきました。
- ・強すぎる関係の人だけでなく弱い関係の人をまきこみ活動することが大事だと分かった。
- ・仲間の大切さ、行動の重要性を認識しました。休みの日でも、市民目線で市内に興味を持っていきたい。
- ・チャレンジ精神あふれる行動力に圧倒され、自分もできることから一つ一つ取り組みたいと思います。
- ・最終ミッションを忘れずにやっちゃおう！！

◎活用度 2

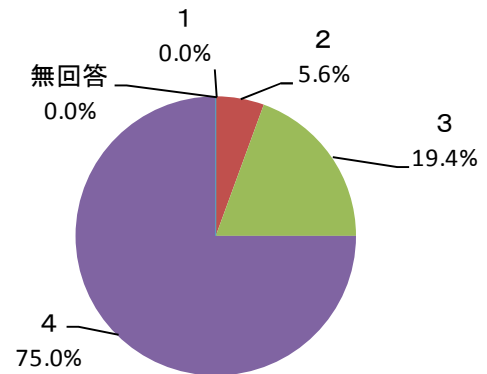
- ・基本的な公務員がNPOの役員となることについて、支障がないということが分かった。

【講義5】「地域づくりのマネジメントーつながりをつくり創発を生む仕組みづくりー」

慶應義塾大学 SFC 研究所所長／総合政策学部教授 飯盛 義徳 講師

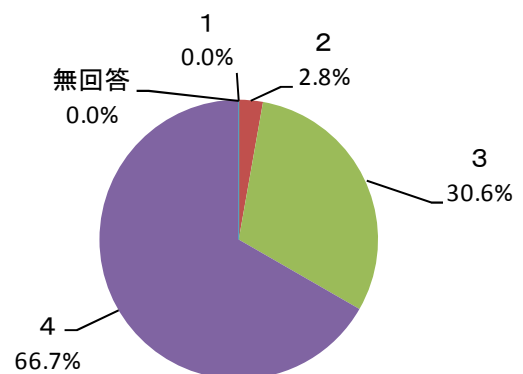
N=36

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	5.6%
	3	7	19.4%
	4	27	75.0%
	無回答	0	0.0%
合計		36	100.0%



N=36

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.8%
	3	11	30.6%
	4	24	66.7%
	無回答	0	0.0%
合計		36	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・論理的かつ分かりやすく説明された。
- ・とても分かりやすい言葉とテンポで講義いただきありがとうございました。子どもたちに故郷のいい所をどんどんPRしていきたいと思います。
- ・とてもわかりやすい仕組み作りの基礎を教えてください、すぐにでも実践できそうです。
- ・とても分かりやすかったです。これまでぼんやりしていたことが腹落ちした気分です。
- ・他の先生方の講義が先生の講義で見える化しました。ありがとうございました。
- ・単なる知識の提示のみでなく、自らの経験を踏まえての講話であったため、腹に落ちた。
- ・これまでの講師の方々も話をしてきた内容ですが、より実践的な手法の話もあり、今後の活動にすぐにでも活用できそうな気がしました。
- ・少し難しい点もありましたが、内容は一貫性があったので理解できました。
- ・飯盛先生の講義のプラットフォームをつくるという話の中で、行政の立場でしかできないこと、資源を持ち寄ることを学びました。また葉っぱでも資源になることを知り、加西でもできることがあると感じました。
- ・プラットフォーム作りの考え方を変わられました。
- ・プラットフォームの概念がとてもよくわかりました。”関わってくれる”ということがすでに”資源の持ち寄り”なんだという視点を教わりました。

- ・境界の大切さ、子どもへの教育の大切さ、混ざることによって起こるイノベーションに自分から飛び込んでいきたい。
- ・子どもの頃に地域の人と交流したり、地域のことを学ぶことの重要性を強く感じました。その子どもが将来地域づくりに携わってくれたら最高ですね。
- ・子どもを中心に商工会や教育委員会などを巻き込んでいく、場所・人の活用など柔軟な発想だ。自身も域学連携をしていた事もあり、分かりやすかった。子どもを地域に巻き込む方法を自分も考えていきたい。
- ・大学との連携の有効性。小学生から地域のことを学ぶ重要性を感じました。
- ・ないから有る、あるから無いを形にして、自然と人が安心して笑顔になるような、場所や取り組みを行いたい。よそ者、大学生などの新しい目線での意見を聞き、地元に対して新しい発見ができると思うとワクワクしています。
- ・住民自らが関わることで達成感が、地域への思い入れ、愛着につながることを知った。
- ・具体的なマネジメントの実例を教えてください、未来を考えた塾は実践したい。
- ・地域をよく知り、自分で考え、行動する人材を育むための取り組み、「鳳雛塾」は非常に効果的なものであり、各地域において活用できるモデルケースとなる。
- ・チームづくり、人づくりの具体的な取組を学べた。人づくりのカリキュラムについて更に知りたい。
- ・知の財産、素晴らしいです。
- ・まちづくりのために ICT を活用することで、多くの効率化が図れること、また更なる可能性を秘めていることが分かった。セキュリティ対策の重要性も再認識できた。

◎活用度 3

- ・子どものうちから地域の魅力を学んでもらい、みんなで作り上げていくことの大切さ。
- ・子どもの時に、地域に関わると U ターン等の事例が増えるという話は印象的で、重要であると再認識した。
- ・大学という教育と地域を結び付けるつながりと人が大切であると思いました。
- ・マネジメントの難しさ、人財の育成方法など、長いスパンに携わる人材が必要だと思った。
- ・参加した人が自分で作ったという意識が大切なんだということです。これからの活動に取り入れたいです。
- ・プラットフォームと境界域についてとてもわかりやすく教えていただきました。コアとなる人を見つけ、濃くなり過ぎないまちづくりを出来るようにしていきたいです。
- ・アカデミックな話術にひきこまれ、あつという間の講義でした。
- ・分かりやすく講義をしていただきました。感動しました。
- ・資源化することの大切さが分かった。

◎活用度 2

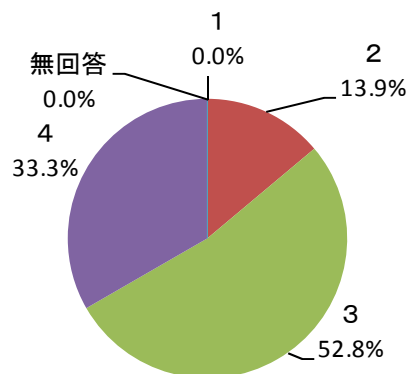
- ・内容は理解できたり、確認することができました。

【講義6】「ICT を活用した地域活性化の道すじ」

日本マイクロソフト(株) 会長室業務執行役員シチズンシップリード 牧野 益巳 講師

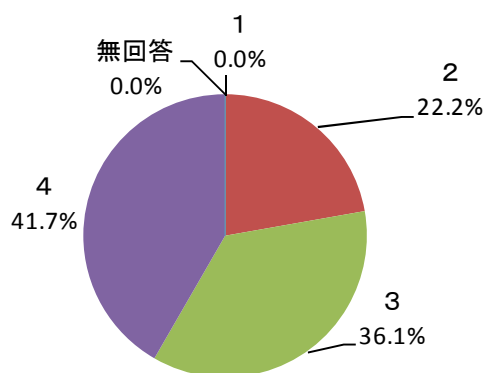
N=36

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	5	13.9%
	3	19	52.8%
	4	12	33.3%
	無回答	0	0.0%
合計		36	100.0%



N=36

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	8	22.2%
	3	13	36.1%
	4	15	41.7%
	無回答	0	0.0%
合計		36	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ ICT の活用は常に念頭において企画したいと思います。
- ・ ICT の可能性に魅力を感じました。
- ・ ICT の有効さに気付かされた。使えるものはどんどん使って、スピード感をもって課題解決にあたりたい。
- ・ ICT を活用するのにアイデアづくりの基礎となりました。
- ・ ICT をまちづくりに活用することで、あらゆる場合で効率化が図れること、また更なる可能性を秘めていることが分かった。セキュリティ対策の重要性も再認識できた。
- ・ 過疎地域での ICT の活用など地域の課題解決のパートナーとして ICT の存在を常に頭に置いておきます。
- ・ 地域に活かしていける内容だった。ICT はこれからの地域づくりに欠かせないと思う。
- ・ 何と何をかけ合わされるかで、何千何万という ICT の活用方法が思いつく。自分の町に合うやり方を見つけ、セキュリティに気をつけて利用していきたい。
- ・ ICT として facebook、twitter しか手法を知らなかったのが、ICT は地域おこしでの起爆剤になりうることを勉強させていただきました。これから情報発信にはかかせないので、うまくまちづくりに取り入れたらと思います。
- ・ 日々、ICT の重要度が増している今日、当市においても活用する方法を検討したい。

- ・ICT から見た ICT を活用した
- ・ウイルス攻撃の映像がとにかく衝撃的でした。地域づくりにおける ICT の活用の可能性は無限にあると思いました。
- ・セキュリティの大切さ、ウイルスの恐ろしさを知った上で、これからさらに進んでいく IT の活用。地域の特性をまず知って、ICT の活用を行う事で可能性の大きさを学び感動しました。
- ・最先端の事例を聞くことができラッキーでした。

◎活用度 3

- ・ICT という、どちらかという苦手な分野からの視点という新しい視点を得ました。
- ・ICT の活用によって出来ることの可能性を感じた。同時にセキュリティをしっかりさせることの必要性を感じた。
- ・ICT の活用の目的をきちんと言葉にしてもらえることで、活用の幅や使い方を再考するきっかけになりました。
- ・ICT の進展は産業革命に匹敵するという話は印象的で、利活用を検討していきたい。
- ・ICT の有効活用、情報セキュリティの大切さを改めて感じました。
- ・あまり ICT についてピンときたことがなかったが身近にもたくさん活用があることが分かった。
- ・いつも大変お世話になっている部分であり、今後も心が折れることのないようより精進しなければと思いました。
- ・企業の取組を知ることができ、利益優先でない部分に驚きました。ICT の活用を考えたいと思います。
- ・地域に合わせた ICT の活用が必要であることが分かった。
- ・自治体や地域での ICT の活用についてもっと話を聞きたいです。
- ・情報セキュリティの大切さを再認識させていただきありがとうございました。
- ・セキュリティの必要性やウイルス、ハッカーの現状を知ることができました。

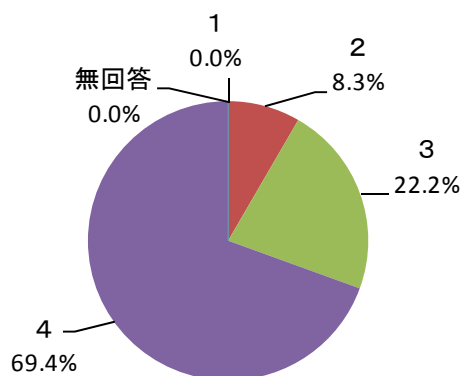
◎活用度 2

- ・ICT が必要なことは理解するものの、いろいろと学ぶことが多いと感じました。マイクロソフトの活動を知り驚きました。
- ・ICT と地域づくりのイメージがわからなかったのですが、お話を聴き、具体的な事例を見せていただき、このようなアプローチもあることを知れて良かったです。
- ・IT 技術が必要なことは理解できるが、踏み出すのは難しい。踏み出すきっかけがあれば。やっぱり情報セキュリティが大事。そして、一步踏み出してみる。
- ・マイクロソフトの先生の講義を受けられる機会があったことに感謝します。セキュリティに気をつけます。
- ・PC オンチな私でもよく理解できました。
- ・市民活動で高齢者が IT 活用はすでにやっているが、もう少し進んで何かあるのだろうか。

【講師との直接対話】

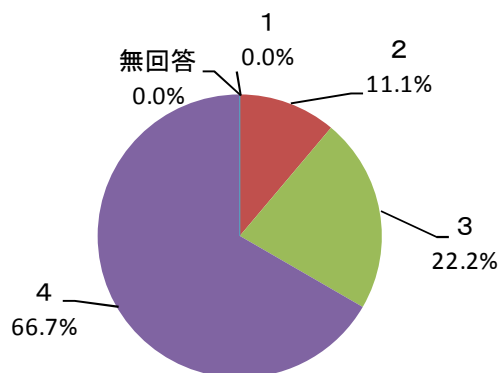
N=36

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	8.3%
	3	8	22.2%
	4	25	69.4%
	無回答	0	0.0%
合計		36	100.0%



N=36

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	4	11.1%
	3	8	22.2%
	4	24	66.7%
	無回答	0	0.0%
合計		36	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・全ての講師の先生にすごさに圧倒させられました。
- ・フリートークはとても良かったです。
- ・ものすごく充実した時間でした。
- ・生で聞けることの素晴らしさと実感しました…ありがたいです。
- ・講義以上に深い話が聞けてとても有意義だった。
- ・講義だけでは知ることのできない知識を得られた。大変刺激的だった。
- ・講師の方々と様々なお話ができ、刺激を受けた。
- ・講義よりも詳しくお話が聞けてとても参考になりました。
- ・直接質問できる本当に良い機会です。
- ・直接的な悩みを聞いてもらえて、今後の役に立ちました。
- ・直接的にいろいろな話を聞くことができ、とても良かった。何か1つでもいいので実践していきたいと思います。
- ・少人数で対話でき良かったです。見聞きしたことをこれからの活動に活かしたいです。
- ・少人数の異なる立場の集団はとても良い学習環境であった。
- ・先生たちと近い距離で話すことができ、本当に貴重な経験をさせていただきました。
- ・先生たちの発想、行動の原動力を聞け、有意義な時間になりました。
- ・とても有意義な時間でした。一講師と一日がかりで対話の時間をいただきたいくらいでした！！

- ・考え方や立ち位置を変えることで問題解決の糸口が見つかり、また一步を踏み出すことで道が開けることが良く理解できた。
- ・予想もしなかったアプローチから質問に答えていただいた。
- ・これまで聞いた講義を、より身近で、自分の目線で話す事ができ、わが街のメリット・デメリットを活かす事を違う目線で見るときっかけとなりました。
- ・自分の業務である公園について、現状の確認と住民の意見の集約に努めたい。
- ・前神先生は講義はしなかったが、直接対話できて良かったです。
- ・とても貴重な時間でした。前神先生のお話をもっと伺いたいと感じました。
- ・飯盛先生との講義の中で何もない町なんてどこにもなくて、どんなささいなことでも資源になることを改めて実感しました。

◎活用度 3

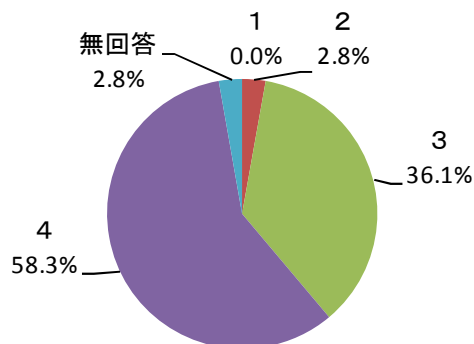
- ・各講師の先生から、実践に役立つ話が聞けました。
- ・講義とは別にこの様な形式で直接対話することで、より具体的な話を聞けました。
- ・講義内容を深めることができ有意義でした。
- ・細かい話が聞けて良かった。経緯や経過を聞くとプロセスの成り立ちが聞けて良かった。
- ・どの講師もとてもパワフルで、色々なことを教えていただきました。とても勉強になり、仕事に活かせるようにします。
- ・地域の人に動いてもらうためには明確な報酬、目的が必要と分かった。

◎活用度 2

- ・1R 目の資料が開始当初にそろっていなかったのが残念です。
- ・一方的に話をするばかりの講師もいて、個別の時間を設けた意味があまりなかったケースもあった。
- ・常に現場を意識する。公務員としても個人としても自分の活動で地域に貢献したい。
- ・パワフルで感性豊かな公務員の話は興味深く希望が持てた。

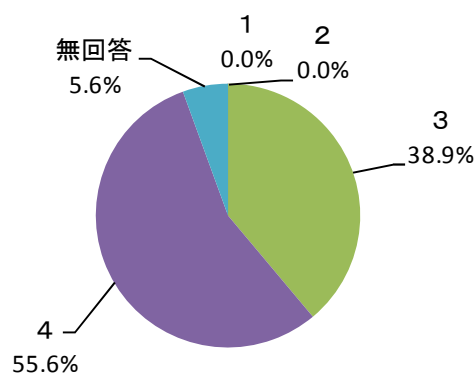
N=36

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.8%
	3	13	36.1%
	4	21	58.3%
	無回答	1	2.8%
合計		36	100.0%



N=36

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	14	38.9%
	4	20	55.6%
	無回答	2	5.6%
合計		36	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・“楽しい”がキーワード。すぐにTTPさせていただきます。
- ・TTPというキーワードを聞いて良かったです。擦り合わせの中、オリジナルになっていくのですね。
- ・いいと思ったらTTPという言葉に衝撃を受けました。まねをしても良いんだということに改めて勉強させていただきました。また未完成を楽しもうという言葉も印象的でした。
- ・完成形を求めるのではなく、未完成を楽しむ気持ちで臨みたいと思えました。
- ・市民と共に楽しんで行うことが重要だと思った。
- ・知識を得ることから研修を受けたことでステップアップし、学んでしかも楽しんでいるところに感動した。
- ・実践していることが素晴らしいと思った。
- ・すぐに実践してみたいと思いました。
- ・とても興味深かったです。小さなことから始めてみたいです。
- ・ヒントをたくさんいただいた。互学互習のサロンやります。
- ・良いと思ったことは徹底的にパクるという言葉が印象に残っています。実践してみたいと思います。
- ・私も実際に今地域づくりを何かしらやっているわけではなく、参加した経緯に共感が得られました。だから私も何かできるかも。
- ・石塚さんのように自分もこの研修をきっかけに行動を起こしたい。
- ・勇気をいただいたお話しでした。

- ・地域ごとの住民の活動の支援について参考にしたい。
- ・本市でも似たようなことをしているので参考になりました。
- ・まちづくり会議の企画など、職員ならではの関わり方だと思った。自分の立場での応用も考えたい。
- ・市域が狭く、人口密度が高いなど共通点が多く、参考になった。

◎活用度 3

- ・地域づくりに市町村職員が参加することは良いことだと思う。住民と会話を通じて目線を変えることは良いと思う。
- ・地域を一職員と一緒に考え共有することの大切さを感じました。
- ・エネルギーの強さが同じ公務員と思えませんでした。
- ・情熱が伝わってきました。
- ・大きく構えないで、小さなことからやってみる。良いと思ったことはTTPの発想で。
- ・実際の活動例や考え方の話で、少し勇気が持てたような気がします。
- ・小さいことから始めてみるということに気付いた。
- ・人財塾で学ばれたことが、すぐに活かせる機会をつかまれ実践され感心しました。
- ・有志集めのアイデアや、モチベーションの維持の工夫などとても参考になりました。
- ・はじめは地域づくりにピンときてなかったという自らの経験を聞くことができて良かった。
- ・町の規模が違い過ぎではあるが、色んな意見を聞く事の大切さを学んだ。

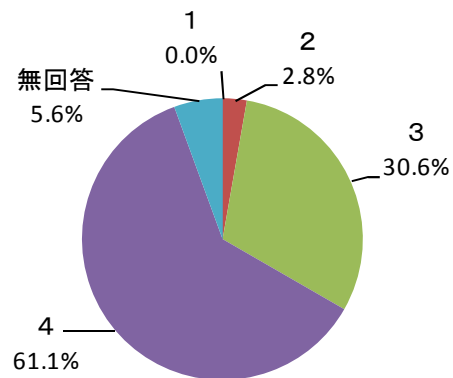
◎活用度 無回答

- ・行政に頼らない取組をつくっていくことがすごいと思いました。

【事例報告2】高知県須崎市 浦ノ内地区 住民会議 地域コーディネーター 上野 伊代 講師

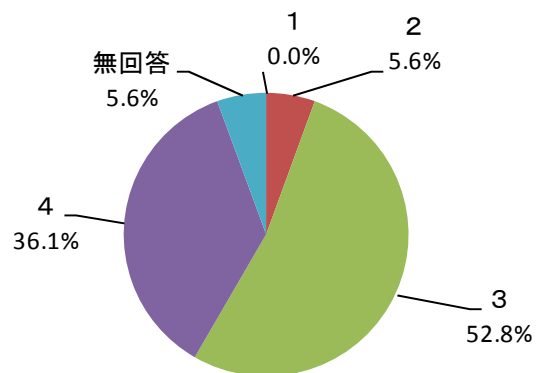
N=36

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.8%
	3	11	30.6%
	4	22	61.1%
	無回答	2	5.6%
合計		36	100.0%



N=36

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	5.6%
	3	19	52.8%
	4	13	36.1%
	無回答	2	5.6%
合計		36	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・「自分たちの手で自分たちの暮らす町を楽しくする」という当たり前のことを忘れていたことに気付かされました。女性の感性でつくられたリーフレットは「見たくなる」「手に取りたくなる」リーフレットでとても真似させてもらいたい点がたくさんある講義でした。
- ・女子力のパワーと連携・役割分担し自分の得意分野を活かす大切さを感じました。
- ・須崎市のパンフレットがおしゃれで魅力を感じた。
- ・スライドやパンフレットが女子の心をわしづかみでした！かわいい！
- ・年齢の近い女性が活躍されている姿を見て、とても格好良いと思いました。
- ・デザイン力がうらやましいです。
- ・デザインが生きています。ゆるやかな集まり、早速性参考になった。
- ・「ゆるく」「ばんばりすぎない」という言葉が印象的でした。
- ・無理せず自分のできることをできるだけ行いたいと思いました。
- ・協力隊の活動事例が聞けてとても参考になった。
- ・街で頑張れば皆が応援してくれていいと思った。

◎活用度 3

- ・女子力のエネルギー、学ぶことが多かったです。
- ・女子力の高さに感心しました。チラシやパンフレットも分かりやすく、かつ、かわいらしくとても上手に取り組まれていると思いました。
- ・女性が活躍する社会の可能性を感じた。
- ・女性ならではの視点やデザインはとても素晴らしかったです。
- ・女性目線ということと、広告の能力をフル活用しきっていた。
- ・資料や、実際に行っていることが、キッチリとコンセプトが決まっていて、やりたいことがハッキリと分かりました。
- ・パンフレットの作り方などを参考にしたいと思います。
- ・カツカツし過ぎないやり方に、そんなやり方もあるんだと参考になりました。
- ・気軽なところから集まれる環境を作りたい。
- ・楽しんでいやっているの、ボラで出来るの言葉が地域づくりの肝ですね。
- ・やりたいことをやるというスタンスが素晴らしいと思います。
- ・まちの新しい側面に気付く。自分のできる範囲のことで関わっていく。
- ・「自分たちの手で自分たちの暮らす町を楽しくする」良い言葉をいただいた。
- ・イベントは何をするかではなく誰とするかということに気付いた。
- ・地域で取組されている方との繋がり方の参考になりました。
- ・地域協力隊の活動として面白いと思いました。地域に定住してくればなお良いと思いました。

◎活用度 2

- ・素晴らしい活動だと思います。やはり、好きなことを出来る分だけ行い、無理せず楽しむことが大切だと感じました。
- ・資料を見ても、女子力が高い方だと感じた。また、その力を活かしていると思った。

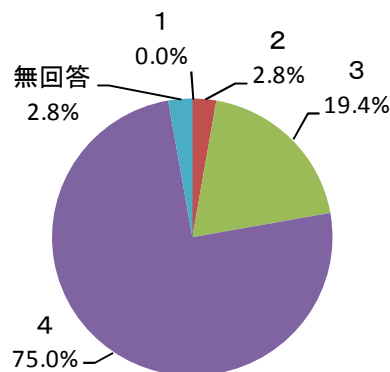
◎活用度 無回答

- ・人が人を呼び、人同士がつながっていく、ゆるく楽しく行うことが大きな成果につながっていくと思った。

【事例報告3】福井県越前市 総務部 秘書広報課 主査 波多野 翼 講師

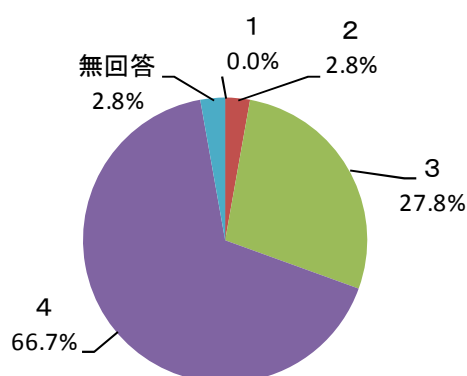
N=36

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.8%
	3	7	19.4%
	4	27	75.0%
	無回答	1	2.8%
合計		36	100.0%



N=36

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.8%
	3	10	27.8%
	4	24	66.7%
	無回答	1	2.8%
合計		36	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・一番楽しくて気楽な講義でした。
- ・大きくかまえてなくていいんだ。
- ・お金をかけずに自分の好きなことでまちづくりができるのかなと考えさせられました。
- ・同じ匂いを感じました。未完でも楽しんで続けていきたいです。
- ・肩の力を抜いていただきました。肩に力が入っていると時に人を遠ざけてしまう気がしていたので大切なことを教えていただきました。
- ・こんなまちづくり、素敵だなんて本当に思います。
- ・自分の趣味（得意分野）に+αでまちづくりのことをとすることで考え方が楽になりました。
- ・楽しそうに活動される波多野さんは応援したくなる存在。
- ・楽しむ。地域を楽しむ。楽しい地域、これをテーマにやってみます。
- ・誰でもできそうな発想と行動にとっても心動かされました。
- ・地域づくりを難しく考えていた自分に気付きました。ゆるくてもOKという姿勢を持ちたいです。
- ・何よりも楽しんで無理なくまちづくりに参加することが長続きするポイントだと思った。
- ・波多野さんの報告が一番心に響きました！
- ・話を聞いているだけでワクワクした。「面白い」と思う気持ちを大切にしようと思った。
- ・まさに肩の力が抜けました。気楽にやってみようと思います。

- ・まちづくりがしたいと思っても何をしたら良いかわからないと思っていましたが、「自分の好きなこと+ちょっとまちのこと」で長く続くまちづくりだという言葉に感銘を受けました。
- ・自ら楽しんでいる典型だと思った。素晴らしいです。
- ・プレゼンが上手で本当に楽しかったです。
- ・お話がうまくて理解しやすかったです。自分の自治体でも参考にしたいです。
- ・フットワークの軽さ、継続していく力が参考になりました。
- ・身近にある（気付かないような）ヒントを見つけ、行動している事に感動した。
- ・仕事以外の活動でも、取組方法がすごいと感じたので見習っていきたい。

◎活用度 3

- ・自分が楽しめて、長く続くまちづくり、ひとづくり、そして、ひと探し。
- ・自分の興味にまちづくりの要素を加えるという発想の転換が素晴らしいと思いました。
- ・自分の興味のあることをするだけでまちづくりになることを実感した。
- ・自分の好きなことに少し、まちのことを考えることで楽しいまちづくりができるということに気付いた。
- ・話が分かり易くすぐ実践できそうだと思います。肩の力を抜いて頑張ろうと思います。
- ・我々普通の人間でも何かできそうだと感じました。
- ・何がきっかけで盛り上がるのか分からないことを学びました。何より楽しそうなのが素敵でした。
- ・自分の発信が地域おこしにつながる良い事例だと思います。情報発信の面白さを理解できました。

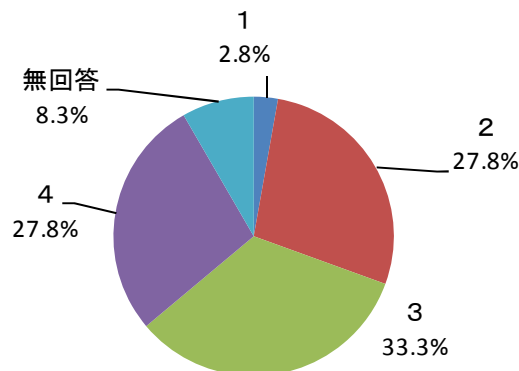
◎活用度 2

- ・面白い。

【事例報告4】滋賀県高島市 政策部 総合戦略課 参事 戸田 由美 講師

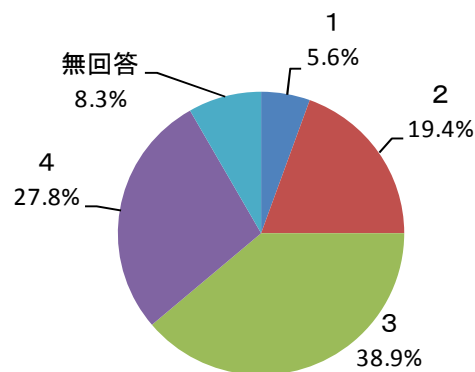
N=36

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	2.8%
	2	10	27.8%
	3	12	33.3%
	4	10	27.8%
	無回答	3	8.3%
合計		36	100.0%



N=36

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	2	5.6%
	2	7	19.4%
	3	14	38.9%
	4	10	27.8%
	無回答	3	8.3%
合計		36	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・“ファンドレイジング” 初耳でしたが、勉強になりました。
- ・「ファンドレイジング」今まで全く知りませんでした。勉強したいです。
- ・ファンドという取組に行政に関わるというのが発見でした。
- ・ファンドレイジング、ファン度レイジング、フレントレイジングやってみます。
- ・ファンドレイジングという言葉は初めて聞き、勉強させていただきました。行政という立場での活用方法をもう少し詳しく教えていただきたいと思いました。
- ・ファンドレイジングについて知れて良かったです。本を読んで勉強します。
- ・資金が大事である。
- ・資金調達に苦しむ団体が多いこともあり、参考になった。
- ・自分的に興味のある内容で、本業の方で活用させてもらおうと思います。

◎活用度 3

- ・ファンドについて興味を持てた。
- ・ファンドレイジングという新たなまちづくりの仕組みを知ることができて良かった。
- ・ファンドレイジングという言葉は初めて知った。今後勉強してみたい。
- ・ファンドレイジングという手法を知ることができて良かったです。
- ・ファンドレイジングという手法を知ることができました。HP をみてみたいと思います。

- ・ファンドレイジングに興味を持ちました。モチベーションの維持を頑張ってください。
- ・ファンドレイジングについて理解できた。
- ・クラウドファンディングを今後活用していきたいと思います。
- ・初めて聞いた名前で、様々なことをまちづくりに活かしたい。

◎活用度 2

- ・初めて耳にした言葉だったのでそういう方法もあるんだと感じました。
- ・ファンドレイジングという言葉を知りました。これからホームページを見てみようと思います。
- ・ファンドレイジングという仕組みを知りました。仕組みについては、問題解決の手法としては良いと思いましたが、まだ勉強が必要と感じました。
- ・まだまだ根付いていない考え方ですが、学ぶ必要を感じた。
- ・「ファンドレイジング」は初めて聞いた言葉で、理解するのが困難だった。
- ・少し難しかったです。
- ・運営の事務的負担を減らすためにも、課題解決のスピードを速めるためにも、参加者を増やしていく。

◎活用度 1

- ・ファンドレイジングを知りました。関心をもっていきます。
- ・やはり好きで楽しくやっているとしました。

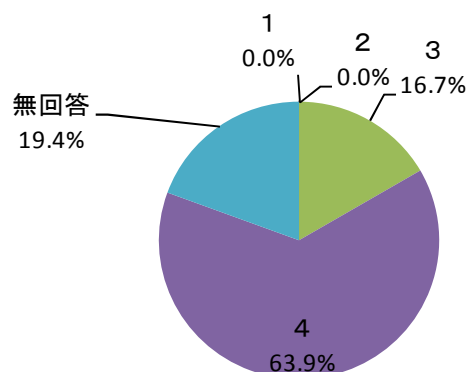
◎活用度 無回答

- ・ファンドレイジング、大変興味を持ちました。

【成果発表と振り返り】

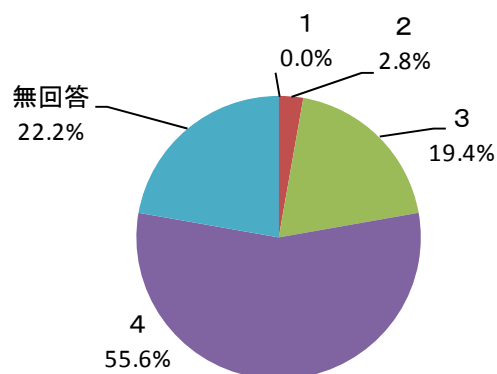
N=36

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	6	16.7%
	4	23	63.9%
	無回答	7	19.4%
合計		36	100.0%



N=36

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.8%
	3	7	19.4%
	4	20	55.6%
	無回答	8	22.2%
合計		36	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・3日間を通して、たくさんの事を学ばせていただき、夢がふくらみました。聞いたことをどのように活かすかは自分次第だと感じ、即できることから行動にうつしたいと思います。
- ・改めて素晴らしいプログラムに参加したのだなと実感した。
- ・講師の方々の情熱を無駄にしないよう、無理せず有言実行していきたいです。
- ・自分のやることを明確にできたことが良かったです。
- ・とてもおもしろい発表があり満足しました。
- ・とても良い機会をいただきありがとうございます。
- ・発表した皆さんありがとうございました。感動しました。
- ・発表者、先生方の熱意がすごかった！
- ・発表はできませんでしたが、他の人の発表を聞いてとても参考になりました。
- ・プレゼンターの熱い想いがひしひしと感じられた。
- ・他の人の目標・夢を聞いて良い刺激を受けられた。
- ・まずは動いてみるということが心に残りました。頑張ってみます。
- ・皆さんに負けないように頑張ります。
- ・皆さんの意気込みに感動と圧倒されました。
- ・みなさんの発表に感動。一緒に私も何か頑張りたいです。
- ・皆さんの発表を聞き、自分も頑張りたい。
- ・勇気湧くエンディングであった。

◎活用度 3

- ・どの行動宣言も心に残りました。自分も実行していきたいと思います。
- ・最後の最後までありがとうございました。
- ・自分の知識の無さ、経験の無さに気付いた。

◎活用度 2

- ・参加者との対話の時間が、もう少しほしかった。感じたものを共有したかったです。

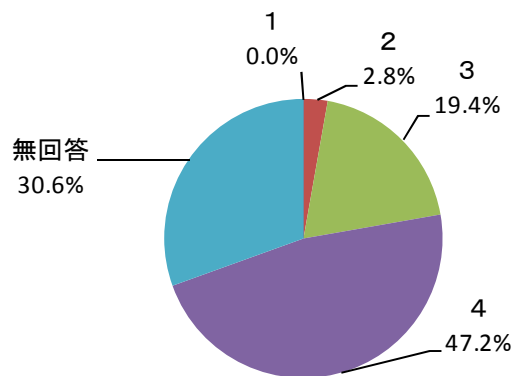
◎活用度 無回答

- ・「成果発表」ではなく「所信表明」にしてほしかったです。
- ・3日間学んだことをしっかり知肉にしての発表は素晴らしかったです。

【グループトーク】

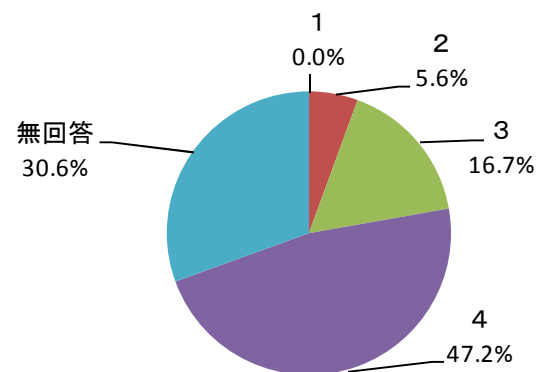
N=36

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	1	2.8%
	3	7	19.4%
	4	17	47.2%
	無回答	11	30.6%
合計		36	100.0%



N=36

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	5.6%
	3	6	16.7%
	4	17	47.2%
	無回答	11	30.6%
合計		36	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・JIAM 研修の魅力です。
- ・意見交換ができて良かったです！
- ・色々な立場、考え方を知ることができ、再発見できるきっかけになりました。
- ・いろんな考えが参考になりました。
- ・率直に意見交換や悩みなどを言い合えて良かったです。
- ・その日、その日の振り返りができて、また他者の考えも確認することができて良かった。
- ・その日の振り返りができ、また他の人の考えなどを聞くことができて理解が深められました。
- ・それぞれ気付く点が異なり参考になった。
- ・話しやすい（交流しやすい）機会となって、とても良かった。
- ・他の人の意見を聞くことで違う考え方ができました。立場によって考えていることが違うことも分かりました。
- ・学んだことをまとめて人に話す、また、自分が気づかなかった視点で人が話してくれる良い時間でした。
- ・ネットワーク作りや繋がり作りができ良かったです。

◎活用度 3

- ・自分で思いつかない意見があり、気づきがあった。
- ・短時間でしたが、他の市町村、NPOの方と話せて勉強になりました。
- ・限られた時間で話をまとめ報告する訓練ができた。

◎活用度 2

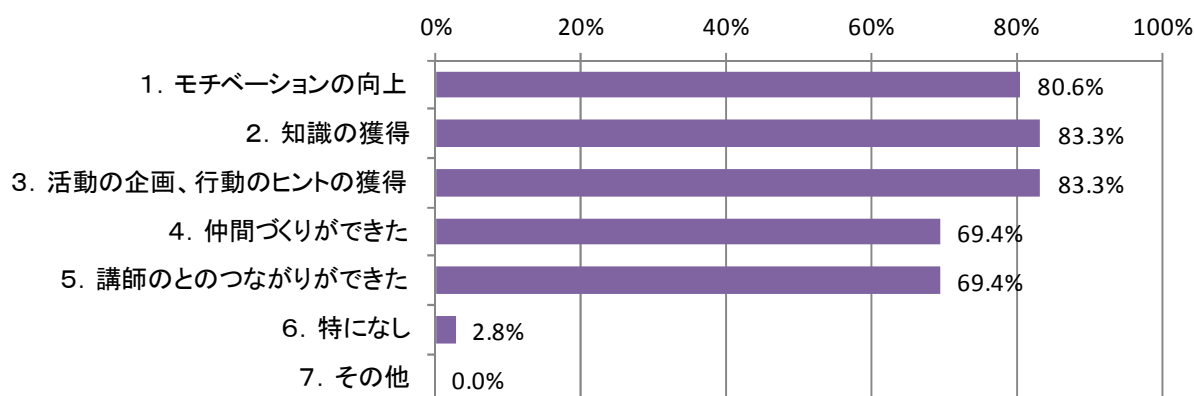
- ・参加者との対話の時間が、もう少しほしかった。感じたものを共有したかったです。

②研修全体について

●人財塾の良かった点についてお伺いします。

下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。

	N=36	
	回答数	%
1. モチベーションの向上	29	80.6%
2. 知識の獲得	30	83.3%
3. 活動の企画、行動のヒントの獲得	30	83.3%
4. 仲間づくりができた	25	69.4%
5. 講師のとのつながりができた	25	69.4%
6. 特になし	1	2.8%
7. その他	0	0.0%



<その他内容>

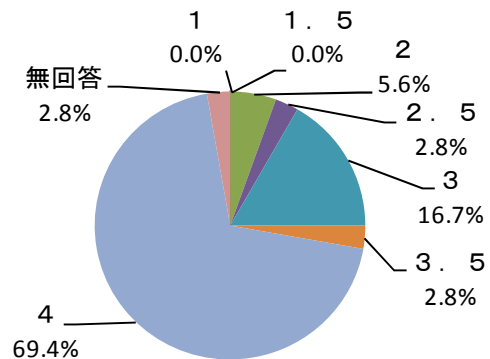
- ・自身の抱えている問題がほぼ解決しました。とても有意義な3日間でした。
- ・今回、受講でき本当に良かったです。
- ・先生方の情熱が一番の収穫です。自分の道をきちんと見つけて、これからの地域の活性を頑張る決意ができました。
- ・日本には本当に色んな人がいて、たくさん面白いことをしているんだと再確認できた。自分も何かしたいと思いました。
- ・考え方、とらえ方の新たな視点、気づきをたくさんいただきました。
- ・とにかく講師の熱意に自分もいい加減な気持ちで受けるなんてできないと思い、必死になりました。パワーを吸い取られているのでは？というくらい疲れましたが、とにかく最終的には人間力なんだ。人徳のある人に人が集まる……。大変勉強になりました。
- ・とにかく先生たちのパワーがすごかったです！！まさに人間力だなと感じました。地域づくりのために何か得られたらと思って参加させていただきましたが、自分の人生においてもとても影響を受けた3日間となりました。視野が広がりました！！「私にも何かできるんじゃないか」と勇気ももらいました。ありがとうございました。
- ・知行合一のエンパワー。
- ・「小さなことから始める」という言葉がとても印象的でした。また、同じように、悩み迷っている仲間と話げできたことも、とても貴重な時間でした。

- ・悩みや問題点を聞いてもらえただけでも良かった。みんな同じような問題を抱えていることが分かった。関係のない話の中にも考え方の見方を変える視点を認識することが大切だと思った。
- ・講師の方々から貴重なアドバイス等をいただき、行動のヒントを得ることができた。また、講師及び受講者で仲間（同志）が全国にできたことは非常に嬉しく思うし、一生の財産となる。
- ・現場を意識して、できることから、できる範囲で関わっていくことから始めようと思います。特異な？仲間づくりができました。
- ・まず自分が本気になること、地域の顔を覚え、どんどん入っていく必要があると感じた。
- ・こんなに良い研修は初めて参加しました。市に持ち帰るものが多いです。
- ・本当に短い期間でとても濃厚な 3 日間を過ごすことができました。職場に戻って、ここでの知識をアウトプットし、みんなで地域づくりを進めていきたいと思います。
- ・本当に素晴らしい講習です。是非続けて欲しいです。
- ・豊重さんにお会いし、3 回もお話をお聞きする機会が得られ、うれしかったです。目標設定したことについて達成できました。ありがとうございました。
- ・スケジュール（時間割）にもう少し余裕が欲しかったです。図書室にも非常に興味を持った本が何冊もあったので、借りて読んでみたかったです。

●人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに又は、継続して行っていききたいと思うようになりましたか？

N=36

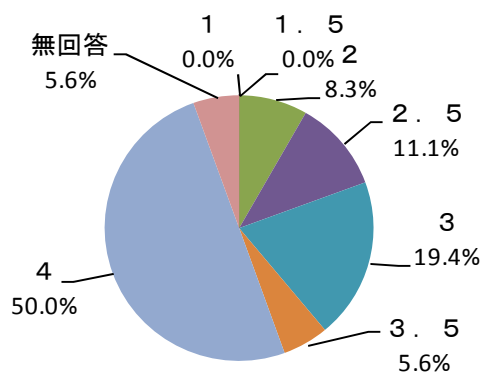
<活用度>		回答数	%
↑ 思わない ↓ 思った	1	0	0.0%
	1.5	0	0.0%
	2	2	5.6%
	2.5	1	2.8%
	3	6	16.7%
	3.5	1	2.8%
	4	25	69.4%
	無回答	1	2.8%
合計		36	100.0%



●研修全体の進め方・運営についてどのようにお感じになりましたか？

N=36

<活用度>		回答数	%
↑ 良くなかった ↓ 良かった	1	0	0.0%
	1.5	0	0.0%
	2	3	8.3%
	2.5	4	11.1%
	3	7	19.4%
	3.5	2	5.6%
	4	18	50.0%
	無回答	2	5.6%
合計		36	100.0%



●その他研修に関して改善点・お気づきの点をお聞かせください。

<時間について>

- ・2日目の研修カリキュラムが詰め込みすぎられていて、講師にとっても受講者にとっても体力的にキツかったのではないかと。また、それにより、懇親会の時間が削られたことが残念だった。やはり飲みながらの交流がお互い腹を割って話し合えるため。
- ・講師との対話はゼミのようで大変良かったと思います。時間がもう少しあると良いと思います。特に前神さんの時間はほとんど交流できず、とても残念。前神さんの講義枠を設けておけば良かったのではないかと。
- ・非常に濃い内容の研修でした。5日間くらいあっても良いような内容だと思います。
- ・3日間、非常に内容が濃い時間を過ごせました。逆に5日間とかだと間延びしてしまいそうで。短期集中の良い研修でした。

<研修内容について>

- ・講座の内容について詳しく説明してあれば良かったと思います。聴講なのか討議なのか。
- ・講師の先生の紹介だけで専門の先生と直接対話を事前に決めるのは難しいので、講義を聞いてから選択するようにすればもっとマッチングが良くなると思う。
- ・今回資料・レジュメが大変多かったので、事前に配るのではなく、その都度、配っていただけるとわかりやすかったと思いました。
- ・最終日に行った行動宣言の進行の説明は最初にしておいた方が良かったと思った。(時間とか具体的な内容とか。) 15分程度で書くのではなく、予め書いておき、当日の時間も有効に活用すべき。
- ・ただ講義を聞くのではなく、グルーptークによる振り返りの時間があるのは良かった。他者の考えも聞くことができ、有意義であったと思います。しかし、直接対話については、もう少し経験を積んだ方が、いろいろと問題を提起できたのではないかと感じました。(私の場合、4月の異動だったので、アンケートの時に何を質問すれば良いのか悩みました。) なかなか質問できず残念でした。
- ・グループで何か企画するようなカリキュラムがあるとなお良いと思う。
- ・グルーptークの時間の意義があまりないように感じる。
- ・班分けをする必要性が感じられない。
- ・朝7:30～、体育館でのラジオ体操をやっていなくて残念でした。
- ・講義の時間を約1時間で、その後トークセッションのような感じで、会場から質問や意見について回答いただける時間があると全員と共有できたと思います。
- ・インプットの質・量も素晴らしいので、大変勉強になったのですが、量の方はもう少し少なくてもいいかなと。
- ・中身が濃すぎて・・・キャパオーバーになりそうです(笑)。
- ・ほんの少し足りないような、もっと欲しくなるような、絶妙なボリュームで楽しく学べる研修だったと思います。受講者数もちょうど良い人数だったと思います。

<オフィスアワーについて>

- ・オフィスアワーについて事前に周知があればもっと良いと思います。予定を入れていた人がいるようでした。
- ・オフィスアワーは初めての試みとお聞きしましたが、一人の講師のところへ行くと途中で他の講師のところへ行くことは難しく、直接対話の4Rという感じでした。
- ・皆さん仕事が忙しいのは良く分かりますが、携帯のバイブが何度も鳴り、何度も出入りがあり、講師の方にも失礼では？と思いました。
- ・とても中身の濃い3日間でした。ありがとうございました。”
オフィスアワー（19:00～）を2回くらいに分けて、満遍なく講師と対話できたら良いなと思いました。
- ・オフィスアワーは素晴らしい企画だと思います。ただ、なかなか自由に移動することは難しいので、30分ごとに区切るなどして、多くの先生と話せるようにしていただきたいです。

<その他>

- ・講師の方々や研修を受けている方々の意見が多様であり、通常の業務等では体験できないものでした。このつながりを生かしていきたいと思います。
- ・講師の先生方との距離が近くて、講義外でも様々な話が聞けて大変勉強になりました。
- ・講師の先生方、講義だけでなく、夜、又最後の最後までいて下さりありがとうございました。
- ・もう少し、館内のことを説明して欲しかったです（リネン・食券・チェックアウト時間など）。
- ・特にありません。

③今回の研修受講生を対象としたステップアップ研修を行う場合、どのような内容を望みますか？

- ・1年後くらいにそれぞれの経験事例を共有する研修。
- ・同じ講師陣の先生でその後の活動の成果を発表できる機会があればうれしいです。
- ・各受講生のその後の進捗状況を報告し合う。
- ・研修終了後、みなさんがどのようなことにチャレンジしたか知りたい。
- ・研修終了後に、各自が取り組んだことや成果を報告しあうような研修をすれば、研修後の実践へのモチベーションも高まるので良いと思います。
- ・受講生が取り組んだ事例の発表が聞きたいです。
- ・既受講生が地域に帰って、得た知識をどのように活用し、地域づくりに役立っているか、の事例研修と、実際に現地に行つての先進地視察研修。
- ・先生たちに自分たちが行動した内容、結果などを評価してもらい、改善点などを聞かせてほしい。
- ・フォローアップ。
- ・まずやってみる。という内容だったので、やってみた苦労話を共有する事がステップアップにつながると思います。出来れば同じメンバーで。
- ・まだどんな内容が良いかというところまでは考えが及ばないのが正直なところですが。実践してみた後の悩みや、失敗を相談したり、アドバイスをもらえるような、今回の直接対話みたいな時間がいっぱいある方が良いのではないのでしょうか。
- ・各々の悩みや課題を聞いて対策などを教えていただけると嬉しい。
- ・受講生が事例や課題を発表し、それについて改善策や解決策を出し合うプログラムを実施してみるなど。
- ・これからの地域との関わりを通じてから、足りないものを求めたいと思います。
講師の方々や研修を受けている方々との「つながり」を強く、そして大きくしていくような研修会を希望します。
- ・フィールドワーク。
- ・地域資源発掘のフィールドワークに参加したいです。フィールドワークを通して実践的に地域資源発掘のための企画の手法を学びたいです。
- ・実施研修。どこかの地域を実際に訪れて、生の声や実際の現地の情報を肌で感じてみたいです。
- ・ステップアップ講座があれば参加してみたいです。(ワークショップなどの実践的な作業を中心とした内容。)
- ・実際のまちづくりを考える。
- ・独自に行えば良いのですが、先進事例を現地で感じてみたい。
- ・地域づくりの事例をもっと知りたい。
- ・失敗例の共有。
- ・成功例の共有。
- ・講師の先生方との個別の対話の時間が大変濃厚で有意義な時間でしたので、このような形での学びの場を、一講師と丸一日のように、もっと充実させた研修。

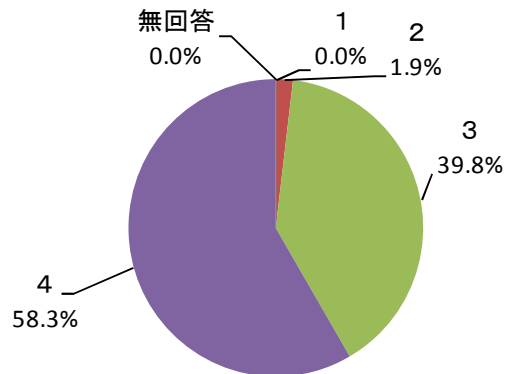
2. 自治大学校編 [平成 28 年 6 月 2 日～3 日]

(1) 各プログラムに対する評価

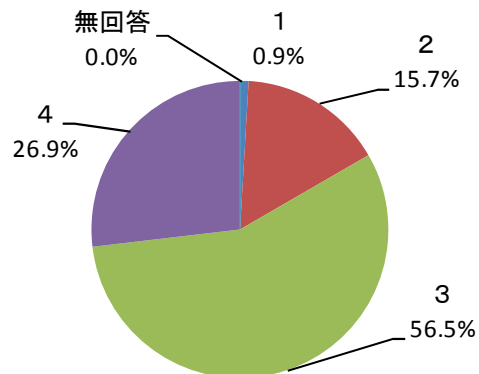
【講義 1】「多様で美しい共生の地域を創造する人財とは～NPO フェージョン長池の実践～」

特定非営利活動法人 NPO フェージョン長池 会長 富永 一夫 講師

<理解度>		N=108	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	1.9%
	3	43	39.8%
	4	63	58.3%
	無回答	0	0.0%
合計		108	100.0%



<活用度>		N=108	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	0.9%
	2	17	15.7%
	3	61	56.5%
	4	29	26.9%
	無回答	0	0.0%
合計		108	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・行政、NPO、営利企業の役割がわかりやすかった。
- ・行政、NPO、関係団体のそれぞれがやるべきことを、とても明確に説明していただきよく理解できました。それぞれが利点を生かして活動することにより、より効果的で無理のない自然な活動ができ、皆が幸せになれるということに大きな希望を持ってました。
- ・自治体と NPO の役割について分かりやすくご講義いただいた。NPO の土台としてサポートする自治体職員になります。
- ・自分が住む地域を豊かにしたい、活性化したいと思う気持ちを共有し、輪を広げていく活動は素晴らしいと思いました。また、多様な団体との協働により、課題を解決していく取組は実践すべきです。
- ・地域・住民発の地域づくりとして、先進的な取組でとても学ぶことがあった。市民活動とその発展として素晴らしいが、行政と共に創り上げる協働をさらに知りたかった。
- ・NPO の役割や重要性について認識することができたとともに、今後、NPO と行政がどのようにパートナーとしてやっていくかが重要であることが理解できた。

- ・行政はNPOを「発見」し、共に育っていくことが重要とのことでした。本県内にはそういったNPOがないと思い込んでいましたが、きちんと本当には探していないのではないかと、思い至りました。考え直したいです。
- ・長池公園の管理と取り組みの多様性から、NPOや指定管理の大きな可能性を感じました。
- ・指定管理制度とNPO法人を上手に活用した良い事案と思いました。弾力的に運用したい事業を行う際にこのような手法を活用したいです。
- ・民間の人は研究熱心で発想が豊かです。自己資源でやるのではなく、協力者を活用する。そして感謝することが大切なこと。
- ・向こうから寄っていく人を主役にして計画を立てる。やりたいことをやってもらう。単純なことだが、行政の計画には抜ける傾向にあることを実践者の立場から指摘され気づきにつながった。
- ・「お世話型リーダーシップ」まさに、これから事業を進めるにあたっての行政の立ち位置だなと思いました。
- ・わかりやすい説明と見やすいスライドで、NPO法人の地域との関わり方を理解することができました。
- ・住民と民間企業の橋渡しをNPO法人が上手に行えていることが、長池公園の指定管理を円滑かつ有効に機能させられている要因ではないかと思われた。資金集め、資金の使い方等、他の自治体の指定管理者にとっても参考になるのではないかと。
- ・ヒト・モノ・カネ・情報の4資源を多面的に獲得する必要性もそうですが、関わりを持った全ての人が主役であり、NPOはそのような場の実現に向けて黒子の役に徹している点が勉強になりました。
- ・経営の4資源はヒト・モノ・カネ・情報であり、その中で情報発信力が情報受信力を育てることを学び、いかに情報発信が重要なことであるか認識し、本市のまちづくりに生かしていきたい。
- ・行政も市町村という団体を経営していると考えれば、企業と同様に経営の4資源（ヒト・モノ・カネ・情報の多様性）が大切だと感じました。「今にとどまらない、100年先を視野に置いた人材育成」という言葉が心に響きました。
- ・NPOの活動から大きなビジネスにまで発展させられたことに感銘を受けました。
- ・NPO活動を行っている方の話を聞くのは初めてだったが、あまりのレベルの高さに驚いた。また、話の内容に哲学、経営学的な事項も含まれており、とても感銘を受けた。本当にすごい人だと思う。是非見習いたい。
- ・事業の実施主体となる事業体の制度設計が重要という話が印象的でした。
- ・NPO活動に熱心な方はたくさんいらっしゃるが活動の立ち上げから自分が一線を引いた後のことまで考えてそれを実行しておられることに感動した。もう少しお話をきいてみたかった。
- ・NPOの黎明期にいち早くそういった取組をされたのは富永氏の資質によるところが大きいと思いました。後継者の育成については得るべきものが多かったです。
- ・実践してきた活動に基づいた話で非常に説得力があった。地域のコミュニティ（自治会等）が高齢化しているので、世代交代の部分は今後の参考になると思う。
- ・富永講師の「講義をする立場として、まず自分が進化しないといけない」という考え方に感銘を受けました。「相手がやりたいことを知り、お手伝いするつもりで」というのは公私共に役立ちそうです。

- ・現状に満足されず、未来志向で事業に取り組まれている話を聞き、自分が恥ずかしくなりました。
- ・ご自身で開発し、実践してこられた富永先生のお話は大変重みがあり、また興味深く聞かせて頂きました。いわゆる行政マンが苦手とする部分を、今後政策等をすすめていく上で、どう埋めていくか、アイデアとニーズとフットワークを大切に、学ばせて頂いたことを意識して日々業務に励みたいと思いました。
- ・ゼロから地域コミュニティを形成する能力に感銘を受けました。
- ・地域づくりは、リーダーになれる人が必要だと感じた。強烈なリーダーシップを取らないとなかなか成功しない。
- ・地域活動の先駆けである講師から直接お話を聞いたことが、今後の自分の一助になると感じています。

◎活用度 3

- ・簡単にお話をされていましたが、NPOの立ち上げから後継者への引き継ぎ、組織を維持発展させる事は大変だと感じました。富永氏の人柄だけでは終わらせない姿が素晴らしいと思いました。
- ・公園の管理のみならず、多様な資金の獲得についての話や、丁寧な後継者引き継ぎの話が印象的であった。
- ・公園の協働経営において、そこに集う人々がウィンウィンになれる制度設計と人財育成の成功例として、わかりやすく興味深く説明していただけたと思います。
- ・後継者問題はどのような場面でも頭を痛める問題です。それをやりきった富永先生には、その仕掛けの部分や実践の部分をより詳しくお聞きしたいと思いました。仕事の進め方、後進の育成のみならず、仕事を抱えて離さない職員を解きほぐし、時間外勤務の減少につながる取り組みにも参考になると思います。
- ・様々な人財等の共生により、事業が創造されていることを学ぶことができました。人財の育成についての話をもっとして欲しかった。
- ・事業継承の意識・実践力は勉強になった。
- ・都会の希薄な人間関係からコミュニティを作り、NPO法人、株式会社を作るなどの手腕を発揮され、後継者づくりもしっかり育成するなど、私にとっては目から鱗のことばかりである。
- ・土台から作っていかれるのは大変な苦勞があったと思う。行政や企業などうまく共生され理想の形である。しっかり継承まで考えられ、ちゃんと引き継がれていることも理想である。
- ・まちづくりの先進事例には、そのほとんどに重要なキーマンが存在している。最も印象的であったことは、時代に即した後継者を育成しているということ。
- ・事業の継承については、どの団体についても同様の悩みがあると思うが、最終的に人材育成が重要で力を入れるべきと痛感した。
- ・行政と指定管理者の役割が明確になっていることが成功の理由と思った。
- ・しっかりと人材育成も行われておりすばらしかった。
- ・行政ではできないところをNPOがうまく機能している良い例だと思いました。
- ・話が理解しやすく勉強になった。行政、NPO、民間企業の役割の違いがよくわかった。

- 行政と NPO 法人をはじめとした民間であったり、地域コミュニティとの関わり方について気づかされるが多かった。現所属においてそういった視点を活用できるかどうかは難しいところであるが、気に留めておきたい。
- NPO 法人と行政がどのように関わればいいのか、成功事例と学ぶ事ができた。
- 自治体の立ち位置が明確になりました。しかし、本市としては、未だに行政主導の体制が現状です。市民が自主的に動くために、どう働きかけるかが課題だと思います。
- 行政と NPO を「岩盤と表土」、「所有者と経営者」などと例えられたことは、近年、何でも屋と化しつつある行政の立場を改めて考えさせられました。
- 行政は岩盤づくり。経済的感覚。情報発信力が受診力を育てる。継承＝町会、自治会にも応用。
- 里山公園の多様な協働経営の設計図～長池公園のケース～は、とても良い図だと思いました。岩盤と表土の関係、表土に人が来て根付いていくことは、すばらしいと思いました。
- 実績をもとに話をいただき良く理解できた。その中で改めて行政の得意なことと民間の得意なことが良く分かった。NPO 以外の団体にも生かせるのではとも思った。
- 実践に基づく内容であったので理解ができた。御製と公益を事業とする NPO の住みわけ、機会創出について考えることができ有意義だった。
- 行政も事業を行う時には自己完結型の事業設計をしていかなければならないと思いました。行政の考えを押し付けるのではなく、住民の考えを掘り起こして実現していくことが役目だと思いました。
- すべてを行政でかかえこむのではなく、共働共生し、互いにつくりあげていくことが大切だと感じました。
- 多様な共生が実現している素晴らしいモデルケースだと思いました。また、自宅から長池公園が近いので、研修が終わったら見に行きたいと思います。
- 地域の多様性を協働につなげて、創業していく行動力がすばらしい。多様な意見を集約して目標にしていく考えを持てればと感じた。
- 富永氏の知識や経験を活かした、リーダーシップによる地域再生の成功例で参考になりました。コアとなる人物の必要性を感じました。行政側がそれをしっかりサポートできる土台づくりをしなければと思いました。
- やりたいことを何とかしてやらせてあげることから地域の人を導くことについて勉強になった。
- 地域の活性化には、地域の様々なヒトが関わっていくことが必要だと感じた。そういった中で「ヒト」が宝、又効果的な情報発信をすることが必要と感じた。
- NPO 法ができる前から、しっかりとした熱意ある活動をしていることに感銘を受けた。地域のつながりの重要性について再認識する良い機会となった。
- アイディアを出し合って地域の住民が主体となったすばらしい環境と感じました。
- 地域住民からはじまった取り組みとして大変すばらしい事例でした。「生きがい就労」はどのような地域でも生かせそうな制度で参考になりました。
- 民間で必要な「経営の4資源」ヒト・モノ・カネ・情報が公務員でも必要な時代であると感じた。また、公務員は黒子でやりたい事ができるような制度設計をし、先を見据えた人材育成をしていく必要があると感じた。

- ・最先端の地域づくりは、ここまでやっているんだと驚きました。今後の地域づくりの行政の立ち位置について考えを深めることができました。時折のコメント「お世話係型リーダーシップ」等普段の業務に応用できるニュアンスも散りばめられていて興味深く拝聴しました。
- ・何か新しいことを行政が取り組むには、押しつける形ではなく、制度設計の段階で住民の意見をしっかり聞くべきであること、情報を自ら発信していくことで、情報受信力が育つ、お世話係型（黒子役型）リーダーシップが求められているという点が特に印象に残った。
- ・事のきっかけは、新興住宅地における町内活動であったが、ヒト・モノ・カネ・情報を上手く多様化させた取組みが行われている。個人的には「情報発信力が、情報受信力を育てる」のフレーズに感化を受けた。
- ・ヒト・モノ・カネ・情報の4資源において多様な共生に戦略的に取組まれており、実際の事例も紹介され理解しやすかった。
- ・行政を経営するには、ヒト・モノ・カネ・情報の多様性を理解していかなければならないという点が印象的であった。
- ・経営の4資源「ヒト・モノ・カネ・情報」を再認識しました。常に学んでいく姿勢を持ち続けることの大切さも再認識しました。
- ・「常識」だという「ヒト・モノ・カネ・情報」の経営の4資源というものを初めて知った。行政運営にも活かしたい。
- ・NPOと行政は立場は違いますが、持続可能な取組、手法は勉強になりました。当市でもNPOと協働で取り組んでいる事業は多々ありますが、財源を行政に頼っていない講師の考えにおどろきました。
- ・NPOの運営資金の確保事例が参考になった。
- ・協働の重要性はどの事業にも通じることだが、産業振興課に所属しているので、終盤のビジネスに結び付けた活動を詳しく聞きたい。
- ・指定管理の受託者が自発的に考えビジネスまで立ち上げるまでになったのは、すごい成功例だと感じました。
- ・地域が自ら考え、地域を活性化させるため立ち上がった事に共感しました。行政に財務的に頼らない事から、行政と上手に付き合う。行政を上手に使うかと感じました。
- ・指定管理のモデルとなる取組でした。行政の取組としては口出しし過ぎないことも重要であると思いました。日々進化できるように努力する重要性を再認識出来ました。
- ・NPO団体が指定管理者として地域の創生に携わる方法があるということが新鮮でした。
- ・指定管理者としての立場から、日頃の工夫点などについてご説明いただいた。現在の業務では施設の指定管理を行っているので、参考になった。
- ・指定管理の制度総括を担当しているので、ためになる話が多かった。スマートパークアイシステムの話が興味深かった。
- ・行政に係わる外部の方から見た行政に関する意見、視点を聞くことができ、様々なヒントを頂け大変参考になった。
- ・市役所側（職員）の評価、実態の話が入っているとより良かったと思う。実践的内容で理解しやすかった。

- ・地域創生の観点から非常に参考となる事例で、今後に活かしていきたい。なお、八王子市としてはどのように対応したのか、また対応しているのか確認したいと感じた。
- ・①マーケティングの重要性 ②多様なものをそれぞれの個性を活かして活用すること ③継承の仕組みづくり 上記については特に重要なキーワードとして活用していきたい。
- ・マーケティングの重要性や事業を商品ととらえることなど有意義なプログラムと思いました。
- ・継続することの大切さと多様性の重要さが印象に残った。
- ・この取組と運営にとっても興味を持ちました。
- ・「人間の萌芽更新」の考え方に共鳴した。少子高齢化社会だからこそ必要であり、私の地元の多くの団体でできていない。
- ・富永さんのような行動力のある人財がいるか、見つけられるかが鍵と感じた。
- ・不勉強で恐縮だが、長池の取組を知らなかった。導入として総務省から、取組概要の説明があってもよかったかと考えます。
- ・地域のために無私の精神で貢献するのはすごい。
- ・でもそんな人普通いないよね。

◎活用度 2

- ・裏方に徹することにより人財を育成し確保するというスタンス、指定管理による行政との距離感、役割の明確化など参考になりました。
- ・地域のお世話係人財とは、表に立たず黒子に徹することが必要で、このことは行政マンにも言えることであるというお話が心に残りました。
- ・満足度の高い行政サービスを提供するためにも、制度設計段階から住民の声を反映できる仕組みをつくり、押しつけではない事業展開を行っていきたい。
- ・自治体-NPO-住民の三層構造のメリットが分かりやすかった。
- ・市とNPOの信頼関係が構築されており、地域住民も安心して施設を利用しているということが伝わってきた。
- ・指定管理者制度による公園管理の事務から住民自治の原理を強く感じ、またNPO法人を含め、住民の活力を感じました。営利・公益・公共・自助・共助・公助を充分理解し、住み分け協働していくことが、これからのまちづくりに大切なことだと感じました。
- ・地域のつながりを作るためにNPOを立ち上げ、地域及び人づくりを行っており、成功している点がすごいと思った。
- ・NPOの長所を活かした素晴らしい取組をされていると感じました。
- ・地域の方々が力をあわせて、自らの力で生きる・生きる方法を実践している点が素晴らしいと感じた。
- ・富永氏のような力のあるキーマンをどうやって育成していくかが最大の課題と感じた。
- ・まさに地方自治の本旨を表した内容で住民自治のあり方について深く学ぶことができた。しかしながら講師のような住民がいないほとんどの市町村ではどういった取り組みが必要となるか、考えるきっかけとなった。

- ・当町は人口 8,000 人、面積 12 km²の小さな町で、NPO 団体もほぼなく、また管理してもらうような公園もない為、活用のイメージが難しいですが、何かに活かしたいと思います。
- ・とても引き込まれる講義でした。ヒト・モノ・カネ・情報の 4 資源の多様性によっての実践をとっても具体的に話していただき、わかりやすかったです。ただ、ここまでのことを本町で実践することは困難なのかと…。
- ・以前都市公園の所管課におり理解しやすかったが、全体的に自らの実績を強調する点が多く、他の業務への活用度が不明である。
- ・活発に活動されている様子が良く分かりました。ただ、すごく目新しいというものはなかったです。
- ・実践していく中で、ハードルであったことなどをもう少し教えていただけると嬉しい。

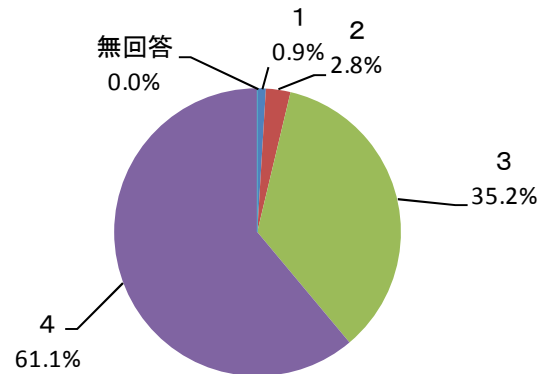
◎活用度 1

- ・経営の 4 資源がヒト・モノ・カネ・情報であるということがとても勉強になりました。行政経営という観点からも今後しっかりと頭にいれて普段の業務で考えていきたいと思います。

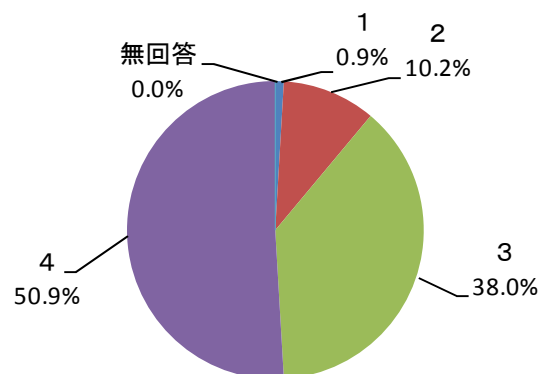
【講義2】「人を巻き込む政策デザインの方法－「協創」と「幸せ」の視点から－

慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授 前野 隆司 講師

<理解度>		N=108	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	0.9%
	2	3	2.8%
	3	38	35.2%
	4	66	61.1%
	無回答	0	0.0%
合計		108	100.0%



<活用度>		N=108	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	0.9%
	2	11	10.2%
	3	41	38.0%
	4	55	50.9%
	無回答	0	0.0%
合計		108	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・「幸せ」というこれまで地域ではあまり聞いてこなかった言葉で政策デザインをつくりあげing方法を知ることができ、新たな刺激を覚えた。
- ・「幸せ」というのは、漠然としか考えたことがなく、行政的思考に固まっていたような気がします。面白い講義でした。
- ・「幸せ」という評価基準で事業を考えたことがなかったので、とても勉強になりました。
- ・今までにない発想方法で参考になりました。「幸せ」の視点で考えることで、誰もが幸せになるので、行政の場で必要な視点であり、方法論であると学びました。
- ・業務においても個人の生活でも、長続きする幸せの方を得られるよう努力しなければなりませんね。
- ・幸福論とまちづくりの関係がいまひとつリンクしていなかったが、講義を聞いて、幸福を目指す政策がまちを豊かにする事につながる事が理解できたので、自分の業務に生かせるようにしたい。
- ・個人的に大変興味のある分野について、まさに最前線で活動、研究されている前野先生の講義を受けることができ、大変有意義な、大変ありがたい時間となりました。自分が今している仕事で、何が大切なのかを再確認しつつ、今後の仕事のヒントもたくさん頂くことができました。
- ・これからのまちづくりは、人々の幸福追求と重ね合わせると効果的にすすめられるということがわかった。
- ・幸せという視点からの研究や事例を通した地域づくりは、市民の福祉の向上と根本が同じであり、手法を検討するヒントになると思う。

- ・幸せとは何かということを経路的に理解できた。
- ・政策と幸せの条件と最初はあまりピンとこなかったが、講義を聞いて行くにつれ、その視野の広さや考えの広さ、レベルの高さに圧倒された。これまでこのような視野で仕事をしたことはなかったので、少し恥ずかしくなった。今後の仕事だけでなく人生にも影響を受けた。
- ・幸せになれる、なるという方向で市民や地域の人々が活動を行えば、自発的に必要な活動が行える。良い動機づけになると思った。個人的に興味のあった幸せの仕組みが知れて良かった。
- ・住民が幸せになるまちづくりというものが、一番大切なことで、それを達成するためのきっかけになったと思います。
- ・幸せって研究できるんですね！驚いたけど、納得しました。幸せの4因子、これは使えます。
- ・多様化する社会に対応するために協創が重要で、その活性化の鍵は幸せになること。「幸せ」の4つの因子、自己実現と成長、つながりと感謝、前向きと楽観、独占とマイペースを仕事の中でも意識していきたいと思います。
- ・「協創」と「幸せ」という視点に何のことやらという思いでしたが、聞いていくうちに納得しました。今後使ってみたい手法もご教示いただきありがとうございます。
- ・「協創＝幸せ」と考えることで、より理解を深めることができました。
- ・「幸福度」については、本県でも注目されているが、幸福学の考え方、協創について、県の職員全員が学ぶ機会を設けたい内容であった。問題をシステムとして俯瞰的にとらえるというのは難しいことではあるが、実践できるようになりたい。
- ・「幸せ」の条件は、誰でも理解しやすいと思う。これを重ねた「協創の条件」をこれから生かしていきたい。多様なチームのほんの一部のアイデアが革新的であるとのことだったので、今後は幅広く意見を聞いていきたい。
- ・今まで職務の中で「幸せ」という観点で仕事を考えることはなかったのですが、幸せを数値化し、行政の目的とすることができれば、職員や住民のモチベーションの向上にも大きく影響するのではと感じ、ぜひ実践したいと思いました。
- ・「幸せ」と市民・県民、また施設等の利用者の満足度等を事業効果の指標とする自治体はまだまだ多くない。どうしても利用者数等、数値化できるもののみを指標としがちだが、「幸せ」はもっと指標として行政が利用して良いと思われた。
- ・行政を行う事業の効果を算定する上で、斬新な切り口で評価できる手法と思いました。既存の事業でも幸せの尺度からアプローチすれば効果が高まるように感じました。
- ・幸せのメカニズムからまちづくりを考える視点を取り入れたい。何か一つきっかけを作ることで、それらが波及して相乗的に良くなっていくような仕組みを模索したい。住民の幸福度を計ってみたい。
- ・幸せのメカニズムの幸せの4つの因子は、わかりやすかったです。町の活性化は、幸せ（心の満足）も必要だと理解できました。数値化もできることを知ったので今後の活動にいかしていきたいと思いました。
- ・幸せについてから進み、協創について、実際の取り組みからメカニズムを明らかにしていただき理解できた。このメカニズムを実践できるようになりたい。

- ・幸福度という指標が住民だけではなく、従来の業務のアイデアを検討するに当たっても有効であることを学ぶことができた。非地位財型の幸せを意識し、ネットワーク型コミュニティ、協創による業務遂行を実践したい。
- ・これまで地位財型の幸せを得るための政策を考え、求められ実施してきた。これからは非地位財型の幸せを実現する政策についても考えていかなければならないと気づかされた。
- ・今後、経済情勢の著しい上昇は望めない。自治体において非地位財型の幸せをどう進めていくかの政策を進めていきたい。
- ・自分自身がネガティブな考え方なので、「協創」と「幸せ」という自分に欠けている視点を気づかされました。特にマズローの段階欲求論は学生時代に勉強しましたが、非地位財に適用するというのが新鮮でした。
- ・幸福学の基礎である長続きしない幸せ「地位財型」と長続きする幸せ「非地位財型」は、興味深いものであった。また、ブレインストーミングでは、今後まちづくりをしていく上で必要不可欠のやり方であると感じた。この講義は非常に興味がわく講義であった。
- ・幸せの観点から協創すれば、イノベーションは生まれるという手法を学んだ。ブレインストーミング等試してみたい。
- ・政策課題の問題点を全てはき出させるためにブレインストーミングが良いと思う。非常に参考になった。
- ・ブレインストーミングをやってみようと思います。幸せの4つの因子から、自分も幸せを感じられるように変えてみたいと思いました。
- ・多様性を求めると平均に近づくと考えましたが、メタ目的化により多様な意見を丸めることなく生かせると理解しました。県ができる県民のメタ目的化の手段として「質的調査」というご意見が伺えたので参考にしたいと思います。
- ・特にメタ目的化方法論の話は、今後我々が会議等で意見の違う方々をまとめる上で参考になりました。
- ・講義の内容がややアカデミックだった。「幸せ」の研究は楽しい話だった。政策を考える際の原点としてとらえたい。「メタ目的化」は、実務にも活用できそうであった。研究後に勉強してみたい。
- ・町の活性化の為には、多くの意見を取り入れ、議論をしていくことが必要だと感じた。どのような意見も取り入れていくことが必要で、多くの人と協働し職員自身が幸せな気持ちで仕事をしていく必要があると感じた。
- ・さまざまな意見の出し方、その生かし方など大変参考になりました。行政から働きかけるだけでなく、その場のコミュニティの大切さが印象に残りました。
- ・多様なチームの成果の一部はイノベティブの図は納得です。行政の考えがおよばない価値ある意見を見落とさないように心がけたいです。
- ・政策づくりには多様なチームで取り組む必要があることを再認識できました。
- ・チームのパフォーマンスの向上には、なにが重要なのかを学ばせていただきました。
- ・地域づくりにおいて様々な人が繋がっていくことの大切さが分かった。
- ・人と人とのつながりは重要であることを改めて実感した。少子高齢化が進む中、共助にも活かせる内容であったと感じた。

- ・行政の中でアイデアを出し合うときくだらないアイデアは粗末にされがちであるが、反対に多くのアイデアを出し合うことでその中にすばらしいものに発展することもあるとわかった。
- ・行政のように常識があるものは質がよいがアイデアが狭く、住民は質がよくないがアイデアが広く、すばらしいアイデアが出ることを学び、検討する内容によって、住民に参加してもらうなど使い分けが必要であると感じた。
- ・一番わかりやすく心が軽くなる授業であった。全ての業務に通じることであり、活用範囲も広い。
- ・「幸せのメカニズム」(著書)を読んでみたくくなりました。大学の教養課程で学んだ心理学の知識が、住民参加型の地域づくりを展開するのに役立つことを学び、感動しました。
- ・幸せな人がいると周りも幸せになるというのは日常生活の中でも実感しています。しかし「役所が幸せ」になるということの想像が付きません。協創も雑談から始めたいと思います。
- ・職員の中につつ、適応障害等で休職している者が増えています。先生の講義された幸せのコントロールは、私達行政マンにとっても、必要なことだと思います。どうしたら職員が元気に、市民が元気に、市が元気になるか考えながら保健師という仕事に携わっていきたいと思います。
- ・大変参考になりました。当町で「地区懇談会」という、自治体単位で問題解決する企画を行っていますが、うまくいっていません。今回の話を持ち帰って提案したいです。
- ・安城市の総合計画のテーマである「健やかで幸せを実感できるまち」のイメージを持つことができました。
- ・隣の総社市でヒントになる様な事業が展開されているとは知らなかった。岡山の街はまだ行政に頼るところが多いと感じている。ボトムアップの地域づくりにはまだまだ時間が必要と思った。
- ・東浦町でも施策(計画)を策定する際に参加者の専門分野の多様性を高め、また公募等も行いワークショップを行う方法をとりはじめました。この方法は物議をかもしアイデアが出るため、上の人から見ると、やめさせる方向の指示が出ますが、意外なアイデアが出るため、私は積極的に行うようにしています。
- ・福岡県では「県民幸福度日本一」を目指しており、本講義で説明された幸せのメカニズム、他自治体等の取組事例の紹介は大変参考になった。

◎活用度 3

- ・「幸福学」というアプローチ方法も取り入れていきたい。
- ・「幸せ」なまちづくりという視点で考えたことがなかったので、とても興味深い内容だった。特にアイデアを呼ぶいくつかの手法はどれも試してみたいし、良いアイデアが出る予感がした。
- ・「幸せ」の視点で仕事を考えたことがなかったので、とても新鮮でした。
- ・「幸せ」という気持ちをつかさどるのは様々な要因がある。その要因は地域で己が認められる事が分かりました。又、公の為に仕事をしている公務員(行政マン)は、「幸せ」でなければならず、その仕事内容は「幸せ」な事であると気付きました。
- ・「幸せ」は抽象的ですが、とても重要で、業務を行う上で感覚的に目指していくべきところであることを意識していきたいと感じました。対象者の個々の思い、制度や予算など様々な要因により難しく考えてしまっていますが、よりシンプルな視点から、幸せを目指して様々な取組を考え、実践していきたいと思います。

- ・「長い幸せ感」を獲得することの大切さを教えていただきありがとうございました。仕事はもちろん、これからの人生の中でも大いに役立つ内容でした。
- ・関係者の” 幸せ” に重点を置いた取組みという考え方が新鮮だった。
- ・幸せの4要素の考え方は、自分のワークライフバランスにも役立てられると思った。
- ・幸せのメカニズムを知ることができてよかった。
- ・夢を持ち、常に前向きでいたいと思う。
- ・改めて幸せであることは大切なことだと思いました。そのためには「つながり」をもつことが重要なキーワードであるということに改めて気づきました。
- ・興味深い内容だった。「幸せ」についてこういう形で講義を聞くとは思わなかった。幸せの4因子については、日常で積極的に取り入れていきたいと思う。
- ・幸福について、論理的・体系的に考えたり、学ぶ機会がなく漠然としか感じていなかったため、勉強になった。
- ・協創と幸せの条件が似ており、住民の幸せが地域の活性化につながるという観点が自分には新しく受け止められました。
- ・幸せの4つの因子、1. 自己実現と成長 2. つながりと感謝 3. 前向きと楽観 4. 独立とマイペース という説明に共感できた。
- ・幸せの4つの因子は、仕事の上でも私生活でも活用できる内容でした。またそれを用いた活性化WSは今後のWSに活用できる内容で分かりやすかったです。
- ・幸福学の基礎として「金・モノ・社会的地位」などは長続きしないが、「環境・健康・心」などの非地位財型幸せのほうが長続きし、基盤が満たされて初めてもっと幸せになることができることを学んだ。
- ・幸福は金・地位より主に心的要因により得た方が長続きすることを学んだ。
- ・政策デザインのヒントとして非地位財的な幸せを尺度として考えるのは目から鱗でした。
- ・政策は役所が主導するのではなく、住民が何を求めているのかという視点が必要であると感じた。人は利他的なときに幸せを感じるという点は興味深かった。
- ・幸せなまちづくりがこれからの人口減少を防ぐ可能性を強く感じると同時に、まず職場の幸せ度を図り、私たちのパフォーマンスを高め、住民の方々に幸せを伝えていくことが、幸せなまちづくりにつながるのではないかと感じました。メタ目的化方法論は、今後すぐに活用できる手法であると感じました。
- ・メタ目的化という手法が気になった。誰もが幸せになることを望んでいると思うが、幸せの価値観が多様化していたり、そこに行きつく考え方も違う中で、みんなが同じ目的を共有してそれに向かって一つになることは難しいと思った。
- ・ブレストの留意事項（質より量、コメント不要等）は参考となった。
- ・くだらない意見の中にアイデアがある。
- ・メタ目的化手法の行政での活用事例をもう少し聞いてみたい。
- ・モノの豊かさから心の豊かさへ、役所発トップダウン地域づくりからみんなで協創するボトムアップ地域づくりへ。本町は田舎で常に行政主体で地域リーダーの掘り起こしもできていない。まずはもっと町に出てみないといけないと思った。

- ・冒頭に「トップダウン」より「ボトムアップ」で地域づくりの話がありましたが、確かにその通りだと思います。関わる市民のモチベーションも違うはずですが、視点、考え方が多様化するなかで、1つ1つ受け入れて事業を展開することは困難ではありますが、そこに共通する目的を見つければ、自発的に行動できるはずですが、それが「幸せ」の1つになり、地位の活性化につながると思います。
- ・分かり易い説明でよく分かりました。行政と幸福学は直接つながりのない分野のように思えましたが、事例はとても参考になったし、市民の幸せに向けてヒントになりました。ブレインストーミング、メタ目的化、さっそくやってみたいです。
- ・所属する職場の現状や、自身の物事の捉え方について振り返る機会となりました。幸せの4つの因子を意識して、職場のグループの力動につなげられたらという思いになりました。特にブレインストーミングのあり方は意識的に取り入れたいと考えています。
- ・イノベーションの話はとても興味深く参考になりました。今後の職場での新規事業の発掘など、さまざまな場面で活用できると感じました。
- ・イノベーションをつくるには、多様なチームでの協創が必要である。ともすれば避けがちであるが、参加者の専門分野の多様性が高いチームでの協働を意識していきたい。ハイリスク・ハイリターンで。
- ・常識がアイデアをはばむことや無駄と思える議論からアイデアが生まれることなどの考えが心に響きました。
- ・素晴らしいアイデアを見逃さない様な仕組み、仕掛けが重要（何でもやってみる、雰囲気づくり）。段階モデルに基づいた仕組み、枠組みづくり。
- ・課題を解決するための手法や具体例を紹介していただきためになった。
- ・共同・教創の仕組みを考えていく上で、重要な基礎理論だと感じた。この視点を踏まえて、事業展開を考えていければ、今までとは違うものを生み出せる可能性を感じた。
- ・どのようにすれば幸福感を抱くことができるか、その具体的な手法とケーススタディを学ぶことができた。経営学の考え方に似た部分もあるが、経営学のフレームをそのまま導入しにくい分野には使えると思った。「幸福」を中心に捉えた物の捉え方や活動があることに驚いた。自己満足の利害対立をどう抑えるかがポイントになるのではないかと感じた。
- ・マクロ的な視点で、いろいろな業務に活かせると思う。話も分かりやすかった。
- ・「芝の家」は小さな子から大人まで集まることのできる空間が印象に残った。地権者の協力など、得るものは大きかった。
- ・自分も含め、住民に多様な人々とつながりを持てる機会を提供することで、幸せなまちづくりにつながっていききたい。
- ・とてもおもしろい講義でした。『協力して創造する』＝『幸せ』。住民の声を聞いて新しいことをやっていくことが幸せにつながり、幸せな地域だと活性化し、人口も減少しない。言葉で言うのは簡単ですが容易なことではないのが現実です。
- ・「幸福学」という分野をはじめて知りました。とても面白く拝聴しました。ただ理解はできても実践（実現）するのはなかなか難しいかもしれません。ネガティブで申し訳ないです。
- ・協創と幸せが同じという理論であったが、話の中では「なるほど」と感じたが、要素は一緒なのだがイメージを捉えることが難しかった。

- ・個人的には大変興味深い内容であったが、具体的な方法等についてももう少し詳しい話が聞けるとさらによかった。
- ・事業案は参考になった。しかし、活用するためには、その手法をより詳しく学ぶ必要があると感じたが、身につけて活用できれば。

◎活用度 2

- ・いろんな研究があるものだと驚いた。幸せについて深く掘り下げて考えたことがなかったのでおもしろかった。目に見える指標だけでよいのかということについては考えさせられた。
- ・幸福感から人を動かすという考えが新しかったです。業務にも心理学、幸福学を取り入れて、職員の能率向上に効果のある取組を学んでみたいです。
- ・地域の活性化を「幸せ」で計るという観点もあるのかなと感じました。
- ・複雑化する組織で何を大切にしていくかという意識を個々が持つ。共有する必要性を感じた。
- ・上昇スパイラルへの導き。行政として関われる部分は多いと思う。
- ・システム思考、デザイン思考の話をもっと聞きたかった。方法論や事例など。
- ・「幸せ」が価値観の重要な位置を占めていることは確かだが、行政施策への反映となるとイメージが湧かなかった。
- ・「幸せ」が抽象的なことなので理解が難しかった。
- ・幸せを行政に生かせるのか自信はないが、人間関係の形成やメンタルヘルスには役立つ話であったと思う。
- ・役所が個人の幸せまでコントロールしようとするのは気持ち悪い。
- ・いっそのこと幸福感を得られる薬物を配った方がよいのでは。
- ・最後の方は宗教家みたいだった。

◎活用度 1

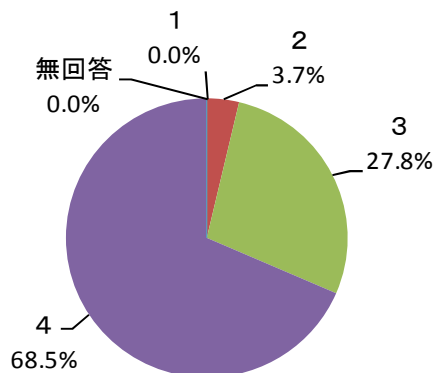
- ・幸せのメカニズムの4因子がとても印象に残りました。今の自分は幸せだと思っているので、今後ともこれを忘れずに生きていきたいと思います。

【講義3】「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」

柳谷自治公民館長 豊重 哲郎 講師

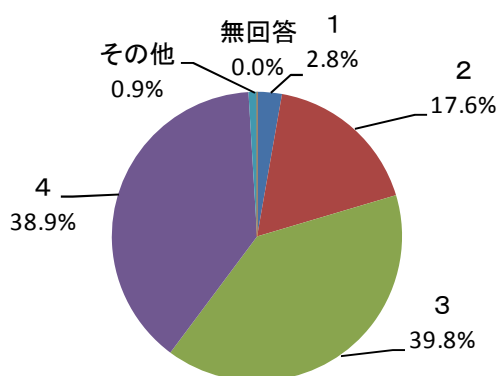
N=108

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	4	3.7%
	3	30	27.8%
	4	74	68.5%
	無回答	0	0.0%
合計		108	100.0%



N=108

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	2.8%
	2	19	17.6%
	3	43	39.8%
	4	42	38.9%
	その他	1	0.9%
	無回答	0	0.0%
合計		108	100.0%



<その他回答>

・2.5

<感想>

◎活用度 4

- ・熱い思いに胸を打たれました。自分も負けないほど強い思いを持たねばと改めて感じました。
- ・あれだけ地域のために尽くせる人がいるとは。とても感動しました。
- ・過疎だった町の地域再生には感銘を受けました。素晴らしいの一言です。
- ・感動しました！！熱い講師に感謝します。
- ・講師の熱意に圧倒されっ放しだった。また、熱意があるだけでなく、人を動かそうとする熱意を伝えようする際の方法を徹底的に追及する姿勢も素晴らしかった。
- ・講師の熱意をすごく感じました。
- ・心の底から感動しました。あれほどの熱く、かつ理論的に話しされる講師に出会えて幸せです。
- ・自治会でNPOを立ち上げて自分達で地域づくりをされていて、すごいパワーだと思った。
- ・全住民参加型の感動の地域づくりについて今日に至るまでの課題、成功のポイント等が紹介され、大変分かりやすく講師の熱い思いに大変感銘を受けた。
- ・先生の熱い思いが伝わってきましたが、それ以上に努力と勉強を重ねてこられたことがわかり、心を打たれました。
- ・先生の意欲、努力、意思の強さに感銘を受けました。地域再生のみならず、リーダーとして何かをなしえようとするときに重要なことを再認識させていただきました。加えて、継続性、長期的な展望の大切さ、実践できるか分かりませんが、意識して業務に取り組んでいきたいと思います。

- ・豊重さんの情熱にまず感動した。そして、行き当たりばったりでない計画性のある活動に驚いた。
- ・豊重さんの地域づくりの思いが、とても良く伝わってきました。「想い」が大事であることが理解できました。
- ・豊重先生の熱い思いには、いつも圧倒されます。その熱い思いに共感した人たちが次々と学び、自分の地域に活かしていくことができれば、過疎地域は活性化していくと思います。
- ・人間のパワーを感じました。情熱と折れない心、見習いたいです。
- ・熱を感じることができました。使命感がすばらしいと思います。
- ・実践力・結果から出される言葉には力がある。
- ・時々話が端折られていたので話の流れを見失いそうになることもありましたが、大変な思いをして実践された方だからこそその重みのある言葉が胸に刺さりました。
- ・精神論だけでなく、理論的にも納得でき、大変参考になった。
- ・人の持つ情熱とパワーに圧倒されつつ、キーマンの重要性、資質を感じました。
- ・住民の一体感が良い方向につながっていると思いました。リーダーの存在が非常に重要になっており、当県の過疎地域にも有益な情報でした。
- ・映像で実際の取り組みがみられたので良かった。豊重館長のリーダーシップがすごかった。地域にこんなリーダーシップを取れる人はなかなかいない。本当にすごい。1コマでは足りないと思う。もっと聞きたい講義。
- ・熱意と情熱で人を動かし街を変えられる。発想力を養い、行動にいかにはやく移すかということを学んだ。「子供」がキーワードであることは盲点だった。
- ・地域再生の鍵は教育にあるとの話は心に残った。
- ・有名な方であり、自分もそうだが、何度かお話を伺ったことがある方もいるのではないかな。
- ・DVDを見せていただき、とてもわかりやすかったです。リーダーの必要性を改めて感じました。そして、子どもへの教育の重要性と交流・体験が重要だということが理解できました。
- ・館長の講座を拝聴するのは数回目ですが、館長のようなリーダーが地域で出てくるようにコーディネートしないといけないと感じております。
- ・地域再生の基本的な考え方を学んだ。才能を引き出すコーディネーターになれるよう頑張りたい。
- ・地域の再生は、人の再生であり、ふるさとの再生なんだと改めて感じました。「その人を知り、出番をつくる」それが「才能を引き出す」こと、それができるようになっていきたいと感じました。
- ・情報を持って、地域を変えてやるという高い志を持つこと。それと、人とのつながりには気配り、心配りが大切なことも再認識できました。
- ・人材を育成するには相手のことを理解し認めてあげることが大切。
- ・小さな町の特徴を十分に活かした事例であるが、やはり基本は人だということを強く感じた。
- ・すごい迫力だった。バイタリティもすごいが、現在のお歳までそれを継続しているところももっとすごいと思う。また、自己満足だけでなく、後継者育成もきちんと考えられているところにも感動した。銀行を経て自営業もされていたところが興味を引いた。
- ・行政に頼らない、地域再生はすばらしい。総合型地域スポーツクラブの赤字経営を黒字にする手法があると感じました。
- ・行政に頼らない地域づくりが住民に幸福感を与えた上、医療費や介護費の減少まで至ったことに感動を覚えた。

- ・行政と住民がサービスを提供する側とされる側ではなく、それぞれが独立して自治を行い、お互いの利益になるという新しい形に感動しました。今後の仕事の中で、心に響く仕事のやり方を念頭に、考えて実践したいと思いました。
- ・自治会を経営化する手法に非常に共感した。その認識を持つために時間を要するが、少しずつ進めていきたい。
- ・地域資源を活かし、ビジネスとして成立させる。面白かったです。こういう人材を見つける、地域で育てる、そこに行政がどう関わるか？を考えていけないですね。
- ・人にどのように働きかければ良いか、熱っぽく語っていただいた。財務の視点は目立たないが、活動を支える元なので大事だと思う。自治活動を通じて活動資金を調査し、設備投資（遊具、迎賓館）を行い、納税までしていることに驚いた。
- ・情報として柳谷の地域づくりは知っていましたが、生豊重氏を見て納得がいききました。
- ・先進的な取組事例として豊重先生にお話いただいたことは貴重な機会でした。意見集約などでの苦労や工夫について深く聞くことができればなお良かった。
- ・本町も高齢化率が高く、地域リーダー的な立場の方も高齢で後継者も育っていない状態である。地域再生の手法は企業経営と同じようでその仕組みに感嘆してしまった。行政マンとして欠落している部分も多く、もっと勉強していきたい。
- ・自分の自治会が抱える問題に対する解決策の糸口が見つかったような気がします。
- ・とても有意義なお話をきかせていただきました。東浦町でも新しい取組をはじめ動きが多く、これまで行政が行ってきた方法では対応できないことが多くあります。お話に出てきた、反目者が必ずいます。しかしその反目者を味方につけることが施策の推進につながるケースがとても多くあります。これまでの経験からもそう思います。今後の私の力となるお話をありがとうございました。

◎活用度 3

- ・田舎の地域活性化のためには熱意のあるリーダーが必要だと思った。ずっと先のことまで想定した地域の運営を考えていることが凄いと思った。
- ・貴重な実体験を熱く語っていただいた。地域再生には強いリーダーの存在が重要と感じた。
- ・絶対的なリーダーの方からこれまでやってきて感じている大事なことを聞ける貴重な機会となった。地域活動を維持していくためのヒントがたくさんあった。
- ・講師の熱血さがすごい。村の再生の成功例として何かヒントになりそうだが、そのためには豊重講師のようなリーダーと相当な苦労が必要。
- ・大変良かった。豊重先生の熱のこもった講義でした。地域再生には核となる人が必要だと改めて感じた。
- ・まず熱意をとっても強く感じました。リーダーの在り方と、リーダーの育成法という2つの観点で聞くことができました。塾生の星居さんからも、いろいろ話を聞いてみたいと思います。
- ・「どうにかしなければ」という思い+「じゃあどうする」という行動力。現場主義発想のアイデアに大変学ばせて頂きました。先生のエネルギッシュなパワーに圧倒され、あっという間の1時間でした。
- ・課題を自らのものにとらえ、解決していく姿は共感を覚えたし、感動した。
- ・先生のパワー＝実践力をとても強く感じた。もう1コマお話を聞きたかった。

- ・一番熱い授業で、講師の方の人柄が伝わった。DVDの編集が少し甘く見づらかった。
- ・行政の役割や限界をご理解されたうえで一つの集落を再生された熱意にはただただ頭が下がる思いです。
- ・熱意で人を動かすことの難しさ、大切さを実感しました。
- ・エネルギッシュな先生に感動しました。このようなキーパーソンは行政からの押しつけや養成ではうまくいきません。地域で活躍する方々にぜひ知ってほしいです。とくに才能を引き出すそのアイデアに脱帽です。過疎対策、コミュニティ再生の参考になりました。
- ・講師の豊重さんのまっすぐな考え方とそのリーダーシップに感銘を受けた。人間は誰でも社会に貢献できる力を与えられており、その才能を引き出し、住民自治、地域再生を行わんとする地域づくりをコーディネートする立場に行政はあるということを学ぶことができた。
- ・大変ためになるビデオを見せていただきました。「必要以上に頑張らなくて良い。才能を引き出すコーディネーターになってください」という言葉が心に残りました。
- ・地域再生のための熱い思いにまず感動しました。我々行政に求められていることは地域のコーディネータになるということをお忘れのないようにしたいと思いました。
- ・豊重講師のあふれんばかりの熱い思いが伝わってました。才能等を引き出すというのは、前野講師の言う「幸せ」につながるのではないかと思います。
- ・エネルギー＝情熱、どこまでその地域のために本気になっているか。才能を引き出す“場”づくり。教育が大切。
- ・講師の熱い思い、考えに触れる事ができました。地元で村職員（行政マン）として関わりを作れるか不安でしたが、最後に講師が「楽に考えれば良い」「遠回りで良い」と言われ感動しました。
- ・田舎の人口減少に歯止めをかけるためのヒントを得ました。自治体職員がちょっとしたアイデアを提供し、地域住民と共に、地域に根ざした活動をしていく必要があると感じた。
- ・地域づくりの力強いリーダーの言葉は説得力がありました。行政の役割として大切な事も教えていただいたので実践したいです。
- ・とても人間味に溢れる魅力的な方であった。行政にも、豊重さんのようなスピリットは必要。
- ・豊重先生の「やねだん」に対する熱意に圧倒された講義であった。この講義を受け、文化の交流と子どもを交えた地域づくりが必要であると感じた。もう少し講義時間がほしいと思った。
- ・率直に熱くて行動力のある人だと思った。企業経営の感覚は自治体でも必要だと言われているが、その必要性を強く感じた。企業経営の基本を知らなかったので、感覚の鈍さを実感しました。
- ・まちづくりを行うためには、財務の裏付けが必要であることから企業会計を採用することを学び、本市においても、今後採用することとなっており、改めて再認識した。
- ・どこの地域でも「地域再生」には行政の補助金や施策が必要だと考え、行政に要望することが多いと思うが、補助金に頼らず「自主財源確保」できている素晴らしい事例を参考にしたいです。熱意が周りを動かしたのだという点も今後の業務上見習いたい。
- ・ビジネス感覚と情熱で、このような地域づくりをしている町内会があることを初めて知った。豊重さん、引退後の柳谷の動向も気になる所である。
- ・深い計算と戦略のもとに実行されている。そこに”情熱”があつての成功と感じた。
- ・豊重さんの講演は2回目です。美濃加茂市定住自立圏の企画で聞かせて頂きました。住民への接し方など、大変参考になります。

- ・名前で呼ぶ、名前を覚えることの大切さを学びました。なかなか、顔と名前を覚えるのが苦手は自分にとっては汗をかきました。
- ・講師の熱意を持った活動に感動した。住民の名前を覚えること、集落放送による感謝のメッセージなどは、地域づくりの第一歩としてとても参考になった。
- ・パワー、元気をもらう内容だった。あたり前のことをあたり前にする所から始まっていく印象だった。また反対に新しいことを始めていくというのは、田舎ではなかなか受け入れられない中で、全住民参加にもっていくのは素晴らしい。一度は訪れてみたい。
- ・住民一人一人を大事にしてここまで笑顔があふれる地域に再生した取組があったのだと感銘を受けました。超高齢化を迎えて、このように元気な高齢者が活躍できる町内会単位のコミュニティ作りが要となるのではと思いました。
- ・大変興味深い事例でした。地域づくりの手法に学ぶべきところがありました。
- ・地域再生の素晴らしい事例を伺い、地元はどう生かしていくか考えていきたい。
- ・実際に活動されている先生から直接話を聞くことができ光栄でした。迫力のある声で内容も汗をかくことで人はついてくるというのも自分に足りない部分と感じた。
- ・実績に基づく話には説得力があった。映像で説明があったのも良かった。ただ、断定的な口調には少し違和感を感じた。
- ・70分という短い時間の中では、吸収しきれなかった感があり、残念に感じる。「財務」「共同体」「EDUCE」「文化向上と子ども」「特技」「還元」などの重要なキーワードについて、自分なりに掘り下げてみたいと思う。
- ・極めて特殊な先進事例だと思いますが、取り組む姿勢は見習いたいと思います。
- ・要は「気合い」ということか。「人情」が重要なのはすごく共感できる。

◎活用度 2.5

- ・強力なリーダーシップで地域づくりをしている印象で、全国どこでもできる事では無い様に感じました。しかし、強い郷土愛と行動力が伝わってきました。

◎活用度 2

- ・講師の熱い想いに圧倒されると同時に大変感動しました。
- ・これまでも地元の放送などで知ってはいたが、今回は講師の熱意が直に伝わってきた。
- ・すごい、すごい迫力だった。言葉のひとつひとつに気迫がこめられていて圧倒された。情熱を持ち続けることが本当に大切だと思った。
- ・とにかくすごい人でした。
- ・豊重氏のご苦勞に感銘を受けました。住民の底力はこれほどまでにすごいものなのかということ。後世につなげていく大切さ。実際に動かされた方の言葉は大変重く感じました。
- ・豊重先生の強いリーダーシップを感じました。また、説得、命令では人は動かないことを学ぶことができました。町内会というより、小さな自治体のように感じられました。
- ・豊重先生の熱意・パワーがすごかったです。私の町にもあんなリーダーが現れてくれたらと思います。又、柳谷地区を実際に訪れてみたいと思いました。

- ・富永講師と同じく熱意をもった方で、これまで苦労と現在の達成度の話は大変感動した。人を動かすためにはどのようにすべきか、学ぶことがたくさんあった。
- ・むら主体の一人の突出したリーダーによる再生の事例で、これほどまでの手腕を発揮できる人材はそうそういないと感心しました。行政側としては、誰もが参加しやすい場づくりの土台づくりの必要性を感じました。
- ・やねだんの精神からは学ぶべきものが多くあり参考になりました。
- ・豊重氏のパワーに圧倒された。
- ・幼稚園、小・中学生を巻き込んだ地域活動は、どこも実践しているが、柳谷は戦略的であると感じた。「頑張らなくて良い、才能を引き出す、コーディネータになれ」
- ・進めてこられた事業は素晴らしいと思うが、豊重さんのような人がいるからできる事で、一般的に難しいと思う。
- ・やはり、(人の才能の)「発見」ということが、キーワードの一つとして挙げられるのだなと思いました。また、不の項目アンケート(マーケティング)というのも興味深いです。ただ、誰もが豊重先生のやり方をできるわけではないので、他の地域、他の人でもできるものに応用した仕組みづくりが行政として必要と考えました。
- ・行政も企業感覚を持たなければならないと思いました。また、才能を引き出すコーディネーターとしての役割を意識する必要があると思いました。
- ・地域づくりの本質を学んだ気がします。行政に頼らず、あくまでも行政をパートナーと位置づけ、財源の確保から人の活性化により、地域再生を行ったマンパワーを強く感じました。地域の人たちの才能を引き出せる行政マン(地域コーディネーター)を目指したいです。
- ・地域で汗をかける人材をいかに発掘し、育てていくことができるか、行政職員として地域の方々の才能等を引き出していけるか。先は長いというのが実感であるが、心掛けていきたいと感じました。
- ・土台づくり・人づくりの種を教えていただいた。まだどんな風に活かせるかすぐに思いつかないが、現場現場での対応力につなげたい。
- ・実際に今日も取り組んでおられる貴重な内容だった。人口集中が続く本市でどう活かせるかは何とも言えないが、取組の成果はすごいと思う。
- ・EDUCE=引き出す⇒難しいことですね⇒分かっちゃいるけど⇒活用できない(リーダーになりきれない)

◎活用度 1

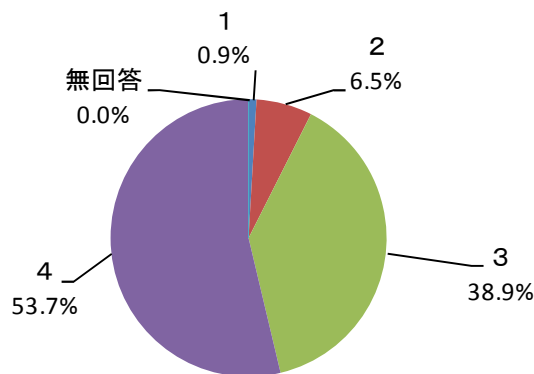
- ・熱意ある取組に心より敬意を表します。課題と思われる後継者の育成、組織の継続も行われており、素晴らしいと感じました。
- ・講師の人柄やエネルギーに触れることができ、有意義ではあったが、直接的業務には活用しづらい面があると思う。
- ・都市部の状況とはまるで違う内容だった為、実践している内容を地域に持ち帰ることは難しいが、理念は共感できる部分、生かせる部分もあると思うので、地域にあてはめ、生かせる事を考えてみたい。

【講義 4】「進学校を地域再生人材の育成拠点にするための施策」

岐阜県立可児高等学校 教諭 浦崎 太郎 講師

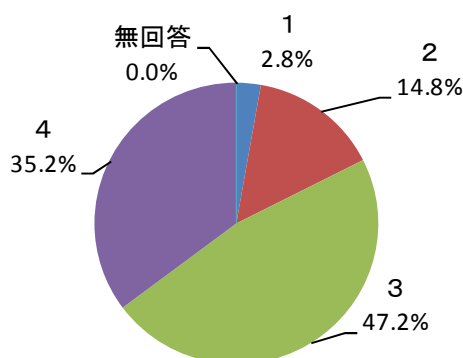
N=108

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	0.9%
	2	7	6.5%
	3	42	38.9%
	4	58	53.7%
	無回答	0	0.0%
合計		108	100.0%



N=108

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	3	2.8%
	2	16	14.8%
	3	51	47.2%
	4	38	35.2%
	無回答	0	0.0%
合計		108	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・学校の先生が地域のコーディネーターとして活躍し成功された経験がとても良く分かり、自分の現在している業務にも大変役立てる事ができるように思う。
- ・キャリア教育がまちづくりにとって重要であることが良く分かりました。当市においても、定住促進には教育が最も重要であると考え、総合戦略でも重要施策として位置付けています。
- ・教育がまちづくり、地方創生のカギとなる。取り組み方は難しそうですが、とても勉強になりました。
- ・教育として地域からの目や教え（あいさつなど）が希薄化していることが、地域の子どもの様々な能力をうばっていることを感じた。
- ・教育の場と地域で抱える課題が共通している部分が多いことに納得できました。
- ・教育問題の解決には、自然環境やコミュニティの再生が必須で首長部局との協働が必要不可欠であると感じた。
- ・行政・学校・地域で協力できれば様々な可能性があるように感じました。また、各所属でも異動を見据えてNPO化したという所が印象的でした。
- ・行政・地域・学校現場との連携策について様々な事例の紹介がなされ大変参考になった。私の担当業務で本年度新規事業として学校現場と連携して取り組むものがあり、今後進めていくに当たって活用できると感じた。

- ・高校生が地域再生の人材となるということは、まさにその通りであると共感しました。福島県の避難地域であった地区では、これが大きな課題となっております。参考とさせていただきます。
- ・高校生と行政のかかわりをもっと強く持っていかなければならないと思いました。
- ・高校生に地域の人と交流する場をつくり、地域の課題にいっしょに取り組むという、型破りと思える手法はすばらしい。社会のために役に立つことの良さを実感する。
- ・高校生を地域再生人材として活用するという発想が新鮮だった。講師はソフトな語りで分かりやすかった。
- ・高校を地域再生人材の育成拠点にしている最先端の実例の講話で本市も取り組むべき施策であると感じた。
- ・地域づくりに教育がこんなにも必要不可欠であることを認識した。県協委や商工部局等、多くの職員に知ってもらいたいと感じた。
- ・地域と高校の関連が最初は良く分からなかったが、説明が理論的でとてもよく理解できた。社会人になって高校の先生と接した機会はなかったのも、こんなにすごい方もおられるのかと感動した。
- ・地域の課題に触れることで、高校生に分析力、解決力が備わるため、地域の重要性を学びました。
- ・地域への自信が自分の自信につながる。異年齢集団、地域の大人との関わりを強める。地域課題を発見・解決する学習を！高校と地域をつなぐ仕組みをつくると地域の5年後を変えられる。
- ・日常の業務において、大学や高校との連携を担当しているので、今後どのように関わっていけばよいのか大変勉強になりました。
- ・まちづくりと教育の関わりについてあまり認識がなかったが、よく理解できた。まちづくりの担当部署の一員として、ぜひ高校生とやってみたいと思った。
- ・まちづくりに必要な人材をつくるために、高校時代から地域づくりの意識付けが大事であることがよく理解できた。
- ・私の町では地域活性化のために、自治体が高校の人材育成に力を入れています。現代の若者が社会人になった時、社会に対応できる人間を育成するためには、地域と高校が連携していく必要があると痛感しました。
- ・学校の課題を地域で解決していく取組として、教育の本来の姿に近いものを感じた。学校（生徒）が地域に出ていく事例が多かったが、学校が地域をどう受入れているのか、もう少し聞いてみたかった。
- ・一度のイベント的に実施するのではなく、地域主体で運営するモデルの確立が行われている点は非常に参考となりました。「課題解決力」の育成は今後社会を担う人材育成としても非常に効果があると思いました。
- ・誰かにつながっている喜び。小学生を喜ばせようとサンタの恰好で街中を歩いた高校生の気持ちが分かる気がします。高校生の問題は高校で解決できない。また、学校の教育だけでなく、地域で多様な大人と現実の課題解決において体験させることで社会性を育てる。これらのことがとても響きました。
- ・内容はとても良く、講師の方もできるだけ分かりやすく伝える気持ちは良かったが、時間が少なく早口で分かりづらい所もあった。
- ・進行が早く、内容の理解をすることは難しかったが、手法はとてもおもしろく他の分野に活かすことができるので、資料を見直して十分熟知したい。

- ・“「家庭の問題」として家庭に押しつけても何も解決しない”という言葉が印象的でした。地域づくりのためには人づくりが重要で、若者の教育は学校任せではいけないと思いました。
- ・自分の担当である地域医療で、医師確保のために、高校生に対し、現役医師による講演会の開催を考えています。とても参考になりました。活用度は期待を込めて4にしました。
- ・福祉、医療の問題は教育に行きつく、という考えをもっていました。教育が地域と結びつく、というか地域で教育を行うという視点には気づいていませんでした。大変参考になりました。
- ・子育て支援の現場で働く者として、大変興味深く、またあらためて自分の仕事への思いを強くしました。また3人の娘を持つ母としても考えさせられることも多く、今後自分が現場でまた家庭で進むべき道のヒントを頂いたような時間でした。
- ・大変良い話でした。行政としても、親としても考えさせられるものがありました。
- ・非常に理路整然とした内容で、講義の内容が良く理解できた。他の研修生もそうだと思うが、子を持つ親として、子どものために地域で活動をしなればという思いになった。
- ・コーディネーターの発掘について詳しく聞きたかった（質問すれば良かった）。
- ・面白いなー、「まちづくり＝ガキの頃からの教育」この考えは、自分も持っていたのでとても入ってきました。地球のコラおじさんになる！
- ・プライベートなネットワークで事業の最終イメージを共有できることが目的を達成するための早道。
- ・根回しの大切さをあらためて感じました。「ファーストコンタクトはプライベートネットワーク」は、大切なキーワードとして覚えておきます。
- ・はじめの一步が大きな輪となり地域を支える力につながるの、できることから始めていきたいと思いました。
- ・地域再生の前には、過去からの習慣や固定観念が立ちはだかっている印象を受けます。行政クロスロードはぜひ取り入れたいと思いました。

◎活用度3

- ・（高校生の）教育問題はそれに止まらず、それ以前からの地域との関係性が大きく、まちづくりの一環として考えなければならない。当市が直面している状況を考えると、参考になりそうである。
- ・地域づくりに、教育が重要であることについて理解を深めることができた。
- ・ただし、2コマは長く、1コマが良いと思う。
- ・5年、10年先の地域を担う高校生の育成と地域との関わり方、行政が直接関わらないことで、柔軟かつ多様に動けることが再確認できました。
- ・移住・UJI ターン促進の仕事に携わる中で、大学に出ていく前の地元の高校生に対し、いかに県・地域の魅力を伝えるかが鍵であるという意識があった中、高校生の段階で地域との関わり方を伝える重要性を学ぶことができた。
- ・教育問題を解決するには、地域が主体となり、学校や行政が連携し、行政はまちづくりを進める中で、社会教育機能を入れる必要があることを学び、本市のまちづくりに生かしていきたい。
- ・学力にかかる問題の解決について、首長部局との協働が必要などの考えは納得するものがあります。
- ・現在も教育庁と知事部局で連携して学力低下対策をしているが、もっと幅広く地域づくりの面から事業ができないか考えるきっかけとなった。

- ・現場での取組や気づきを、一段階抽象化して説明いただいたので、頭に入りやすかった。問題提起と課題解決の整理が秀逸だったので、これから課題研究に取り組む上で役立ちそうである。
- ・高校生の頃から大人と共働して社会を形成する活動に積極的に参加することは重要なことであり、自治体もNPOなどの協力を得ながら、どんどん関わっていくことが必要であると感じた。
- ・高校生を地域に関わらせることは非常に重要な事で、どこの自治体でも取り入れられるので提言していきたい。
- ・高校と市町村レベルの自治体はつながりがもちにくいため、先生のお話はとても魅力的なものであり、参考になった。
- ・子どもたちの育成が危機的状況にあるんだと日々何となく感じていたことがはっきり示された印象です。先生の取り組みは、社会全体の立て直しに直結するものだと思います。自分に何ができるのかを考えさせられます。
- ・子どもたちを地域に関わらせていくことの大事さを感じました。
- ・子どもの学力低下の問題が地域コミュニティの崩壊と密接な関わりがあるという視点は非常に新鮮だった。今後の地域コミュニティ活性化施策における1つの視点として活用していきたい。
- ・子供の学力や社会性が地域環境の影響を大きく受けることが分かった。教育の立場からの地域再生がとても新鮮に感じられました。
- ・これから行っていく事業の中にも高校生を活かしていくという考え方の選択肢が増えました。
- ・これからの地域力の継続性を考えていくと、高校と地域の協働は喫緊に必要な取組であると感じました。まちづくりに社会教育機能を組み込むことで、より継続的な地域性が養われるものと感じました。
- ・社会教育の場の創生の重要性が理解できた。
- ・進学校と地域（行政）の協働にいたるまでの過程が具体的であり、生かしやすいと思った。
- ・人口減少問題だけでなく学力低下までもが、解決策として、自然環境やコミュニティの再生が必須であると目から鱗のような話。各自治体にもまだまだ取組む余地があると実感。
- ・人材育成には、学生と地域が関わりながら、幼少期からの教育がとても大切だとつくづく感じた。
- ・既に高校は全入に近いなかで、地域主体の社会教育を活かした取組は、都市部である本市でも活用できないか考えたいし、街づくりの視点も活かしたい。
- ・前半は時間をかけ、話して頂いて、興味深く聞くことができました。教育分野からの地域再生の話は後半が駆け足だったので少し残念です。
- ・外に学校の先生が出ていくイメージはなかったので面白い取組。
- ・大変興味深い内容であったので、もう少し時間をかけてじっくりと聞きたいと思いました。
- ・地域、高校を基礎として、幼児から中学まで一貫した取組ができると、地域との絆も強く、魅力のあるものになるのではと思いました。あとはきっかけをどのように作るかが最大の難関ではないかと思われる。
- ・地域活性における教育、特に高校の活用について感銘を受けました。
- ・地域活性化の鍵が未就学児からの人材育成や高校生の社会との関わりであることなど、多くのヒントをいただきました。
- ・地域コミュニティの再生が教育の質を向上させることに繋がるということが良く理解できた。ただ、要因はそれだけではないのではないか。あまりに一点突破過ぎるロジックに思えた。

- ・地域コミュニティの弱体は学校（学力）の問題であると私の考えと同じであり、共感できました。さらにその親の世代もすでに問題があると思います。
- ・地域再生のためには積極的に地域から教育をサポートする体制が必要。どのようにしてそのような人材育成をしていくのかという問題もあるが、まずは目的意識を持つところから始めたいと思う。
- ・地域と教育に密接な関係があることは新しい発見でした。高校（県の管轄）と地域がつながることの大切さが分かりましたが、同時に難しさも感じました。
- ・地域に対する視点好奇心を幼少時から持たせることが子どもの社会性向上に有効との主張には大いに同感できる。ただ「高度分業化」は、諸悪の根源か？理解不足かも知れないが、今の世の中、専門性は高いレベルで追求せざるを得ない。要は専門性を高めた上で、他者との共助にいかにか意識を向けるかではないか。
- ・なぜ、地域は高校に必要なのか？なぜ、地域に高校に必要なのか？なぜ、高校と地域の協働が必要なのか？という項目毎の講義だったので、とてもわかりやすかったです。質疑応答の時間があって良かったです。
- ・人とのつながりを大切に、まずはやる気のある人、またはやる気にさせて取り組むことで、子供たち、学生たちの学校生活を充実させられること、そして地域も活性化させられることを強く感じました。
- ・一人の教師でここまでできるのか。人間の可能性はいくらでも広げられると思いました。
- ・まちづくりがうまく進まない理由として、地域とその地域に住む学生との関わりがあることは考えたこともなかったため、これからはそのことも考えていきたい。
- ・まちづくりに社会教育機能を活用することは全く同感であるが、現状の行政はそうはなっていない。社会情勢を踏まえた要請に対応すべきと痛感した。
- ・若者のキャリアアップと地域へ帰るきっかけづくりを結びつけるという発想がなかったので目から鱗だった。実践できたら。
- ・地域に出て行って活動している高校生がうらやましく思えた反面、自分が高校生だったら、活動していたか少し考えさせられた。ここまでたどりつくのに様々な問題があるように思う。“大人こそ主体性、多様性、協働性が必要”という言葉は考えさせられた。
- ・幼稚園、保育園、小中学校への防災教育の強化に取り組んでいる本市に、大切参考になったが、学校側のキーマンが必要と強く感じた。
- ・地域の受皿とキーマンの掘り起こしに困難さを感じた。
- ・浦崎先生が人事異動された後、NPO だけで継承できるか不安を感じた。
- ・行政は人事異動によって一発でだめになることを実際に経験してきました。だから NPO という考えにたって今後の施策の推進をすすめていきたいと思います。
- ・とても将来性があり、興味がひかれる内容でありましたが、行政として出来ることの理解が自分として不透明でした。
- ・地域の担い手を育てていくための高校と地域の協働の大切さがよくわかりました。ただ、国の政策により女性が男性と同様に働くことが求められていく時代の中で、学力や社会性が高まる地域要件として「母親が穏やかに過ごせるコミュニティ」が必要となると、働く女性のさらなる負担増となるハードルも実感しました。

- ・学校の先生にかなり負担がかかっているというのは感じていました。地域に役割を担わせるという発想は斬新でとても参考になりました。
- ・学校も含め、理解してもらい共鳴してもらうことは、難有り。講師の様な考えを持った教師がいてくれればいいのだが…。
- ・「進学校を」という所が、そもそも気になってしまいます。お世辞にも進学校と言えないような高校での施策もあれば示してもらいたいと感じました。
- ・概論はなんとなく理解できる。しかし、なぜターゲットが進学校のみなのか？を含め、じっくり考えないと理解できない部分もなかった。新たなヒエラルキーの創出にも感じられたので・・・。
- ・自分の娘が進学校に通っていることから、当てはまることが多く大変私生活においても活用できることが多くありました。まずは家庭から活用していきたいです。

◎活用度 2

- ・学校教育現場の問題点が良く理解でき、地域づくりと社会教育をセットで考える必要があることが分かった。
- ・地域コミュニティの崩壊と子どもの学力が結びついているとの考えは、話を聞いて「なるほど」と感心した。
- ・地域が生き残るためには、まちづくりに社会教育機能を組み込んでいくことが、とても重要なことだと痛感しました。そのためにも”アクティブ・ラーニング”の重要性をよく理解し、高校生を地域コミュニティに巻き込むことがコミュニティ再生の鍵だと思いました。
- ・地域が生き残るために必要な力を高校生と大人とで共働して体得し、成人して地域に帰ってその地域の再生を担ってもらうという明確な目標に共鳴しました。まちづくりに関してキャリア教育は意義があるものと認識しました。
- ・キャリアデザインを行い、人材育成をし、街作りにつなげる手法を学んだ。
- ・講義前は高校と地域づくりがどう関係するのかイメージできませんでしたが、講義を受け、驚きと共に理解することができました。
- ・子どもの数が減少してきている中、私の町内会では、神社の祭典等を通じて、子どもと大人と一緒に活動できる機会がある。今後も積極的に活動に参加し、子どもの地域参加を支援していきたい。
- ・次世代を担う若者をいかにして育成していくのか、それがこれからの重要な命題であることを再認識しました。子どもに関わる大人一人一人がその各々の役割を担う、果たすことが大切であり、また、行政としてそれが実現可能な地域づくり、仕組みを構築することが必要かと感じました。
- ・高校生が地域活動に参加することは素晴らしいと思うが、その仕組みを作ることが非常に難しいと思う。
- ・高校生の地域活動は重要ということはわかったが、やはり部活動や本来の学業との共存は今の社会では難しいのではないかと思う。
- ・講師の取り組み自体は大変評価できると思うが、行政の立場から、介入すべきなのか？ということがよく見えなかった。
- ・成功例としては興味深く聞かせていただきました。ただ、理解不足のせいか、なかなかピンとくるものがなく申し訳ないです。

- ・確かに成功例です。可児高はうまくいったようですが、地元だとなかなか、協力が得られない気がしました。どこか1つの高校に肩入れするようでその後が不安です。
- ・教員の能力、多忙面に触れすぎていた感は否めない。(行政も多忙である)
- ・地域おこしという観点での地域からのアプローチはないものかと考えさせられた。
- ・所々に教員への締めが感じられたが、自治体職員に求める前に、まずは仲間の教員をまき込むべきでは？

◎活用度 1

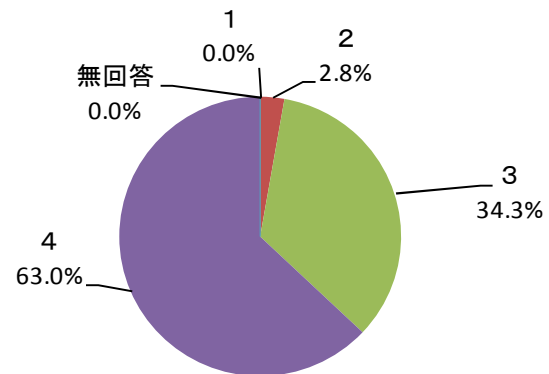
- ・内容がとても高度で難しかったです。地域一丸となる取り組みは素晴らしいですが、卒業生が地域に戻ってくるようにならないとつながっていかないのでは。
- ・全体的に早口でスライドのページ展開も速い印象でした。先生としての立場と行政の立場では違うので考え方のズレを感じました。高校は進学校ばかりではないので、協働の相手を決めるのに難しく、県教委との関係もあるので活用は難しいと感じました。
- ・申し訳ありませんが、正直何を意図されているのか理解できませんでした。取組は素晴らしいものだと思いますが、5年後、10年後の状況がどうなっているのか気になります。

【講義5】「教育から始まる地域活性化と地方創生～全国に広がる教育魅力化プロジェクト～」

(株)Prima Pinguino 藤岡 慎二 講師

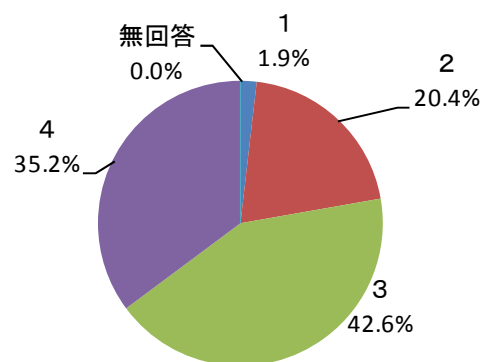
N=108

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	2.8%
	3	37	34.3%
	4	68	63.0%
	無回答	0	0.0%
合計		108	100.0%



N=108

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	2	1.9%
	2	22	20.4%
	3	46	42.6%
	4	38	35.2%
	無回答	0	0.0%
合計		108	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・「教育」がいかに大切か、「ヒト」に重きをおいた取り組みでないと、未来へとつながらないという思いは以前から持っていましたが、藤岡先生のお話をお聞きし、さらに思いを強くしました。日々の仕事でも意識して取り組みたいと思います。
- ・「守る」のではなく「攻める」という考えがすばらしいと思った。
- ・教育においても地域の特性を活かしたプログラムは確立できる。
- ・そのプログラムをブランド化すれば地方であっても都市の子供との差がなくなり、地域活性化にもつながることが理解できた。
- ・魅力の”気づき””活用”はすばらしい。
- ・教育と地域活性化を結びつけたことは大変勉強になった。
- ・今取組んでいるスポーツを通じた地域活性化に地域に人材を育て、また呼び込もうとしていこうと考えていたが、その一助（解決手法のひとつ）になると思えた。
- ・色々なところで実践して、ある程度確立されたスキームをお示しいただけ（カリキュラム改革／寮・留学／公営塾）、活用しやすいと感じた。
- ・沖縄の事例もあり、教育環境から移住政策⇒少子高齢化にまで関わってくるというのは目からウロコでした。
- ・お話を聞くまで、地方創生は「しごと」からと認識していました。教育の重要性を地元で周知したい。

- ・画一的、均等ではない学校での教育がこれからの地域創生につながる理由がよくわかった。教育分野に限らず、個性・特色は地域づくりの基本になると考えることができた。
- ・風と土の考え方は大事にしたいと思います。地域から強くブーメランを投げ出すこと。地元でも伝えていきたいと思います。
- ・学校の廃校と地域の衰退について、実例による説明が分かりやすく、普段意識していない関連性に、我が市はどうだろうと不安になりました。地域で真剣な大人と真剣に向き合うことで成長していく高校生と地域の関係を、今後地元に戻った後の取組の参考にできたらと思います。
- ・教育、学校をつくることは、地方創生のカギであることに勉強になった。厳しい状況は逆にチャンスであると。
- ・教育環境を整備し、地域活性化につながった事例を学び、子育てがまちづくりの重要な要素であることを認識した。
- ・教育の力が地域の盛衰の鍵を握るとするのは、とても説得力がある。教育に携わる際には大いに参考にしたい。
- ・具体的な事例を詳しく聞いたことで、今後の自分の一助になると感じています。
- ・高校の魅力化の取組が良く分かる良い講義でした。当市においても県立高校が2校ありますが、入学者数が少なく統廃合の話があります。この研修を参考に高校との連携を考えてみたいと思います。
- ・子育てしやすい環境づくりのための「教育」の重要性を再認識しました。本県でも移住促進に力を入れているので、紹介された取組みを参考にしたいです。
- ・答えが解らない（ない）時代ですね⇒自分で見つける。◎ブーメラン。
- ・事例はテレビでよく知っていたので、実際生で講義を受けることができ嬉しかったです。できればもっと長い時間で、じっくり話を聞きたかったです。
- ・地域活性化と教育が密接につながっていることが良く理解できた。その中でも高校教育が特に大事であることも理解できた。
- ・地域活性化に教育は重要であることは、認識していたが、藤岡先生の体験談をもとにした講話で、本市でも実践すべきことがたくさんあると感じた。
- ・地域それぞれの魅力、取組みを、いかに高校生に伝えていくかを考えさせられました。本市においても総合学習に取り入れられればと思いました。
- ・地域を育てる力を学び、愛郷心をもってブーメラン人財となる人、また地域の習わし等を継承していくべく覚悟を決めて地元で暮らしていく人を育てられるよう、地方の魅力化を推進することが我々行政の役目であると改めて認識できた。「志を果たしにいつの日かかえらん」と考えることができる人財を一人でも増やしたい。
- ・中山間地の高校では、生徒の確保が深刻な課題。他校と違う地域の特性を生かした学校作り、自治体と一体した取組が必要と感じた。それがひいては地域活性化につながっていくと感じた。
- ・テンポ良い講義で良かった。内容もわかりやすく、聴きやすかったです。
- ・内容が非常に分かりやすく、かつ実現性は高いのではないかと感じた。取り組みやすい内容と感じた。
- ・廃校により人口が一気に減少するため、魅力のある学校づくりが重要と学びました。

- ・早口で、聞きとりづらいところがあったが、魅力的な話であった。
- ・人を育てるということは、地域を育てることに直結していることを改めて感じました。学ぶことが目的ではなく、学ぶことを自分の目的を達成するための手段にできる、子ども達をどう育むかが地域再生につながることを学びました。
- ・本県にも存続の危機にある高校があるため、全国に成功事例がある事は勉強になりました。
- ・前コマの講義と重複した内容も多かったため新鮮さには欠けていたが、公立塾などの動向や高校教育（今求められている）がよく理解できた。この講義に限らず、このような世の中の動きを知らなかったことを本当に反省している。
- ・難しい問題をあれほどわかりやすく教えていただいた講師に出会えたことはとても良かった。
- ・若くて素晴らしい実績を残しており、話の内容にも感銘を受けた。
- ・スライドの使い方と説明の組み合わせが上手く飽きさせなかった。0A 入試を積極的に活用しようとする大学の姿勢も、現時点での成功の原因と思うが、0A は一時期逆風が吹いており、大学の姿勢の変革がそのまま進歩することを期待したい。移住者の仕事の例が分かるとより参考になった。
- ・東浦町でも町内唯一の高校が統廃合によりなくなる可能性がありました。高校がなくなっても近隣市町にもあるので支障は少ないと言われていましたが、改めて学校（教育）の大切さを認識しました。
- ・私の住む高野町でも、少子化により同じような現象となっている。公営塾や寮などについて検討していたので、大変参考となる講義であった。もう少し時間がほしいと感じた。
- ・自分の子どもに何を学んでほしいかを考える良い機会になりました。

◎活用度 3

- ・離島において成功事例が多いと感じた。
- ・山間地における魅力化PJの成功例を全国へ発信していきたい。
- ・わかりやすい説明、面白い説明で楽しかった。
- ・本県でも移住、二地域居住を推進しており、参考にしたい。
- ・いろいろな角度から地域を盛り上げる面白さを感じました。
- ・インパクトのあるパワーポイントでわかりやすかったです。天売高校の定時制の生徒の全活発表を聞いたことがあります。高校生の力ってすごいと思いました。
- ・浦崎先生の講義と重なる部分があることがおもしろかったのですが、課題を逆手にとって良い題材にしてしまう地域の方の想いが大変興味深い点でした。
- ・浦崎先生の講義と同様に高校生を地域と関わらせることは非常に重要であると感じた。IターンよりUターンできる環境づくりが必要。
- ・各地域の先進事例がよくわかり、とても参考になった。
- ・学校が無くなり、人口が半減した町を見て、当県も近年、中高の統廃合が行われたため、人ごとではない思いだった。
- ・学校と地域にこれほど関わりが深いと感じたことはこれまでなかった。我々の地域も人口減少が激しいことから、今後の業務の参考としたい。一点、スピード感についていけない所もあり、自分自身の向上も必要と感じた。

- ・聞けば当たり前のことをやることで、地域が1つのブランドになっていく過程が素晴らしい。
- ・義務教育ではない高校が地域衰退の要因となりうること、逆に活かせば活性化の一助となることを知り、都市自治体として近々に地域間競争の一つの指標になると感じた。
- ・教育で移住・定住を促進するためには、指導力のある先生を招請して有名大学への合格実績をつくる必要があると思うが、実力のある先生の招請に用する費用はどうやって捻出するのか。
- ・教育は地方の方が有利であるという点が勉強となった。自分にとっては新しい考えであった。教育と地域活性化について、自分の自治体について改めて考えてみたい。
- ・教育力が落ちると少子化が進み、人口が減るをキーワードに過疎の離島の高校生を主体にしたユニークな手法で様々な仕掛けをしながら盛り上げ継続していくことはすごいことだと感心するとともに、本町の高校生にも取り入れればと思った。
- ・高校からのまちなたて直しの発想はすごく感動しました。
- ・高校の魅力化が地域の活性化につながるという話が理解できた。
- ・公と民が協力して、危機的な状況を脱する取り組み事例を具体的に知ることができ、大変有意義であった。仕組みづくり等についてももう少し知りたかった。
- ・答えのない問題に答える力と地域でしかできない高校教育があることが分かりました。取組方法も参考になりました。高校魅力化している事例はとても参考になりました。
- ・この講座も将来性があり、大変興味がひかれる内容で、行政としての立場も説明していただき良かったです。
- ・様々な事例の中で教育の活性化を通じたまちづくりを知ることができた。事例のキッカケや苦労などをもう少し知ることができるとよかった。
- ・様々な地域における地域活性・人材育成の方策の事例の紹介がなされ参考になった。既成概念にとらわれることなく新たなことにチャレンジすることの重要性を再認識できた。
- ・市民価値を上げることが、少子化対策の切り札であり、その切り口としての教育の魅力化の講義であった。「地域に学び、地域を活かす」、各自治体にもまだまだ取組む余地がある。
- ・少子化による廃校が地域の衰退を促進、島全体を教材とし、高校を魅力化することで定住促進が図られた。1、2時限目の浦崎先生と同様、高校が地域を再生する鍵となると思った。
- ・小中学校の廃校が地域の衰退につながっていくという意識を持ったことがなかったので、新鮮であった。都市部と過疎地域を併せ持つ大きな自治体では、とかく都市部に意識が行きがちである。もっと地域の活性化につながる活動が必要であると感じた。
- ・大変興味深く有意義な講義でした。若者を単に地元に残すことを考えるのではなく、若者が地元に戻ってくることを、また、戻ってきて地域を盛り上げる人材に育てていく仕組みを行政と考えていく必要があると強く感じました。動けば変わる。動かなければ何も動かないことを胸に実践していきたいです。
- ・大変現実味のある内容でした。「仕事がないから帰れない」ではなく「仕事をつくりたい」という地域にしていきたいです。
- ・地域活性化には「高校」の存在が重要であることが分かりました。その地域の特徴の見極め、行政の関わり方をどうするかを考えなければなりません。地域づくりは人づくりであることが大切であると思いました。

- ・地域の現状に合った教育の魅力化をはかることにより、地域が活性化するという仕組み・流れが理解できました。我が市において市役所職員が目指すべき姿は何か、そのためには何ができるのか考えさせられました。もっと色々な事例を学び、本市のヒントを得たいと思います。
- ・地域の弱点を逆に強みに利用する。今までの教育が地方を否定する方針だった事が分かりました。地域が活性化するのは学校も一因である事が分かりました。
- ・とてもプレゼンテーションが上手でまずそこに感動しました。人が地域に定着するために必要な高等教育が大きな影響を与えることを学びました。
- ・内容はとても良く、講師の方もできるだけ分かりやすく伝える気持ちは良かったが、時間が少なく早口で分かりづらい所もあった。
- ・なかなか難しい話でした。当町は地方の側なので、出ていった若者が戻って来られる環境が作れたらよいと思います。
- ・非常に魅力ある学校で、移住の動機づけに大きく影響すると感じました。インターネットを使った授業や自主勉強など、教育資源の乏しい地域に活用することで教育格差の是正につながるのではないかと思います。
- ・ブーメラン人材について「風土」とは、どのようなことかが大きなヒントになりました。
- ・魅力ある教育を進めることで、離島の問題を解決していることがすばらしいと思った。自分の地域の現状においても、地域の独自性、長所、短所を分析し、魅力化できる部分を探し、地域再生につなげていきたいと思った。
- ・ユーモアも交え、飽きないように話していただいた。地域の弱みを強みとすることで、教育と通じた魅力化が図られるのだと思った。
- ・離島や山村などの過疎のまちでも、インターネットで教育を受けられることで学校を存続できるのはよいことだと思う。
- ・隠岐島の事例が興味深かった。高校閉校が地域に与える影響について深く知ることができた。
- ・唱歌「ふるさと」の「志を果たしにいつの日か帰らん」メッセージが印象的。こんなにも事例があるとは驚きだった。
- ・企業誘致のヒントを聞いた気がします。
- ・過疎化による生徒数の減少は東根市では東部地区、西部地区の小・中学校でおきている問題で、中部地区は逆に過多の状態です。こうした市内でのかたよりの解消という目的にも、活用することができるのではないかと感じました。
- ・自分の住む市（常陸太田市）でも、何年後かに2つの高校の統合があります。なくなると分かった高校はすでに「なくなるなら受験しない」という話が出ているそうです。身につまされる思いです。動き出すその一歩がなかなか出ません。
- ・東京都下の市の職員であるため、廃校がコミュニティの急激な衰退につながるという事実には衝撃を受けた。逆にいえば、教育・福祉・医療の要素をうまく活用すれば、コミュニティの持続に効果を発揮することが理解できた。
- ・長崎にも離島への留学制度があるので、こういう成功例を参考にしていきたい。

◎活用度 2

- ・「答えのない課題について考える力」を地域に通じて学ぶ。オンリーワンの教育を目指せば地域も変わる。
- ・移住定住を進める中での最近のトレンド、来られる方が何を期待し、何が大事と考えているのかが良く理解できた。教育が将来につながることを改めて認識できた。
- ・過疎地域では学校がなくなるという問題は喫緊であり、コミュニティを重視した大学入試制度の改革で魅力ある地方に人が集ってくることを期待したい。
- ・過疎を逆手にとり地域の高校を魅力化して移住定住の促進の攻めの成功例について理解できました。ブーメラン人材を育てるという言葉が印象的でした。
- ・学校を再生させる取組が各地で行われているが、地域とのつながりが必要である。
- ・教育・医療・福祉を充実させる地域こそ移住・定住につながり、その中でも学ぶだけではなく実践する教育を行うことが地域づくりにつながるのだと感じました。
- ・教育退職者の方々を活用した公営塾の開催など、出来るところから教育環境の充実を図り、定住につなげていきたい。
- ・教育と地域活性化は強いつながりがあるとは感じていませんでしたが、分かりやすい事例でした。
- ・具体的な事例を伺い、地域活性化の鍵が教育にあることが良く分かりました。
- ・高校でキャリア教育を実施する重要性を感じました。高校では勉強できることより問題を発見し、解決していくことを学ぶことが大切だと感じました。
- ・これまで地域の再生に高校の魅力化が関わってくるとは考えたこともありませんでした。また地方の高校ではこのようなプロジェクトが行われていることも知らず興味深かったです。
- ・少し早口で聞きとりづらい部分はありましたが、全体を通して興味深く聞かせていただきました。特に僻地の学校の問題点、今後の取り組み方などは考えさせられました。
- ・先進的な事例を基に、教育に着目した地域活性化の取組の手法が凄いと思った。少し声が聞き取りにくかった。
- ・楽しい講義だった。どんな地域でも可能性はあるということを学んだ。同じ県内の大崎海星高校のプロジェクトについて初めて知った。「高校魅力化プロジェクト」が今後も増え続けることを期待する。
- ・地域活性化のためには教育を魅力化することが効果的で、先進事例としてはゼミ形式での学びやキャリア教育の導入などが挙げられる、という主旨だと理解しました。
- ・発想の転換というか、ピンチをチャンスに変えるというか、まさにそういうものの好事例だと思った。
- ・魅力があれば僻地に子どもが集まるし帰ってくる。
- ・うちの市町村ではまだ高校が複数あって、再編の動きもにぶいのだが、この研修に参加して高校がなくなることへの危機感でこんなに強いんだ、たいへんなことなんだとひしひしと感じた。帰ったらうちの状況も確認したい。
- ・近年ではさまざまな分野で価値観が多様化しているので、教育のあり方も非常に多様だと感じました。とくに義務教育年齢をこえた高校教育は自由度も高まり、色々な可能性があると感じましたが、直接市の政策とは関連性が少なかったです。

- ・小規模都市の事例が多かったが、現在では、中～大規模都市での教育課題は山積である。今後のプロジェクトの紹介は20～50万都市での試みも教えてほしい。
- ・大変参考になりましたが、今後に活かすにはどうしたものかと考えています。
- ・いっそのこと全国の高校を藤岡さんに任せればいいんじゃないですか。

◎活用度1

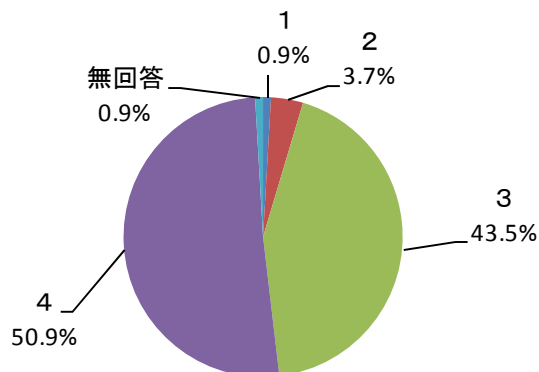
- ・高校教育に魅力化をするというのは、いわゆる普通高校が中心となっていると考えられる。自治体として、高校の魅力を地域と結びつける起爆剤をどうするかが問題。また、地方に学生を集めたあとのドーナツ化後、この世代が高齢化した時がまた同じ問題がおこりそうである。
- ・CMの印象は以前から気になっていたもので、今日海士町だとわかりよかったです。ただ、特殊な状況でしか活用できないと感じました。

【講義6】「地域づくりのマネジメントーつながりをつくり創発を生む仕組みづくりー」

慶應義塾大学 SFC 研究所所長／総合政策学部教授 飯盛 義徳 講師

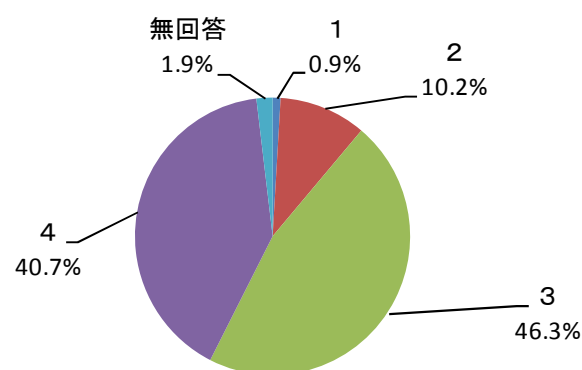
N=108

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	0.9%
	2	4	3.7%
	3	47	43.5%
	4	55	50.9%
	無回答	1	0.9%
合計		108	100.0%



N=108

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	0.9%
	2	11	10.2%
	3	50	46.3%
	4	44	40.7%
	無回答	2	1.9%
合計		108	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・“ストーリー” “関わり” が人を動かし、成長させる（人や事業）ことをわかりやすく説明していた。
- ・「活用ある学問」という話が印象的でした。普段何気なく生活していると見過ごしがちな身近な資源をどう生かしていくか。常に「想像」「創造」の視点で取り組んでいければとあらためて考えさせられました。
- ・一歩ふみ出す勇氣、実践につなげる勇氣を持ちたいと思いました。多くのキーワード” 学び合い”” プラットフォームの設計”などを教えていただきました。今後役に立てていきたいです。
- ・今あるマンパワーを生かすのではなく、5年後、10年後に生きるマンパワーを育てることが、地域を活性化させる鍵なんだと学ぶことができました。人材ではなく人財をいかに育てることができるかで、私達の市が今後どうなるかが決まるんですね。
- ・境界領域の特性を活かした自発的な活動の誘発や、地域の人々が主役となるためあえてブリコラージュを求める手法について勉強になりました。
- ・行政主導で1～10まで行政でやることよりも、市民県民にやってもらう。持ち寄ってもらい関わってもらうことで興味を持ってもらう。
- ・行政の役割（できること）に気づかせていただいた。また、砂浜美術館のように地元の魅力を再認識したい。
- ・具体的な取組みと理論が整理されていて、興味深く聞くことができた。
- ・具体例だけでなく、それらを理論としてまとめて下さっており理解が深まった。
- ・現在、当市で実施している事業（居場所づくり）、今後（将来）の方針がみえた感じがした。

- ・現在、当市で進めている取組と重なる部分が多く、大変興味深く話を聞かせていただいた。
- ・子どもから学べるのがすばらしいと思った。
- ・これまで受講した地域の人財育成のための行政の役割を改めて整理することができた。命令や強制をせず、次々と新しい自発的な活動が生まれるような効果的なプラットフォームを作っていけるよう心掛けたい。
- ・これまでの総まとめの感じで構成が良かった。地域の人が信頼している行政がプラットフォームの中枢を担うというのは私の考えと同じです。
- ・佐賀市の事例を中心に話が聞けて良かったです。改めて「ヒト」を育成することが地域活性に繋がることを教えていただきました。
- ・資源づくり「資源を生み出す」話は興味深かった。
- ・事例を入れながら、わかりやすい講義でした。何も無いのではなく、資源にしていくということが心に響いた。
- ・砂浜美術館の話は感動的でした。また、様々な地域での取組を知ることができた他、自分ももっと頑張る必要があると改めて思った。
- ・ソフトな語り口調で聞きとりやすくわかりやすかった。お話を聞いていると自分も何かできることがあるんじゃないかと自然と思えた。踏み出す一歩を捜したいと思う。
- ・立ち上げるプロジェクトの魅力が良い。発想は、多様な人々の考えをどう形にできるか、成功するようにすごく考えられている。
- ・地域資源が少ないところでも、見方を変えれば新しい産業を生み出せる良い事案と思いました。このような視点を持ちながら、日々の業務に取り組みたいと感じました。
- ・地域づくりにおける人づくりの重要性について再認識できた。また、地域づくりを成功に導くためのプロセスのみだけではなく、事例紹介もあり理解しやすかった。
- ・地域づくりにとって重要なのは、人づくりであることを強く感じ入りました。
- ・地域づくりには、そのためのプラットフォームが必要ということを実例をあげながらご講義いただいたので、大変分かり易く、面白かったです。
- ・地域づくりには人づくりが大事であり、我々の仕事は、これらの人材の育成にあることが改めてよく理解できました。信頼を与えることのできる行政の人になれるように努力していきたいと思いません。
- ・地域づくりの上手くいかない状況を突破するような思考とプロセスを得たと思えた。是非、活用して取り組んでみたい。
- ・地域づくりの活動で目指すべきことは、新しい自発的な活動を生み出すことということを認識した。
- ・地域づくりの基本は人づくりということをおぼろげに感じました。「活用ナキ学問ハ学問にアラズ」を忘れずにここで学んだことを地元で活用したいと思えます。
- ・地域づくりのマネジメントについて。
- ・地域づくりは人づくりであること、次々と新しい自発的な活動が生まれるイノベーションが必要であることを学び、一過性のものでなく、つなげていくことが大切であることを認識した。
- ・地域の”資源”をみつめ直し、工夫により新たな魅力が生まれることを学んだ。
- ・地方創生はひとが重要。人づくりを通して、地方創生策を模索していきたい。

- ・地方創生はひとが重要。人づくりを通して、地方創生策を模索していきたい。
- ・当市においては、長年の懸案であった駅前にコミュニティの核となる公共施設が建設されます。先生の話にあった人と人をつなげる仕組みをこの施設を起点に何かできればと考えています。
- ・どう主体性を持ってもらうか、とても参考になりました。
- ・初めて地域づくりにおける社会的創発やプラットフォームという言葉を知った。私も地域づくりを進める上での参考とさせていただきたい。
- ・非常に説明が分かりやすい。デメリットに感じやすい事業を逆用し人とのつながりを広げようとする発想の柔軟さに大いに感銘を受けた。
- ・人づくりの重要性について再認識しました。
- ・人と人をつなげることを念頭に業務に励みます。
- ・プラットフォーム、キーマンとなる人材を地域に見つけることができると、まちづくりが上手くいくと思いました。
- ・プラットフォームづくりの大切さを実感しました。地域への学生の参加など、本市においても行っているので参考にしたいです。
- ・本県でも、地域づくりを担う人材育成のための取組を行っているので、他地域での事例や効果的なプラットフォーム設計のポイントについては非常に参考になりました。
- ・東浦町では新しい取組として景観計画を策定し、条例化を進めています。町内には城下町があったというような特徴的なものがないのになぜ景観といわれますが、ずっと住んでいて気付かない→まず「気付き」からというキーワードを付けて意識共有しながら進めています。新たなアクションをこれからおこしていきますが、Tシャツなどのおもしろいアイデアは参考になりました。

◎活用度 3

- ・NPO の取組内容により活動する際のマネジメントや地域の資源化プロセスによる地域づくり、プラットフォーム設計のイメージによる地域づくりの事例は参考になりました。
- ・イノベーションを創出するため、事例を踏まえた手法を学んだ。プラットフォームを設計し、調整することが必要ということが解った。
- ・全国で取り入れられているまちづくりについて詳しく説明していただき参考になった。地域づくりには効果的なプラットフォーム設計が必要であると感じた。
- ・地域づくりは「人材」が大事であるが、人材を育成するにはプラットフォームの設計が大事であることが分かった。行政からの押し付けではなく、自主性を芽生えさせることが一番大事だと分かり、活用できそうだと思った。
- ・地域を自主的に活性化させるためには、基盤となるプラットフォームの設計が重要であることが理解できた。共助による持続可能社会形式のための基礎として活用していきたい。
- ・人、物、金、情報といった地域資源を活かし、上手にプラットフォームを作ることが地域づくりのベースとなることがわかりました。
- ・全講義の総論のような印象でした。これまでの講師の方々が実践されている取組を理論として捉え直すことができたと思います。やはりボトムアップ型となるような地域づくりの制度設計が重要だと認識しました。

- ・地域づくりは人づくりであり、その土台をうまく動かすことができる人材が必要。トップダウンでは動きづらいことが学べた。
- ・「商品売るためのマーケティングが地域の勉強につながる」「資源を持ち寄ることで、自分達のものだという意識を持つ」ということにとっても納得し、動機づけとして行動してみたいと思いました。行政が何を行うべきか、今後も考えながら生かしていきたいと思いました。
- ・NPO 鳳雛塾の話が興味深かった。小学生にマーケティングを行わせることは大事だと思う。
- ・地域に主体性を持ってもらうための仕掛けが重要と感じた。
- ・そのためのコーディネータを継続的におけるかが課題。
- ・住民がメリットを感じられる場を見つけることが重要。
- ・新しいつながりの場の提供により、自分ごととして活動できる人材を増やせるようにしていきたい。
- ・今までは、行政が主体として何かをしなければいけないという風潮が、地域の考えとして多くみられたため、どうしても行政発信の事業にならざるを得なかったが、今後は、場づくりの視点から、地域づくり人材のサポートする視点で努力したいと感じた。
- ・大きな組織に属して、地域づくりと縁遠い業務を行っているので、耳にすること全てが新鮮に感じられる。
- ・近所づきあいはいはしたくないが、いざというときのために地域のつながりは必要という考えを持つ人が多い中で、内でもなく外でもない境界域という考え方は、地域づくりにおいてとても良い発想だと思った。
- ・高知県のアドバイザーということで一度講義を受けたこともあり、楽しみにしていた講義の1つでした。組織の立ち上げから運営をととても分かりやすく解説していただき勉強になりました。
- ・ここでもやはり教育とまちづくりの密接な関係が述べられた。地方創生のための「ひとづくり」に、市職員としてどう人と人とを繋げていけるか、できる限り動きたいと思った。
- ・これまで地域活動に対しては消極的でしたが、お話をうかがって、地元でもやってみたくなりました。
- ・仕組みづくりが大切で、その部分を行政が行うことは時々ある。その仕組みが行政の手を離れた時に続くかどうか肝心だが、そのヒントになる講義であった。
- ・資源を生み出すというのは目から鱗でした。また、人間関係を築くうえで、グレーゾーンの大切さというの、びっくりでした。
- ・徳島県上勝町のいどりのように、地域の葉っぱや高齢者などの資源を発見し、産業に結びつけるというお話でした。また、境界域にいる弱いつながりの人をどう巻き込んでいくか、ということが重要と感じました。
- ・地域づくりで大切なことは、ヒト・モノ・カネ・情報の4資源。資源がないのではなく、資源にしていく一歩を踏み出す勇気を持つことが大事なんだと感じました。
- ・自治体の政策（町づくり）を進める上で、多くの住民が関わり、地域にある資源を最大限活用することが必要と感じた。
- ・自分たちのまちを自分たちで何とかするという意識が地域再生には必要だと感じました。活動の場をつくることで、自発的に活動が生まれるのはとても興味深いと思いました。

- ・自分の村、地域は何も無いと考えるのではなく、資源はどこにでもある。そこに気が付くか、気が付いて持ち寄れるか、そのポイントはそれを気付かせてくれる（気付く）地域の人であると分かりました。（地域の人と人をつなげる）
- ・地元の人では気付かない、違った視点で見ると、思わぬ所に資源があるかもしれない。地元へ帰ったら、そういう視点で見直してみたいと思います。
- ・社会的創発を生み出すためには、人ごとではなく、自らも参加してできることからどんどん始め、地域の中でいろいろな人を巻き込んでいくことが重要であるということ学びました。
- ・人財塾の講義を聞いて、総じて「地域づくり」は「人づくり」この一言に尽きると思います。逆に自治体が主役になってはいけないと感じました。
- ・地域活性化に興味を持つ学生が増えているというのは有益な情報でした。
- ・地域資源の再認識が地域活性化にどのように活かされるかというプロセスが興味深かった。
- ・地域づくりというと、強い関係性のメンバーによるものと認識していた節があったが、弱い関係性のメンバーの融合も必要であり、自治体職員としてそういう人たちを繋げていく仕事の重要性を感じた。
- ・地域づくりの成功した事例を詳しく説明していただき、地域づくりにおける人づくりの重要性を再認識させていただきました。失敗例があれば聞いてみたいです。
- ・地域づくりのマネジメントにおいて、行政の役割は人と人をつなげ、活動の場に信頼を与えていくことであると理解しました。まずは実践だと感じました。
- ・地域づくりは命令や強制をしないで、自発的な活動が生まれる制度設計をすることが大事。
- ・地域に入って実体験をすることは、今回の研修を通じて、様々な目的があっても、そのプロセスに多大で効果的なものであると改めて感じさせられました。また、仕掛けは用意したとしても、そこに本人の意思が発生すれば自ずと活動が大きくなったり、継続的となったり、新たな活動を生み出したりと、難しいですがそういう意思・気持ちを自ら持てるような取り組みをしていきたいと思います。
- ・人とのつながりにも特性があること、これをうまく利用し、地元と関係団体と交流することで大きな効果が生まれることを学んだ。一步踏み出すことを大事にし、業務に活かしていきたい。
- ・プラットフォーム設計の具体例を聞いたのはいいが、行政としてどう関係していけばいいかがはっきり理解できなかった。
- ・まちづくり協議会をつくり、地域に根ざしたまちづくりを進めているが、地域リーダーの人間性で大きく変わってしまう。
- ・まちづくりのヒントをわかりやすく事例を用いて知ることができた。自治体として人づくりを進めていきたい。
- ・目的を明確にして主体的に学び、それを実践することが大事であるということに共感しました。
- ・大学との連携事業は近年注目されることが多く、当市でも積極的に取り組んでいるので、勉強になりました。地域資源や人材の活用のアイデアがとくに若い世代にウケる方法で提案実践されているという印象を受けました。
- ・一步踏み出せるかどうか！地域づくりの肝は、次々と新しいアイデアや活動が自発的に生まれること。それをねらった“つながり”“場”づくり。自分のことと思わせ、いかに持ち寄らせるか。

- ・私たち公務員の一步が大きくなうねりになるのではないかということですが、その一步を踏み出す勇気がもてない場合はどうすればよいのかが知りたいです。
- ・今までの講義と似通ったものであったが、若干抽象的な内容であると感じた。
- ・一番丁寧に話されていた。
- ・西脇市でも関西学院大など学生と連携し始めている。今後も継続していく必要があると改めて認識した。
- ・山梨県内にも芝の家のようなコミュニティ施設が必要だと感じた。特に高齢者集落で活用できるのではないかと思う。

◎活用度 2

- ・「資源がない」のではなく、「資源にしていく」事例が良く分かった。「人材づくり」については、なかなか難しいと思った。
- ・資源の持ちよりによって自分のことだと感じてもらうことで主体性が生まれてくるのだと認識できました。
- ・ずっと住んでいると気づかない。よそ者から見る。プラットフォーム設計。皆対等。
- ・全国地域づくり人財塾の最後となった講義でしたが、やはり地域資源の掘り起こしと確保、発展、承継が大切なのだとまとめとしてしっかり刷り込むことができました。
- ・地域創生のキーワードはやはり人であると思った。その地域に住む人が個々にできるものを持ちよれば、その力は十分地域の活力として活かせると思った。
- ・地域づくり（＝人づくり）に人のつながりを創り出すことの重要性を学びました。地域に信頼をもたらせるのは、行政であることを認識し、まずは場づくりから、そして町にあるもの（資源）を持ち寄り、活用していくことを実践していきたいです。
- ・地域づくりに欠かせない人材育成、人がつながっていくことがいかに必要か学んだ。地域資源（ヒト・モノ・カネ・情報）は、富永先生も言われていたが、改めて再認識し、うまく活用していけないといけない。
- ・なにもないことからなにかをつくる・創造することが必要であると思いました。
- ・講師の説明は丁寧に分かりやすかったが、何を訴えたかったのかが漠然としてしまっていた。どこかにフォーカスを当てて掘り下げただけだと興味も持てると思う。
- ・ちょっと良く分かりませんでした。
- ・何で K0 大学の学生達が時々富山県の山間部や中心商店街に来ていたのか謎が解けました。

◎活用度 1

- ・正直、大学の講義をきいているようで、私には伝わるものはありませんでした。

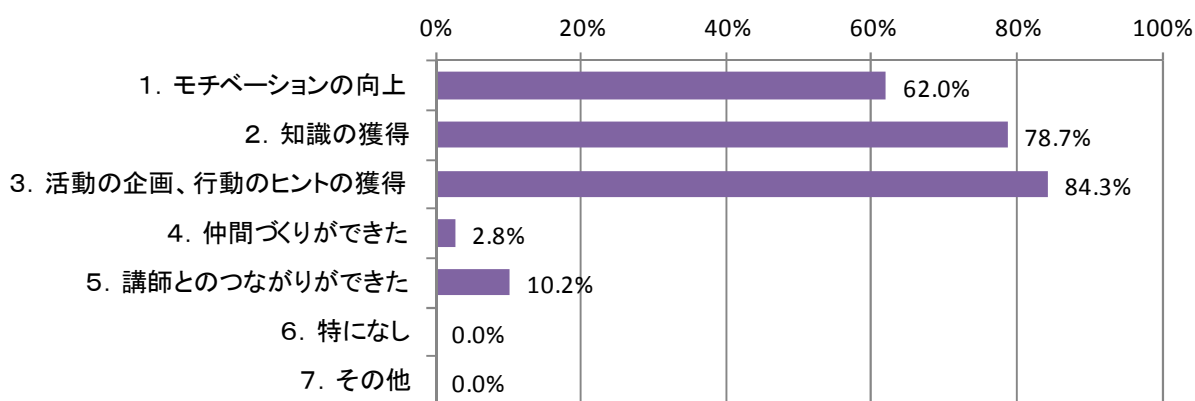
◎活用度 無回答

- ・地域課題の解決にはキーマンが必要だが、大学教授も行政マンも、その立場を離れなければ、できない歯がゆさを感じる。行政においては、風土の変革が必要であると感じた。
- ・人とのつながり、特に資源持ちよりによる地域活性化推進隊の組織づくりは合理的なシステムであると感じた。

(2) 研修全体について

①人財塾の良かった点についてお伺いします。下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。

N=108		
	回答数	%
1. モチベーションの向上	67	62.0%
2. 知識の獲得	85	78.7%
3. 活動の企画、行動のヒントの獲得	91	84.3%
4. 仲間づくりができた	3	2.8%
5. 講師とのつながりができた	11	10.2%
6. 特になし	0	0.0%
7. その他	0	0.0%



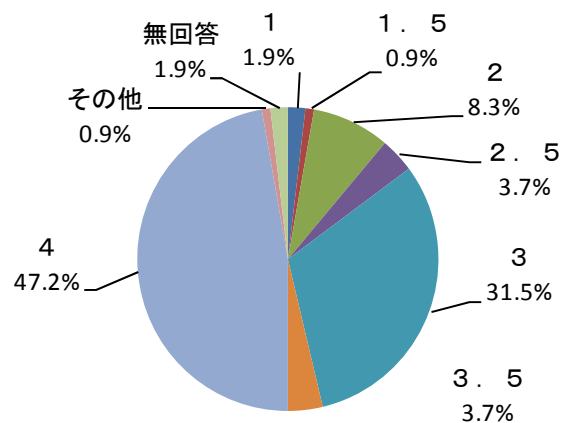
<その他内容>

- ・公助と共助の関係について改めて考える機会になりました。
- ・これからは公私ともに地域づくりに取り組んでいきたいと思えます。
- ・今の仕事に直結はしませんが、一流の講師陣というだけあってその道の第一人者の方々とお会いする事ができ、刺激を受けました。
- ・いろいろな分野で活躍されている講師の方から話を聞いて有意義な時間を過ごすことができた。
- ・各講師の情熱に当たり、熱にうかされたような感覚になっています。周りを感化させられる人物にならないと！と思いました。
- ・現場力のある講師は説得力が違う。その意味で、すばらしい講師陣であった。
- ・講演を聞いて知識が増加し、業務へのヒントになると思うが、活用できるかは非常に難しいと思われる。
- ・講師陣の質がとても高く、非常にためになりました。私も市民協働をテーマとした研修を担当しているので参考にしたいです。
- ・講師の方、皆さんの実践に圧倒されました。どの取組も、皆が当事者意識を持って主体的になっていることが要と思います。自分に何ができるのかを考えさせられます。
- ・講師の皆さんの熱い思いに触れて大変刺激を受けた。行政は住民に対して地域活動の参加を呼び掛けるだけでなく、行政自らが地域活動に参加することが大切だと感じた。私自身、今まで地域活動に積極的に取り組んできていなかったが、地域活動に取り組むモチベーションが上がった。

- ・これからの地方創生の中で、行政、教育機関、地域のつながりの重要性がいかに大事であり、ポイントであることを学んだ。これからの各業務において、大きなヒントを得た。
- ・さまざまな視点での幅広いアイデアや事例を聞くことができ、参考になりましたし、考え次第でいろんな可能性が広がることを実感しました。
- ・様々な事例や全国的な取組を知ることができ、身近に感じることができました。ただ、地元でまとめるリーダーは、いろいろな知識や技術の獲得が必要であり、そういった人材の発掘や育成の方法について知ることができたが、難しそうだった。
- ・自分が普段考えることのなかった視点や角度から、現在社会が抱える様々な課題について、その現場の最前線で活動されている先生方のお話をお聞きすることができ、大変刺激の多い研修となりました。
- ・社会問題を真剣に考えて、その解決策を自分で考えて自ら行動している方々が、様々な地域におられることに対して感銘を受けた。
- ・地域づくりの原点は何か？が理解できました。
- ・地域づくりの本質は人づくりであるということを改めて認識させていただいた。第一線でご活躍されている先生方の熱い思いを直接伺うことができたことは貴重な経験であった。
- ・地域の活力を向上し、魅力を高め、地域の自発的な活動を促進し、帰ってきたいと思える地域人づくりのための行政の役割を認識できた。また一流の講師の方々とも名刺交換させていただき、移住定住を促進する現在の業務から学んだことを役立て実践していきたい。
- ・どの講義も大変興味深く、考えさせられた。取りこんでいきたいと思う反面、当市で実際に・・・と考えると、うまく取りこめるかどうかという思いはある。ただ、人とのつながりを大切にするなど、できるところから取りこんでいきたい。
- ・どの講師も地域資源や人、団体を発見することが重要とお話しされていたのが印象的でした。
- ・日頃の仕事の中で難問が多くふりかかってきます。特に新しい事をはじめることが多くなってきていますが、そのような時に講師の事例を説明いただき、同じ様な状況を乗り越えることで自分のしていることも間違っていないのだと思え、モチベーションの向上につながりました。
- ・普段の業務では知り得ないような貴重な講義を受けることができ刺激になった。
- ・他分野の内容が多かったのですが、こういう事業展開の切り口もあるんだと、新しい視点を増やすことができました。
- ・まちづくりは地域の活性化が主な目的だと考えていたが、教育とのつながりが深いことは、この研修で知ることができ良かった。これまでもまち案内などいろいろなことに取り組んできたが、今後は教育のため、高校生とも何かできるようにしたいと思った。
- ・教育の重さを痛感。

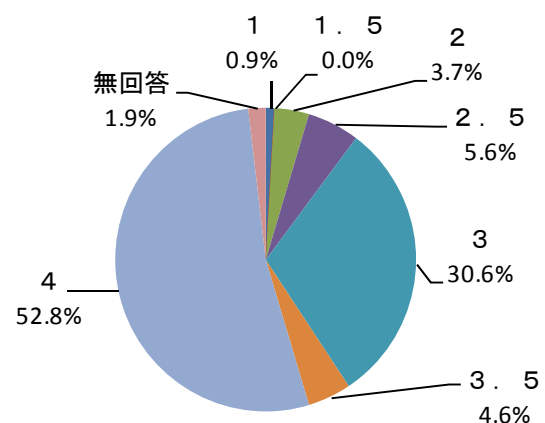
②人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに又は、継続して行っていききたいと思うようになりましたか？

<活用度>		N=108	
		回答数	%
↑ 思わない ↓ 思った	1	2	1.9%
	1.5	1	0.9%
	2	9	8.3%
	2.5	4	3.7%
	3	34	31.5%
	3.5	4	3.7%
	4	51	47.2%
	その他	1	0.9%
	無回答	2	1.9%
合計		108	100.0%



③研修全体の進め方・運営についてどのようにお感じになりましたか？

<活用度>		N=108	
		回答数	%
↑ 良くなかった ↓ 良かった	1	1	0.9%
	1.5	0	0.0%
	2	4	3.7%
	2.5	6	5.6%
	3	33	30.6%
	3.5	5	4.6%
	4	57	52.8%
無回答	2	1.9%	
合計		108	100.0%



④その他研修に関して改善点・お気づきの点をお聞かせください。

<時間について>

- ・各講師で2時限あればよいと思いました。
- ・講師の時間を2時限とってほしいと思った。
- ・全員2コマ以上の時間をとっていただきたい。全て一流の講師の方であったと思います。
- ・一つ一つの講義は、とても深い内容なので、時間が足りず駆け足の講義となってしまったことが少し残念です。もっとたくさん実践を交えた話をお伺いしたかったです。
- ・限られた時間の中で研修していただきましたが、もう少し時間を増やして内容について深く掘り下げて説明していただければと思います。
- ・どの講師のお話も大変興味深く、参考になるものでした。各講師とも、2コマあると十分に話が聞けると思うので、1コマの方はコマ数を増やしていただければと思います。また、質疑の時間ももう少しいただけると助かります。
- ・全体的に講義の時間が短かった気がします。

- ・講義のコマ数が多すぎて、一講義の時間が短くなり、講義の後半が駆け足になってしまい、少し残念な気がします。コマ数を減らし、一講義の時間を延ばし、もっと1つ1つの講義内容を大切にしたい方が良いと思いました。
- ・非常に参考になる講義ばかりだが、全体的に時間が短いため講師の方が早口になってみえたり、講義内容を一部とばされていたようでしたので、コマ数を減らしてみたいかでしょうか。
- ・人づくりの重要性を学ぶことができよかったです。もっと時間をかけて学ぶことができたら良いと思いました。
- ・いろいろな講師の方のお話を聞いて良かったが、すべての方のお話をしっかりと理解するには時間が短すぎたように思います。
- ・質問の時間が少しだったが、取れて良かったと思いました。
- ・全体的に質問時間が少なかった。
- ・先生によっては、講義時間が足りない、または多い場合もあるのかなと感じたので、1コマ70分にとられることなく、講義時間を設定してもよろしいのでは…。
- ・1コマの先生と2コマの先生で時間の過不足が感じられた。もう少しほどよい長さになればいいのと感じた。
- ・1コマ70分の講義は受ける側とすれば90分よりも集中できてよいが、講師としては短い時間にたくさん詰めこむのが大変だと思った。
- ・お話が早口で聞きづらかったり、プレゼンの一画面に文字を詰め込みすぎて見づらかったり、資料の文字が荒かったり小さくて読みとれなかったりするの、一画面の文字数を制限したり、話も時間配分を考えて欲しいです。
- ・スライドの枚数が多くて、講義の後半部分が走り過ぎた講義があったので、枚数を絞って講演されてもいいのかなと思った。
- ・全体的に時間配分が前半に重点を置かれ、後半が駆け足になる先生が多かったように思います。
- ・2日目の講義のうち、1時限のみの分は内容の量に比べ時間が足りないのではないかと（少し駆け足気味になった気がする）。

<内容・進め方について>

- ・資料の多さにびっくりしました。ファイルなど持参させる方が良いと思います。
- ・講義内容を入校前に情報提供いただけるとありがたい。
- ・資料の説明をして欲しかった。例えば「地域づくり人育成ハンドブック」「全国地域づくり人財塾 修了生地域づくり活動事例集」について。
- ・これまで、地域づくりに直接関わる仕事をしてこず、勉強不足ではあるのですが、これまでの総務省の取組みや全国地域づくり人財塾の説明など、少し時間をとって（10～15分程度）いただけると分かりやすいと思いました。
- ・研修前は、講師陣や内容が不明でしたが、研修のはじめに研修の目的や概要のようなイントロダクションがあるとスムーズに入っていけたと思います。
- ・やむを得ない面もあるかと思いますが、講義内容に一部重複感があるように思いました。

- ・一流の講師の方々のお話が聞けて大変ありがたかった。今回でいけば「地域づくり」がキーワードになって講義の内容が決まったと思うが、似た話もあったので、多方面の話が聞けた方が新しい気づきが出るのかもしれないと感じた。
- ・プログラム数が多く、プログラムによっては内容が一部重複したので、頭の中で整理がつきにくいと感じました。頭の中で体系的（ツリー図のよう）に整理できるよう、プログラムを体系的に整理していただきたいと思います。また、最後に 30 分ほど時間を頂いて課題研究の班ごとに分かれて振りかえりを行うと、個人知が共通知となり、より理解が深まるのではないかと思います。
- ・各講師の話はわかりやすかった。その各コンテンツのマップや取組の相関図のようなものがあれば、地域づくり、人づくりを俯瞰できて理解が進むと思う。（または総務省の方がどういう狙いで講師陣を選んだのかなど知れば）
- ・いかにして地域を活性化していくのかという所の考え方を学べてとても良かった。
- ・研修全体につながりがあったので、とても深い所まで学ぶことができた。
- ・同じような人づくり、地域づくりに関する研修を一気にやる今日の研修は、記憶が鮮明なうちにいろいろな比較ができ、とても面白いし、参考になる事例の共通項を見つけることも容易です。スケジュールを組むのはとても大変な作業だと思いますが、是非このスタイルを続けてほしいと思います。
- ・今回の政策専門課程を受講している者は多種多様に渡っている。地域づくり人財塾の講義を受けることは決して不要なことではないが、より成果、効果を上げるためには、各都道府県、市町村の関連部署の職員を集めて行うなどの方が良いのではないかと感じている。また、成功事例を学ぶことで新たな視点を得ることができると思うが、失敗した、うまく進まなかった等の事例はないのであろうか。耳触りの良い事例ばかり聞いていると、逆に不安になってしまうのは自分だけだろうかと感じる。
- ・様々な分野からの講義で大変有意義であった。事例も多々あり、参考になったが、成功例ばかりでなく、失敗した事例などがもしあるなら、そういう事例も聞いてみたい。
- ・都市部から地方までの幅広い地域づくりの実践方法についての貴重な講義を受けることができ、とても感謝しています。ただ、成功事例ばかりではなく、失敗した事例についても聴きたかったです。
- ・今回の研修内容は比較的過疎、中山間地域でかかえる事例に関するものが多かったように感じました。そのため、動機づけにはなりましたが、具体的な行動のヒントまでは得られなかったような気がします。
- ・今回の内容は小さい単位での成功例であると思われたが、中規模な都市でも同じように当てはまるのか疑問に感じた。次回からは、中規模な都市での成功例もあげられると良いと感じた。
- ・小さな町村であれば、ある程度の参考になると思うが、大都市では活用する以前の問題であると考えられる。そのような中で前野先生の講義は大変素晴らしかったです。「幸せ」というキーワードは共通だと思いますし、住民の幸せのために地方自治体はあるのだと考えているので、今後も職務に励んでいきたいです。

- ・概ね講義内容は理解しているが、一方で都市部への誤認があるのではと思う話をされていた方もおり、即、講義内容を活かすかは考えるものがあつた。実際、自治体間で、良い意味で競うことができるかどうかという意として、前野教授の話は大変有意義であつたと思つている。都市部でもコミュニティ創成は課題で、特に本市は、人口増加する区と減少する区、合わせて人口増加にあり、共通しての課題に前野教授の講義は解になりうる内容だつたと考へている。
- ・講師の方はどの方もとても素晴らしい方でしたが、どこかで話をするなど交流の機会がもてたら良いと思ひます。
- ・時間的に難しいのかもしれないが、講師と20~30名の研修生でディスカッションを行えば、より理解が深まり、講師と研修生のつながりもできるのではないか。
- ・今回の受講スタイルは講義形式でしたが、もう少しグループワークを増やしても面白いと思ひます。研修内容については、本当に素晴らしいものだつたと感じています。
- ・グループワークをして欲しい。
- ・多数の講義をいただき、複数の情報をいただけて大変光栄でした。それぞれの自治体・地域でどう活かすか等、地方別に区分するなどし、一定時間、グループで講義内容について意見交換する時間があれば、より理解が深まるかと思ひました。
- ・普段聞けない貴重な講義内容だつたので、講義室の空いている席で各自治体の「地域振興」や「教育」の直接の担当者も希望があればその授業だけ受けられるようになればありがたいです。
- ・貴重なお話をお伺ひし、モチベーションが上がりました。この志をもって活動を行うに際し、同じ様にこの講義を受講する仲間が多ければ、より大きな力となるのではと思ひ、空き席を利用して、日帰りの受講もさせていただければ、帰庁してから我が職場での参加を薦めたいと思ひました。
- ・こうしたプロジェクトに関わつた行政の方がいたら、お話を聞いてみたいと思ひます。
- ・女性の視点も欲しいかなと思ひました。
- ・コマ数、講師のバランスも整つていて良かったが、教育の切り口からの話が多かつたため、観光、工業、農業など多様なジャンルから構成してほしかつた。
- ・人を動かすこと、リーダーシップについても講義をして欲しかつた。
- ・実践にあつての背景を知ることは大事なものの、実践例をより知りたかつた。(手法に走りがちになるのでダメだが)
- ・事例紹介という点では先進的な取組、考へ方でとても良かった。これらを他で生かす際のヒント・コツ・心構えなどつなげてもらえると具体性が高まつたと思ふ。少し遠い話に感じた。
- ・今回の研修では、NPO団体等による地域づくり人材の育て方等の事例を知ることができたが、行政としてどう関わつていくか、いくべきかという点が理解しきれなかつた。
- ・本来、自分でこのような取組や人材の情報収集や学習をすべきではあるが、特別に機会を設けてもらえれば大変有意義となる(自分の情報収集や学習の不足は恥ずかしいものの)。是非続けて欲しい(また、自治大学以外でも実施して欲しい)。
- ・これまで地域活動にほとんど関わりがありませんでした。この研修を受講して地域づくりに少しでも関わつていきたい。
- ・内容が自分には少し難しい所があつた。
- ・今後も継続して研修をお願いします。とても充実した内容であるため。
- ・講師の話が聞きにくい部分があつた。ホワイトボードの使用はやめた方が良い。(見えない)

<その他 感想等>

- ・全般を通じてとても良かったです。
- ・各分野で先進的な取組をしてこられた講師の先生方のお話は、とても参考になりました。
- ・まちづくりや人財育成に関するヒントが聞けて良かったと思います。
- ・4月の人事異動で初めて政策の部署に配属になったばかりで、分からないことばかりでしたが、地域創生には何が必要か?等、どの講義も斬新で大変勉強になりました。
- ・生の声が聞くことができよかったです。
- ・地域活性化に学校がこんなにも関係があるということに今回の講義で初めて知りました。今後の業務の中のポイントになると感じました。
- ・2日間にわたり、集中した講義は頭の中にスムーズに入ってきた。地域づくりはこれから重要な内容であるため、今後とも継続していただきたい。
- ・自治体単位では聴く事のできない、内容、講師先生からの講義で、大変身になりました。1人の職員では早速真似する事はできませんが、少しずつでも、又、1住民として参考にしたいと思います。講師先生が、理屈でなく、現場で苦労された実体験を基にした内容でしたので、自分の立場や環境に置き替えてお聴きする事ができました。
- ・地域、高校、NPO活動の事例を挙げて、お話いただきましたが、行政の立ち位置がどこにあるのか、行政が出来ることは何なのか、行政は主役であってはならないと思うようになりました。
- ・人財塾については極端な成功事例の話が多く、それを成し遂げる地域リーダーが必要となるケースになるので、地元にもそのようなリーダーが現れない限り、活用は難しいと感じました。
- ・成功している人・優良な人の講義は、今後の活動に対して大変参考になる内容でした。また、知らなかったことや方法等も発見することができました。そのこととともに今後自分自身が実践する上においては、実行力を身につける必要性を痛感しています。
- ・持ち時間に合わせ、自治体職員の今後の取組の参考となる数々の「手法」を学べた。後は持ち帰り、自分の自治体の問題にどういった「手法」が有効であるか考えたい。
- ・とてもよく運営されていると感じました。
- ・午前中と午後の寒暖差があり（西端のため）、冷房の温度設定を変えてもらおうと助かりました。
- ・特になし。〔4件〕

(3) 今回の研修受講生を対象としたステップアップ研修を行う場合、どのような内容を望みますか？

<内容>

- ・ご紹介いただいた事例のきっかけや、行政とのかかわり方（あり方）に焦点をあてた内容を希望します。
- ・行政から地域へのアプローチについて、事例を通した研修を希望します。
- ・地域づくりを推進するにあたり、自治体としての立場から地域や関係機関との具体的なやりとりの内容が盛り込まれると当自治体での早期着手、実施が見込まれると感じた。
- ・自治会組織他、団体がいかに行政に頼らずに活動する意識を持てるかを、行政がどう導いていくかの手法。
- ・今回の研修で講義をしていただいた先生の、少数での研修などあれば、より深く話を聞くことができているのではないかと思います。
- ・ステップアップ研修は、少人数に分けて講師を選択でき、質疑応答できるような研修にして欲しい。
- ・時間的に難しいのかもしれないが、講師と20～30名の研修生でディスカッションを行えば、より理解が深まり、講師と研修生のつながりもできるのではないかと。
- ・考え方は相通じるものがあると思うが、規模がある程度揃わないと実感がわかないところがあったので、規模をある程度揃えて、講義ではなく実践された内容のものを望みます（実践例のみでも可）。
- ・まちづくりの活性化や地域再生のステップアップとして、農業や農家の活性化。
- ・都市部における地域再生。（特別行政区、政令指定都市、中核市とは違う10万人以下の都市を対象）
- ・地方都市における地域資源の活性化によるまちづくりの実践例。
- ・1つの成功体験だけの自慢話だけではなく、それが広がりつながっていった具体的な内容をお聞きしたいと思います。会社でもそうですが、起業するのは簡単ですが、継続していくのは難しいです。行政は継続していかないといけないので、そのあたりを中心に研修していただければ幸いです。
- ・受講生内で議論したものにすると、よりステップアップできると思う。
- ・地域にパワフルな人がいない場合のまちづくりの進め方の話を聞ければと思います。
- ・受講生が、それぞれ自分にできることは何かを考えるプログラム。
- ・勇気ある一步を踏み出さなければ何事も進まないのは分かるが、なかなか踏み出せないものです。その一步を出すための何かをもう少し講義を受けたいです。
- ・研修生が自治体に戻り、何を取組んだか報告する会が必要だと思います。各地の様々な取組を聞いてみたいと思います。
- ・失敗した時のフォローアップや対処法の事例もあれば参考になります。
- ・やはり地域づくりは「人づくり」だと思うので、人づくりにスポットを当てた研修を行っていただきたい。
- ・マネジメントが良いと考えます。（ドラッカーを中心に）
- ・職員の管理方法。
- ・情報発信力を向上させるための研修。コンテンツづくりについて。
- ・企画力向上。政策の見せる化。プレゼンテーションや資料づくりのスキルアップ。
- ・常にその時々最先端事例について受講する機会があると良いです。問題は、地域それぞれ違う事が多いので、多くの事例を学び、比較して地域に合った方法を考えたいと思います。
- ・できれば、テレビ会議システムを使用した講義やディスカッションを実施して欲しい。

<現地研修・視察>

- ・現地視察。
- ・地域創生に取り組んでいる町や村の視察等もできればいいと思います。(難しいと思いますが)
- ・研修生と講師を交えたグループ討議や、紹介された取組みの視察など。
- ・実際の現場での研修。
- ・現場視察(成功事例)と現場体験(取組進行中(途上)の事例)。
- ・グループワークによる講義内容に関する課題研究や講義においてご紹介いただいた先進事例の現地視察などがあると、より理解を深めることができるのではないかと思います。
- ・実際に現地調査に行き、自身の目で見て体験できる研修があればぜひ参加したいです。
- ・実際に「ヒト」づくりをやっておられる現場で、実践されている人と話す機会。
- ・取組先進地での滞在、体験研修。
- ・地域に入りワークショップ。地域の問題に様々な人が参加して、取り組めると良い。地元でできることが一番良いと思う。
- ・今回の研修では事例による説明をいただきました。もし次があるとすれば、今回の事例の地へ行き、講師と一緒に住民、事業者などと接してみたい(フィールドワーク)をしてみたいです。
- ・聴講だけでなく、取組への参加。

<ワークショップ>

- ・ワークショップ型の研修。
- ・人財創出に向けた実践的な内容。ワークショップなどによる受講生同士の意見交換。余談ですが、受講生によって人財創出そのものの意義、考え方に大きく差があることが受講生同士の雑談で感じられました。こうした違いを肌で感じることも良いのではないかと思います。
- ・小グループに分かれて、講師の方々とより具体的な話ができるようなワークショップ等があると良いのではないかと思います。
- ・グループディスカッションを取り入れてほしいです。今回の講師の先生に各グループに入っていたいで…贅沢すぎる研修になってしまいますが。
- ・事例を取り上げたグループワークなどがあればいいと思います。

<具体的な演習>

- ・今回の研修受講を通じ、ファシリテーションを習得できたかという点で完全ではないので、実際に活動に取り組み、その活動について持ち寄って、合意のうえで検証したり、振り返りができたりする場があると実践でも良い方向に持っていけるのではと思います。
- ・机上でなく、現場での実績が上がる、実習が良いと思います。
- ・ある行政課題についてブレインストーミングやワールドカフェを行い、解決手法の洗い出しを行い、その後討議により解決手法の提言を行う研修。
- ・たくさんの貴重なお話は聞けたので、演習や実践に近い体験ができる研修が良いのかなと感じた。

<希望講師>

- ・前野教授と藤岡講師の講義をさらに受講し、理解を深める講義を希望します。
- ・実際の成功事例について、自治体側の担当者の話が聞いてみたい。
- ・自治体担当者による実際の事例発表。
- ・事例に係る複数の関係者によるパネルディスカッション方式による討議。
- ・行政職員としての地域づくり人財塾に関する講義。
- ・行政職員が地域リーダーとなった事例についての講義。
- ・地域づくりに関係している企業や金融に携わる方々の講義も受けてみたい。
- ・さらにいろいろな先生の話聞かせて欲しい。
- ・①多様な事例紹介 HP などでは熱意が伝わらないため、実際に活動している方の話を聞きたい。②ワークショップ NPO、一財等行政パートナーとなりうる組織についての勉強会。まちづくり後継者のヒントとなる実務を知りたい。(単なる知識ではなく実際に運営している方の指導、富永さん etc.)
- ・今回のプログラム項目の進化版、あるいは、今回とは違う講師陣による講義。

<このままで良い>

- ・同様の内容でよいと思います。
- ・これだけの講師陣の講演を聞けば充分であり、あとは実践あるのみだと思います。
- ・どの講義もわかりやすく、このような講義が研修の初めの方であったことがよかった。

<その他>

- ・現在の仕事に直結しているわけではないのでイメージできませんが、部局横断的に仕事をしなければいけないと思います。
- ・◎教育⇒三つ子の魂百まで
- ・申し訳ありませんが、自分はステップアップできるレベルにないです。
- ・特にありません。[3件]

3. 地方開催（IN 仙台）編 [平成 28 年 8 月 1 日・2 日]

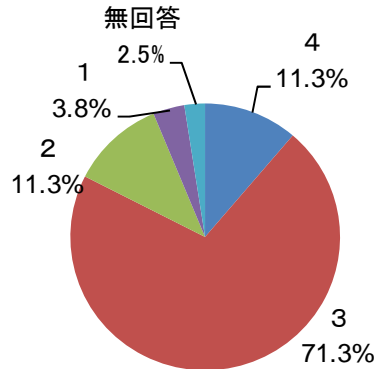
■受講者アンケート

(1) 各プログラムに対する評価

【導入講義】「人材力の活性化に向けて」 総務省 地域力活性化・連携交流室長 飯塚 秋成

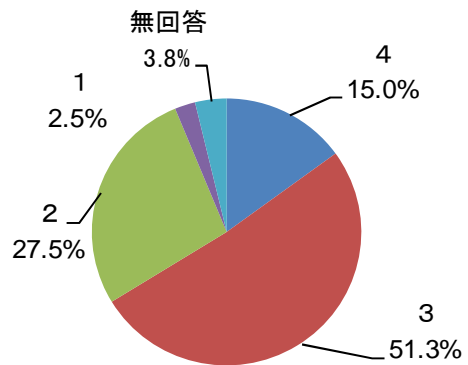
N= 80

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	9	11.3%
	3	57	71.3%
	2	9	11.3%
	1	3	3.8%
	無回答	2	2.5%
合計		80	100.0%



N= 80

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	12	15.0%
	3	41	51.3%
	2	22	27.5%
	1	2	2.5%
	無回答	3	3.8%
合計		80	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ 全て非常に有意義な受講となりました。ありがとうございました。
- ・ 総務省の目指すところが少し理解できました。人に合わせて話すのが良い。
- ・ 国の取組がまとめられていて分かりやすかった。
- ・ 総務省事業を分かりやすくまとめられており良かったです。
- ・ 地方創生の中での今回の人財塾の位置づけ、地域づくりの方向などが知れて良かったです。

◎活用度 3

- ・ 国の考えが聴けて良かった。
- ・ 国の取組課題を身近に感じる事ができて良かった。
- ・ 地域の元気創造プラットフォーム SNS の活用により積極的な情報共有をしたい。
- ・ 少し時間が短かった。もう少し詳しく伺いたかった。
- ・ 人口減少、首都圏への集中への対策の必要性を知ることができた。
- ・ ハンドブック読みます。
- ・ 人財塾の位置づけが良く理解できました。
- ・ 現在のニーズに対する国の取り組み状況を理解することができた。

- ・全国地域づくり人財塾の多様な取組を知ることができて良かったです。
- ・国の方針や目標等、地域づくりに向けた取組内容が良く分かった。
- ・総務省の地域人材についての考え方を説明いただいた。

◎活用度 2

- ・人財（材）が都市に集中したのには理由があると思います。教育が入っていないのを不思議に思いました。
- ・改めて実状の振り返りができました。
- ・地域力創造には「人材力の要素が大きい」ということで、今後のプログラムの課題等で学んで帰りたいと思いました。
- ・政府方針の理解、集落支援員、地域おこし企業人の活用。

◎活用度 1

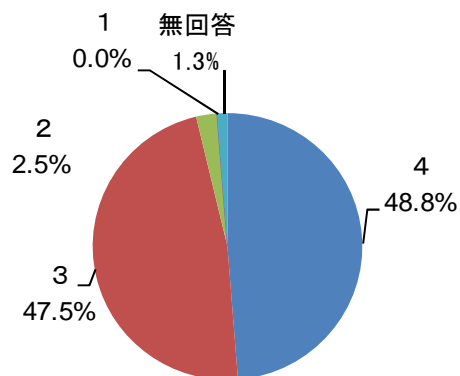
- ・もう少し大きな見出し、項目に絞って説明した方が分かりやすい。

【講義】『創業の人財』 & 『継承の人財』 ～NPO フェージョン長池の実践～

特定非営利活動法人 NPO フェージョン長池 会長 富永 一夫 講師

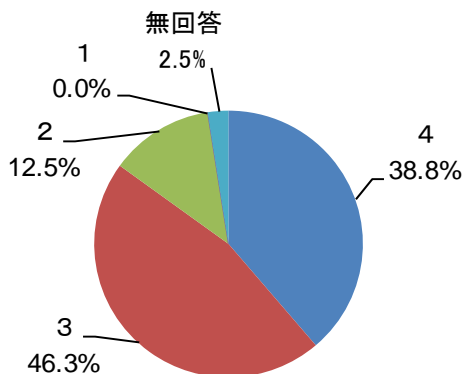
N= 80

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	39	48.8%
	3	38	47.5%
	2	2	2.5%
	1	0	0.0%
	無回答	1	1.3%
合計		80	100.0%



N= 80

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	31	38.8%
	3	37	46.3%
	2	10	12.5%
	1	0	0.0%
	無回答	2	2.5%
合計		80	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・全て非常に有意義な受講となりました。ありがとうございました。
- ・大変面白くて、眠る暇がありませんでした。良かった。
- ・地域づくりでは行政だけではなく、NPO 法人などの活用が有効だと感じた。
- ・実体験からのお話で初心者にもわかりやすく、興味深く聞かせていただいた。
- ・ものすごく共感、納得するところが非常に多い、有意義なお話しでした！勇気づけていただき感謝です。
- ・自分で何でもやらなければならないと勝手に思い込んでいました。これからはお願いをして感謝したいと思います。
- ・「できること」「できないこと」を明確にすること、それは人も組織も同じ。心に刺さりました。それぞれできることで輝き続ければ、みな幸せですね。
- ・ステージ毎での適材適所での人選による運営の重要性を感じた。
- ・それぞれの人材を適材適所で力を発揮させること、無理に引き止めず、段階ごとで協力者を得ることの重要性を教えていただいた。
- ・地域活動についての人材の退出入、強制力を加えないこと、イベントや分野ごとに参加メンバーは異なっていて良いところに都市の地域活動のヒントを得ました。また、後継者に早期に権限委譲する方法や考え方も有益でした。
- ・ステージごとに人が集まるということ、気が楽になった。
- ・人をつなぐための具体的なことを知れて良かったです。
- ・「NPO 立ち上げ」出来る出来ないの明確化…イーブンな関係（感謝）。
- ・それぞれの幸せを追求。
- ・「人材」のイメージが、リーダー⇒全員に変わりました。
- ・地域活性化の仕事はやりたい人、やれる人たちに手を挙げてもらう。納得。
- ・富永先生と豊重先生に共通して言えるのは、強制させないこと。その人が出来ることを。
- ・活力ある話しぶり。元気づけられた。
- ・行政にも人財力が必要。
- ・涙が出そうになった。皆が幸せになるためにどうすればいいかを考えている人だ。
- ・人が集まってくるようになるために、強制せず、少しずつ情報をリリースして役割分担を与えられる行政サポートも必要と感じました。
- ・協力頂く人たちへの接し方が参考になった。

◎活用度 3

- ・NPO の視点、フットワークの軽さなど大変参考になる点が多かった。補い合う事が連携。
- ・地域人との共生、福祉人との共生ということを積み上げて実現していかれる過程と努力、成果がとても参考になった。
- ・都市部住民のコミュニティづくりの苦労話が聞けて良かったです。
- ・創業前のスキルの高さが人を呼び込む大きな力となっている事を感じるとともに、信念の強さと行動力に魅了された。感謝します。

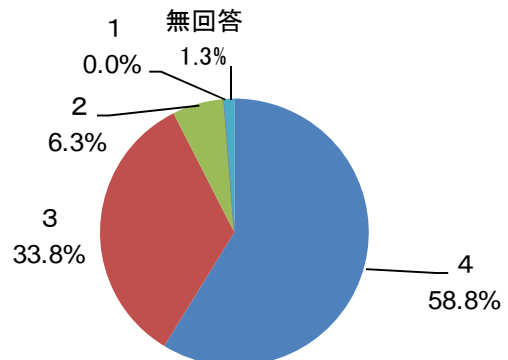
- ・規模とやることが変わると集まる人も変わってくるということが印象深かった。
- ・行政からの働き掛けがなかった場合のNPOの活動範囲について気になりました。
- ・ステージごと、プロジェクトごとにメンバーを募り、無理強いしないという点は参考になりました。
- ・思い入れがあるだけに、時間が短く「話しきれていない」と感じた。魅力的なお話の内容だけにもったいないと思った。
- ・地域づくりの際、周囲との協力が大事だと感じた。
- ・地域づくりでは、人間関係を作ること、役割分担がポイントであることを学ぶことができた。
- ・素晴らしい実践だと思いました。当会の活動にどのように取り込めばいいのか考えてみたい。
- ・無理せずできることを行うことが多くの市民参加につながる。
- ・全員が「幸せ」になるためにどうしたらよいか、一人一人が思うことが大切だと思った。
- ・地域活動に参加しない人は多いが、押し付けるのではなく、できる部分をやらしてもらおうと思った。
- ・「継承」については、現在抱えている問題と重なる部分があり、参考になりました。
- ・新たな発想を行い、それを継承することの必要さを学ぶことができました。
- ・フェーズにより関わる人が入れ替るという発想が新鮮でした。また行政との信頼関係は社協にとって重要なことなので参考になりました。
- ・事業に合った人財、やる気のある人財を見つけることが大事だと分かった。
- ・案件毎にそれぞれメンバーの違うチームを組み、負担にならない組織づくりは参考になった。
- ・「指定管理を受ける側の考え」「現役の内に後継者を育てる考」「小さなコミュニティマネジメント」等々大変参考になりました。
- ・同一のメンバーで行っていくのではなく、ケース（規模）などにより、メンバーを変えることの有用性について実体験が伺えて良かった。
- ・創業の人財を活かすのも大事だが、継承する人材を育てること、応援することが活動する上で重要なのだと感じた。
- ・お話とても楽しかったです。「お金の仕組み」についてももう少し聞きたいです。

◎活用度2

- ・ゼロから始めるパワーのある団塊世代がすごいと思いました。お二人（富永講師、豊重講師）とも「ひと」作りが重要とお話しされていました。
- ・地域の幅広い住民の小さな思いを大切に広まった素晴らしい事業に感心しました。
- ・協働経営の設計図は大変参考になった。
- ・それぞれの立場の方が幸せになる地域づくりを目指したいと思います。
- ・「強制しない」まちづくり、というのが印象的でした。ただフェーズ毎に、そのフェーズに合った人材が現れるとのことでしたが、地方ではそもそも人材が不足しているため活用は難しいなと感じました。

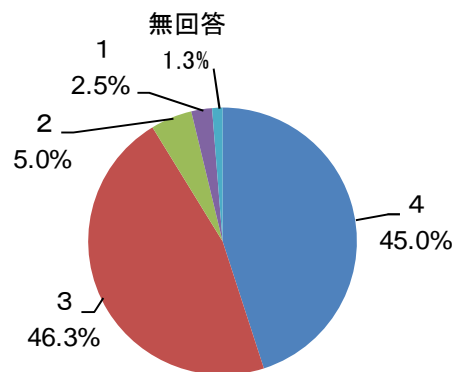
N= 80

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	47	58.8%
	3	27	33.8%
	2	5	6.3%
	1	0	0.0%
	無回答	1	1.3%
合計		80	100.0%



N= 80

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	36	45.0%
	3	37	46.3%
	2	4	5.0%
	1	2	2.5%
	無回答	1	1.3%
合計		80	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ 全て非常に有意義な受講となりました。ありがとうございました。
- ・ 毎回、豊重先生のお話には感動させられます。感謝、感動を忘れずに。楽しく進めるのがベスト。
- ・ 迫力があり、本気度（優しさ）が伝わりました。文化を取り上げているのがすばらしい。
- ・ 地域づくりには熱意が必要だと感じた。
- ・ DVDによる紹介で、内容がよくまとまって実践されてきた重みと感動が伝わってきて、そんなまちづくりに参加してみたいと思った。
- ・ 強い関係ではなく弱い関係性の大事さを知ることができた。
- ・ 地域の様子や元気度が聞けて良かったです。大変参考になりました。
- ・ 生きた言葉でパワーの強さが心に響いた。苦悩の中での実行力による自信に支えられたお話には説得力があった。DVDでは何か所も涙が出てしまった。地域づくりに関わっての道筋等イメージが明確になった気がする。今後整理し、具現化に向けて努力していくつもりである。
- ・ 説得力があり、実務先行型の説明で利用価値あり。
- ・ 財源の確保や文化の向上等、学ぶ所が多くありました。自分の町にあったやり方を考え、実践してみたいと思いました。
- ・ とても感動しました。
- ・ 立ち位置を変える、視点を変えることによる組織運営を知ることができた。
- ・ 地域づくりに対する情熱、あきらめない心の大切さを学んだ。最初は小さいことから始め、また継続していくことで、こんな夢のような地域づくりができることに感動した。
- ・ 地域への思いや情熱の深さに感動した。

- ・自ら行動する大切さを教えていただきました。
- ・「フルネームがクッションとなる」良い知識を得られた。⇒自分が進むべき方向に非常に参考になった。
- ・財政力の必要性や豊重氏の創意工夫について大変参考になった。
- ・担当する地域でも補助金策を自治体に頼っており、自主財源の確保は課題となっているので参考になりました。
- ・財源の問題を解決するアイデア力がすごいと思った。
- ・「クッション役」のことが大変勉強になりました。
- ・行政に頼らず、自分たちだけでまちを活性化していることを学ぶことができた。
- ・全員のフルネームが言えるファミリーである関係づくり。言うのもやるのも大変な作業だけれど、できないことではないと理解しました。人の大切さ学びました。
- ・以前にもお話をお聞きする機会がありました。当時はまだ起こっていなかった情報も加わっており、学ぶことはもちろんですが、嬉しい気持ちになりました。
- ・豊重さんからの事例をもう少し聞きたかった。
- ・富永先生と豊重先生に共通して言えるのは、強制させないこと。その人が出来ることを。
- ・感動した。すべての話を見習いたい。
- ・行政に頼らないという言葉に少し戸惑いを感じましたが、住民が自ら進んで地域づくりに励むことはとても魅力的に感じました。
- ・人間力があり、話に引き込まれた。
- ・せっかくなのでビデオよりお話しメインで聞きたかった。
- ・映像の編集はもう少し工夫した方がいいと思った。

◎活用度 3

- ・ゼロから始めるパワーのある団塊世代がすごいと思いました。お二人（富永講師、豊重講師）とも「ひと」作りが重要とお話しされていました。
- ・マネジメント力についてお話聞ければと思いました（財務力）。
- ・地域づくりへの熱意が伝わってきて、DVDで豊重さんの人生がわかった。
- ・やねだんの活動やそのプロセス、広がりがすごくよく分かりました。
- ・諦めず、努力を積み重ねていった豊重さんのリーダーシップ、人材育成の姿に感動しました。出番づくり！
- ・地域再生にも「財務力」が重要だと改めて思いました。
- ・300人規模の自治体制とそれより少し多いくらいの自治組織での活動の応用について考えたい。
- ・財務力、より広げて考えると「数字で見せる」ことの大切さを痛感しました。
- ・「立ち位置を変えて考える」をベースに関わる人々の良い点を引き出すということが大切だと改めて感じた。
- ・行政を頼らない地域の取組には非常に驚いた。行政職からすれば、地域が行政を頼るのは当たり前という認識があったので、その認識が変わるきっかけとなった。

- ・本当に感動の地域づくりです。私の地域では不可能なことばかりですが、少しでも取り組んでみたい。
- ・共感力の大事さ。反目者の理解。
- ・講話とその活動に感動いたしました。人を本気にするというのはとても難しく、しかし情熱と忍耐を持って、長期をかけて実現されたこと、本当にすごいと思いました。
- ・地域づくりにおいて大切なのは「人」であり、人財を引き出す存在がしっかりしていることが重要だと学んだ。
- ・よく「お金がない」「補助金はいくらか」という話になるので、経済的に自立した団体というのは重要だと感じた。
- ・企画したものを実行に移す力は、すごいと感じました。
- ・講師の信念とパワーに圧倒されました。
- ・一方的な話だけではなく、ビデオを使う説明があったので、飽きないで話を聞くことができた。
- ・情熱と経営力。
- ・教員として、すべての子どもに出番があるような学校づくりをしていきたいです。
- ・永続きするための方向。NPO化していく。良く分かった。
- ・地域の再生方法について参考になりました。
- ・伝えたいことがまだまだあるという印象を強く受けた。もっと話を聞きたい。
- ・高齢者が生き生きとしていた姿が印象的だった。

◎活用度 2

- ・地域の自治組織が市町村の行政に頼らない活性化のやり方は参考になった。
- ・継続可能な行政に頼らない活動の内容、及び人の動かし方、関わり方、育て方などが伺えて良かった。

◎活用度 1

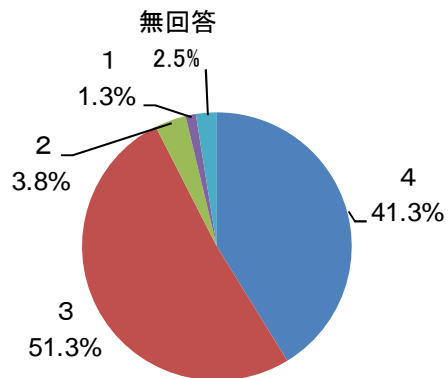
- ・どの様な事業継承になるのか将来を見たいと思った。

【講義】「地域づくりのマネジメントーつながりをつくり創発を生む仕組みづくりー」

慶應義塾大学 SFC 研究所所長／総合政策学部教授 飯盛 義徳 講師

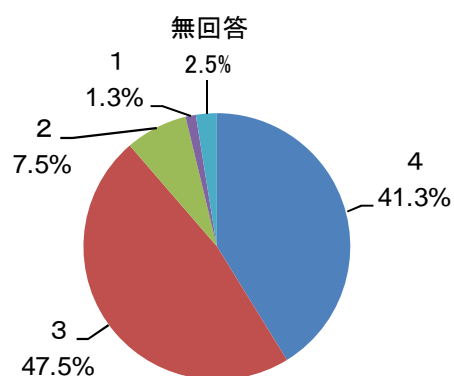
N= 80

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	33	41.3%
	3	41	51.3%
	2	3	3.8%
	1	1	1.3%
	無回答	2	2.5%
合計		80	100.0%



N= 80

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	33	41.3%
	3	38	47.5%
	2	6	7.5%
	1	1	1.3%
	無回答	2	2.5%
合計		80	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ 全て非常に有意義な受講となりました。ありがとうございました。
- ・ 「つながり」を強く、弱く、信頼関係を保ちながら場づくりをすすめたい。
- ・ 先に成功例のプレゼンテーションを聞き、これから自分たちの地域おこしをする時に、進む方向性が体系的に勉強できた。
- ・ 一番良かった。学問として、地域づくりを分析しているので、必要な要素、プロセスを学ぶことができ活用しやすい。
- ・ 身近に感じる位の取組みが多く、活用できそうな内容が多くて参考になった。
- ・ 強い関係ではなく、組織の出入りのしやすさ=弱い関係づくりも大事であると学びました。
- ・ 地域資源を見直す大きな手掛かりを与えていただいた。そして、理論を実践し地域と共に歩んでいる学生がいることに大きな希望を持つことができた。
- ・ たくさんのヒントをいただきました。地域の中に突き抜けたキーパーソンがいなくても何かを始められる気がしました。
- ・ 色々な人が集まり、相互作用で色々良いことを生み出していく。分野が広がり関心がない人さえ集める力。
- ・ 地域の方々を置き去りにせず、できるところからお願いをする。学生のうちから地域のことを考える等、つながり方を学びました。弱い人間関係を大切にしたいと思います。

- ・学術的根拠に基づく諸説明が分かり易かった。
- ・地域おこし協力隊はまさに地域におけるプラットフォーム構築を担う役割だと思いました。
- ・自身も小さいことから積極的に取組みたい。自発的な活動、命令・強制しないことの重要性、地域資源を生かした地域づくりの手法は大変参考になった。
- ・地域づくりには“人”“資源”が大切ということを知ることができた。
- ・財源持ち寄りのこと、自分から資源を出すこと、人をつなげること、勉強になりました。
- ・持ち寄りがある人の参画のきっかけづくり、目からウロコでした。お互い様の関係づくり、縁側のような内でも外でもない関係とそのゾーンを確保する点も学びになりました。
- ・先に登壇されたお二人の活動をより分かりやすく、系統建ててお話いただいたと思います。
- ・資源の考え方が参考になった。
- ・プラットフォームを作る人を育成。
- ・コース塾のカリキュラムについて詳しく知りたいと思いました（学校が地域プラットフォームになれば・・・）。
- ・基本を学ぶ。
- ・資源を資源化することの大切さを学びました。人々が資源を提供し、活用し合えるまちづくりを目指したいです。
- ・地域づくりに必要なリーダー的な人の役割などについて具体的に伺いたい。

◎活用度3

- ・事例報告が多い大学の先生の話の中で、実践している先生は違いますね。
- ・全国の取組例を紹介していただいて参考になった。
- ・最初の一步が「草むしり」だったという事例を聞いて、自分ができることから始めてみようと思いました。
- ・「弱い関係性」を持つこと、つまり様々なつながりを持ちづづけることが、仲介に入る人間に求められると感じました。
- ・地域づくりマネジメントは、トップダウン型よりもボトムアップ型で支える型であるという説明が新鮮だった。
- ・内でも外でもない境界域による共有手法を学ぶことができた。
- ・高知県や徳島県の事例紹介から、地域資源の発掘はもちろん、時には資源を生み出すことも必要なのだと強く感じた。
- ・若者や企業を巻き込んだ取り組みを今後考えていきたい。
- ・内と外の関係、交わりをどのように持つか。
- ・具体的な新たな活動が生まれていくような環境をつくっていきたく感じました。
- ・地域のプラットフォームとして行政の関わりを活かしていきたいです。
- ・資源化のプロセス、つながりの種類と特性、資源持ち寄り、境界線などすぐに使えそうでした。
- ・地域資源を再認識することから始めると進めやすいと思った。
- ・強い／弱いつながりなど、新しい視点を学び参考になりました。自分の担当地域に置きかえて考えたいと思います。

- ・興味のある内容ばかりでした。後半に聞きたい内容も多々あったため、最後駆け足になったのが残念でした。
- ・ヒト・モノ・カネをどう結び付け、それをどの様に伝え発信していくか～情報の大切さ。
- ・事例が分かりやすかった。
- ・考え方や学び方について知ることができた。意欲的に学びたいと考え行動している人たちと関わりたいと感じた。
- ・資源持ち寄りや境界設定といった具体的で取り入れやすい方法があることが印象的だった。
- ・西日本の成功例が多いので、感心しながらも少なからずさびしかったです。
- ・事例は参考になったと思います。でも、聞いているだけだとあれなので、受講者をもっと巻き込むと良いと思います。

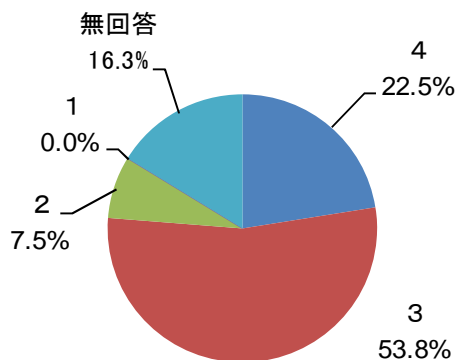
◎活用度 2

- ・新しい時代の人とのつながり、ネットワークの新鮮な捉え方が印象に残った。
- ・いかにも大学の先生のお話。硬軟自在の語り口。
- ・地域づくりにおいて、協働は重要だが命令や強制はしないことが鍵だと思った。

【振り返り】

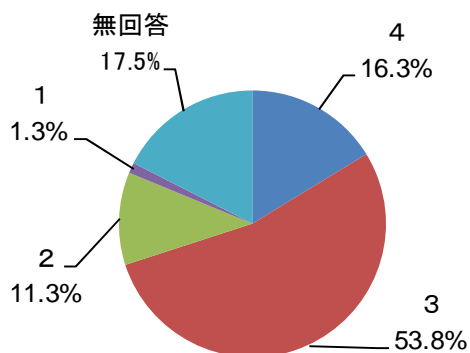
N= 80

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	18	22.5%
	3	43	53.8%
	2	6	7.5%
	1	0	0.0%
	無回答	13	16.3%
合計		80	100.0%



N= 80

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	13	16.3%
	3	43	53.8%
	2	9	11.3%
	1	1	1.3%
	無回答	14	17.5%
合計		80	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ 全て非常に有意義な受講となりました。ありがとうございました。
- ・ 地域おこし協力隊の方々との意見交換が大きな刺激となった。本研修に参加できたからこそその収穫である。
- ・ 全体としてテーマ性が一貫しており大変解り易い内容でした。
- ・ 地域おこし協力隊の方が二人おり、行政と違った角度から意見がいただけ、大変参考になった。
- ・ 楽しく交流できました。
- ・ どんな人が来ているのか、又どんなふうにいるのか分かって良かった。
- ・ 周囲の方々とつながりを作ることができたので良かったです。
- ・ 振り返り、交流の時間がもう少し欲しかった。

◎活用度 3

- ・ 参加者のさまざまな立場から振り返り。
- ・ 色々な立場の方の考えが聴けて良かった。
- ・ 短い時間ではあったが、実践された先生方の話が共有できて良かった。
- ・ 所属は違うが講師の先生方のお話を聞いて感じたことは同じで、同じような課題を抱えているのだと思った。
- ・ 他の方のご意見が参考になりました。
- ・ 多様な状態を確認できた。
- ・ 他の参加者の率直な感想を聞くことができ良かった。

- ・地元に戻ってからの役立て方などが話題になり、参考になった。
- ・同じことを聞いても感じ方は様々。他者の意見は参考になる。
- ・自分の考えに対して他のメンバーから意見や助言をいただけたのでとても参考になった。
- ・他の参加者も同じようなことを感じていることが分かり参考になった。
- ・4人中2人が東北の方で震災の現状等も交えながら、感想（8/1の講義）を聞いて良かったです。
- ・復習ができ、また情報交換ができて良かったです。
- ・1日目の講義を踏まえ、自分で思ったことを話題として話し合うことでより理解が深まった。
- ・普段交流のない分野の方々（行政の方）とお話できて良かったです。
- ・短時間に終わったのが残念。
- ・他の人、受け取り方や考え方などを知ることができ、良い機会であった。
- ・それぞれ異なる視点で学んでおり興味深かった。
- ・参加者とコミュニケーションが取れて良かった。
- ・他参加者との意見交換がとても参考になった。
- ・とてもためになりましたが、もっと多くの方と話ができれば良かったです。

◎活用度 2

- ・自己紹介で終了。
- ・交流ができて良かったです。

◎活用度 無回答

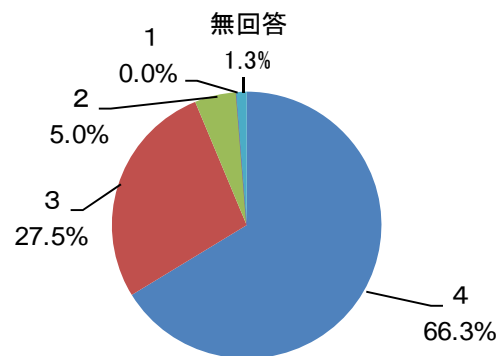
- ・皆さんと交流できて有意義でした。
- ・地域づくりには財務力やプラットフォームを作るなど違った視点から話を聞くことができた。

【講義】「震災復興を契機とした創造的まちづくりモデル 『世界で一番面白いまちをつくらう』」

一般社団法人 ISHINOMAKI 2.0 代表理事 松村 豪太 講師

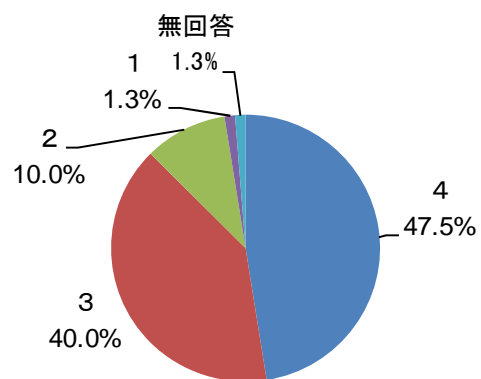
N= 80

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	53	66.3%
	3	22	27.5%
	2	4	5.0%
	1	0	0.0%
	無回答	1	1.3%
合計		80	100.0%



N= 80

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	38	47.5%
	3	32	40.0%
	2	8	10.0%
	1	1	1.3%
	無回答	1	1.3%
合計		80	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ 全て非常に有意義な受講となりました。ありがとうございました。
- ・ 肩の力が抜けていて、斜に構えているのがとても良かった。市民活動ととらえない。変人の集まりはふざけているように見えるが活性化につながる。
- ・ スペース作りの参考に大いになった。
- ・ 先生の目の付けどころ、ユニークな発想と実現へ過程が分かりやすく面白く話され、楽しく話を聞きました。石巻へ行ってみたいとなった。
- ・ やってみること、まずは小さく。人の参加、楽しみ方をみて大きくなっていく。ってことはとても良いと思った。
- ・ “市民活動” や “地域づくり” という道徳的な響きの枠組みで考えるとしんどくなる。活動を楽しい形でやってみようと思えました。
- ・ 具体的事例を挙げて話されていたので分かりやすい。
- ・ 多くの若者が自分の夢をどんどん実現されてゆく物語に、人材は知恵と体力と情熱と仲間とプロとのコラボ、心に火を付ける松村さんに感動しました。
- ・ 何か行動をする前に “道徳的なこと” を考えて、先に進めない時がありました。が、それを取っ払って面白いことをやってみたいと思いました。少しずつでも進んでいきたいと思います。

- ・「まちをひらこう」をキーワードにフリーペーパーを作り、様々な人とつながったと聞き、自分の地域でもやってみたいと思いました。
- ・おしゃれ、面白い取組み、大変参考になりました。
- ・当縣市町村においても石巻のように「IORI」を核とした事業を実施しているものがあるので、今後ご教示いただきたいと思った。
- ・被災により、ゼロではなくマイナスからの状態の中、まちを変えるチャンスと捉え、様々なプロジェクトを実践されている。実践事業を参考にして、地元地域での取組に生かしたい。
- ・自然体で楽しみながら活動されているような姿が印象的だった。
- ・大変考えさせられたが、どこが着地点になるのか将来像が聞きたかった。
- ・たくさんの取組が石巻であることが分かった。
- ・ゆるくつながること、リノベが特に楽しく、おしゃれにできている様子がうらやましいし、やってみたくて印象に残りました。
- ・現時点で小矢部市の駅前ビルの新しい活用方法を模索している所で（現在は放棄されている）、大変興味深く拝聴しました。
- ・石巻で実施されているユニークなアイデアをたくさん紹介していただき、刺激になりました。
- ・“震災”というピンチをチャンスに変える発想の転換の考え方を学べたこと、行政との協働で宣言通りの面白いまちにしていけば良いと感じた。
- ・壊れたまちだからこそ、創造的なまちづくりができる。
- ・実例多く楽しかった。前向きな話良かった。
- ・非常時におけるコミュニティの重要性を学びました。顔を見せる関係性を増やすような仕事をしたいと感じました。

◎活用度3

- ・地元の話ですが、関係のある地域とない地域の温度差を感じています。これからの課題かと。
- ・石巻におけるさまざまな事業展開アイデアに大変驚いた。震災以降、行ったことのない石巻に行ってみたくなった。
- ・まちづくりが地域活動、ボランティアとは別物と考えており、楽しんで地域づくりをしているようだった。
- ・バンバレ石巻、近いから応援に行きます。
- ・飾らない話し方に人柄がにじみ出ていて凄いの一言に尽きる。キャッチフレーズを共有し、実現していった行動力がすばらしい。仲間を大切にする姿も参考にさせていただいた。
- ・石巻の復興、地域、空間づくりの手法を知ることができて、実際に見てみたいと思った。
- ・自分たちが関わっている以外の石巻の活動が知れて良かったです。※今後の連携と協働が楽しみです。
- ・働く、活動する上で、まず「何が幸せなのか」を考えること。その大切さを教えていただくことができました。
- ・空き家を活用した取組には感銘を受けた。会津若松市でも空き家が増えて問題となっているので、石巻のような活動ができるようにしていきたいと思う。

- ・発想の豊かさ、実践力に感服！石巻へ行ってみたいと思いました。
- ・身近な事例を聞け、今後の活動の参考になった。
- ・2.0の活動が詳しく知れたので良かったです。近くなので現場をもっと見たいと思いました。
- ・「震災を契機としているが、震災があったからできたこととは思っていない」とおっしゃっていたのが印象的でした。
- ・これまでの地域課題を、震災を契機に複合的に進められており、行動力について勉強になりました。
- ・色々な方や活動に対して柔軟でありたいと思いました。
- ・空き家問題の1つの解決例としても勉強になった。
- ・色々な参考になる事例があったので、それを自分の所ではどうできるかということを考えてやっていきたいと思った。
- ・法人の紹介＝石巻で輝いている人の紹介。「何かしらの人たち」が起こす「何かしらの活動」が「経済的に連鎖していく」これは皆さんが思う「地域活性化」そのものだと感じます。こういった事例紹介はなかなか外にないものだと思います。
- ・石巻のまちづくりに必要なのは「道徳的な」「支援関係」ではなく、「相手にもメリットがある」「共犯関係」という発想・実感は活動を続けているからこそ出てくるものだと思います。
- ・まちづくり、まちおこし、の原点は小さなことから、やれることから出発。自然と人が集まってくる。
- ・同じ被災地の現状を直接伺え、また外の人との関わり合いについて参考になりました。なお、自治体などとの関わり方も伺いたい。
- ・素晴らしい活動をされているなど嬉しく思いました。
- ・厳格に決められた中ではなく、柔軟に枠組みを作ってからまちづくりを行うというのが、地域の人のワクワク感を作るのだと思った。

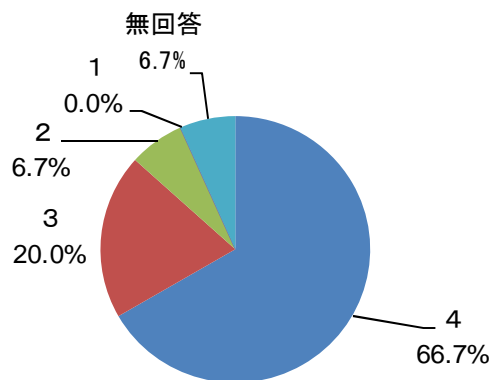
◎活用度2

- ・まちを「つくる」「再生する」「見直す」等の1つ1つを達成するのに「人」の力やつながりがとても大切なのだと学んだ。

【講師との直接対話（コース①飯盛講師）】

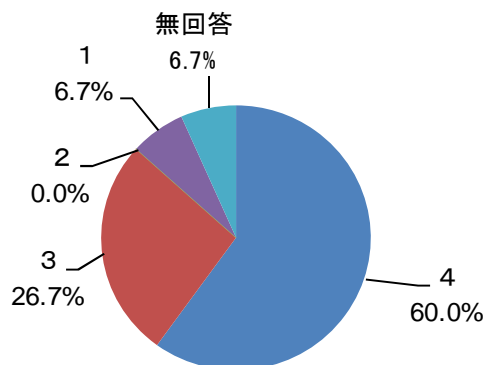
N= 15

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	10	66.7%
	3	3	20.0%
	2	1	6.7%
	1	0	0.0%
	無回答	1	6.7%
合計		15	100.0%



N= 15

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	9	60.0%
	3	4	26.7%
	2	0	0.0%
	1	1	6.7%
	無回答	1	6.7%
合計		15	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ 常日頃感じているリーダー、人材育成の課題、疑問について飯盛先生よりご教示いただいた。
- ・ 具体的地名や取組みをあげて詳しいお話が聞けて刺激を受けました。
- ・ 地域づくりの第一歩となる「場」づくりには、ヒエラルキーを持ちこまない徹底的な議論が必要であることは持ち帰りすぐ実践したい。
- ・ お聞きしたかったことも聞け、他の参加者の質問への回答も今後の活動で大変参考になった。
- ・ 地域づくりの核になる話を伺えた。
- ・ 具体的な話ができたので、とても参考になった。また他の参加者が抱える課題を共有できた。

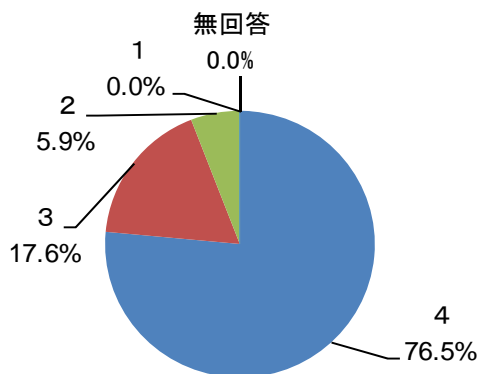
◎活用度 3

- ・ 身近に感じることができました。ご苦労なさったと分かりました。

【講師との直接対話（コース②富永講師）】

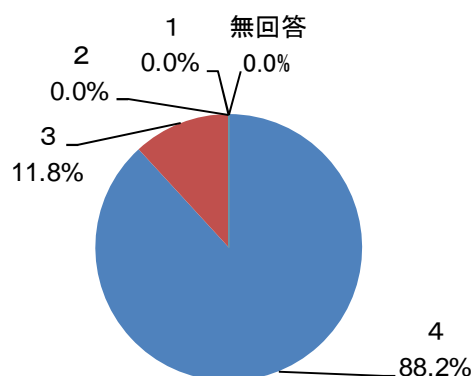
N= 17

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	13	76.5%
	3	3	17.6%
	2	1	5.9%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
合計		17	100.0%



N= 17

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	15	88.2%
	3	2	11.8%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
合計		17	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・和やかな雰囲気の中で富永先生のお考えをじっくり聞くことができた。協力隊を生かすための課題も勉強になった。
- ・地域おこし協力隊について理解していただいていることが良かった。お試して試してみることはやりやすいかもしれない。
- ・すごく身近に詳しく聞けて良かった。
- ・直接対話方式だったので、距離が近くて良かったです。講義よりもとても参考になりました。
- ・直接対話の時間を作っていただいたことにとっても感謝します。ですが、この時間内に全員の質問はできませんでした。その点だけ改善していただければ幸いです。
- ・地域を作る主体はあくまでもそこに住む住民であることを改めてご教示いただき、相互（住民-行政）の役割を念頭に取り組みを展開していきたい。
- ・組織の保持や継続ではなく、人の幸せを優先。
- ・時代の流れに学校教育が追い付いていないと改めて感じました。地域づくりの疑問が解消したように思います。
- ・組織、企業の継承ではなく、人材の育成、継承。皆が幸せになるようにしていく。
- ・幸福学と呼べるものを教えていただいた。

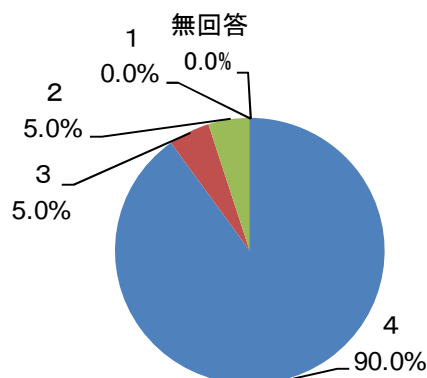
◎活用度 3

- ・楽しかったです。

【講師との直接対話（コース③豊重講師）】

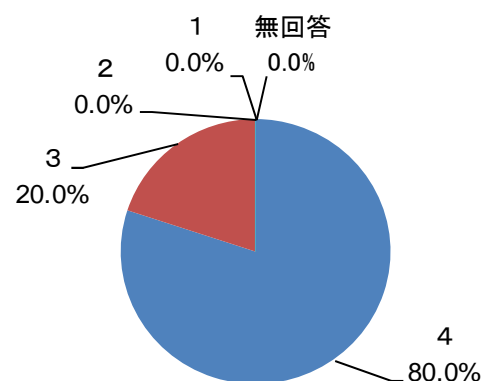
N= 20

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	18	90.0%
	3	1	5.0%
	2	1	5.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	20	100.0%



N= 20

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	16	80.0%
	3	4	20.0%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	20	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・非常にインパクトのある重要な人財おこしの話で、先生の熱意が伝わってきた。一人一人の受講生に対話される姿勢から多く学ぶことができた。
- ・昨日の話を掘り下げた話で、具体的例などで参考になりました。
- ・参加者に合わせたお話しをして下さって大変参考になった。
- ・「ほんもの」に触れることの意義をひしひしと感じました。豊重さんの本気度とパワーに圧倒されまくりでした！！
- ・新しく気付かされたり、勉強になることばかりだった。
- ・地域づくりのコーディネーター役に必要な 6 要素の中でも特にアドリブ力に苦手意識がある。今回の講義を契機に変わって、自分の人間力を高めていきたいと思う。
- ・クッション材となる方法を見つけ行動することにより、より多くの参加につながる。コーディネーター力を身につけたい。
- ・どうやったら地域コーディネーターになれるか、具体的に説明くださり感動しました。目配り気配り心配りの素晴らしさを学びました。
- ・自分が不得意であるプレゼン力に本気力を入れたいとモチベーション向上しました。
- ・自分に何が足りないのか気づかされた。今後のスキルアップにつながる。

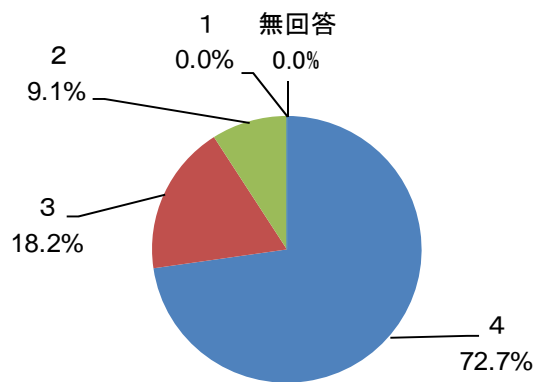
◎活用度 3

- ・地域づくりと人間力について学ぶことができた。地域づくりは人が大事と学んだ。
- ・豊重先生の地域づくりに対しての熱い思いに感動した。

【講師との直接対話（コース④小澤講師）】

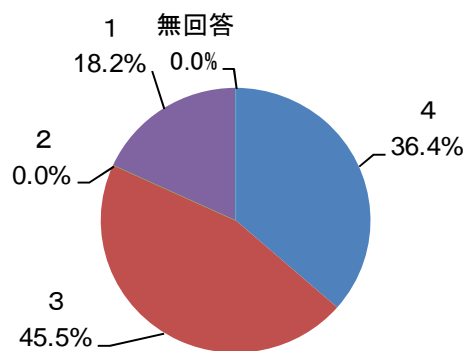
N= 11

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	8	72.7%
	3	2	18.2%
	2	1	9.1%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
合計		11	100.0%



N= 11

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	4	36.4%
	3	5	45.5%
	2	0	0.0%
	1	2	18.2%
	無回答	0	0.0%
合計		11	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・消防団の抱える課題を解決に向けた手法を学ぶことができた。今後の消防団活動において生かしたい。
- ・とても良かったです。
- ・防災に携わることで、地域の特性や地域の人々と知り合えるのは、大きなメリットと感じました。
- ・知らなかった消防団活動について、いろいろと教えていただき為になった。

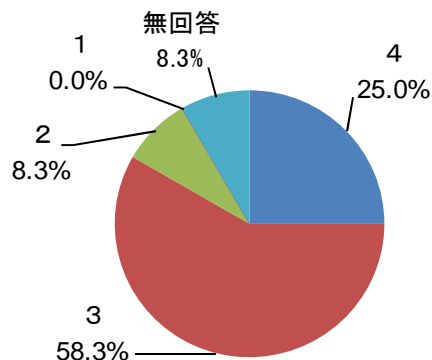
◎活用度 3

- ・防災の中に女性の視点が必要ということが印象に残りました。地域に常にいる人、近くにいる人の重要性を考えることができました。
- ・コミュニティに対する課題解決の方策を消防団の社会的位置づけから考察することができました。
- ・講義の形として理想的。よく理解できた。
- ・消防団について詳しく知れて良かったです。現状のライフスタイルに合わせて消防団も変化してきているのだと感じました。

【講師との直接対話（コース⑤前神講師）】

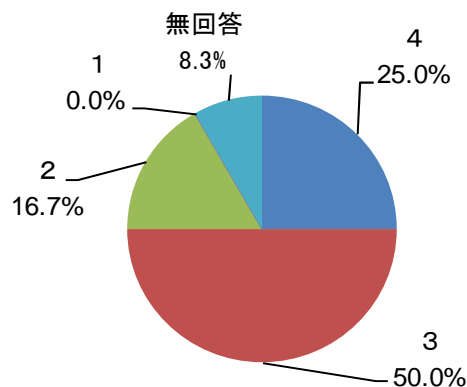
N= 12

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	3	25.0%
	3	7	58.3%
	2	1	8.3%
	1	0	0.0%
	無回答	1	8.3%
合計		12	100.0%



N= 12

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	3	25.0%
	3	6	50.0%
	2	2	16.7%
	1	0	0.0%
	無回答	1	8.3%
合計		12	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・地域課題の考え方について学ばせて頂き、概念を変えることができた。
- ・公務員としての行動の起こし方や、地域へなごむ方法や、県と市町村などとの関わり方の実体験が何うことができ良かった。

◎活用度 3

- ・高齢者虐待の職務の経験から地域づくりや人間関係の構築も含めて話していただき面白かったです。
- ・ネットワークの話や、共感の輪を広げて「巻き込む」のではなく、「参加してもらおう」のが印象に残った。
- ・公務員は座っているだけでなく、自らネットワークを造る、動かせるパワー、動くフットワークが大切。
- ・自分の聞きたいことは聞いたので満足している。

◎活用度 2

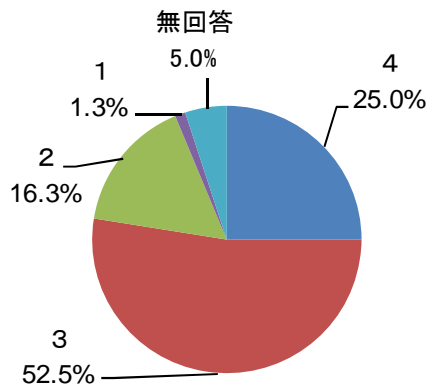
- ・協力隊として何かを提案する時にアプローチの相手方を変えることで上手くいくこともあるということを入念に入れて活動したいと思いました。

【リレー講義1】「ICT を活用した地域活性化の道すじ」

元日本マイクロソフト(株) 会長室業務執行役員シチズンシップリード 牧野 益巳 講師

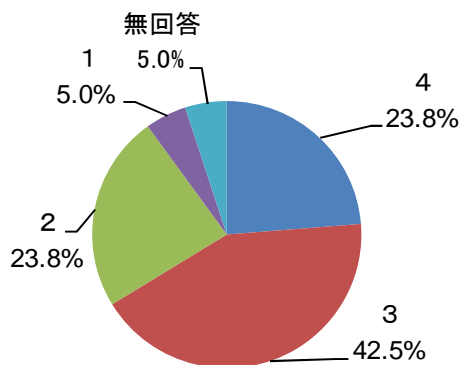
N= 80

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	20	25.0%
	3	42	52.5%
	2	13	16.3%
	1	1	1.3%
	無回答	4	5.0%
合計		80	100.0%



N= 80

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	19	23.8%
	3	34	42.5%
	2	19	23.8%
	1	4	5.0%
	無回答	4	5.0%
合計		80	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ ICT はすごい力があるのだと教えていただきました。まだ低いレベルでもがいています。もっと勉強します。
- ・ ポケモン GO やテレワークなどの最新の技術を地域づくりに生かす発想を刺激されました。
- ・ 個人的に関心のある分野なので参考になりました。
- ・ ICT を活用した具体的施策等を説明いただき、今後の利活用方法について具体的なイメージがわいた。
- ・ 千葉市で活用しているちばレポを参考に自身の自治体（渋川市）でも導入検討されるよう提案したい。
- ・ 便利になるものは導入した方が良いと思う。
- ・ 地域情報の発信にアプリを使えば、いろいろなまちづくりが出来ることが分かった。
- ・ ポケモン GO 以外のアプリが・・・というか、ICT の活用が小さい自治体にとって、我々小さな NPO にとっても大きな組織に負けない魅力づくりには重要と思えました。
- ・ 課題のテーマによって既に ICT を活用した施策に着手・運用を開始しているものはあるが、収集した情報を生かし切れておらず、未着手分野のものも多々あるので、それらを早急に対応する必要性を感じた。
- ・ ICT とコミュニティビジネスの融合の可能性や、行政が地域づくりに活用することのできる自由度の高さなどに期待したい。
- ・ 当市も SNS を始めたので、ICT が負担にならないよう活用し、人々から関心が得られるような情報を発信していきたいと思います。

◎活用度 3

- ICT の活用の可能性を調べていきたい。
- 新しい時代への技術や思考を具体的に示されて良かった。
- ICT の活用に関わっては広報及び情報発信の面から充実を意識してきたが、災害時を想定した活用については今後さらに深めていかなければと感じさせられた。
- 自治体の ICT を使用した取組を紹介して下さって参考になった。
- レベル高くついていけない。
- ICT の可能性について、多くの事例を使って説明してもらったので良かった。
- ICT は様々な部門に活用できることを理解した。上手に活用することで地域ごとに様々な取組ができると感じた。
- ICT を使うことで、ふるさと納税を例に短期間で大きな成果を上げる可能性があることを魅力に感じました。
- 最近の話題を交えながら、行政施策における ICT の利活用について事例を交えながら教えていただき分かりやすかったです。
- 元々、HP や広告の仕事をしていたため、ほとんどの知識がありました。それを活かせる事を改めて認識した機会になったと思います。
- テレワークの導入により、人の流れと仕事をつくる。
- ICT は教育現場にも次々と導入されているが、知識は追い付かない。企業と組むような予算もない・・・どうすれば良いのでしょうか。
- 短い時間で分かりやすく、ICT 事例を知ることができた。
- ICT を使って様々な可能性を現実のものにできるというのが良く分かった。

◎活用度 2

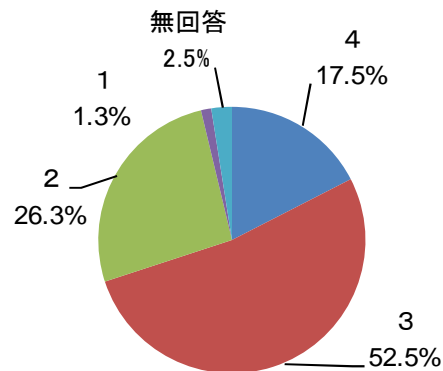
- 男性の組織作りは、会議と懇談が中心ですが、女性は忙しいので会議がネットでできれば自由に話ができると思います。
- 即、活用できるという内容ではないが、事例の研究という意味では勉強になった。
- とても良い活用とは思いますが、遠い話に感じました。お金が掛かる気がします。
- アナログ人間なのですが、IT の必要性は充分感じています。
- IT を利用し、いかに面白く、続けることができるか、が活性化につながると感じました。
- ICT はあくまでツールであり、活用できる仕組みづくりが継続に必要なことだと感じました。
- すぐに利用できるかは難しそうだと思うが参考になった。
- ICT の活用方法を知れた。
- ICT が今後社会を変えていくことを改めて認識できました。その中で ICT を活用できない方々との格差にどう対応していくのか考えていかなければと感じました。
- ICT の活用はなかなか発想に出て来ません。ですが、広報誌、HP だけでは今の時代、住民に情報は届きません。広報活動を含めてその重要性は改めて高いと感じました。

◎活用度 1

- 活用次第で良くも悪くもなると知れたことは勉強になり、お話を聴けてありがたかったです。
- ICT の必要性は分かっているが、周りに技術をもった方がいない。専門家とのコラボが地域を変えらると思う。

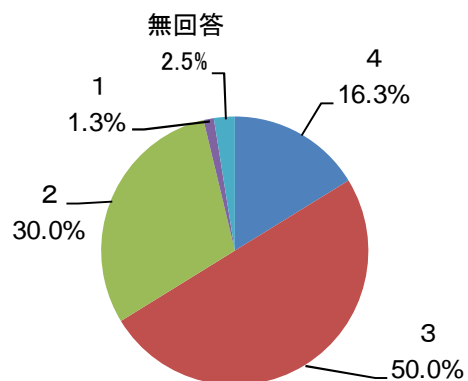
N= 80

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	14	17.5%
	3	42	52.5%
	2	21	26.3%
	1	1	1.3%
	無回答	2	2.5%
合計		80	100.0%



N= 80

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	13	16.3%
	3	40	50.0%
	2	24	30.0%
	1	1	1.3%
	無回答	2	2.5%
合計		80	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ 様々な情報が得られたので、調べて活用したい。
- ・ 国の取組と施策について解り易い説明が得られた。
- ・ 国の施策を改めて知ることができた。
- ・ 導入とはまた違い、具体的に制度についてまとめていただき、今後の勉強に役立てていきたいです。
- ・ 特交措置の制度活用を検討したいと考えます。
- ・ 施策の動向が分かって良かったです。地域づくりの事業実施支援にあたりたいと思います。
- ・ 検討できそうな支援メニューを検討し、有効的な取組に生かしていきたい。
- ・ 色々な制度があり活用することにより、地方の負担を減らしつつ、地域づくりを行っていきたい。

◎活用度 3

- ・ 総務省施策について特に地域おこし協力隊について理解を深めた。
- ・ 協力隊の受入れ体制の自治体ごとの違いや、取組み事例が知れて良かったです。
- ・ 情報提供に感謝。まだ消化しきれていないので、今後精読します。
- ・ 新たな発見となるデータがたくさんありました。
- ・ 地方創生に向けた制度、しくみについて再認識するとともに、他市町村の取組事例は大変参考になった。

- ・現在の状況や事例を学ぶことができ良かった。
- ・まだ知らない制度も多く参考になった。大都市圏で使える制度が少ない。
- ・他地域の例やその後の様子も参考に総務省の情報についても活用できればと思います。
- ・合った施策があれば活用したいと思う。
- ・改めて見直し復習を行う。
- ・地方財政措置を上手く活用し、人の流れをつくれるような仕事をしたいと感じました。
- ・地域の自立をサポートするための施策、今後の展望や動向について良く理解できた。

◎活用度 2

- ・市町村が間に入ると、事務能力の差が出てしまうと思います。
- ・まだまだ勉強不足です。いろいろな交付金もあるようですから、活力の後押しができるのであれば利用したいと考えています。
- ・国の方策について資料を読んで勉強したい。
- ・民間人でも使える公的事業が知れて良かったです。
- ・総務省の制度は様々用意されているので、その仕組みを理解して活用していきたいと思います。
- ・改めて施策の内容を確認できました。
- ・地域おこし隊のことや総務省の行うことが分かった。
- ・学校単位のプロジェクトですら形骸化しがちなので、まちづくりに人を巻き込み継続化するのは相当の熱意が必要だと思いました。

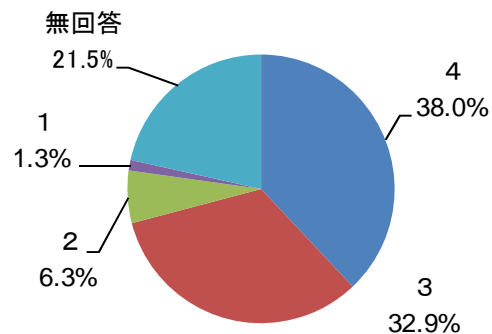
◎活用度 1

- ・協力隊の例は参考になった。

【パネルディスカッション】 テーマ：地方創生の本格化と人材育成について

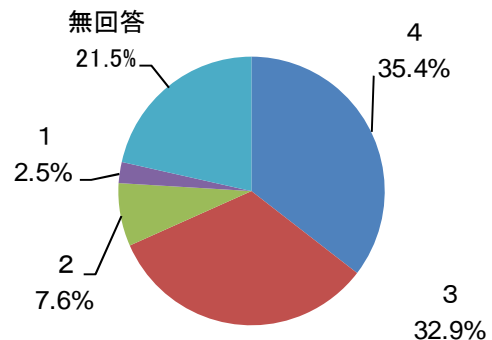
N= 79

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	30	38.0%
	3	26	32.9%
	2	5	6.3%
	1	1	1.3%
	無回答	17	21.5%
合計		79	100.0%



N= 79

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	28	35.4%
	3	26	32.9%
	2	6	7.6%
	1	2	2.5%
	無回答	17	21.5%
合計		79	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・短い心のこもった話が聞けて良かった。
- ・知行同一を仲間と共に一歩ずつ進んでいきたいと思う。ありがとうございました。
- ・心に残る言葉をたくさんいただいた。
- ・実践力の高揚に資する。
- ・人と人互いの力を活かし合い、引き出し合い、新しい行動を生み出していく、本気でやれるか試されれると思います。
- ・各方面で活躍されている方のお話は参考になりました。
- ・飯盛先生のパネリストぶりがすごかったです。
- ・働く人の本質を考えさせられました。もっと多くの人に聞いてほしい！
- ・大間町、島さんの取組が特に印象的だった。
- ・人それぞれの考え方に触れることができ、違いと共通点を見ることができた。
- ・色々な方々の事例を聞くことができました。次はワークショップがあると良いです。
- ・常に新しいことにチャレンジする意欲を念頭に、失敗することを恐れず一歩を踏み出していきたいと思います。
- ・情熱と行動力と“少しの知恵”。
- ・人材に関するディスカッションは教育と大きく関わるものだと感じました。学校と地域がつながる取組を行っていきたいです。
- ・マグロ女子会、すばらしい。その他にも大変意欲的で刺激を受ける。
- ・地域づくりに必要な人材育成について理解できた。これを普通の仕事にも活かせたらと思う。

◎活用度 3

- ・まず町に戻ったら、地域の“課題”を探したいと思いました。そして仲間を増やしたいです。
- ・自立として事業をすすめる島ヤッコの継続と革新力に敬意を表したいと思います。断乎支持！で元気が一番！
- ・様々に活躍している講師の方々の意見を聞いて、地域によって考え方の違いはあっても人の意識改革が重要であるという点は共通していたと感じた。
- ・それぞれの活動を踏まえて、人材づくり、地域づくりについての意見交換が聞けて良かったです。
- ・各分野の先生に人材育成、人材の確保について意見をいただき、参考にしていきたいです。
- ・人材の育成も必要だが、確保も大切だと思う。
- ・様々な方々がそれぞれ違った努力をしていて参考になった。ただ豊重先生の何でもリーダー育成に持っていく話はどうかと思う。
- ・話は広がってまとまらなかった。

◎活用度 2

- ・元気な島さんガンバレ！消防団の仲間探し良くわかります。
- ・マグロ女子のお話、面白かったです！！お金をかけずに面白いことをやる精神、尊敬します。
- ・リーダーになりうる人を発見し引き出してあげられるようなコーディネーターになりたいと感じた。

◎活用度 無回答

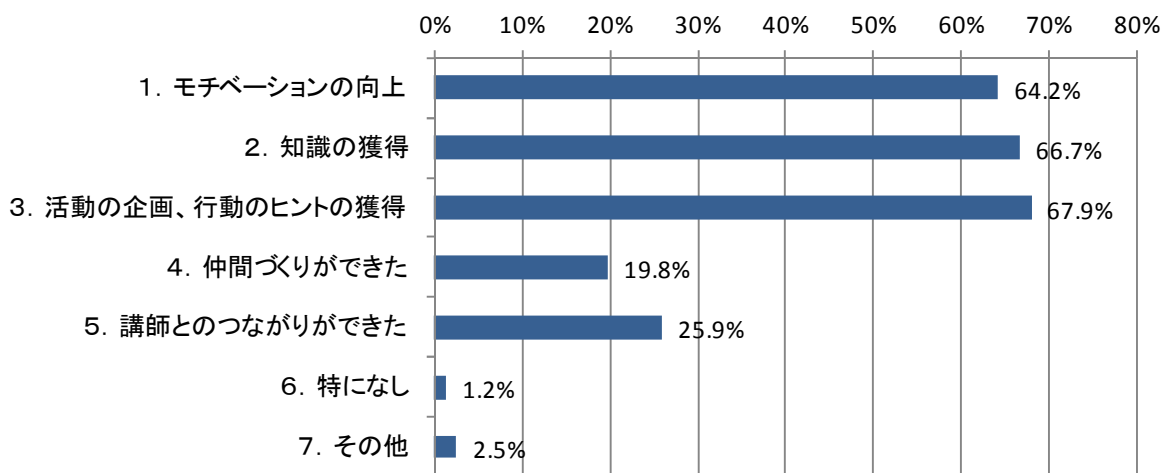
- ・「人は宝」が残りました。子ども期からの人財育成を！！学校に任せては？？だと思えます。忙しすぎます。
- ・各パネラーの独自の歩みを実践してきた力強い生き方と成果がとても素晴らしく勉強になった。
- ・答えを出そうとしない。何か守るために何かを捨てる大切さを学んだ。
- ・豊重さんのコメントは、的を得て重みがあると感じた。

(2) 研修全体について

①人財塾の良かった点についてお伺いします。下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください（○はいくつでも）

N= 81

	回答数	%
1. モチベーションの向上	52	64.2%
2. 知識の獲得	54	66.7%
3. 活動の企画、行動のヒントの獲得	55	67.9%
4. 仲間づくりができた	16	19.8%
5. 講師とのつながりができた	21	25.9%
6. 特になし	1	1.2%
7. その他	2	2.5%



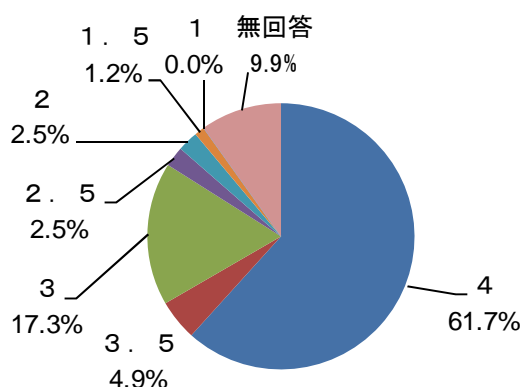
<感想>

- ・各講師の皆様から地域づくりについてご指導いただけたことに感謝致します。
- ・複数の講師の方から講義を受けることができ、様々な視点から地域づくりの考え方を学ぶことができたので、今後の参考とすることができる。また、講師との直接対話でより深く話を聞くことができ、モチベーションの向上にもつながった。
- ・選択講義で豊重先生との直接対話の時間がとても良かったです。先生から直接声をかけていただいたことで、今後の活動へ意欲が高まり感謝しています。
- ・実践課程をお聞きできたこと。人づくりのためには、自分自身を高める意識が重要であること。真剣に取り組んでいる人たちがたくさんおられること。伝達を頑張りたい。
- ・先生方の熱意のあるご講演を聞いて、自分もまだ頑張れるとモチベーションが上がった。
- ・様々な人材を活かした事例を伺うことができ、元気を頂きました。地域のまちづくりのメンバーや関係機関にも学びの共有を計りたいと考えています。
- ・自分自身の活動を多角的な視点から確認したかったので、似たような事例や全く興味のなかった事例の中に存在する共通のソリューションやヒントを得ることができました。
- ・他地域の地域おこし協力隊の隊員の方との交流ができて刺激を受けました。

- ・必ずしも道徳的でないといけないという固定概念のようなものを取り除いていかないと地域づくりもなかなか進めにくいのかなと感じました。講師の方も失敗や怒られる事もありながら現在に至っていることを聞いて良かったです。
- ・地域づくりをする上での求められているスキルや姿勢が見えたように思います。
- ・周囲の人と仲間づくりをすることができた。今後は小規模でも良いので、直接対話やワークショップなどの受講生が考えて答えを出してもらおう研修の方がメリハリもあって良いと思う。
- ・成功事例をたくさん知ることが出来たり、そのポイントを講義でお話いただいたので大変参考になりました。
- ・直接対話では、講義の内容をより深く理解することができました。できれば、他の講師の方ともお話ししてみたかったので、対話の時間が多くなるとさらに良いと思います。まちづくりの現場では、あちこちで次々と様々な取り組みが生まれていると実感しました。学校も何かを生み出す、元気を生む人が育つような場にしていきたいと思います。
- ・特にNPO フュージョン長池の実践（富永先生）、行政に頼らない地域づくり（豊重先生）の2つは、今まで受けたセミナーの中で最もインパクトを受けた。
- ・地域づくりについて人材の支援等様々な観点からより広く深く学べたと思う。また講師と直接話をする事ができたり、パネルディスカッションを生で聞けたりしたことで、地域づくりを考える上でのヒントや企画のやり方をたくさん教えていただけたと感じる。
- ・国や地方の現状や今後の動向がわかり、少し整理してみたいと思った。

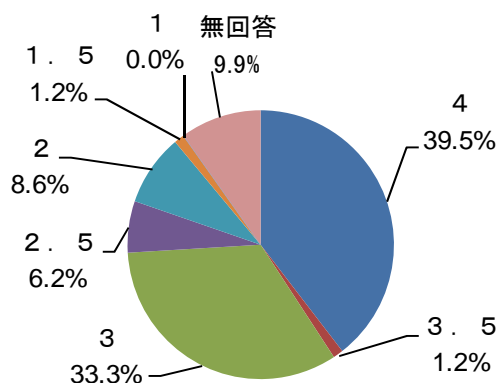
②人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに又は、継続して行っていききたいと思うようになりましたか？

		N= 81	
		回答数	%
↑ 思った	4	50	61.7%
	3.5	4	4.9%
	3	14	17.3%
	2.5	2	2.5%
↓ 思わない	2	2	2.5%
	1.5	1	1.2%
	1	0	0.0%
	無回答	8	9.9%
合計		81	100.0%



③研修全体の進め方・運営についてどのように感じられましたか？

		N= 81	
		回答数	%
↑ 思った	4	32	39.5%
	3.5	1	1.2%
	3	27	33.3%
	2.5	5	6.2%
思わない ↓	2	7	8.6%
	1.5	1	1.2%
	1	0	0.0%
	無回答	8	9.9%
合計		81	100.0%



④その他研修に関して改善点・お気づきの点をお聞かせください。

<講義内容>

- ・講師の皆さんの事例の成功話が多かったので、失敗の話も取り入れてもらいたかったです。
- ・実のある研修であり、一人一人の講師の方々のお話をさらにじっくりお聞きしたいと感じた。短時間の中で重要なポイントを示していただけたことに感謝するとともに、東北の地で開催していただいたことを幸せに思う。
- ・直接的な“地域づくり”でなく、もっと自由な発想での活動がまわりまわって地域づくりにつながるような形で行っていきたい。
- ・全体的にとっても勉強になり良かった。
- ・中身が濃くて良かった。
- ・国内の知りたいと思っていた取組で、被災地宮城県で知ることができ大変ありがたい研修でした。
- ・実際にご苦労されてきた本人のお話は心に刺さりました。参加できて良かったです。ありがとうございました。
- ・知行同一難しいな。

<講師>

- ・飯盛先生のように学問として地域づくりに関わっている方の話はデータなどを使い、理論的に地域づくりを考えているので理解しやすい（ポイントが分かりやすい）。
- ・パネルディスカッションの佐々木さん、渡辺さんのお話はもう少し長く聞けたらと感じました。

<構成>

- ・1時間ちょっとの講義を聞いているだけだと、どうしても飽きてきてしまうので、インプットだけの長時間の講義だけでなく、ワークショップなどの飽きない、考えてもらう研修の方が次回も参加したいと思った。参考事例を聞いて、自分の自治体では何ができるかなど考えて、実行してもらえる研修会の方がメリハリもあって良いと思う。
- ・各講義で質問の時間があれば良かったと思いますが、時間の都合でしょうか。

- ・座学の連続だったので集中力を保つのが大変でした。
- ・講座の間の休憩時間が少々短い（あと5分あれば）。
- ・参加された方々が持っている課題の違い、立場の違いから話を深めることができなかった。多様な課題に応えられる柔軟なプログラムだと助かります。
- ・受講生は職業ごとに分けて、特化させた方が良いと思う。
- ・研修場所、日程、講師の方々、準備も含めて良かったと思います。

<選択講義>

- ・直接対話の時間を多く取って欲しい。
- ・講義と直接対話の比率を1：1にする。
- ・直接対話の講師の全員の方の話を聞きたかったです。
- ・選択ではなく、他の講義も受講してみたいです。
- ・運営的に大変困難だと思いますが、初日の日程終了時に翌日の講師を選べたらよいと思いました。

<交流・振り返り・情報交換の時間>

- ・地域づくり初心者なので、他の参加者の地域づくりの苦労点なども情報交換できる時間があると、さらに勉強になったのかもしれないと思った。
- ・一方的に講師が講義する内容が多かったので、理解できにくいことがあり、自分自身に納得できるよう咀嚼するのが難しかった。2日目の講師との直接対話とか、1日目の振り返りの時間など、自分の考えを話す場がもう少し多くなる方が意欲がわくと思う。
- ・参加者同士の交流の時間があると良いです。
- ・受講生同士で話す機会がもう少しあると良いかと感じた。

<その他>

- ・仙台で地方開催していただき有難うございました。
- ・仙台を会場としての開催はとても良かったです。準備など大変と思いますが、東北地域間の人つながりづくりができました。
- ・案内を見て「教員は対象に入るだろうか・・・」と不安になりながら参加しましたが、教育に関わる人こそ知るべき内容だと思いました！ぜひ教員にも広く周知してください！！
- ・こういったセミナー等はあるが参加している人は良い。でも、本当はこういったセミナーに参加していない人、参加しようとしていない人たちを参加させることができればと思う。
- ・座表に名前を入れて頂けると、交流もできると思いました。
- ・会場案内について国際センターのどのエリアで行われるのか解り難かった。「会議棟」or「展示等」？
- ・会場が複数あったが、特に最初の受付の場所が分かりづらかった。
- ・対話の会場が分かりづらかった。
- ・名簿と座席表の対応ができると嬉しいです。
- ・会いたい人に会えるように、名前にNo.をつけたら良い。
- ・懇親会の料理は是非、地のモノ等をご用意ください。講師との直接対話では、同じ職（協力隊）がまとまって少々違和感を覚えました。

- ・冷房が利きすぎてとても寒かったです。エアコンの風が直撃する位置の席だったので特に。男性と女性では体温差もあり、熱い先生方の体温に室温を合わされると厳しいですね。夏の開催時には、温度管理が難しいでしょうが、勉強環境が不快だと集中力が落ちやすいです。会場に行ってみないと空調環境がわからないので対応しにくいです。
- ・特になし（2件）

（3）今回の研修受講生を対象としたステップアップ研修を行う場合、どのような内容を望みますか？

<ケーススタディ・フィールドワーク>

- ・受講生のケーススタディ。
- ・受講生が短期間で現在取り組んでいること、これから取り組もうとすることを互いに発表し合い、ディスカッションする場をつくること。集まった受講生同士が、横のつながりを作ったり、学び合える場としての（講義）研修時間を設ける。
- ・受講生とディスカッションする場があると交流もあるかと思いました。
- ・フィールドワーク、ディスカッション中心の少人数講座。
- ・実際に動き出している PJ のアドバイス、人材紹介等、それぞれ現場に落としこめるかもしれないレベルでの情報共有。
- ・ケースを用いたファシリテーション研修やフィールドワーク型の研修。
- ・受講生同士で実際の課題について議論してみたい。
- ・実際の先進事例について触れ、実践に移せるよう一緒に分析してみたい。
- ・実際に自分の地域に落とし込んで考えられるようなプログラムがあると思います。グループワークの中で相談（相手の地域も含む）、発表までを行うようなもの。少人数制でも。
- ・いくつかのテーマに分かれ、仮想の企画に対して予想される困難や、それへの対処を考えるワーク。
- ・現在抱えている悩みについてのディスカッション、アドバイス。
- ・講義を聞くだけでなく、受講生が自ら考えて、ワークショップなど、協力・共有して行動できる研修だったら参加したいです。講義は確かに参考になる点はあったが、それを聞いているだけでは駄目で、実際には自分の自治体の仕事に置きかえて実行しないと意味がないと思うから。長時間の講義だけでは大人でも寝る人、眠くなってしまう、せっかくの研修がもったいない。
- ・今回は講義形式のプログラムが多かったので、ワークショップや受講生同士の意見交換の場があれば良いと思いました。
- ・ケースを実際に見る研修、既に行われているかもしれませんが、受講生の成功事例が生まれた際に、今回の行動宣言からそこに至るまでの取り組みをグループワーク等の「問題」として提供、答え合わせを受講生にしていきたい。双方が新たな「考え方」を知る機会になると思います。
- ・それぞれの事例等を持ち寄って、お互いの課題や取り組んだ成果等を共有し合い、ナレッジを次に生かせるプラットフォームの構築等を検討してみてもどうかと思いました。
- ・現状を踏まえた課題発見プログラムと解決方法。
- ・ワークショップ、フィールドワーク。

- ・小グループ（7～8人）毎に研修のテーマを基に意見交換する場所時間があればよい（講師との対話ではなく、グループ参加者同士の話し合い。2時間位）。
- ・講義形式ではなく、ワークショップ形式の講座。

<フォローアップ>

- ・研修後のそれぞれの地域での取組についてシェアし合う形。
- ・行動宣言を行った6ヶ月後くらいに、現在どのような取組を行っているかプレゼンし合う。
- ・研修後にどの様に活かされたのかを聞きたいし共有したい。
- ・地域おこし協力隊制度は期間が決まっているため、必ず「その後」があります。「その後」に関する研修、「その後」地域とどう関わり成果を出すか。

<講義の内容>

- ・地域おこし協力隊として地元を離れ、志を持って取り組んでおられる方々の実状をお聞きしたい。この事業の継続のためにも、行政による温度差を見つめなければならないのではないだろうか。
- ・地域と地域をつなぐ交流。
- ・今回、ご紹介いただいた事例や企画がどのように続いているのか知りたい。
- ・教育に関する研修を希望します。
- ・具体的な成功例、失敗例をたくさん紹介していただける内容のものがあれば嬉しいです。
- ・悪く出ている部分と、それを支えている部分を紹介して欲しい。
- ・失敗例、本音と建前が聞けるもの。
- ・地域づくりの具体的な成功例を、実際に活動された方から直接聞ける内容が良い。
- ・実際に起業した人のお話し。
- ・お互いの意見交換、交流。
- ・金融機関の先生を講師にまちづくりを進める上での情報共有を行う（金のサポート）。
- ・具体的なリーダーの育成について。
- ・今回と同様、まちづくりの担い手となっている方々の講義で良いと思います。

<その他>

- ・無関心な方を参加させているセミナー。
- ・今回の内容に充分満足しているので、今は特に思いつきません。
- ・特になし（2件）

全国地域づくり人財塾

主催：総務省 共催：宮城県、仙台市

IN 仙台

地域の活性化に向け、地域独自の価値や魅力を高める創造的な人材が行ってみたい、住んでみたいと思うような地域づくりが求められています。そうした地域づくり活動を自らの手で企画し実践する「地域づくり人」を育成するため、「全国地域づくり人財塾」を仙台市において初めて開催します。

開催日

平成28年 8月 1日(月)・2日(火)

会場に宿泊施設はございません。お泊りの場所は各自でご用意ください。

開催概要

8/1(月)	13:20~17:30 : 講義 18:00~19:30 : 講師との交流会
8/2(火)	9:00~14:15 : 講義、分科会 14:30~16:00 : パネルディスカッション

対象

- 地域づくりに関心のある行政職員・地域づくり団体・NPO関係者の方
- 全課目を受講いただける方
※全科目の受講が難しい場合には事務局にお問い合わせください。

定員

100名 (受付は先着順となります。)

受講料

無料 (1日目の交流会費は別途必要です。
2日目の昼食は各自でご用意ください。)

会場

仙台国際センター (宮城県仙台市青葉区青葉山無番地) ※駐車場は有料です。



【受講生の声】

- とにかく講師の先生が素晴らしかったです。普段受けている研修とは面白みが違いました。
- 講師の先生方が超一流の方々と、一緒に受講され、交流会も出ていただける、とても贅沢な研修でした。



【主催】総務省 地域力創造グループ 人材力活性化・連携交流室
担当：萩原係長、齊藤事務官 Tel.03-5253-5392

お問い合わせ先

→ お申し込みは、こちらにご連絡ください。
(株) 価値総合研究所 全国地域づくり人財塾係 担当 八木、目黒
E-mail : zinzai@vmi.co.jp Tel : 03-5205-7901 Fax : 03-5205-7922
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1

プログラム詳細

■ 8月1日(月)

※1日目の昼食は済ませて、ご参加ください

12:00-13:00 受付
13:20-13:30 開講・オリエンテーション

13:30-13:45 【導入講義】

『人材力の活性化について』

講師：総務省人材力活性化・連携交流室

13:45-14:40 【講義】

『NPOフュージョン長池の実践～多様で美しい共生の地域を創造する人財とは～』

特定非営利活動法人 NPOフュージョン長池 会長 富永 一夫 氏

14:55-16:05 【講義】

『地域再生～行政に頼らない地域づくり～』

柳谷自治公民館 館長 豊重 哲郎 氏

16:20-17:30 【講義】

『地域づくりマネジメント — つながりをつくり創発を生む仕組みづくり —』

慶應義塾大学SFC研究所 所長／総合政策学部 教授 飯盛 義徳 氏

18:00-19:30 【交流会】

仙台国際センター内会議室

参加者間の交流を深める懇親会を開催します（会費制 4,000円）

■ 8月2日(火)

※2日目の昼食は各自でご用意ください

※施設内カフェ、国際センター駅のカフェは混雑する場合があります

※施設内に売店、コンビニエンスストアはありません

9:00-10:10 【講義】

『震災を契機とした創作的まちづくりモデル』

一般社団法人 ISHINOMAKI 2.0 代表理事 松村 豪太 氏

10:25-11:55 【選択講義1】

※「講師との直接対話」と「リレー講義」を両方を受講していただきます

※「講師との直接対話」は、コース①～⑤から1つのコースを受講していただきます（会場の都合により第2希望以降になる場合もあります）

11:55-12:45 昼食・休憩

12:45-14:15 【選択講義2】

※「リレー講義」の受講は**必須**です（「リレー講義」の内容は【選択講義1】と【選択講義2】同じです）

「講師との直接対話」

下記の①～⑤のコースから1つお選びください。

コース①：飯盛講師

コース②：富永講師

コース③：豊重講師

コース④：小澤講師

コース⑤：前神講師

(各90分)

「リレー講義」(必須)

牧野講師

『ICTを活用した地域づくり』(45分)

総務省地域力活性化・連携交流室長

『地域力創造施策の動向』(45分)

14:30-16:00 【パネルディスカッション】

テーマ：地方創生の本格化と人材育成について

<コーディネーター> 飯盛 義徳 慶應義塾大学SFC研究所 所長／総合政策学部 教授

<パネリスト> 豊重 哲郎 柳谷自治公民館 館長

小澤 浩子 赤羽消防団 副団長

島 康子 津軽海峡マグロ女子会

竹川 隆司 一般社団法人IMPACT Foundation Japan エグゼクティブ・ディレクター

渡辺 一馬 一般社団法人ワカツク 代表理事

16:00 閉講

講師紹介（講義順）

※H28年8月1日現在の役職

■ 特定非営利活動法人 NPOフュージョン長池 会長 富永 一夫 氏

東京都多摩ニュータウンに暮らす普通のサラリーマンが、ある日突然会社を辞めて地域に戻り、人と人のつながりが希薄なベッドタウンで少し昔の日本の町ならどこにでもあったような暖かい人間関係を取り戻そうと一念発起。2012年には、緑の都市賞（国土交通大臣賞）を受賞。“都市郊外”の新興住宅地と既存の住民との間で地域づくりの活動を実践されてきた講師の経験をもとに、どのような点に留意しながら地域活動を展開すべきか、その要諦を講義いただきます。

■ 柳谷自治公民館 館長 豊重 哲郎 氏

柳谷（やねだん）は、鹿児島県肝属平野に位置し、集落ぐるみで豊かな生き方を目指す小さな「むら」です。土着菌を活用した環境保全型農業や生きた福祉活動が高く評価され、第8回日本計画行政学会「計画賞」の最優秀賞受賞。また、「むらづくり日本一」も受賞。全住民参加型の感動の地域づくりを実践している豊重自治公民館館長の経験をもとに、行政に頼らない自立した地域づくりのポイントと、地域人材の力を引き出し、活動に巻き込むためのポイントを講義いただきます。

■ 慶應義塾大学SFC研究所 所長／総合政策学部 教授 飯盛 義徳 氏

地域づくりの第一人者である慶應義塾大学飯盛教授は、実践を通じて地域の元気の具体的な方策を探求されています。そのご経験から、先進事例の成功要因に基づき、「個々の人材の活かし方」「リーダーの役割を果たす人材」のほか、「リーダーを支えるための人材」など地域づくりにおける人材力の観点から講義いただきます。

■ 一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 代表理事 松村 豪太 氏

石巻をバージョンアップしたい。震災の前の街に戻すのではなく、新しい未来を作りたい。被災した店の二階に集まった有志たちの思いから「ISHINOMAKI 2.0」は生まれ、合言葉は「世界で一番面白い街を作ろう」。古いしがらみは断ち切り、世代や立場を超えて、誰もが主役の未来を作る。プロジェクトや場所やメディアを融合させて、楽しく、遊ぶように未来を作るという観点から講義いただきます。

■ 一般財団法人地域活性化センター 総務企画部 クリエイティブ事業室長 前神 有里 氏

地域包括ケア・高齢者虐待防止を担当したことをきっかけに、地域に深く関わる地域づくりを実践。2011年から地域担当職員となり、市町・地域おこし協力隊・地域の人と地域活性化と地域包括ケアのまちづくりに取り組んできた経験をもとに、公務員が職務経験を地域で生かす・地域での経験を職務で生かすためのポイントを講義いただきます。

■ 日本マイクロソフト株式会社 会長室 業務執行役員 シチズンシップリード 牧野 益巳 氏

地方創生の深化に伴い、地域のICT（情報通信技術）利活用を支えるICTリーダーのニーズは、今後ますます高まります。少子化を伴う高齢化社会においては、より少ない労力でより多くの生産物と付加価値を生み出すことが活性化のカギとなります。コミュニティとその担い手、行政と企業とをICTで結ぶ新たな地域協働のポイントと、その先進事例について講義いただきます。

パネルディスカッション パネリスト紹介（50音順）

■ 赤羽消防団 副団長 小澤 浩子 氏

近年、防災、応急だけでなく、有事における国民保護、災害学習や地域行事等を通じた地域の未来を担う人材の育成、様々な組織や人との連携等においても、消防団への期待はますます高まっています。パネルディスカッションでは、消防団が安全を守ることでもちが育つ、そして、そのまちとともに消防団や地域を担う人材を育てていくという観点からアドバイスいただきます。

■ 津軽海峡マグロ女子会 島 康子 氏

ふるさと大間がNHK連続テレビ小説「私の青空」の舞台となったことをきっかけに、おもしろがる心で地域を元気にする試みを進められています。パネルディスカッションでは、まちおこしゲリラ集団など自らも楽しむ地域活動という観点からアドバイスをいただきます。

■ 一般社団法人IMPACT Foundation Japan エグゼクティブ・ディレクター 竹川 隆司 氏

カタル国（カタール）の東日本大震災復興基金「カタルフレンド基金」の支援を受け、小中高生、大学生、企業、生産者など、どんな人でも新しいビジネスの創出に向かってチャレンジする「おこす（起こす・興す）人」の支援プロジェクト「INTILAQ」に取り組む。パネルディスカッションでは、起業・事業家養成の観点からアドバイスをいただきます。

■ 一般社団法人ワカツク 代表理事 渡辺 一馬 氏

学生時代に参画したベンチャーサークル・デュナミスを卒業と同時に会社法人化して「世界を変える人材を数多く生み出す仕組みを創る」ことを目的にインターンシップ事業を開始。震災後、一般社団法人ワカツクを立ち上げ、ボランティアやインターンのコーディネート事業を展開。パネルディスカッションでは、若者の挑戦という観点からアドバイスをいただきます。

有料駐車場

【地下駐車場】普通車96台 <料金> 最初の1時間は200円 その後30分ごとに100円

【せんだい青葉山交流広場】普通車66台～346台 <料金> 30分ごとに100円

全国地域づくり人財塾 in 仙台 受講申込書

下記の申込書にご記入の上 E-mail: zinzai@vmi.co.jp までお送りください。
 価値総合研究所ホームページからのお申し込みはこちらから
<http://www.vmi.co.jp/symposium/business/h28zinzai1.html>

受講申込書 (申込期限: 平成28年7月25日(月) まで)

お名前 (ふりがな)					
E-mail					
電話番号					
ご所属	(所属・団体名)				
	(部署・役職名)				
交流会	参 加 ・ 不 参 加				
選択講義	第1希望	第2希望	第3希望	第4希望	第5希望
	コース①: 講師との直接対話(飯盛講師) コース②: 講師との直接対話(富永講師) コース③: 講師との直接対話(豊重講師) コース④: 講師との直接対話(小澤講師) コース⑤: 講師との直接対話(前神講師)				
※上記欄にご希望のコースを第5希望まで記入してください。 ※会場の都合により第2希望以降になる場合もあります。 ※リレー講義の受講は必須です。					

事前記入欄 (できるだけ簡潔にご記入ください)

人財塾受講の動機についてご記入ください。また、この研修で学びたいことをご記入ください。(100字以内)	
選択講義で講師に聞きたいこと(それぞれ30文字以内)	
第1希望	
第2希望	
第3希望	
第4希望	
第5希望	

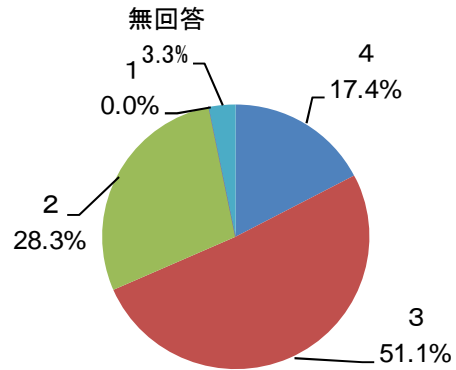
4. 市町村職員中央研修所（JAMP）編 [平成 28 年 10 月 26 日～28 日]

(1) 各プログラムに対する評価

【講義 1】「人材力の活性化について」 総務省 地域力活性化・連携交流室長 飯塚 秋成

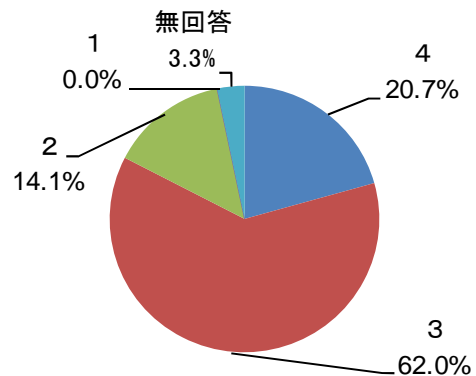
N= 92

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	16	17.4%
	3	47	51.1%
	2	26	28.3%
	1	0	0.0%
	無回答	3	3.3%
合計		92	100.0%



N= 92

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	19	20.7%
	3	57	62.0%
	2	13	14.1%
	1	0	0.0%
	無回答	3	3.3%
合計		92	100.0%



<感想>

◎理解度 4

- ・ 支援メニューは多岐にわたっており、選択する、収集することが大事だと感じた。
- ・ まず寄り添い、地域をそして自分をあきらめから脱し、それから事業導入につなげていきたい。
- ・ 総務省の様々な人材育成プログラムについての活動をもっとうまく活用していきたいと思う。
- ・ 各種交付金の概要は理解できた。今後の業務に活用を検討したい。
- ・ 総務省の地域を活性化させる為には人材力の活性化が必要不可欠であり、今回の企画の意図が聞いていて良く分かりました。
- ・ 地域力を育てる過程「足し算」と「掛け算」
- ・ 地域力を創造する支援策の概要を知った。
- ・ 人づくりとまちづくりは切り離せないと改めて思いました。
- ・ 後に資料の読み込みが必要ですが、役に立つ情報ばかりで有難いです。
- ・ 政府全体として、地方のヒト、モノ、カネ、情報がまわっていく状況をつくり出す方針、特に人づくりの方向性が良く分かった。
- ・ 政府や総務省の資料をいただき、活用していこうと思った。
- ・ 全体的な導入として最適であった。

- ・新たに措置された交付金等もあるので、担当課に共有し活用していきたい。
- ・研修の目的等がよく分かった。
- ・もう少し時間をかけて制度の説明をしても良いかと思います。
- ・総務省の思いを感じ取るには時間が足りなかった。しかし、いただいた資料は有効に使わせていただきます。
- ・概要の説明でしたので、後日資料を拝見して活用させていただきたいと思います。

◎活用度 3

- ・市町村とのつながりをもう少し聞いてみたかったですね。総務省として都道府県と市町村、関係者とのつながりや体系を説明していただくのも良いのではと思う。
- ・各会議等で伺っている内容でもあることから再認識させていただきました。
- ・現在、総務課に所属している為、地方創世という言葉はいつも聞いていたが、こんなにもたくさん取り組んでいるのに驚いた。
- ・これから資料を読んで理解を深めたい。
- ・後で資料を見て学びたい。
- ・国の制度、方向性を伺うことができ参考になった。
- ・地域の活性化のためのネットワーク作りの重要性を知ることができた。
- ・地域活動は足し算と掛け算のサポートがあり、使い方を間違わないことを学んだ。
- ・講義の時間が短く、理解までに至らなかった。再度資料を見直し勉強したい。
- ・今後の地域づくりや活動の参考にしていきたい。
- ・人を動かすために資源を見つけ出し活動することが大切だと思いました。
- ・総務省の流れを汲みとして自治体としては動きを考えると多々あるので、しっかり国の動向を追っていきたい。
- ・総務省からのお知らせ。時間がある時によく読んで理解したい。
- ・時間が短かったが、資料は役立てられるものであった。
- ・資料等を改めて読み直したい。
- ・国の政策を聞くことができたので良かったです。
- ・総務省の地域づくりに係る人の育成方針が大まかながら窺い知れたが、やはりもう少し時間が欲しかった。
- ・地域づくりの様々な取り組みを知ることができ参考になりました。
- ・時間が短く残念だったが、今回の研修の経緯を知る良い機会となった。
- ・短い説明でしたが、資料がきめ細やかな部分まであるので活用できそうだと感じました。
- ・少し時間が短く感じました。資料は来年度予算編成に生かしていきたい。
- ・地域おこし協力隊の現況と対策が理解できた。
- ・短時間であったが、国の「人材」に対する動き、視点が分かった。
- ・講師の方の本気度が伝わってきて大変心を打たれました。
- ・地方創生とは地域づくり、人づくりであることと分かりました。ハンドブックがあることを知りましたので、職場で情報共有しようと思います。

- ・総務省の施策と地域づくりについて、関係性について理解できました。
- ・総務省についての概要等の説明があり、活用できそうな資料もたくさん頂けたので、業務で活かしていけそうなものがあれば利用していきたいです。
- ・今回の人財塾の目的とかが明確に伝わりました。
- ・全体的な視点が生まれて良かったです。
- ・15分という限られた時間のため、後程資料に目を通して理解度を深めようと思います。
- ・あらためて総務省の事業の勉強になりました。
- ・地方創生の総務省の動きや今後の展望を学べた。
- ・地域づくり、すなわち自主的に地域が活性化するには諦めの意識を払拭することが重要！
- ・地方に仕事を作り、地方への新しい人の流れを作る。人材ネットワークをまず強化し、外部人材の支援をしてもらう。タイミングの重要性が理解できた。
- ・総務省の進める地域創生のイメージを何となく掴むことはできました。受け皿となる自治体に体力とノウハウがあるとは思えませんので、相当努力が必要です。
- ・総務省としての取組について学ぶことができました。
- ・地域づくりは時代の流れであると感じた。
- ・寄り添い型支援と、事業導入段階のサポート体制が、今の課題解決のきっかけになりそう。
- ・政府の方針について全体像を把握できて良かった。
- ・時間が短かったと思う。

◎活用度 2

- ・人材に価値を置く。
- ・国（総務省）の情報を確実に素早く市町村でも把握し、活用できるように発信してもらいたい。
- ・国の政策、取組についてもっと具体的話まで聞けると良かったと思う。
- ・要点をかいつまんで話していただいたため、とても分かりやすかった。資料が多くあるので読み進める必要があると思った。
- ・地方創生に向けた総務省の取組み等、最新の動向を知ることができ有意義でした。

◎活用度 無回答

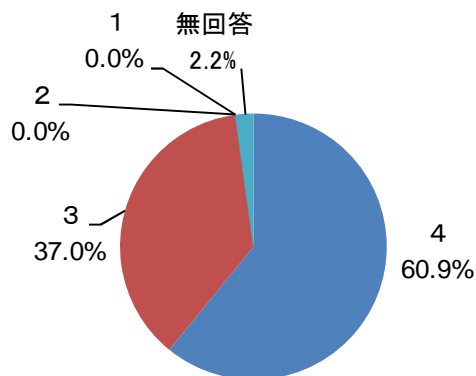
- ・地域づくりにおいて人材力の重要性を知りました。その中でも個々の人材力育成は難しい課題であり、今後コツコツと取組むべき優先課題だと感じました。
- ・とても分かりやすい説明でした。

【講義2】「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」

柳谷自治公民館長 豊重 哲郎 講師

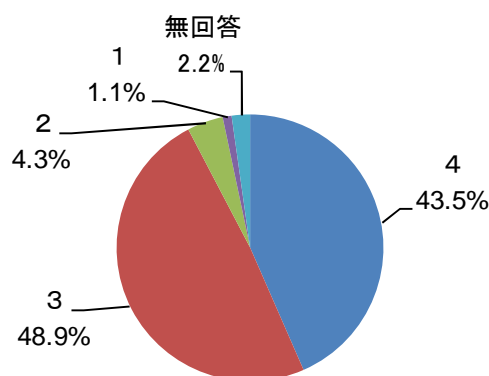
N= 92

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	56	60.9%
	3	34	37.0%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	2	2.2%
合計		92	100.0%



N= 92

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	40	43.5%
	3	45	48.9%
	2	4	4.3%
	1	1	1.1%
	無回答	2	2.2%
合計		92	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・防災に携わる身として、地域住民による財源の確保や行動は、自主的な防災組織にも参考になる活動内容でした。やねだんの活動を事例として伝え、防災及び地域活性につなげていきます。
- ・豊重先生のお話は3度目ですが、その時々で感じ方が違うことを思うと、今自分がどのような立場で何が足りないかヒントをもらえたように思います。
- ・耕作放棄地、空き家と自治体が抱える問題を自主財源や住民増に繋げており、非常に参考となった。
- ・とてもリーダー性がある人だと思いました。地域にこのような方がいたらとても安心できる。
- ・熱い話に感動しました。役所の職員ではなく、地域の1人として見習わなければと痛感しました。
- ・豊重様の熱さに感動するとともに、持続できる組織づくりを冷静に企画運営していることが非常に勉強になった。
- ・地域団体活動の目指すべき姿であり、理想であると感じた。我々行政マンは豊重先生のようなリーダーを発掘したい。またサポートしたい。
- ・まずは顔の見える地元の区長や役員の方と自立した集落になれる取組みを考えていきたい。
- ・自治会の再生、運営は当市においても課題であり貴重な話を伺えた。
- ・先生の熱意がよく伝わった。
- ・ボランティアでない持続可能な地域づくりに必要なのは経営感覚と動機付けであると学んだ。非常に刺激的な話だった。

- ・やねだんのごことは存じ上げておりましたが、実際にお話を伺えて本当に良かったです。
- ・行政に頼らず地域づくりを行うノウハウを学ぶ事ができ、今後活用してみたいと思いました。
- ・テーマ「文化の向上と子ども」「サステナブル」「常に数字で見せる」「地域に何を還元するか」
- ・自主財源を確保して町内会費を回収しないという点は非常に素晴らしいと感じました。
- ・行政に頼らずに自立できている集落があることに大変驚きました。地域づくりを進める中で、参考にさせていただきます。
- ・先生の講義も分かりやすかったが、上手に編集されたビデオをみることで、よりリアルに感じる事ができた。先生がおっしゃる通り、ビデオには良いところしか入っていないため、ご苦労も大変多かったと思う。静岡市は市域の多くが山間地であり、地域おこしに苦労している。とても参考になった。
- ・苦労されたからこそ、強く発信できる「やねだん」の行政を頼らない地域づくりに驚き、区長会の人にも聞いてほしい内容でした。感動と感謝、自主財源のキーワードいただきました。
- ・大変印象深いご講義でした。特に補助金に頼らず特産物の開発ブランディングで自主財源を確保し、持続可能な地域づくりを目指すなど勉強になりました。
- ・実践者としての事例報告であり、現場で実際にどのような活動をしてきたのかが目に見えるプレゼンでした。
- ・先生の熱意に圧倒されました。強い覚悟を持って持続的に取組む事と、人を感動させることの大切さを学びました。
- ・テレビ等で取組内容については知っていたが、現実の豊重先生の情熱に触れて感動した。
- ・感動が人や心を動かすという言葉が残りました。
- ・財政力の重要さ、希望やミッションだけでは人は動かない事を感じた。人を動かす工夫が必要。
- ・先生は地域運営組織を自主的に立ち上げて成功させた生き字引であると同時に、自主的に動くことの難しさを痛感した。
- ・迫力のあるライブ感に説得力十分。もっと話を聴きたかった、次回はぜひ。
- ・人を動かすのは熱意であり、熱意を持って接することが大切だと思った。
- ・パワフルな豊重自治公民館長の集落をまとめる力と新たな地域づくりには多くのヒントをもらえる事が出来ます。
- ・自分の「本気度」が人の心を動かす事を学んだ。
- ・地域づくりに何が必要か、そして行政として何をやっていくべきか考えられました。
- ・地域を運営していくために、自主財源の確保が重要だと感じた。
- ・豊重先生の熱いお話が素晴らしかったです！自分たちのことは自分たちでやる、その努力のたまものであることが実感できた。
- ・豊重先生のお話を聞くと、自分自身が熱くなれる。すでに3度聞いているが、また聞きたい。
- ・自主財源と地域への還元という考え方は利用していきたいと思います。

◎活用度 3

- ・ 自主財源の大切さを感じる。
- ・ 講師の情熱と行動力は小さな地域づくりのモデルとして非常に参考になりました。自治体としてリスクが少なく大いに見本となります。
- ・ 中泊町も同じような集落がたくさんあるので大変参考になりました。また、豊重先生と地域を思う心とパワーにとっても関心させられた。
- ・ 地域づくりは熱意が大事。
- ・ 地域づくりにおいて、様々な重要となる物を明確なキーワードで挙げており、印象に強く残った。
- ・ 組織人としての力が重要なのではなく、個人としての人間力を大事にしていきたいと感じた。
- ・ 本市にも似たような地域はたくさんある。参考にしたい。
- ・ 実践、豊重さんの次を任せる型の育成等、もう少し詳しく聞いてみたかったです。
- ・ 熱意と忍耐を持つことが活性化成功のカギになることを学んだ。
- ・ 時間が短かったので残念。誠意を持って時間はかかるが「焦らず、急がず」いくことが大切だと改めて感じた。
- ・ 豊重先生というと“感動”“感謝”というイメージがあり、実際の印象も変わらないが、地域づくりは数字で証明と話しており、そのギャップが印象的だった。
- ・ ビデオで「やねだん」の成り立ちから現在まで紹介していただいたので「やねだん」を知らない自分でも興味を持ち、参考にしたいと感じた。
- ・ 行政に頼らず自主財源を確保し、地域を盛り上げることが大切だと思いました。
- ・ とてもエネルギーの溢れる講演だった。名前を覚える重要性については目からウロコであった。自治体職員のみならず地域のまちづくりの担い手に聴いてほしい内容。
- ・ 情熱を持って、こんなにも地域づくりに取り組んでいる人と初めて出会えた気がしました。「行政はコーディネーターである！」その役割を果たせるように、自分の市だけでなく県や国の動きにも視野を広めていかないと駄目だと感じた。
- ・ 自治体活動は本市でも大きな課題で担い手が不足している。その中で人を動かす方法、今まで考えていたことの逆もあり、今後実践できる部分もあった。
- ・ 先生のおっしゃること「全力で相手の名前を覚えること」や「諦めないこと」は非常に大切な基本だと思う。気づきになった。
- ・ 地域づくりに「補欠」はいないという言葉に納得した。皆が自分事とついて考えて取組んでいく事が大切だと感じた。
- ・ 地域住民をどう動かすのか、リーダーは周囲の気配りをし、自主性を引き出す重要な担い手であることを再認識した。
- ・ 借金を返しきる経験のあるリーダーは発想が現実的なのでそういった資質のある人を地域で探す、いなければ作る、または呼ぶといったことを考えたい。
- ・ あふれるエネルギーに押され気味であったが、熱意が受け取れた。
- ・ 力強いメッセージ性のある講義であった。本を読みたいと思った。
- ・ 地域づくりには忍耐と情熱が重要であり、地域を動かしていくには、人と人との繋がりである点を説得力のある熱のこもった講義で、とても印象に残る内容であった。「なねだん」にぜひ足を運んでみたいと思いました。

- ・これまでの地域再生の話では、地元愛や助け合いの精神といったものが重視されていたが、今回は財務力という視点から講義をされたことで目からウロコだった。
- ・とても強い信念の方で圧倒されました。
- ・初めは豊重先生の熱意に圧倒されたが、話が進むにつれてどんどん惹かれていき熱い思いが伝わってきた。
- ・実際の地域でのお話、すごく納得いく部分が多かったです。しかし、自身の業務や今後の政策形成にどこまで活かせるかという思いもあります。
- ・感動の地域づくり、さつまいも焼酎、空き家対策、アイデア（企画力）が素晴らしいと感じた。
- ・自治体を支えているのは、行政以外の組織であり、協同でなければ、自治行政は成り立たない事が理解できた。
- ・情（感動・熱意）と理（仕組・数字）が揃うことで、人が動き出すのだと感じた。
- ・先生の熱意と情熱が素晴らしいと感じました。だからこそ人とのつながりもしっかりとしたものになっていると思いました。人材育成もできていて理想の形です。
- ・豊重さんの話力が説得力があると感じました。
- ・この方のようにカリスマ性の強い方を探すのは重要。
- ・豊重館長の情熱が伝わりました。途中でこちらもこみ上げるものがありました。
- ・印象に残った点として、人を心を動かす、感銘させる事、自主財源を確保すること、でした。地域を何とかしたいと思う住民の思いに欠けてはならない視点だと思いました。
- ・語り口調が強弱があり、熱意が大変強く感じられた。
- ・そこに住んでいる人がまちづくりに参加してこそ、本当の活性化につながるんだと思いました。
- ・行政に頼らず、やる気やカリスマ性のあるリーダーを発掘し、支援していくのが必要と感じた。
- ・企画力には分析力が必要。財務力、アドリブ力が人間力になる。人の感動を引き出すことが重要である。魅力ある町づくりに向けて、名前を覚え、ファミリーとなり、継続する大切さが分かった。
- ・時間をかけて信頼を得て成果を上げるにはとても苦慮されたと思う。そのノウハウの後継が課題と感じた。
- ・すばらしい事例であるが、そのまま活用は出来ない。これだけ素晴らしい人材がいないのが現実。参考にはなる。
- ・行政に頼らないというのは1つテーマ、規模は違っても、思いは生かしていきたいと思った。
- ・地域のリーダーはリーダーシップを持つことではなく、住民の関心を引き出すような人材だと感じた。

◎活用度 2

- ・田舎型の地域づくりであったので、都市でできるかは？ですが、アイデアを出し合い、工夫して稼ぐということは素晴らしかった。
- ・熱量がすごいというのは誰でもわかる事ですが、活動量が無駄にしないよう緻密に計算されていることこそ大事なんだろうと思います。近年の流れとして政策効果を数値化する方向なので勉強していきたいです。

◎活用度 1

- ・人を引きつける話で面白かったです。

◎活用度 無回答

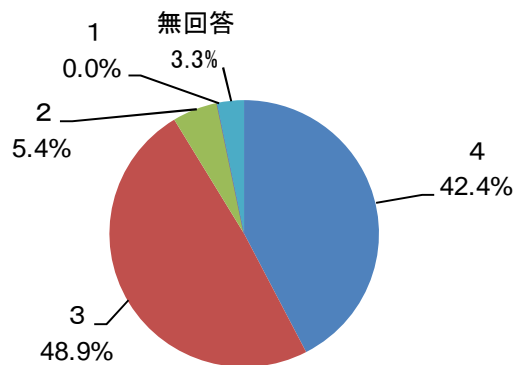
- ・金融機関出身ということもあり、地域再生の話が企業再生と通じるものがあると感じました。
- ・これぞ地域づくり！と思わせるような講義で熱意を持って行動することで、どれだけの人の心を動かせるのか、人としてとても意味のあるお話を聞く事ができて大変勉強になりました。私自身も、まずは地域の関わりのある住民さんの顔と名前を覚えることから始めたいと思います。

【講義3】「創業と人財と後継者の人財～NPO フュージョン長池の実践～」

特定非営利活動法人 NPO フュージョン長池 会長 富永 一夫 講師

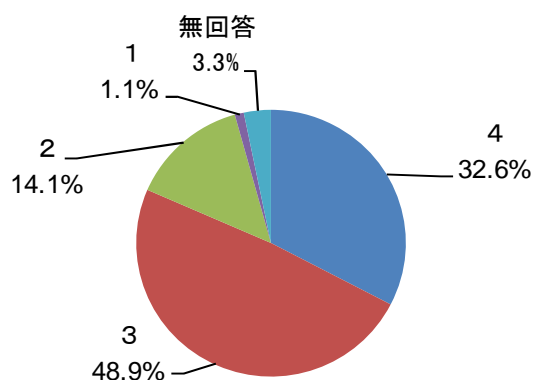
N= 92

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	39	42.4%
	3	45	48.9%
	2	5	5.4%
	1	0	0.0%
	無回答	3	3.3%
合計		92	100.0%



N= 92

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	30	32.6%
	3	45	48.9%
	2	13	14.1%
	1	1	1.1%
	無回答	3	3.3%
合計		92	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・非常に分かりやすい講義でした。成功例での説明となり、困難事例、事案を紹介いただけると実際に活用できると思いました。
- ・地域づくりはどこからでもできるという目からウロコのお話、とても興味深かったです。
- ・公園ではないが、指定管理者の観点から整理されており、非常に参考になった。
- ・NPO 法人の本来のあり方を聞いた。
- ・公園に ICT を導入した先進的な事例を伺えた。シニアの事例など適材適所のマッチングを行う肌感覚を養う必要があると感じた。
- ・“後継者づくり”という視点の大切さに改めて気付きました。
- ・NPO との関わり方や、活用方法を学ぶことができました。
- ・「市民活動団体」の自立がこの地域にも課題になっていると思われるが、フュージョン長池が地域の人材、団体と繋がりながら成長している様子が良く分かり、とても参考になりました。多様な協働経営の設計図はとても分かりやすい図であると思います。
- ・情報発信の重要性とか生きがいの場の提供に現代人の心を動かすヒントがあるということを知ることができた。
- ・融合（人）の美しさ。
- ・経営の4資源（ヒト、モノ、カネ、情報）

- ・経営力というものが非常に大切だという事が分かりました。
- ・様々な分野における後継者不足は課題ではありますが、後継者の育成やシルバー世代活用において大変参考になる講義でした。
- ・行政との関わりという部分で、指定管理委託料、それぞれに頼るのではない、独自の取組みがあるということが参考になりました。
- ・「難しい」という言葉を使ってごまかすな、というお話に凶星を刺された。
- ・大いに役に立った。活用したい事がたくさんある。
- ・人口減少に伴う地方行政のあり方がどんどん変化していく中、行政として経営者感覚というものが重要である事を学びました。
- ・富永先生の人柄が分かった。オープンで柔軟な考え方、そして明るい。人を巻き込んでいく姿が目についた。
- ・行政とは違う視点での話やアイデアの多さに聞き入りました。
- ・豊重講師と同じで、とても情熱的な話だった。一歩踏み出す事、相手の価値観に合わせ接することの大事さを感じた。
- ・NPO 法人の有り方、行政としてNPO 法人とどう関わっていくかのヒントになった。
- ・実務からの講義であり、大変有意義でありました。
- ・富永先生のお話も、今まで数回受講したが、豊重先生と同じく、聞いていて熱くなれる。
- ・地域づくりは人づくりだと改めて実感した。相手に真摯に向き合う覚悟が必要だと教わった。

◎活用度 3

- ・管理運営ではなく、経営という考え方は非常に印象的でした。これを機に経営について学びたいと思います。
- ・「創造と継承」という事が地域づくりにもいかに大切かを知った。
- ・事業型 NPO として、収益が見込める部分は法人に切り離して寄付金として還元させるという方法が参考になった。
- ・稼ぐ事の大切さを知りました。
- ・自治体-団体-個人-住民の関係性のバランス。
- ・NPO 団や指定管理者の活動次第で地域が確実に変わっていくものだと感じた。
- ・課題に対して、難しいという言葉で片付けず、何が問題なのかを考え、1つ1つ解決していくこと。
- ・継承する人々を育てる（子や孫を応援する）ように、行動されている事を初めて知りました。
- ・NPO でも経営感覚を大事に進めないと継続していけないことを改めて認識した。予算がないと何もできないと公務員は思ってしまう。⇒持ち寄り、ボランティア活用するなどアイデアを出すことが大事。
- ・創業者が現役の間に後継者を定めておくことの大切さを学んだ。
- ・資料にあった協働経営の設計図が分かりやすかった。NPO だからできることという視点、1人の若者を2、3人のシルバーが育てるという見方など、視点を変えることが大切だと思った。
- ・どんなことをヒト、モノ、カネ、情報の多様性が必要だと思いました。

- ・ NPO 法人という観点から、市とどう向き合ってきたかという話が参考になりました。NPO 法人は経営もして良いと考えが変わりました。
- ・ 先生の実体験からの話は大変分かりやすかった。
- ・ 「行政マンこそ経営を学ぶべし」というのは本当にその通りで私個人としても行政としても不足している視点であると思う。
- ・ 地方の田舎の地域活性は注目されているが、実は今一番問題なのは多摩のような新興住宅地だと思う。高齢化の進む郊外をどの様に賑わせていくか大変興味深かった。
- ・ NPO 法人自身が稼ぐ手法を考え、それを後に引き継いでつなげていく自立性に驚かされた。
- ・ 地元の NPO 会長であることもあり、内容も良く理解できるものであった。
- ・ 後継者を意識した活動は、継続性の点から行政としては安心感がある。
- ・ 比較的、人口規模などが近く、より近い感覚で聞くことができました。経営感覚は地域活動での課題で、どこまでそれを行政が民間に意識できるかだなあと感じました。
- ・ 公園管理も行政以外の指定管理が行うことにより、更にサービスアップが可能。指定管理の成功例が理解できた。
- ・ 講義 2 同様に稼ぐということへの工夫ややり方が勉強になりました。
- ・ 行政の良いところ、NPO の良いところを組み合わせることで、期待以上の成果が出ていた。NPO の柔軟さを活かして、地域づくりに取り組むことの可能性を感じた。
- ・ 経営の 4 資源、継承について勉強になりました。富永さんは地域のキーパーソンだと思いますが、キーパーソンが後継者に継承している状況を伺い、人間力の幅広い意味を認識できました。
- ・ NPO を安定化させ、さらに先を見据える先見の目に素晴らしいと感じました。
- ・ NPO はボランティアではなく、稼がなくてはいけないという考え方から、様々な取り組みを進めている所に感銘を受けました。
- ・ 人間力の向上、人間対人間の話し合いが私にできるか。常から人間力向上、自信を持てるようにしたいと思った。
- ・ 継続できる活動として資金力が重要な事を再認識しました。
- ・ NPO の自主財源確保の手法を学ぶことができ良かったです。公園管理のエキスパートとして実践を積むことで指定管理も今後ますます契約をとることとなるのだろうと思います。
- ・ 資金の重要性について共感できました。事業継続するため、資金は大事だと思います。
- ・ NPO であっても、ただのボランティア団体でなく、経営的な視点を持った活動をする事で持続性と活力が産まれる。
- ・ 情報を受けるためには情報を発信することが大切であり、行政は岩盤となり NPO に表土を育ててもらい、個性と調和し花を咲かせる仕組みが分かった。
- ・ 行政といえども経営の感覚がないと生き残れないというのは実感として分かるものの、そのやり方となると至難としか言いようがなく、ただし講師のような方から話が聞けたのは貴重な経験になります。
- ・ 行政とは違う視点からの指摘に考えさせられる点あり。良質。
- ・ 楽しくなければ続かないという事が心に残った。
- ・ NPO の力をどの様に仕事に活かせるか？今後の課題を学ぶことができた。

- ・リタイアした高齢者など、今ある資源（スキル）を活用することの重要性を感じた。
- ・数年後に継承、継続できるような運営をすることが大事だと思った。
- ・とても面白い内容だった。特に学校等が主体となって行う事業のウォールペイントは子どもと行政が一体となって行う良い事例だと思った。
- ・私も公園管理に携わっていた時期があり、今は指定管理になっているので、経営やその手法については活用できると思いました。
- ・スマートアイは本当に面白いし、状況次第では地元でも案内したいと思った。

◎活用度 2

- ・公園管理もビジネスとなりえる。
- ・都市地域での参考事例だったので、直接活用することはできないかもしれないが、インスピレーションの参考にはなると思う。
- ・都市型のまちづくりであるが、私たちの町でも若い世代の人の活動に共通すると思った。稼ぐ、資金の大切さを学んだ。
- ・公園管理から地域づくりがつながる新しい手法が勉強になりました。
- ・行政と NPO 法人の関係性についてとても参考になった。
- ・地域活動団体は多くあるが、今回のように指定管理を受けられるような団体はない。指定を受けるかどうかはおいておいて、そのレベルになるような誘導も必要。
- ・講師自身が言っていたように都市郊外の地方なので、ど田舎で直接参考にするのは少し難しいが、つながりを利用するのが上手くやるのが重要だと思った。
- ・良い意味で NPO という立場を上手に利用し、色々な人たちとの共生が成功する上で大切だと感じた。
- ・NPO における具体的な活動がお聞きできました。行動力が大切。
- ・NPO の見方が変わった。今まではボランティア団体が法人格を得るものと思っていた。経営し会社として運営している状況を学べて勉強になった。
- ・新興住宅地での取組を知るきっかけになった。やはり、後継者の育成が課題。

◎活用度 無回答

- ・指定管理の事務局に様々な人材を採用することは様々な分野の才能を発揮する場でもあり、雇用の面でもシニア世代の活躍の場でもあり、役場の中でも雇用を増やすアイデアとなりました。
- ・指定管理事業に付随したビジネスでの収入を、指定管理事業へ還元されている話を伺い、そこまでできるからこそ、他にはできない運営ができると感じました。
- ・IT を取り入れた「グリーンタウンアイ」は今の時代にもこれからも必要となっていくもので、こういった効果的に IT を取り入れることで、住民の声も反映され、よりよい地域づくりの 1 つになると感じた。また、次世代へ伝えていくこともこれからの 1 つであり、市の職員としても向き合っていかなければならない課題の 1 つですので、他の課でも協力し進めていければと思いました。

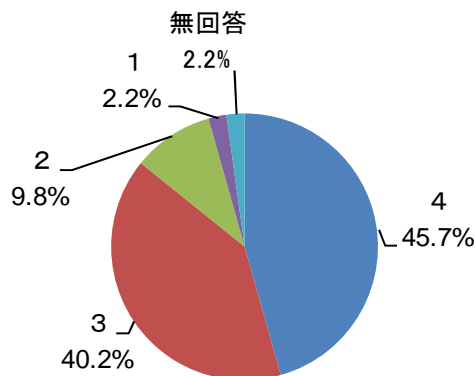
【講義4】「農家のヨメが語る“魂より始めよ”

～できるかできないか、ではなく、やるかやらないか～

特定非営利活動法人田舎のヒロインズ 大津 愛梨 講師

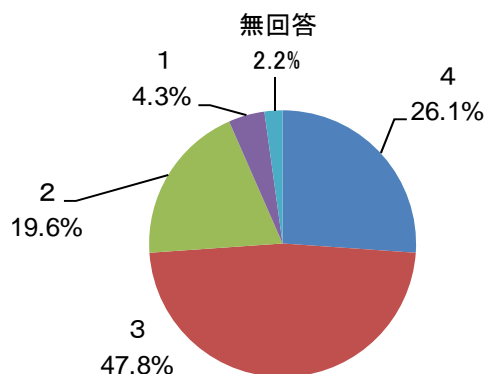
N= 92

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	42	45.7%
	3	37	40.2%
	2	9	9.8%
	1	2	2.2%
	無回答	2	2.2%
合計		92	100.0%



N= 92

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	24	26.1%
	3	44	47.8%
	2	18	19.6%
	1	4	4.3%
	無回答	2	2.2%
合計		92	100.0%



<感想>

◎活用度4

- ・農家が農村風景を守っているという発想が新鮮だった。行政として横断的な要望をどのような方向で対応するか、今後検討していきたい。
- ・田んぼでファッションショーがとても素敵で新しいイベントだと感じました。
- ・本市の主要産業は農業である。6次産業だけでなく、広く活用を考えたい。
- ・女性農業者が魅力にあふれており、こうしたネットワークを形成していたことに驚かされた。
- ・農家の新しいあり方が勉強になった。山村地域としては夢のある活動だと思う。
- ・農家女性のイメージがガラリと変わりました。農家を自分のためにやるだけでなく、全国にメッセージを発信しているところもすごいなと感じました。
- ・活発な女性たちが魅力的だった。
- ・やりたい事をやる人、信念を貫く人の姿は非常にカッコ良かった。
- ・経営安定のための再生エネルギー啓蒙という発想に非常に感銘を受けた。「打たれることをきにしては何もできない」という意見が心に残った。
- ・地域に埋もれてはいるが、何か役に立ちたいと考える人材を発掘し、守っていくことが自治体の大きな役目であることを改めて認識することができた。
- ・農家こそ、子育てしやすい。
- ・出るクイを守る。そんな行政職員。

- ・仕事や子育てをしながら地域づくりも行っている女性たちの力強いパワーを感じました。
- ・行政の立場として出来る限りのサポートは必要ですが、行政における横のつながりをまず強めておかないと円滑に物事は進められず、信頼してもらえないと改めて感じました。
- ・保険師として住民さんと関わることは非常に多いのですが、農家の方の話聞く機会はなかったため、生の声や農家の現状を知ることができて、葛城市でも改善点が多く見つかったものとなりました。
- ・インパクトがありました。若手の女性が集まると華やかでパワーを感じるところもとても良かったです。行政の窓口でどこに行ったら良いかわからないという件は、市民に対し不親切なので改善が必要と思いました。
- ・これからの地方は企業を外から誘致するのではなく、内にある資源を活用して地域をつくらなければならない。とても参考になった。
- ・地方でもアクティブに活動をしている意見を聞く事ができ、地元でもその様な人と会えるようになりたいと思いました。
- ・農村部のあり方、町民の方は役場のどこに相談に来ていいのかわからないという事を考えさせられた。
- ・近年、農業に携わる女性が増えているが、実際にお話を伺う機会はなかったのが新鮮だった。「役場でどこに相談したらいいかわからない」という質問には、行政という立場の難しさを実感させられた。
- ・全国的なネットワークを持つことで得られる力の大きさを学んだ。

◎活用度3

- ・行政と住民への思いが理解できた。
- ・地域に住む農業女性の先駆的な取組みが非常に分かりやすいお話でした。資料等を用意いただき、メンバー及び団体全体の活動をもう少し聞きたいと感じました。
- ・農業をかじっている為、その素晴らしさにも共感できる点が多いです。まだまだ限られた層にしか巻き込めていないのですが、もっと広くやっていたらなと思っています。
- ・今までいろんな研修を受けたが、子どもを連れての先生は初めてで、最初はびっくりしたが、講義を聞いているうちにヒロインズの皆さんのパワーにとっても関心させられた。
- ・女性の元気、やる気、力をあらためて認識しました。市役所こそ、女性の活力を取り入れるべき。
- ・自治体にある出そうな杭をキャッチして、一緒に育てていけるようにしていきたい。
- ・役所側が壁をつくってしまっている事に改めて気付かされ、自分が（自分にも）出来るものが少し見えた。
- ・活動は素晴らしいが、地域・行政との協働が今後のテーマだと感じた。
- ・女性のパワーは大事だし必要であると感じた。ネットワークづくりが大変参考になった。
- ・「農家」ネガティブイメージをポジティブに変える、変えた良い事例。
- ・市役所の窓口一本化の必要性和体制の強化が急務と感じた。
- ・行政の縦割りの言葉が心に染みて恥ずかしかった。また、自分の中で庁内の情報収集をきちんとし、そこに丁寧につなぐようにしないといけないと思った。

- ・自分も農政課で主に米麦を担当しているので、新しい見方ができ参考になりました。
- ・地域を盛り上げるために、様々なことを企画し、実践することが大切だと思いました。
- ・今後の地域活性化には女性のパワーをいかに活用できるのかがポイントになると感じた。
- ・子どもを同席させたことは、いい意味で良かったと思う。
- ・全国ネットワークづくりという仕組みが、とても素晴らしいと思いました。
- ・農業について様々な方法で魅力的な取組を行っており、都市型農業を魅力的に発信していくヒントをいただきました。農業が女性が輝く職場となるというのは、新たな発見でした。
- ・ヒロインズの方々一人一人が地域の資源であると感じました。
- ・どこでも悩んでいる仕事と子育ての両立を上手にしている姿に心を打たれた。子どもを連れて講義するところは行政も率先してやるべきだと感じた。
- ・全国的に活動している NPO ということで興味がありました。私たちの役割は、制度を知り、いかに情報提供をして、きちんと活用してもらうための調整役なのではないかと感じました。
- ・農家の女性のパワーを強く感じた。全国組織の NPO の取組ということで、資料づくりの大変さということは行政にとって考えなければならないと思った。
- ・地方の農業村にも、このような若い教養のある女性農家が現れれば、地域の活性化に繋がる事が理解できた。
- ・農業を振興するだけでなく、「農」という視点から、人とのつながり、暮らしづくりを考えておられるのだと感じた。
- ・これからは女性の時代ということで、どのようにその力を活かしていくかが行政の課題になると思います。
- ・行政は新しいことを始めようとした時、立ち止まって考えてしまう。それよりもひらめいたらすぐ動くことが重要だと思った。また行政は法律で定められていないことの場合、担当者が決定者が変わると組織としての対応やモチベーションに影響が出ることが、内部にいる自分も感じている。
- ・できるかできないか、やるかやらないか、力強い発信力だと思いました。子育てしながら仕事をし、豊かさを求めていること、素敵な生き方だと思います。応援したいと思いました。
- ・最後のディスカッションで行政がこうあって欲しいとの聞け、自分の意識を変えていかなければと感じました。
- ・女性視点での活躍の場をいかに“確立していくか”が課題と感じました。
- ・私の地域にも、この方々のように都会からきている人がいる。違った目で見て宝を見つけていただく事と活用を考えている。
- ・女性が主人公としての地域づくりの事例を知る事ができました。また農政、環境分野は自身とも関係性の深い業務分野でも有り、非常に有意義でした。
- ・農村こそが子育てができる環境であるという信念が強く感じられました。
- ・あぜ道ファッションショーはとても面白いと思いました。豊重先生のお話の中にもありましたが、女性は美しくなることに喜びを感じるので、いろんな場所で応用できるのではないかと感じました。
- ・女性の能力・パワーは地域づくりに必要不可欠と感じました。女性だけではなく様々な人格を持った人の集合体が理想ではないでしょうか。

- ・女性農業者が行政側に対して感じている事、戸惑っている事が良く伝わった。
- ・アクティブに動いている人材でも、自治体の組織を理解していない。
- ・農業のイメージアップと食べていける職業になれるようバックアップ。
- ・女性の子育てをしながら農業をする大変さ大切さが理解できた。環境エネルギーへの転換、自分たちの未来は自分たちの手で掴むため行動を起こす一歩の大切さが理解できた。
- ・行政に求める事が良く分かりました。
- ・農家＝嫁が来ない。しかし、潜在的に農業をやりたい女性が多くいる。ネットワークを通じた交流が大切と感じた。
- ・非常に貴重な話がきけたと思う。
- ・出る杭を守る。やっていきたいと思います。

◎活用度 2

- ・どうやるかより「やってみたい」という気持ち。
- ・農業、地域づくりに対して新しい取組みが進められる中、行政の窓口が不明確、ないといった課題に市町村は対応していかなければならないと思った。
- ・同じ女性として皆さん生き生きしてカッコイイという印象でした。女性ならではの視点で全国に広がる組織であり、群馬県にも活動している方がいるのではないかと探したくなった。
- ・「やるか、やらないか」というのは、我々自治体職員にも共通して言える内容だった。地域の熱い想いを受け止める職員の姿勢が大事と感じた。
- ・質疑応答の時にあった、どこに発信をお願いすればいいのかという点、縦割り行政の最たる部分が見えた。本市も発信部が職員でも不明なことがあり、そこは最重要課題だと再認識した。
- ・農家の男女共同参画的な扱い以外には難しいと思う。子どものファーマーズマーケットは良い内容だと思うので参考にしたい。
- ・小さな子どもを育てながらの活躍に敬服するばかりであった。
- ・行政とNPOとの連携強化をすることが大切であると感じました。
- ・プロセスデザインが弱いと感じた。Out comesが見えづらい。地域の現場で活用するにはアレンジが必要。皆さんの活動は素晴らしいので今後の展開が楽しみです。
- ・とても面白い取り組みをされていると思います。
- ・行政のサポート不足を感じた。
- ・農政による支援とはすなわち国の示す方向に持っていくために補助金漬けにするイメージなのですが、そんな中、自立した農業を目指す姿勢は尊敬に値すると思いますが問題も山ほどあって書ききれません。
- ・女性の活躍や、農家という切り口から新しい視点の広がりを感じた。エネルギーで周りへの影響も大きいと思う。
- ・農業を利用して、景観確保ができるという事を知れた。
- ・豊見城市においては、那覇市のベッドタウンであることから、田舎の魅力がなく難しい。
- ・地域、特に田舎だと自分の価値観に合わないものは拒絶する傾向があるので、自分たちが楽しい、面白いだけでなく、理解を求めることも大切だと思った。

◎活用度 1

- ・行政との窓口についての意見は大変参考になった。
- ・こういう人たちがまだまだ地域にいることを理解しないといけないと思った。頼られる行政を目指したい。

◎活用度 無回答

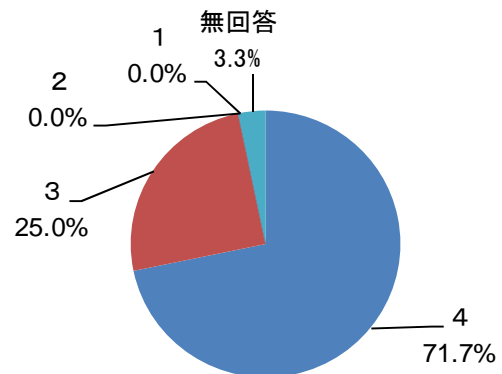
- ・農家＝作物というイメージでしたが、エネルギーの面からのアプローチも農業の後継者につながると感じました。また、子どもを連れての講話というスタイルも女性の社会で活躍するためのヒントとなりました。
- ・事業を通じて地域づくりをしており、ファッションショー等でいろんな人を巻き込みながら行っており参考になりました。

【講義5】「地域づくりのマネジメント ―つながりをつくり創発を生む仕組みづくり―」

慶應義塾大学 SFC 研究所所長／総合政策学部教授 飯盛 義徳 講師

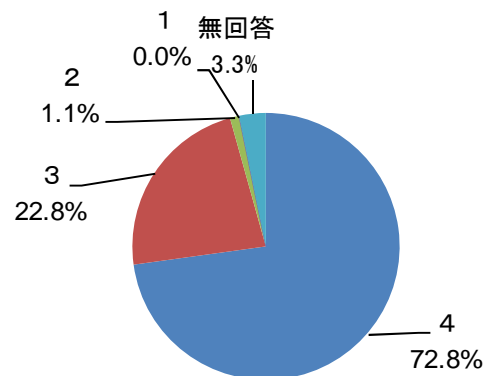
N= 92

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	66	71.7%
	3	23	25.0%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	3	3.3%
合計		92	100.0%



N= 92

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	67	72.8%
	3	21	22.8%
	2	1	1.1%
	1	0	0.0%
	無回答	3	3.3%
合計		92	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・地域づくりを進める基盤を学ぶことができました。短時間でしたが要点がわかりやすく、今後活用していきたいと思います。地域づくりの考え方を軸に実践を含めていければとイメージしています。
- ・学生のモチベーションの高さを知れた点や、自身の課題解決のヒントを得られたような気がします。
- ・場づくりが行政に求められている役割だと感じた。
- ・どのような活動をしてきたかが学べた。学生の力はすごいと感じた。
- ・とても面白くてためになりました。悩みが減って明るくなりました。
- ・何かを生み出すための場づくり、場のバランス。
- ・資源持ち寄りの発想とその効果とされる主体性の萌芽を重要と感じた。
- ・人のつながりを大切にしながら、創発を産めるようなプラットフォームをつくりたい。
- ・文化を次の世代に伝えるために色々な手法を考えたい。
- ・地域づくりの手法が理論的に説明され、かみくだいて理解するまで時間がかかりそうだが、大変参考になった。
- ・今回の講義で一番参考となった。大学との連携を8年前に実施したが、正直生かせなかった。外部の目を利用して、主体性を持った活動を育てたい。

- ・創発のために多様な人材を巻き込む仕掛け、枠組みを数多く学ぶことができ、大変有意義な講義だった。
- ・行政の立場で今後仕事をしていく上での考え方の基礎の部分ができたとと思う。
- ・行政という立場でまちづくりを学ぶという意味で、とても分かりやすかった。内外からも風通しの良い場を作ること、コアメンバーは2、3人で良いことなどが勉強になった。
- ・効果的なプラットフォームを設計し、地域の中心に立って資源を確保し、活動することが大切だと思いました。
- ・職員がどうあるべきかが方法論と共に語られ、ダイレクトに参考になると思った。
- ・ファミリービジネスは地域活性化につながるの話を聞き、地元でももっとファミリービジネスに焦点を当てていきたいなと思いました。
- ・具体的な例があり、大変分かりやすかった。
- ・「自分の頭で考え、行動する力を育む」「当事者意識をもつ」どちらも何より必要なことだと感じた。各事例が非常におもしろく参考になった。
- ・強い関係性と弱い関係性の境界設定について大変参考になりました。地元間の連携について弱い関係性が重要になると感じました。
- ・地域からの自発的な取組みを作るための、①資源の持ち寄りによる自分のこと感、②平等な意見の場でのアイデア出し等、すぐに意識的に取組んでみようと思う。
- ・事例紹介が良かった。
- ・学生との連携は今後推進していきたい事業の1つなので、ヒントをいただけて良かったです。
- ・事例を通じて地域との関わり方について種帆を学ぶことができ良かったです。
- ・地域づくりは、効果的なプラットフォーム設計が必要であり、行政はただ補助金を交付するのではなく、地域に飛び出し、信頼関係を構築し、人と人を結ぶつける役割が重要である事、住民が主体となるようサポートしていくことが大切であることを実感させられた講義でした。
- ・あえて地域の方々から資源を持ち寄ることで、事業に関わっていることを意識させることは、ぜひ当市のイベントでも取り入れていきたいと思った。
- ・創発により、地域がどう変わったか？そして、今後の可能性をしっかりと示せるような仕組みを作りたい。
- ・実際にまちづくり団体＝プラットフォームをつくり、活動を発展させようと考えている私にとって、大変ためになる内容でした。
- ・内と外の境界線を設けるという考え方は、とても共感できると感じました。
- ・今まで熱い講義が多い中、論理的な方向からの話であり、とても分かりやすかった。
- ・自治体がどう動いたら良いかが明確化された講義でした。このあたりから全ての話に共通するところがあり、それを実践できるのだろうかということを考えていました。
- ・コミュニティにおいて境界を設けることは必要かつ地域の中で共有、見える化を進めていくことがポイントだと感じました。
- ・地域づくりってどういうことなのか、行政の役割がよく分からない・・・と思っていた。仲良しグループに他人を入れる“場”づくりをしていくことが行政に求められていることだと思った。
- ・地域づくりには地域資源の4つを全て投入すること。「葉っぱビジネス」は「葉っぱ」だけで成功したわけではない。

- ・とても分かりやすく、帰ってからすぐに活かせる要素が多くありました。
- ・先生が行ってきた活動や地域づくりの成功事例から、効果的なプラットフォームづくりや資源持ち寄り等、与えられたものではなく、自分たちで作ったという意識がこれからの地域づくりで重要ということが良く分かった。
- ・地域資源、ヒト、モノ、カネ、情報をうまく回すこと。効果的なプラットフォーム設計が重要と聞き、今の自分がその仕組みを計画できていないと気づくことができ、企画や考え方を学ぶことができました。
- ・具体的な地域の事例の紹介があり、分かりやすく大変参考になりました。
- ・事例を多く交えて説明していただき大変理解できた。ぜひ我が市でもご講演いただきたいと感じました。
- ・地域づくりを行うに当たり、関わる人材として自分で考え自分で行動することの重要性を教わりました。
- ・行政に関し人々に対する講義で非常に勉強になりました。今後の実践に向けて活用したい。
- ・すべてに納得！たくさんのヒントを得ることができました。
- ・地域が自ら動くような基盤作りができていく点がすごいと思います。自らの自治体で取り組んでいるCOC事業に生かしたいです。創発と境界を意識したいです。
- ・プラットフォーム設計のポイントが良く分かった。日頃から悩んでいた事がスッキリした。
- ・鳳雛塾の話にとっても興味を持ちました。参考になりました。
- ・地域づくりをしていく上で、色々なやり方や方法があるのだと勉強になりました。
- ・何もなくても工夫次第でどうにでもなる。色んな組織を巻き込んで持ち寄る事で、それぞれが主体性を持って活動する。行政だけでは難しいことの原因が分かりました。
- ・地域の子ども参加型イベント、Tシャツアート等、創発力、企画力の重要性を感じた。新しいつながりを作り、交流を広げる。住民の信頼を得る。
- ・若い学生に実際に合宿で現地にみっちり交流させる事で、誰も気付かなかった地域の魅力に気付く事がある。
- ・相互作用と自主性を促すという大切さを感じた。
- ・地方創生のキーワード、まち一人一仕事事例を交えての講義は特に参考になった。
- ・人と人とのつながり（地域の中、外）が社会的創発を生むことを学んだ。
- ・プラットフォームづくりが大切で、そのためのコアになる人を見つけ、育てることが大事。
- ・人と人との繋がりが重要だと感じた。外からの視点で見る事が大事だと思った。
- ・人の意識を変えるのは、資源の持ち寄りにより参加させることが重要ということが分かった。
- ・聞きたいと思っていた飯盛先生のお話が聞いて良かった。
- ・とても分かりやすい講義でした。特に境界の話については考えさせられました。
- ・地域づくりに必要な、創発、プラットフォームづくり、事例含めて役に立った。
- ・外と内を融合するグレーゾーンの存在の重要性を認識した。
- ・とても分かりやすく、帰ってからすぐに活かせる要素が多くありました。
- ・先生が行ってきた活動や地域づくりの成功事例から、効果的なプラットフォームづくりや資源持ち寄り等、与えられたものではなく、自分たちで作ったという意識がこれからの地域づくりで重要ということが良く分かった。

- ・地域資源、ヒト、モノ、カネ、情報をうまく回すこと。効果的なプラットフォーム設計が重要と聞き、今の自分がその仕組みを計画できていないと気づくことができ、企画や考え方を学ぶことができました。
- ・具体的な地域の事例の紹介があり、分かりやすく大変参考になりました。
- ・事例を多く交えて説明していただき大変理解できた。ぜひ我が市でもご講演いただきたいと感じました。
- ・地域づくりを行うに当たり、関わる人材として自分で考え自分で行動することの重要性を教わりました。
- ・行政に関し人々に対する講義で非常に勉強になりました。今後の実践に向けて活用したい。
- ・すべてに納得！たくさんのヒントを得ることができました。
- ・地域が自ら動くような基盤作りができている点がすごいと思います。自らの自治体で取り組んでいるCOC事業に生かしたいです。創発と境界を意識したいです。
- ・プラットフォーム設計のポイントが良く分かった。日頃から悩んでいた事がスッキリした。
- ・鳳雛塾の話にとっても興味を持ちました。参考になりました。
- ・地域づくりをしていく上で、色々なやり方や方法があるのだと勉強になりました。
- ・何もなくても工夫次第でどうにでもなる。色々な組織を巻き込んで持ち寄る事で、それぞれが主体性を持って活動する。行政だけでは難しいことの理由が分かりました。
- ・地域の子ども参加型イベント、Tシャツアート等、創発力、企画力の重要性を感じた。新しいつながりを作り、交流を広める。住民の信頼を得る。
- ・若い学生に実際に合宿で現地にみっちり交流させる事で、誰も気付かなかった地域の魅力に気付く事がある。
- ・相互作用と自主性を促すという大切さを感じた。
- ・地方創生のキーワード、まち一人一仕事事例を交えての講義は特に参考になった。
- ・人と人とのつながり（地域の中、外）が社会的創発を生むことを学んだ。
- ・プラットフォームづくりが大切で、そのためのコアになる人を見つけ、育てることが大事。
- ・人と人との繋がりが重要だと感じた。外からの視点で見るのが大事だと思った。
- ・人の意識を変えるのは、資源の持ち寄りにより参加させることが重要ということが分かった。
- ・聞きたいと思っていた飯盛先生のお話が聞けて良かった。
- ・とても分かりやすい講義でした。特に境界の話については考えさせられました。
- ・地域づくりに必要な、創発、プラットフォームづくり、事例含めて役に立った。
- ・外と内を融合するグレーゾーンの存在の重要性を認識した。

◎活用度 3

- ・リソースシェアリングが持続のキーワードとなる。
- ・人づくり、住民が自ら考え行動できるよう、命令、強制しないながら、共に進むために自分の意識を変えていく事を学んだ。
- ・地域づくり、地域活動をどうしていくかを「モヤ」っとしていたところを論点整理されており、大変参考になった。

- ・プラットフォームのつくり方に大切な示唆を得ることができた。
- ・地域づくりの手法、資源持ち寄りやキョウカイの大切さを学びました。
- ・地域活性化には強いつながりと弱いつながりが必要、どちらも必要ということは、今後の考えに生きると思う。強いつながりの団体ばかりなので、そこに一石を投じたい。
- ・事例を交えながらご紹介いただき参考になった。
- ・官民連携を図る際には、大学等と共に地域の魅力等を発見し、それを地域と共に取組む仕組みづくりが地域活性化につながる可能性を実感できた。
- ・地域資源が何もないということはない、探せば何か必ずあるという言葉に関心を持った。
- ・経営学による行政改革。論理的にレクチャーされた。
- ・縁側の話、良かった。自分の団体をもう少し良く見えるようにしていきたい。
- ・難しい内容を分かりやすく講義されていた。行政主導でもあえて資源持ち寄りで運営することが大事であるということが印象的であった。
- ・「場を作る」特に境界を作る事が大事ということが心に残っています。強いつながりばかり目を向けていましたが、弱いつながりが編み込まれる事で、より広くつながっていくというのを心に留めておきたいです。
- ・地域に出る事で地域の資源である人を見つける事ができる。資源を持ち寄る仕組みをつくり、コアメンバーに入り易くする、ゆるい設定が必要。できることから始めて共有することが大切。
- ・どんな地域でも眠っているエネルギーがあって呼び覚ます手法を見つけ出すヒントをいただいたような気がします。自治体職員は頼りないと思われないよう気付き、考え、知識を取得していきたいと思います。
- ・地域づくりのキーワードが沢山あったと思う。特に強い関係性と弱い関係性の共存は活用していきたい。
- ・元気プロジェクトの取組みは参考になった。また地域の資源化について、色々なコンセプトのもと、資源の発掘に成功していることについても勉強になった。

◎活用度 2

- ・地方創生のキーワードである「まち、ひと、しごと」について、飯盛先生の講義を聞け、大変良かった。

◎活用度 無回答

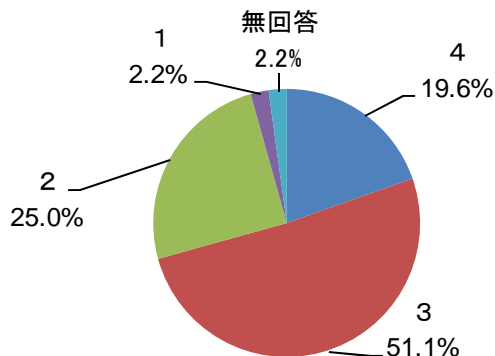
- ・地域づくりは人と人とのつながりなんだと改めて認識しました。現在、地域の高校生と企業をつなげていく活動をしているので参考になりました。
- ・人を巻き込むことで、事業が継続されることに繋がるという話は非常に参考になりました。
- ・若いうちから地域に関心を持ってもらうことが大切という事で、小さいうちから経済に触れる社会などをつくることで想像力や行動力が豊かになっていくのだなと学ぶことができた。人材の育成といったことは、大きく地域づくりに関係することから、小さいうちから色々な経験ができる地域づくりに魅力を感じました。

【講義6】「地域にチャレンジを生み出す基盤を創り出すために」

特定非営利活動法人 ETIC. 代表理事 宮城 治男 講師

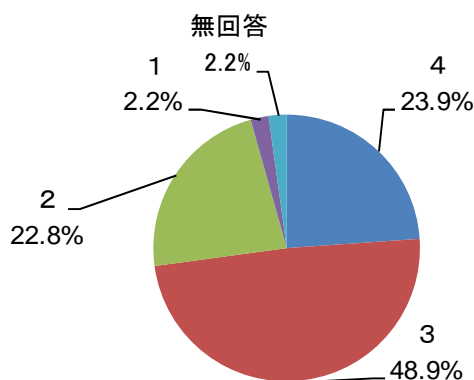
N= 92

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	18	19.6%
	3	47	51.1%
	2	23	25.0%
	1	2	2.2%
	無回答	2	2.2%
合計		92	100.0%



N= 92

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	22	23.9%
	3	45	48.9%
	2	21	22.8%
	1	2	2.2%
	無回答	2	2.2%
合計		92	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・理解度 2 としましたが、講習時間以上に興味深く、時間が足りないと感じました。自治体の業務推進にも活用できると思いますので、また講義を受けたいと感じました。
- ・地域活動にはキーマンが必要であると、この仕事に携わってから感じていた。起業、特に地元の住民が第二次創業者は地域リーダーになり得るため、人材発掘していきたい。
- ・できればお話に即した資料を準備して欲しかった。内容は参考になったが、写真撮影禁止とされていてもったいない感があった。
- ・ネットワーク&システムリーダーシップの論理が活動のカギになることを知った。
- ・人の大切さ、物事に対するアプローチのやり方が勉強になった。
- ・「自分の軸が見えていれば、手段は柔軟に変えられる」という意見に共感した。トライ&エラーを繰り返して、納得してものを作っていきたい。
- ・地域の活動家は、お金やインセンティブでは人は育たなく、自ら行ったり、環境をいかに作っていくのかが行政の役割であり、そうした地域をつなげる地域コーディネーターが今後ますます重要になると感じました。
- ・「創業」という視点・考え方について今まで知る機会がなかったので、非常に興味深かったです。
- ・つながりの多様性により創発が生まれる。というのは、とても収穫でした。では、つながるためには？ということを見ると情報を集めるのが一番できそうかなと思いました。

- ・人が中心となったコミュニティを形成するためには、核となる人が一人いることと、その周りを協働する人や組織がサポートすることで円滑にいくと学びました。
- ・地域にチャレンジが生まれるために何が必要か、自分ができることは何か考えさせられました。
- ・話の内容として、難しい面もありましたが、実践を通して分かることもあるのかなあと思いました。
- ・まだ理解が足りないと思うが、大事なのは自分でやりたいという環境をどう作るかと、自分自身が遠慮せず、強引に行動を起こすことだと分かった。また、色々な会議などを提案していただき参考になった。
- ・自立できる NPO を一歩進めるヒントができた。
- ・エコシステム、自分がいなくなってもシステムが動くようにすることの大切さを再確認した。
- ・いろいろな活動をしている団体等の話を聞いた事ややり方を聞いて良かった。
- ・コミュニティの拠点となる「境界づくり」はとても印象的でした。つながりの強い人たちと弱い人たちが集える場所づくりは、新しい発見になりました。
- ・起業したい方とか、何かをやりたい人がいたら、こちらからアプローチ。また自分が今できることから始める。

◎活用度 3

- ・先生の示したように、IT がありながらも全てそこに含んでしまうのではなく、辺縁部と出入り可能な「ゆるさ」が必要だと感じました。
- ・資料を講義に沿った内容にしていただけると理解度が深まると感じました。
- ・地元、宮城県にもかかわるプロジェクトをされているので、足を運んでみようと思いました。
- ・場をつくる上でのバランスのとり方。
- ・自然発生的に何かをやりたいという基盤を作りたい。
- ・手法の多さを知った。
- ・自分の、起業者の何をしたいのか、自分が何者かという根っこの部分を見つめ直し、進んでいく事の重要性を学びました。
- ・「エコシステム」という手法が新鮮だった。
- ・起業、イノベーションの原理、考え方を学ぶことができた。ペーパー以外の話がほとんどだったので資料が欲しい。
- ・エコシステムの理解がいま一つできなかったもので、持ち帰ってから調べたい。まず、自分が始められることをやってみたいと思ったし、良い民間パートナーを見つけることが大切だと思った。
- ・はじめからできることは、取り組み、何も無い所に向き合うことが成功の秘訣だと思いました。
- ・エコシステムやシステムリーダーについては、初めて聞いた言葉だった。講義の時間だけでは理解しきれず、勉強したいと感じた。
- ・核となる熱い思いを持っている人が強いのは、まさにその通りだと思う。行政としても覚悟や思いを持って支援することが大切だと感じた。
- ・行政は手段が目的になってしまう傾向が強い。何が目的で何をしなければならぬかをきちんと把握しなければならぬと思った。
- ・地域づくりは人材の育成を図るだけではなく、経営力の向上にも同時に育む必要があると思った。
- ・抽象的な話がが多かったので、少し理解しづらい部分がありました。

- ・手法については学ぶことができたが、もう少し具体的な説明があれば良かったです。
- ・従来のピラミッド型意思決定ではなく、リーダーを中心とした円状のネットワークを用いることで、参加者意識を生み出す効果があることを学んだ。
- ・エコシステムが軸となる地域の基盤を創り出すことが理解できた。
- ・行政だけで出来ることは多くない(むしろ限定的)。与えすぎることによって相手の力を奪うこともある。
- ・強制することはうまくいかないと聞き、共感しました。行政ができることは限られているが、まだやろうとしていない目的を持っていないことを気づくことができました。
- ・地域づくりはその個々の地域にあったものがあり、それぞれが違い、自分の地域ではどういったことが求められるのか情報収集することが必要であったり、住民が「どうにかしないと」「やらない」と思ってもらえるような関わりが必要という事で、自分のやりたい事と住民さんのやりたいことが一致しているのか改めて考えていきたい。
- ・協働する個人組織のネットワーク、コレクティブ インパクトという言葉が印象的であった。東北にて起業家を育成、排出する NPO 法人 ETIC さんの活動を知る事ができた。
- ・「やれる事」と「やっていない現実」との距離がもったいない。「今やれる事やる」という冒頭の言葉、どの講師の話にも共通していました。若者や参加する人、強制しても逃げていくだけ。ゆるいつながりをつくる事が「基盤」には大切だと分かりました。
- ・I, we, it の輪の輪の目標が同じでないとうまくいかないということと、生産年齢人口の年齢の再定義について新しい視点をいただきました。
- ・実績に基づく話は、大変参考になりました。
- ・何かやろうとしている人に対し、自分が何が出来るのかチャンスをつかむ準備。民間のパートナー、トップの意志。
- ・地域に自主性を産み出すには与えすぎない事が大事！！
- ・チャレンジを生み出すためには、目標、熱意、ヒト、モノ、金、情報が必要。エコシステムを動かすカギはゆるくつながり方の多様性が必要不可欠である。I, we, it の一致でつながりを強くする。
- ・起業の実績に基づいた説得力はすごいものがあると感じました。富永講師のお話にもあった土壌づくりと根っこを育てるといことがいかに重要かということが理解できましたが、その花を咲かせるのはやはり大変です。
- ・若干抽象的で具体性に欠けたものの、理論を学習出来た。
- ・起業の後押しが、私の目指す集いの場づくりの視点と似ているように感じた。今後の参考にしていきたい。
- ・エコシステムを利用した多様な挑戦を支える環境、思いが育まれる仕組みづくりが重要。
- ・新しいことに挑戦することが大切だと思った。根をしっかりと作る事が大事だと思った。
- ・「根」が大事。この「根」は気持ち。思ったらやれることからやる。思い続け着手すればかなう。
- ・知らなかった話も多く、仲間や地域の方に還元したいと思う。
- ・自分ごととして捉えられる環境づくりの大切さ、どこか他人ごとになっている現状を打開していきたい。
- ・I we it が一致しないと事が進まないというのは分かるが、ちょっと表現が難しかった。
- ・事例にもとづく具体的な話の方が理解がより進む様な気がした。

◎活用度 2

- ・自分に何ができるか考える。
- ・過疎地域においても、それぞれの地域資源を掘り起こし様々な起業ができると感じた。
- ・パワーポイント通りの進行ではなかった。視覚と聴覚の両方で学びたい。
- ・地域での起業のポイントとなる要素が少し分かった気がした。
- ・少し地元の羽生市に置き換えて考えることが難しいなと思った。
- ・役所でできることは限られている。民間のパートナーをみつけて自分の意思を持ってやってもらえるようなつながりを持っていきたいと感じた。
- ・自分の理解力が低いこともあり、講義内容が抽象的で難しかった。
- ・総論的な話は理解できたが、もう少し実例を踏まえていただけるとありがたいと感じました。
- ・レジメにとらわれない講義で面喰った面もあったが、起業家支援という新しい取り組みがあるということが認識できた。
- ・人づくりや人とのネットワークなどの「つなぐ」という部分において、人との接し方・アプローチの方法が勉強になりました。
- ・テーマに沿った Out comes までの組み立てが弱いように感じた。現場でどう活かすかイメージしにくい。
- ・内容としては少し難しく感じた。講義の中での「I, we, it」の全てが一致した時にうまく動いていけるというお話にはとても納得できた。
- ・挑戦が挑戦を生むというのは、なるほどなと思った。

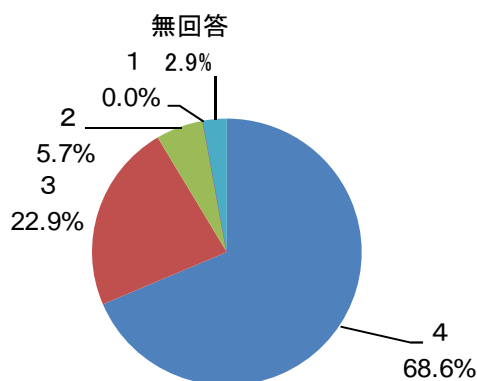
◎活用度 無回答

- ・地域で様々なことにチャレンジしたい人たちをバックアップして、チャレンジしやすい環境づくりこそ公務員として出来ることだと分かりました。そのためにも、私自身が人材力を身につけ、人と人をつなげるネットワークを養っていこうと思います。
- ・継続して事業が行える仕組みづくりが必要であり、しくみを設計するところから始める話は参考になりました。

【講師との直接対話（コース①飯盛講師）】

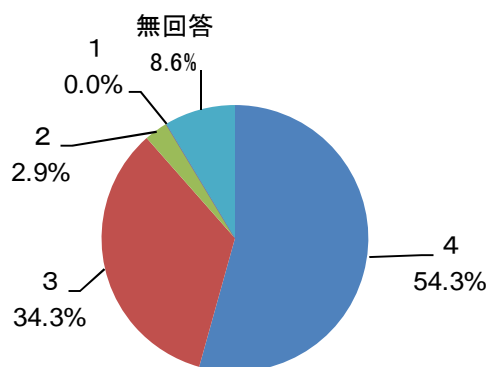
N= 35

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	24	68.6%
	3	8	22.9%
	2	2	5.7%
	1	0	0.0%
	無回答	1	2.9%
合計		35	100.0%



N= 35

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	19	54.3%
	3	12	34.3%
	2	1	2.9%
	1	0	0.0%
	無回答	3	8.6%
合計		35	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ 大学との連携、対組織よりも対人関係を築くことから「縁側」の考え方が良いと思った。
- ・ 全国各地の先進事例を伺え、大変参考になった。自治体を超えた協力関係（競争関係）が益々広がっていけばと思う。
- ・ 過疎地域を持つ場合、将来を考えた対策を今からしていく必要がある。
- ・ 大学連携がうまく進められている自治体として金沢市を紹介していただきました。学生まちづくり会議、学生まちづくり市民交流館など参考にさせていただきたいと思います。大学連携を進めるには、まずは教授との個人的なインフォーマルなつながりが重要であることが分かりました。
- ・ 大学連携の話題など、いろいろ意見交換できて良かったです。
- ・ 大学連携の話では、大学の本音や様々な事例を教えていただき参考になりました。
- ・ 産学官、特に学官連携の仕方についてヒントをいただきました。早速チャレンジしてみようと思います。
- ・ 地域づくりに答えはない。地域には何か必ず良い所がある。だからとにかく行動することが大切。
- ・ 個別講義を丁寧に進めていただきました。現場状況をわかりやすく、今後の参考とさせていただきます。
- ・ 沢山の経験を基に具体的な内容を確認したい。
- ・ もっとお話したかったです。
- ・ 講義を受けてから対話するという流れだと、より効果的であると感じた。

- ・教育法が答えを教えず考えさせるということに地域づくりも通じるものがあると思いました。市や大学の主導で行うと地域の中での自主性は望めなくなってしまうこと等、学ぶことができました。
- ・人材力活性化研究会の委員や若者が実際にどのように取り組んでいるか良く分かった。
- ・イタリアのまちづくりがキーワード。「SROI」での主体性評価法。
- ・多世代を巻き込む方法について、具体的な事例を教えてください実践しようと思う。
- ・大学生を活用することが上手くできると良いなと思いました。
- ・全体の講義では論理的な話だったが、ざっくばらんに具体的な話が聞けて勉強になった。
- ・豊富な経験を分かりやすい言葉に置き換える姿勢に好感が持てた。
- ・住民の主体性を引き出すことの重要性、および「主体性を図る」難しさを考えることができた。
- ・高校・大学地域連携の可能性、必要性。行政の関わり方。
- ・大学との連携について、イタリアでのスローシティの事例など最前線の情報が聞けた。アンテナを高くし、勉強していきたい。
- ・午前中の講義内容を更に深められたので、とても有意義でした。
- ・地域に学生が入って来ることにより、違った角度からの町づくりができる。今後活かせる対話があった。

◎活用度3

- ・実生活をしている人は気付かないが、学生は外からの目線で気づきをくれる事が大事と感じ、居場所づくりを進めたいと思いました。
- ・せっかくなので、もう少し色々聞いてみたかった。
- ・思っていることを言うことも一歩踏み出すことに繋がる。
- ・大学連携について留意しなければならないことのアドバイスを得ることができた。
- ・様々な事例を入れながら、分かりやすく説明いただいた。私は自治会の担当をしており、雲南市などの例をもう一度調べて、地元の自治組織の今後などもう一度考えてみたい。
- ・条例に若者とのまちづくりを明記している金沢市は、大学連携が非常に上手くいっているとのことなので、ぜひ一度訪れてみたい。
- ・まさに地域の力は地域の人自身の知恵とお金を使ってやるべきだというお話がありましたが、それをいかに引き出すかの答えは、自分が出すものではない（なくてもよい）と思えば少し気が楽になります。
- ・スマートシティによって乗り越えることが理解できた。
- ・午前中の講義とは違い、研修生の質問に真剣に回答しようとしてもらえて参考となる部分が多かった。
- ・ゆったりした話が面白かったです。
- ・地域活性と大学の連携のほか。
- ・個人的に蚕に対する興味から、農産物の品種や産地などに大きな関心がある。そのため、スローフード、スローシティにも興味があるが、仕事で関わったことのない分野であるため、質問等できなかったのが残念だった。静岡市でも民間（飲食店経営者）により、中山間地に残る伝統的作物と伝統行事を中心にした同様の取組があり、勉強会に参加したこともあるが、改めて注視したいと思った。

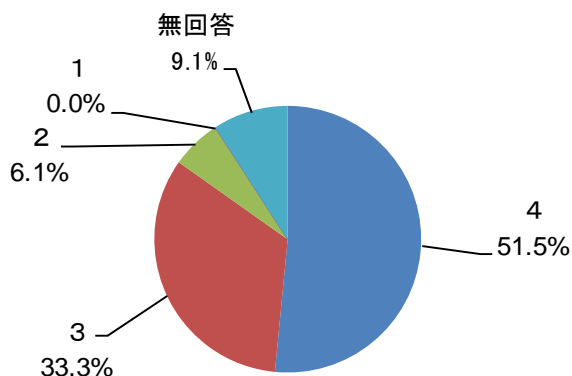
◎活用度 無回答

- ・様々な事例紹介をしていただいたので、自ら調べて勉強していきたい。
- ・何よりも大切なのは仕掛けづくり。地元の人たちに自分たちでやらせる事。住民主導でできる育てる事が継続につながる事が理解できた。
- ・地域と大学の連携について聞いて良かった。

【講師との直接対話（コース②小澤講師）】

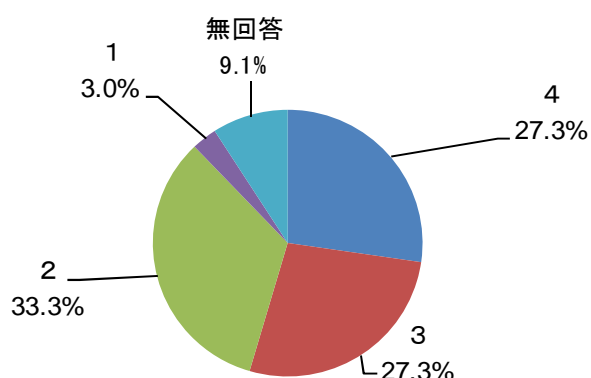
N= 33

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	17	51.5%
	3	11	33.3%
	2	2	6.1%
	1	0	0.0%
	無回答	3	9.1%
合計		33	100.0%



N= 33

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	9	27.3%
	3	9	27.3%
	2	11	33.3%
	1	1	3.0%
	無回答	3	9.1%
合計		33	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ 自分も消防団に入団しているので、今後の活動に活かしたい。
- ・ ボランティア団体だが、地域のために自分の命を守りながら活動することが大切だと思いました。
- ・ 女性の力を活用していく方法を話し合うことができ良かった。
- ・ 防災への認識、災害時の認識が理解できた。
- ・ 自身も消防団として活動しているため、共感できる部分が多かった。
- ・ 消防団の歴史。現場には必ず消防服に着替えて行かないといけない。今後気をつけます。
- ・ 消防団の定員確保について、女性ならではの意見を頂戴した。
- ・ 消防の大切さを再認識できました。
- ・ 消防団と地域の関わりを強くすることの大切さを学んだ。
- ・ 地域防災の向上は、今後の自分たちの生活を考える上でも重要であり、その一端に触れることができたと思います。また、個人的に消防団に興味が出てきました。
- ・ 知っているようで知らなかった消防団、防災について多くを学んだ。
- ・ 地方こそ女性の活用を真剣に考え、すぐに行動するべきと思いました。
- ・ 消防団について知らないことも多かったので、大変勉強になりました。安心・安全なまちづくりを進める中で良いアドバイスをもらいました。

◎活用度 3

- ・問題意識の持ち方、行動力。
- ・それぞれの地域の実情はあるが、消防団の必要性は具体的に理解できた。
- ・消防団は地域に身近にあることを再認識しました。女性のできる防災とのかかわりについて学ぶことができました。
- ・消防団員は、集まって飲んでいるんじゃないかと世間で思われている。昔のあたり前を考えてみることも大切と思いました。
- ・安全・安心のまちづくり。消防組織の重要性が理解できた。
- ・消防団について、自分は知らない事ばかりだったのでとても勉強になった。防災とまちづくりは表裏一体だということを改めて実感できた。
- ・前段で講義が無かったので、自己紹介と講義で時間切れとなってしまった。
- ・消防団については必要という認識はありつつも、ライフスタイルの変化から従来通りのやり方では成り立たなくなっている。その状況は行政政策全般に言えるので活用していきたい。
- ・知っているようで、知らなかった消防団と消防団が作りはじめた地域社会の中での新たな役割、価値を知ることができた。
- ・今まで地域の消防団活動に目を向けたことがなかったので参考になった。今年防災訓練は行っているが、今一つ実用性に欠けるので、地域と連絡して、より良いものにしていきたい。
- ・あまり関わる機会のない消防団であったが、消防団こそ地域に密着した住民組織であることを改めて知ることができた。現状も踏まえて、自分の地域でも変えていけるように行動を起こしていきたい。
- ・女性消防士の現状を分かりやすく話していただいた。地域づくり、まちづくりは、色んな側面からアクセスできると感じた。

◎活用度 2

- ・地域の活動状況が良く分かりました。女性が参加している状況は参考になりました。
- ・地域防災と地域づくりとの関係がとても大事であるかを知った。
- ・消防団については、自分が思っていた以上にその成り立ちや制度を知らなかったことが分かった。消防団は地域の安心安全の一翼を担う組織であるものの、なり手が減っていることは知っていたが、今までにない幅広い人材を集めようとしているところなど興味深かった。
- ・地域消防団の取組について再度認識できた。
- ・消防団のことについてほとんど知らなかったので、課題等について知る事ができた。地域づくりと共通で「安心安全なまち」を「自分たちでつくる」人づくりがここでも重要だと感じた。
- ・消防団員として、消防団の取り巻く現状を把握できて良かった。どこの消防団も同じような問題を抱えており、参考になった。
- ・消防団における女性の活動について知ることができました。
- ・女性消防団は聞き慣れない言葉であったが、今後の地域づくりでもあるべき存在と感じた。
- ・消防の話を通じて、地域を守る見つめる目を養っていく事があるのも1つの地域づくりを感じました。

- ・消防団の地域における役割や、とりわけ女性参加の重要性を学ぶことができました。
- ・消防団との関わりが、これまで少なかったので良かったと思う。

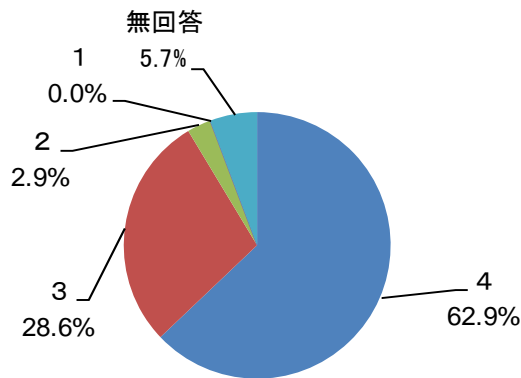
◎活用度 無回答

- ・様々な地域の消防団の話が聞けて良かったです。
- ・対話の中で、新採用職員が2年間消防団に入るという事例は面白い活動だと思いました。防災意識を市内に広めるという意味でも、当市でも取り入れることでメリットがあると感じました。
- ・消防団としての話を聞けて良かった。

【講師との直接対話（コース③富永講師）】

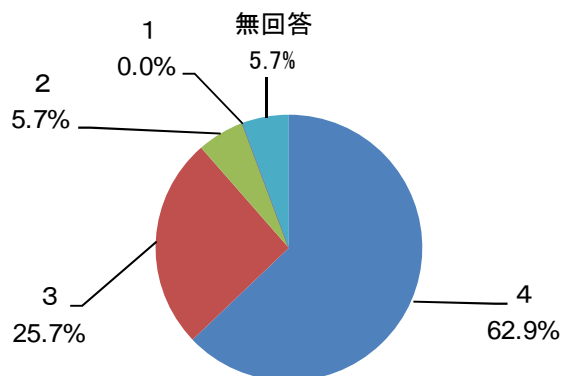
N= 35

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	22	62.9%
	3	10	28.6%
	2	1	2.9%
	1	0	0.0%
	無回答	2	5.7%
合計		35	100.0%



N= 35

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	22	62.9%
	3	9	25.7%
	2	2	5.7%
	1	0	0.0%
	無回答	2	5.7%
合計		35	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・タテ系ヨコ系の話はとても面白かったです。
- ・自立できるためには？⇒行政の人間力でサポートは限界がある。人が変わっても継続できる組織づくりが大事。
- ・地域づくりに無関心⇒「いっしょくたんにまとめようとしない」それぞれ交われるところがある。⇒参考になりました。
- ・自分の課題にアドバイスを頂き、次につながると思った。
- ・新旧住民のつながりを生むための考え方として、横と縦の糸という話をもらった。個人的には目からウロコで少しずつでも実践したい。
- ・テーマ型団体と地縁型団体の連携についてヒントをいただけて良かったです。
- ・活動しているエリアが長池公園と隣接しているので、相互交流を今後は行っていきたいと思いました。
- ・本市とNPOの関係性について話したところ、具体的な方策を助言いただき、すぐにでも実務に取り入れようと思う。
- ・市民活動団体を活性化していくためには、市民活動支援センター（指定管理）と担当課がお互いに学び合いながら、成長していき、両輪で支えていく重要性を改めて認識することができました。
- ・実際に様々な活動を富永講師がされているので、活動の実情やアドバイスにとっても説得力がありました。

- ・地域組織はヨコの糸、テーマ団体（NPO等）はタテの糸、組み合わせて、セーフティネットになる。行政はその織り手になることが大切と教わった。
- ・各位の質問の中に、いい案があった。活用したい。
- ・「人間力」という言葉が今回の研修で最も重要なキーワード。富永先生の熱い思いに勇気をいただきました。
- ・組織のあり方よりも、まずは自身の“人間力”を磨くことが地域づくりには不可欠であることを痛感した。
- ・組織の世代交代の重要性について再確認しました。
- ・相手がどうしてそういう考えなのか、反発するのではなく、理解しようとするのが大切だと思った。
- ・指定管理者制度の運営については未だ指針が十分に整備されていない。工事等の積算基準の様に委託に対しても、その様な基準を整備していく必要がある。
- ・行政の立場で物を申さない。ということが大切。公式と非公式を駆使して市民と対話していきます。
- ・NPOの財政面での生の声をいただくことができたことは、協働を考えていく上で参考になりました。
- ・地域とどのように向き合って問題を解決していくのか、具体的な手法をお聞きしました。実際にすぐに取り入れられると感じました。
- ・住民と1対1で本音で話す大切さ。誠意と感謝で住民に接すること。
- ・NPOと行政の考え方の違いや、現状を知る事ができた。
- ・地域の理解を得るには1対1で心で話し合う。

◎活用度3

- ・行政NPO、指定管理者の取組み役割について、より理解を深めていく良い機会であった。
- ・色々熱い話ばかりだったが、今とこれからの通用する行政人になれるようになりたいなあと感じた。
- ・各自治体の課題を1つずつ解説していただけた事が興味深かった。
- ・前日の講義よりも熱く、人間力の必要性を語っておられ刺激を受けた。覚悟を持って地域づくりをする人を探したいという気持ちになった。現場に行って情報を得たい。
- ・組織に都合の良い人を置いておくと続かない、やると言ったらやる人を探すこと。自分が本気でやりたい事なのか、など多くのキーワードをもらいました。人間力あふれる熱い対話、目が覚める気持ちでした。
- ・後継者を見つける、見つけた人を守る仕組みを作ることの重要性について理解できたが、その支援の仕方についてやはり個別なのではないかと感じました。
- ・NPOと行政との交渉の難しさ、NPO側からしたら、行政は無理難題を言っているのだと気づかされました。
- ・公務員という立場をいったん横に置いて、時には「人間」対「人間」で話をする必要がある。人間力で勝負すること。すぐには人間力は出来あがらないが、それに向かっていきたいです。
- ・NPO法人の経験、実績から語られる言葉は熱く、心打たれるものがあつた。

◎活用度 2

- ・指定管理制度が抱える課題を深く話し合うことができて良かった。

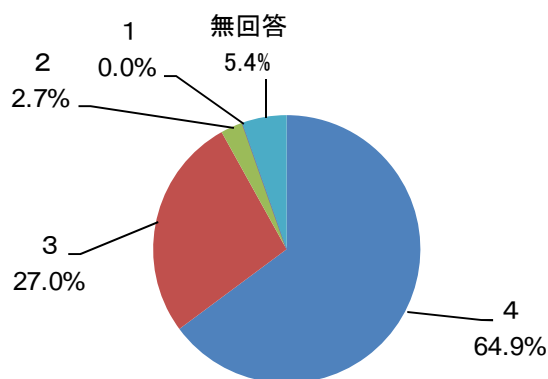
◎活用度 無回答

- ・100%の行政型から 50%の市民リターンハーフメイド型から 3 世代目の暴れん坊將軍型へのニーズへの変化が理解できた。
- ・人口減少対策として役場ではなく NPO として求める人材を移住者として募るという事例を参考に当市でも人口減少対策に取り組んでいきます。
- ・NPO の活動の事や物事の考え方を聞いて良かった。

【講師との直接対話（コース④前神講師）】

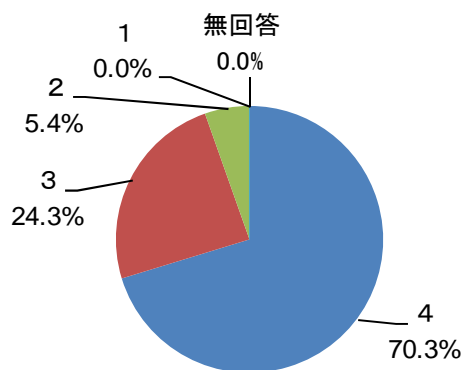
N= 37

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	24	64.9%
	3	10	27.0%
	2	1	2.7%
	1	0	0.0%
	無回答	2	5.4%
合計		37	100.0%



N= 37

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	26	70.3%
	3	9	24.3%
	2	2	5.4%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
合計		37	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・とにかく地域に出る、話すというスタンスが今の自分の状況に近く、共感が大きかったです。
- ・同じ公務員として、どういう活動をすれば良いか勉強になった。
- ・行政職員としての経験からの話が聞けてとても参考になりました。安心して住める地域も立派な地域づくりになっていると改めて考えさせられました。
- ・悩んでいても始まらないので、とにかく地域に出る。出てからそこで気づいた事を次に生かすという事を学びました。
- ・行政の立場からの地域づくりのやり方を聞いて良かった。
- ・先生の行動力、地域を元気にしたい！という熱意がとても伝わってきた。特産品もいただき有難うございました。とても楽しかったです。
- ・地域に飛び出すことの大切さを改めて気付かされた。
- ・自分の行動範囲を広げて自分の目で見てみることで眠っている資源を見つけることができると感じた。自分の自治体を再度観察したい。
- ・面白いお話が聞けて、とても楽しかったです。
- ・個人的に一番お話を聞きたかった先生です。私も職員としてもっと現場に出たい気持ちがあり、実際に先生のお話を聞いてどうしたら地域の方の声が聞けるのかを考えようと思いました。
- ・自治会等と対応している中で、行政のことを理解してくれないと諦めていたが、行政の立場ができることを分かりやすく伝えていないことが原因であり、分かりやすく伝えることの重要性が分かった。高齢者虐待では、地域教育、社会教育による理解をしてもらうこと、市町村を超えて事例集約、地域づくりでは課題から入ると疲れてしまうことなど参考になることが多かった。

- ・パワフル、エネルギッシュに活動した結果が人づくりにつながっており、現場に寄り添う事が何より大切だと感じました。
- ・地域を飛び出す姿勢と、周囲に分かりやすく伝える手法とネットワーク作りへの信念を知る事ができ大変有意義でした。
- ・地域に自ら足を運んで、中に入ることの重要性、警戒心を解く事。
- ・「課題」「地域課題」という言葉にこだわり過ぎていたような気がするので考え方が変わった。
- ・大切なことがたくさん詰まった経験談が聞けて、とても楽しく参考になりました。講師の人間力がすごい。
- ・色々な目線で地域人、ものを見て、多様性のある考え方が大事。
- ・地域に積極的に出て行こうという気持ちになった。
- ・幅広く様々なお話を聞くことができ大変おもしろかったです。相手の立場になって話すことの大事さを改めて感じました。
- ・とても分かりやすく、話に引き込まれる内容・話し方で自分自身も人を引きつけるような人になれるように、まずは地域に自分の足で目を見て、生きにくさを感じている人が暮らしやすいと思えるまちづくりをしていきたいと強く感じました。
- ・行政職員であり、実践者としての活動を通しての話は、現場で活用できる場面が多々ありました。
- ・県職時代、市町村に確認する前に自ら現場に行き知ることが誰もがマネできるものではなく（市町でも）本当にすごいと思いました。あるべき公務員の姿。
- ・地域の人との交わり方等のヒントになりました。
- ・とにかく「パワフル」県庁職員にしておくのはもったいない！気づきとやる気はかなり触発されました。
- ・身近な例を具体的な話をもとに話話していただいたので参考になった。自分にいかしていきたい。
- ・富岡市からも地域活性化センターに行っている人がいるので興味がありました。素晴らしい講義でした。
- ・地域との関わりの仕方やヒントが分かり、それを実践すべきだと思いました。
- ・事前の予想より更に地域に飛び出している方だったので、センスなどとても参考になりました。
- ・地域に飛び出すこと、人と関わること、関わりから見える気づきが地域おこしのヒントになると感じた。
- ・同じ行政職員として実際に動いている様子から、何をしなければならぬのかのヒントがいただけました。

◎活用度3

- ・行政は課題から入りやすいが、入り過ぎないことが大切であるとか、困っている時こそ外に出るなど、自分が正しいと思っていた価値観などを見つめ直すことも大切だと思った。
- ・まずは地域に足を運び、住民の声に耳を傾けることで、大きなヒントを得ることができるのだと実感した。
- ・地域に飛び出す公務員ということを実践しておられる体験談が参考になりました。身の回りの仕事の環境を変えてみることもひとつということが目からウロコでした。

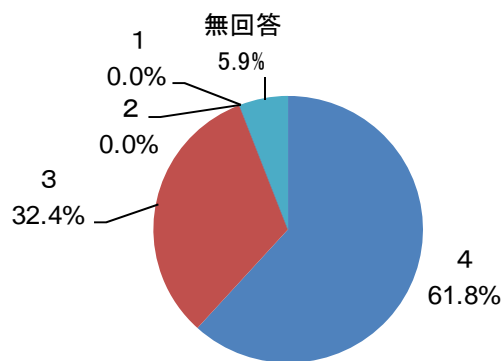
- ・「地域に飛び出す公務員」先ずは現場に行く事、つながりの大切さ。
- ・食を通じてのコミュニケーションは大変興味深かった。私も目立つ格好で地域を歩いてみたい。
- ・県職員として徹底して現場を大事にしている姿は、とても参考になり、見習うべきところと強く感じた。
- ・バイタリティに圧倒されました。見習いたいところ多く、参考になりました。
- ・課題ばかりを追求しない、面で物を動かしていく、地域に向いて情報集め、発信する。どの言葉も心に響きました。みきちゃんもち、ようかんも美味しかったです。
- ・県議員としてセンター職員としての活躍は参考になりました。現場での突進力は素晴らしいですね。
- ・現場主義という感じがあり、とても良かった。具体的なノウハウも指導いただき今後の活動に役立った。
- ・同じ人が地域づくりをしていないかというはまさにその通りだった。今まで関係ないと考えていた人をうまく活用していきたい。
- ・地域づくりを行う上で、「生きづらさ」を考える人を出してはならないという信念のもと、福祉の分野も含めた取組（劇など）が印象に残った。

◎活用度 2

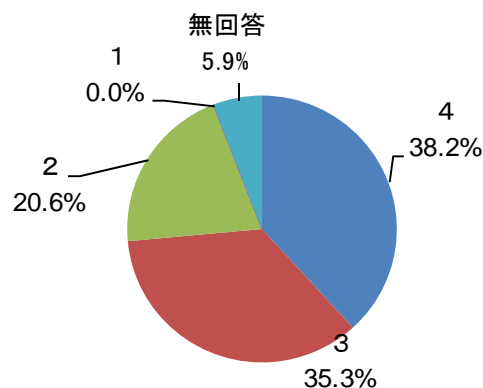
- ・協力者の全員を使わせて頂く。
- ・公務員として、とても積極的に地域づくりに参加し、とても感心させられた。

【講師との直接対話（コース⑤牧野講師）】

		N= 34	
<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	21	61.8%
	3	11	32.4%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	2	5.9%
合計		34	100.0%



		N= 34	
<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	13	38.2%
	3	12	35.3%
	2	7	20.6%
	1	0	0.0%
	無回答	2	5.9%
合計		34	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ ICT を活用した地域づくりの実践例を学び、とても参考になった。
- ・ ICT 活用は難しいがハマるとすごい効果が出るということを再認識できました。
- ・ 民間企業の ICT ノウハウをいかに上手に行政サービスに活用できるかという点が良かった。
- ・ IT の重要性がわかった。
- ・ ICT には無限の可能性を感じたが、その元になるベースをしっかりと考えていくことが大切であると感じました。
- ・ インターネット社会が進む中、ICT 町づくりという言葉をよく耳にし、ここでも IT を導入することで無限の可能性を感じました。まずは何をどうしたいかを明確にし、ベースをしっかりと作った上で効果的に活用していきたい。
- ・ ICT を活用した地域活性化は、自分自身興味も高く、内容も分かりやすかった。
- ・ ICT の活用により、様々な可能性が期待できる事を実感いたしました。特にテレワークについては、今後男女行動参画を考える上で重要なキーワードになってくると思いました。
- ・ ICT の可能性を感じました。そして身近なところまで ICT が来ていると感じました。
- ・ IT を利用した地域づくりで自分の地域では何ができるか具体的に学ぶことができたことは大きな収穫だった。
- ・ 非常に分かりやすい説明で、もっと話を聞きたく、時間が足りなく感じました。小規模自治体においては、IT の推進による業務、サービスの改善において可能性を大いに感じました。

- ・ IT を直接担当はしていないが、ちばレポ、テレワークなど、うちの町でも導入できないかと思いました。うまく活用できる町にしていきたい。
- ・ ICT を活用するためには、まずは念入りに計画を立てることが重要であることが分かりました。
- ・ 民間からの視点で地域づくりを捉える事が大切だと感じた。
- ・ IT は導入が目的ではない。IT を入れる前にプロセス等をしっかり検討した後に導入しないとけない。
- ・ ICT の活用の可能性を感じました。

◎活用度 3

- ・ IT の切り口は新鮮に感じた。
- ・ 民間企業の社会貢献立場から、様々な地域づくりに関わっていることと、ICT による地域づくりの事例が聞いた事が良かった。
- ・ 自分の担当している仕事や取組に近い所もあり、参考になりました。
- ・ ICT の持つ可能性は日本中どこにいても活用できるという強みにある。その先にある姿は自治体職員自らが描かないといけないと分かり、歳とっても学び続けることを誓います。
- ・ ICT の話でしたが、ICT ベースではなく、しっかりしたコンセプト（土台）があり、それを実現する手法としての ICT という話はとても勉強になりました。
- ・ ICT の可能性を感じた。
- ・ 今自分のしている仕事に ICT を活用したいと思いました。
- ・ ICT の可能性について学べた。
- ・ 自分にとっては難しいと考える分野であったが、内容を分かりやすいものにしていて、新しい情報を得る事もできた。
- ・ 急速な IT の変化が生活へも影響してくる。使い方によっては地域活性化への大きな起爆剤となる事を改めて感じた。
- ・ ICT の活用については、災害発生後のふるさと納税のシステムを利用した寄付金集め、カーナビの通れる道マップや地域観光資源の全国発信、牛の繁殖を支援するシステムによる事業者の負担軽減、テレワークによる新しい働き方など、多くの可能性があることが分かった。
- ・ もっとも活用したい分野すが、自分の中にどう活かしていくか明確なプランができていない。
- ・ IT を使った災害対策、愛媛県の丸ごとサイクリング。働き口を下に埋め込むことによりサイトを作り運営させる仕組みづくりのヒントを得た。
- ・ ICT 活用の幅の広さを知りました。サテライトオフィス、テレワークなど初めて聞くワードでしたが、本来の地域のあり方を考えることができました。活用例を研究してみたいです。
- ・ まだまだ原始的な公務員の仕事に ICT の技術を入れて効率化をする。しかし簡単ではない。
- ・ ICT を活用した地域づくりは、今後ますます必要性が高まっていくと感じた。特にテレワークやスマート農業などは、行政側から積極的に働きかけられれば良いのではと思う。

◎活用度 2

- ・ICTとは遠い部署だと思っていたが、少し視点を変えるだけで割と身近に取り込めることを学んだ。
- ・様々な分野でITは入りこんでくるが、活用については今後の研究である。
- ・「ICTを利用すれば色々なことができます」という良い事ばかり強調されているが、きちんとした目的、基盤がないと単発で終わる。うまく利用することが大事。
- ・ITについては、本市はまだまだ後進的な自治体であるが、今後の検討材料となる内容であった。

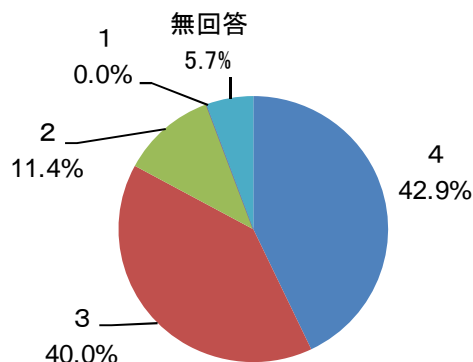
◎活用度 無回答

- ・ICT、ITを活用した事業について、理解を深める必要があると感じました。
- ・活用事例は大変おもしろく参考になった。「産」の意見を聞く機会は少ないのでアプローチの方法の参考になった。
- ・講義の中でICTに災害、公共施設管理とか、確実にICTの重要性が高まると感じた。
- ・ITの活用は当市で考えていた事なので、どのような活用があるか事例を聞いた事は大変参考になりました。また、どの様な物が受け入れられるかを考えた時に、生半可な物ではダメだと分かりました。

【講師との直接対話（コース⑥宮城講師）】

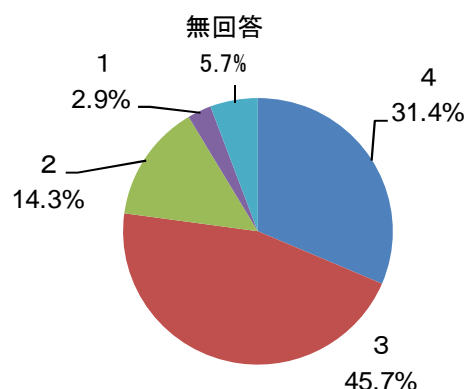
N= 35

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	15	42.9%
	3	14	40.0%
	2	4	11.4%
	1	0	0.0%
	無回答	2	5.7%
合計		35	100.0%



N= 35

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	11	31.4%
	3	16	45.7%
	2	5	14.3%
	1	1	2.9%
	無回答	2	5.7%
合計		35	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・何かしらのインセンティブなくして、大多数の人間は動かないため、ボランティアを中心としたやり方から民間の経営感覚を持った方法に移行していかなければならないと実感した。
- ・仕事でもプライベートでも活かせる内容だった。
- ・色々な意見を聞いた。地域への起爆剤の存在。
- ・どこの地域でも地域活動団体同士の連携について問題を抱えており、その所が今後重要ポイントとなる事が分かった。
- ・お悩み相談のような形で自分の課題を相談させて頂きました。こう着状態の場合の第三者的な存在の導入という観点はとても勉強になりました。
- ・地域づくりの課題として質問させていただき、縦横だけでなく、違う視点から物事を見て取り組むべきだと思いました。
- ・質問に対するいただいた回答が腑に落ちた。
- ・講演で伺った「エコシステム」の考え方が深化できました。組織を変えるテクニック等も参考になりました。
- ・担当する自治会業務についてヒントをもらえた。そのヒントをもとに何が出来るか分からないが、できることを職場や地域の方たちと探したい。
- ・全体の講義では聞けなかった、より具体的な話が聞けて勉強になった。
- ・新しい事業に地域おこしを活用する等、資金面の賢い活用術や組織の基盤作りについて新しい気付きを得ました。

◎活用度 3

- ・成功自治体についても教えていただいたので、これから検索して具体的な内容を確認したい。
- ・色々な質問があり、各地の取組みが良く分かった。
- ・エコシステムの実践例を学び、とても参考になった。
- ・受講生それぞれの悩みに答えるスタイルは有益でした。
- ・個別に相談に応じてくれたためとても参考となった。
- ・間をとり持つ人の人材として協力隊の活用。
- ・地域の一番の伝統部分を残すためにも、今の組織を維持しつつもテーマを分けて若い世代が入ってきやすい組織づくりを目指したい。
- ・各自治体の悩み、それに対する先生なりの解決に向けたヒントが聞けました。
- ・まずは行動してみようと思いました。
- ・各自治体の課題への糸口を説明していただけた点が興味深かった。
- ・自己紹介の中で自身の困っている事を話す機会があり、他の受講生も同様なことで苦勞されていることも分かり、貴重な機会が与えられたと感じた。
- ・新しい担い手である若者の事業参加について参考になった。
- ・プロデュースで意思のある一人が見える事が大切。エコシステムを動かすには民間と行政のパートナーシップが大事。

◎活用度 2

- ・自治会間の付き合い方について考察。
- ・時間管理があまく、時間内で結論（まとめ）に至らなかった。
- ・ソーシャルビジネスを支援する仕組みを作っていかなければいけないと感じました。
- ・時間の関係で質問の解答までいただけなかったのが、またインターンの業務が進んだら相談したいと思う。

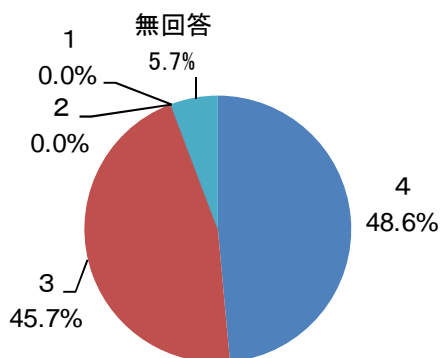
◎活用度 無回答

- ・人を動かすためには当事者意識を持ってもらう事が大切だと聞いた上で、どのように意識を持たせるのかをアドバイスいただいた事で、今後の業務の参考となりました。
- ・自分の抱えていた疑問に答えていただき助かった。言葉にすることで非常にスッキリした。
- ・新しい担い手を見つけるには、民間の人を巻き込んで育てることが大事であると感じました。

【講師との直接対話（コース⑦牧野講師）】

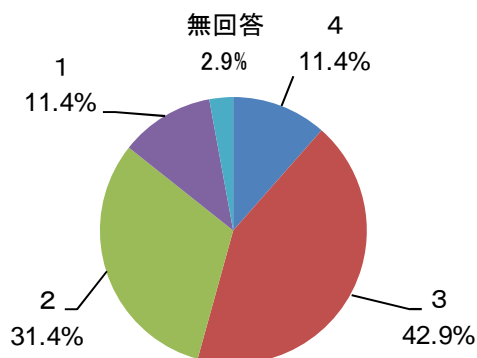
N= 35

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	17	48.6%
	3	16	45.7%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	2	5.7%
合計		35	100.0%



N= 35

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	4	11.4%
	3	15	42.9%
	2	11	31.4%
	1	4	11.4%
	無回答	1	2.9%
合計		35	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・山の話で我が町も 10 の山で山開きをしている。うまく PR して活用していきたい。
- ・積極的な情報発信の手段として地域のコミュニティラジオ (FN) が有効と聞きましたので、今後の検討にしたいと思いました。
- ・各自治体の取組をきめ細やかに説明していただき大変参考になった。
- ・趣味である山登りを仕事と結び付けていたので参考としたいです。

◎活用度 3

- ・海外青年協力隊より「高齢者」協力隊という言葉はとても感銘を受けた。シニアの力の活用が大事。
- ・先生の自己紹介を交えたお話がとても楽しく聞くことができました。すごくハッとしたのが、生産人口のそもそもの概念を考え直すというものでした。
- ・「身近な話題」にこそ ICT のニーズがある。ごみ分別、緊急区、防災等々か、確かに。
- ・生産年齢人口の動きで経済の動きが分かる。15～64 歳？現状は 20～75 歳ではないかという視点が目からウロコだった。帰ったら調べ町ごとに整理したい。
- ・趣味（登山）を生かした地域の魅力の再発見のお話が印象的でした。また水の価値についても新たに知る事ができて良かったです。
- ・熱い講義でとても良かったです。
- ・地域 FM の話は防災関係と協働する事で、まちづくりにつながるというハッとする視点がいただけました。

- ・様々な自治体への勤務経験から興味深い事例を話してもらう事ができた。
- ・やや講師の一方通行な面もあったが、興味深い話を聞いた。
- ・全ての基本は現場を見ること、自分が動くことにあるのだと再確認した。
- ・多くの困難や問題を乗り越えている牧講師の話聞き、驚くことが沢山ありました。
- ・体験談をおもしろく聞かせて頂きました。
- ・先生の経歴をお話し下さり、とても面白く熱い話が聞けた。もっと聞きたいと思いました。
- ・牧先生の経歴をたどりつつ、様々な話を聞くことができた。
- ・視野の広さに感動した。
- ・国家公務員としての経歴により、地方都道府県の幹部として行政の実績が理解できた。
- ・今までの経験を楽しく話して下さった。

◎活用度 2

- ・誰もやらなかった事、ニッチな分野でもしてみると第一人者になれる！！
- ・地域との携わり方を行政としてどうしていくかを考える。
- ・地域それぞれ特徴がある。その地域に合致した方策を生み出すことが重要なのだと再確認できた。
- ・自治体経験が長かったこともあり、具体的な説明が多くあった点が良かった。
- ・先生くらい人前で話せるくらいの深みを持ちたいと思います。山の話は個人的にハマっていました。
- ・情報交換という意味では少なかったものの、講師の経験と行動力、発想力は圧倒的でそれだけでも聞く価値十分です。ピンチヒッター講師にもかかわらず、あの調子で今回4回の対話をこなされたことに驚愕しました。
- ・先生の経歴や趣味である山登りについてリラックスした話が聞けた。

◎活用度 1

- ・一方的な話であったが、楽しく聞くことができた。

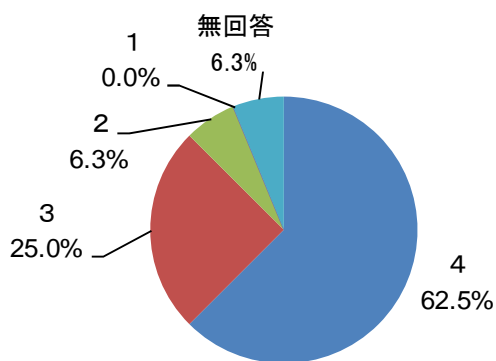
◎活用度 無回答

- ・経験、知識のあるシニアを生かしていこうと感じた。
- ・公務員の経験談を語っていただき勉強になりました。

【講師との直接対話（コース⑧飯塚講師）】

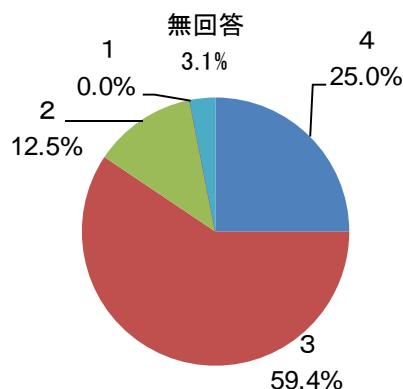
N= 32

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	20	62.5%
	3	8	25.0%
	2	2	6.3%
	1	0	0.0%
	無回答	2	6.3%
合計		32	100.0%



N= 32

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	8	25.0%
	3	19	59.4%
	2	4	12.5%
	1	0	0.0%
	無回答	1	3.1%
合計		32	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・飯塚先生をはじめ、様々な自治体の方と共通の話題について議論することができ良かったです。
- ・国の立場から地域づくりの視点を語っていただいた。
- ・まちづくりや、地域おこし協力隊と課題や悩み等を共有でき参考になった。
- ・地域おこし協力隊の外部の人材を活用。
- ・様々な自治体の事例を伺えて参考になりました。
- ・協力隊を町で導入しているが、地区では検討中です。そうした中で皆さんの意見が参考になりました。
- ・グループ内の自治体それぞれの事情、取組を伺った。大いに刺激なった。
- ・政府の制度などよく理解できた。全国事例を参考にしたいところです。
- ・総務省としての役割、一人の人間としての本音が聞けました。

◎活用度 3

- ・公務員として、各地のお話を聞けたので参考になりました。
- ・地域おこし協力隊 1/5 が定住という数値。
- ・国の政策によるい地方創生の仕組み、現在の状況が把握できた。
- ・全国各地でまちづくりにおける課題は共通で、解決策についてお聞きすることができました。他市の事例をお聞きすることができました。
- ・地域おこし協力隊のマッチングが課題。

- ・国と地方自治体それぞれの意見が交わらせてとても良かった。地域の実情は千差万別で正解はないが、色々な施策を講じたい。
- ・様々な地域の課題を聞くことができて良かったです。
- ・地域おこし協力隊について、どういう業務をしていただきたいか、イメージがあるとスムーズなのではというアドバイスが参考になりました。
- ・塾生間の問題について塾生たちの情報交換を通じて解決していく形で参考となるご意見を頂きました。
- ・皆さんとの対話の中で、地域おこし協力隊の成功例だけでなく、失敗談も聞く事ができ、隊員とその地域とのマッチングが非常に重要であることを実感できた。
- ・総務省の方とお話できる場は少ないので大変ありがたかった。
- ・お互いの本音も聞けて、有意義な対話だった。
- ・地域おこし協力隊に関する施策について解説いただき、大変参考になった。
- ・ざっくばらんなお話は非常に楽しかった。直接対話でこそその話が出来たように思う。
- ・現行の制度の難しい点も個人的に理解してくれていることに安心した。
- ・後継者の取組みが分かりました。
- ・直接総務省の方から国の施策の考え方や今後の展開を伺う事ができて有意義でした。どこの自治体も総務省が示す施策について、利用したくてもなかなか踏み出せない状況にあることが分かりました。
- ・グループの方がかなり鋭い質問をされていて、先生の本音の部分が少し聞けたのかなと思いました。
- ・率直な意見交換の時間がとれて、とても良かったです。

◎活用度 2

- ・国が今考えている事、それを活用している市町が具体的に実施している事が聞けて参考になった。
- ・それぞれ担当者が携わっている悩みに対し、アドバイスをいただいた。
- ・地域づくりについて国の支援策を聞くことが初めてだったので、勉強になりました。
- ・講師主導ではなく、受講生主導になると、各自治体の状況、個人の立場などにより相当な温度差がありますが、ただそれも含めて情報の取得には有意義なものでした。やはり沢山のひとと話をするのは大事な事です。
- ・国の交付税制度の仕組みがよく分かりました。

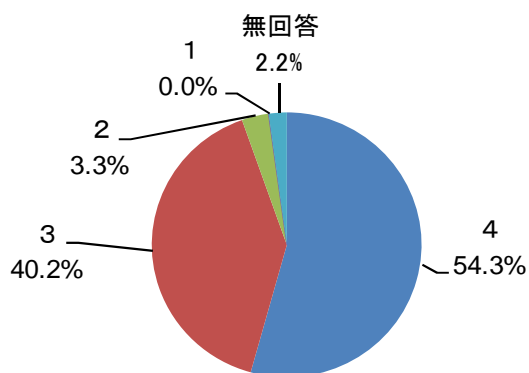
◎活用度 無回答

- ・個々の抱える問題、課題について1つ1つ意見をいただいた事で、具体的に物事を考えることができる対話となりました。これからの業務の中でも活かせていけるものにしていきたい。
- ・多種多様な意見があることは仕方ないことであるため、よく話をするなど地道な活動が大事であると感じました。

【事例報告】置賜広域行政事務組合 齊藤 拓也 講師

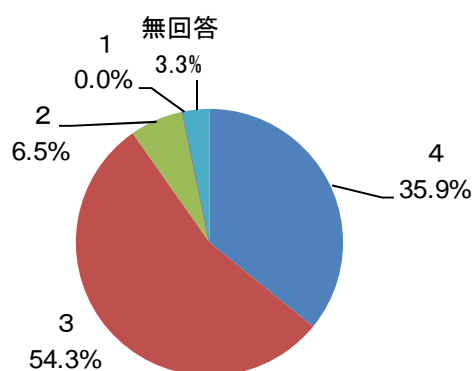
N= 92

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	50	54.3%
	3	37	40.2%
	2	3	3.3%
	1	0	0.0%
	無回答	2	2.2%
合計		92	100.0%



N= 92

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	33	35.9%
	3	50	54.3%
	2	6	6.5%
	1	0	0.0%
	無回答	3	3.3%
合計		92	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ 子供消防隊、地元に戻って実践してみたい内容だった。
- ・ 地域での仕事としてプライベートとしての関わり方。
- ・ 何事もスピード感をもって、積極的に行動することを学んだ。
- ・ 研修を受けてからのアクションが公私身近なものから広域のものまで取組まれていて素晴らしいと思いました。
- ・ この講座を終えてから何をやっていくか、ということを考えさせられた。せっかくのネットワークを生かすとともに更に人材力を高めるようにしていきたい。
- ・ 子供消防隊は非常に面白い取組で参考にさせていただきたいと思いました。
- ・ 色んなところへ飛び出して、たくさんの人とのつながりを作るのが大切だと思いました。
- ・ とても参考になりました。
- ・ 自分でゼロから始める。周囲を巻き込むモチベーションをもらった。まずは地に足を付けて周囲を見渡すことから始めたい。
- ・ 人財塾の受講をきっかけに地域に溶け込み、人と人をつなげることに気を配って、現在も実践している様子が良く分かりました。
- ・ 理論も重要だが、優しさや心配りといった心理面での気遣いが大きな手助けになることも「行動宣言」を通じて心懸けていきたいと思った。

- ・人財塾の成果をここまで昇華していることに驚きました。
- ・活動を行う上では、仕事とプライベートのバランスを取ることも大切だという事が分かりました。
- ・一人一人、その人に合わせた伝え方があることを学んだ。
- ・同じ思いを持つ同士と目的に向かっていくことは同倍もの力になると思いました。また、優しさ、心配り、人をつなぐことの大事さを改めて感じました。
- ・行動宣言を発表したことで始まったと発表されていました。実際に行動され、仲間もでき、つながりができたこと、また家族を思う気持ちも伝わりました。
- ・行動へ移すことの大切さや、自身の意思を強く持つことの影響力を講義の中で感じる事ができました。この研修を参加したことをきっかけに地域を変えることができる一人として取り組んでいきたい。
- ・人財塾に参加し、自ら研修の機会をつくる行動力がすごいと感じました。得た学びを実行することがこの講座の意義だと思いました。
- ・消防団のイメージを変えるために頑張っている姿が格好良かった。
- ・何かのきっかけで自分が変わり、行動が変わり、周りが変わり、町が変わっていく。
- ・人財塾と齊藤講師とのつながりをポイントを絞って説明していただき分かりやすかった。
- ・共に協力する仲間を作って頑張っているのがヒントになった。
- ・「行動宣言」で有言実行は良くできたなと思います。
- ・置賜広域の取組についてもお聞きしたかった。
- ・広域での取組は、これからだんだん注目が高まると思う。
- ・自ら行動し、周辺の職員とも協力しつつ、自らの人間力を高めている姿が参考になった。

◎活用度 3

- ・これからも活躍されると思います。仕事と家庭のバランスや悩みが分かりやすく、広い人脈と熱い思いが伝わってきました。
- ・今までの講義の中で一番身近に感じました。持続可能性を視野に入れた「ちょっとだけ嬉しい」は良いワードだと思います。
- ・とても聞きやすい内容でした。
- ・業務、活動以外にも、職員としてのキャリアや家庭のことも交えた内容が参考となった。
- ・同県の方のお話を伺って、身近にも活動している方がいて心強く思った。
- ・行動力、とにかくやる！が印象に残った。
- ・地域づくりの活動のバランスの大切さに気付くことができた。
- ・優しさ、心配り、人と人の中に入ることは出来るようで難しい。全てのことにつながることと思うので、こういったことを心にとめて日常や業務をしたい。
- ・人財塾を受けたことで、考え方がガラッと変わり行動できるようになったと聞いて、やりたいなと思っていることが出来たら、まずは自分が飛び出してやってみようと思いました。
- ・“仲間”というのが1つのキーワードかと感じた。活動すること、動くことで地域の内外に仲間が生まれるのだと思う。
- ・まちづくりは30年スパンという考え方に共感を得られた。長い目で見ていく視点を大切にしたい。

- ・地域づくりには優しさ、心配りも必要である。また、様々な研修を通じて他の自治体職員との交流を図る事も新たなアイデアが生まれる。
- ・歳も近く、取り組んでいる地域活動も同じようなことをしていたので参考になる取組をしてみたい。
- ・親近感のある説明で分かりやすかった。子どもとの距離が近づいた所はとても参考になった。
- ・本講座を活用し、つながりを活かして活動されている状況が分かった。
- ・今回の研修をどのように活動につなげていくのか、ヒントをいただけて良かったです。
- ・行政の枠を超えて活動されているバイタリティあふれる姿が印象的でした。緑を大事にして、仕事にも活かされていて、循環がうまくできていると思いました。
- ・優しさ、心配り、人と人との間に入ることの大切さ、なかなかできないことですが、自分も大切にしていきたい。
- ・人財塾において人生が変わったというところに共感できた。
- ・広域での活動が重要である事。
- ・目配り、気配り、その先にある心配りが大切とのことに共感した。
- ・熱い思いでできることから動き出したことは大変勇気付けられました。
- ・研修を受けて自身の変化、同じ塾生とのつながりを通じて、活動が広がっていったのは素晴らしいと思う。人と人のつながりの大切さが良く分かった。
- ・行動宣言されてからの活動が素晴らしいと思いました。
- ・今ある活動から世代をつなぐ手法が素晴らしいと思いました。
- ・優しさ、心配り、人と人との間に入る事、人財塾で学び即行動されたその行動力に感銘を受けました。
- ・人財塾の先達として、貴重な体験談が聞けて、また人財塾を機に本当に活動の場を広げていることが実感できた。
- ・人財塾を通じた「人」とのつながりからの行動力、実践力がすごいと感じました。
- ・人財塾での学びと即実践に移す姿勢は見習いたい。
- ・人財塾が契機になった話は興味深かったです。
- ・「30年の輪転」地元の人が大人になって帰ってこれるような地域づくり。優しさと心配りで意志を持って接する。
- ・山形県の移住者が、置賜をPRすることや学びを共有して、様々な実行を起こしている事に驚いた。
- ・ただでさえ休日は地域の交役、消防、PTAなど抱えているでしょうに、この上地域づくり活動か、などと考えてしまいますが、何も自分一人でやる事ではないと思いついてやってみるのに非常に参考になり頭が下がります。
- ・人とのつながりや人間性を大切にしていることが伝わった。また、消防団、父としての役割もすごいと感じた。
- ・実際にこの研修での学びが活かされている事例で、自分でも「何か」行動に移すことが重要だと考えた。
- ・齊藤講師の行動力がやっぱりすごいなと思いました。2年前の受講後に早速山形で塾の支部を立ち上げ、仲間づくりをし、そこから動きが広がっていくというのは見習うべきところとして参考にしたいと思います。

◎活用度 2

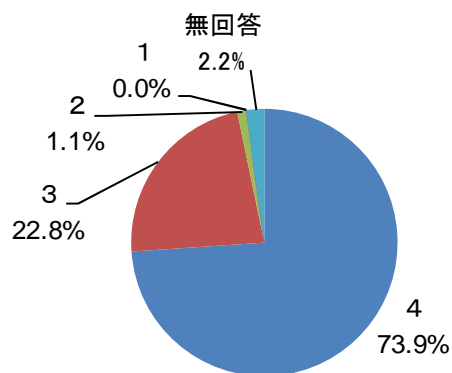
- ・非主流地域振興は山形県朝日町で学習。
- ・まず自分自身で動くことも大事だと感じた。また、仲間に入って通じないことを通じるようにしてあげるのも、行政マンとして必要と感じた。
- ・こんな人が増えれば市役所が変わると信じたい。
- ・講師の話をしている時には、壮大な話し様な気がして、気が小さくなっていたが、同じ立場の職員さんの話であり、身近な人を感じた。1つずつで、助けを借りながら進んでいいんだと思えた。

◎活用度 1

- ・今回、人と人とのつながりの大切さを知りました。同じ熱量ではなくてもガッチリではなく、ゆるくでもいいからつながり続ける事が今後の課題となりました。
- ・やねだんでの活動等、積極的に行っていると感じました。地域と直接交わることが大事であると思いました。
- ・研修後に地元に戻って活動をされていてすごいなと思った。

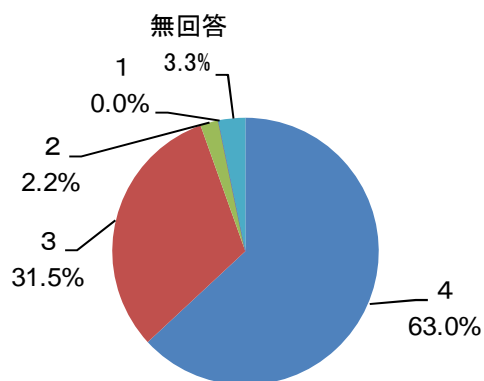
N= 92

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	68	73.9%
	3	21	22.8%
	2	1	1.1%
	1	0	0.0%
	無回答	2	2.2%
合計		92	100.0%



N= 92

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	58	63.0%
	3	29	31.5%
	2	2	2.2%
	1	0	0.0%
	無回答	3	3.3%
合計		92	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ 日頃からの取組みが分かりやすく、活動内容がイメージできました。地域づくりの実践例として非常に優れた内容ですね。ありがとうございます。人間性の素晴らしさが伝わりました。
- ・ 実行に移せるヒントをいただきました。ありがとうございます。夜のトークもとても為になりました。
- ・ キーパーソンの発掘、表彰の活用が印象的でした。
- ・ 写真をたくさん使用していたので、とても分かりやすかった。ポリシーもとても参考になります。
- ・ 地域の為にやれる事の再認識。
- ・ 地域づくりの仕事、団体との付き合い方で大変参考になるポイントがよく伝わった。
- ・ 地域資源をポジティブに捉えることができた。
- ・ 行政の携わり方が大変参考になったし、実行していきたい。
- ・ 自分の悩んでいる「行政の立ち位置、役割」の1つの回答と思う。町村はまた違うものを求められる側面もあるが、バランスを見て整理したい。
- ・ 市の広報の使い方が大変参考になった。SNS を使った戦略的な情報発信のあり方について検討したい。
- ・ 具体的で地域とのかかわりが参考になった。
- ・ 表彰という1つの目標を作ることで、取り組んだ結果を地域の喜びにできることが形に残り、次につながると思った。
- ・ 公務員としての働き方のアドバイスが良かったです。

- ・市民に対して、どんなことでも耳を傾けることが大切だと思いました。
- ・補助金を利用したい団体を悪と思わないでほしいというお言葉にはっとさせられました。市にはできないことをしてくれる人々なのだと、そう思って接しなくてはいけないと思いました。
- ・とても参考になりました。
- ・行政としての関わり方（補助メニューを知る、作文する、広報を使う、議員を使う）というのは、大変参考になった。行政の強みを再確認できた。
- ・自分でゼロから始める。周囲を巻き込むモチベーションをもらえた。まずは地に足を付けて周囲を見渡すことから始めたい。
- ・地域には様々な資源が埋まっており、地域づくりは役所が主体的に進めるのではなく、地域住民が主体となり、行政が支えている様子を体験を交えて語っていただき、今後の団体との接し方についてとても参考になりました。
- ・どんな街でもとにかく探せば必ず光るものがあるので、それを発見し、地域の宝とした大野市の事例は我が自治体でも大きな参考になった。
- ・どの部署に行かれても「私流」があり、自分に足りないところであると感じました。いつか大野市に観光と矢村に行ってみたいところです。
- ・カタクリの事例は同じような経験があるので大変共感できました。
- ・悩みながらも人々や地域づくり真剣に取り組むことで、応援してくれる人、励ましてくれる人が出てくることが分かりました。
- ・自分自身、他の職員の人々の育成が大切だと思った。
- ・何事にも積極的に取り組むことで、周りの方々とコミュニティをつないでいくことが大事だと思いました。
- ・市に来庁されるいわゆる“厄介者”に思える人でも、実は活動力ある「人財」かもという部分が強く心に残りました。
- ・今回の研修の目的と一番必要な情報が理解できた。
- ・景観と歴史、自然、文化を活用することが理解できた。
- ・地域への関わり方の正解の1つだと思う。成功したコツが良く分かった。1つ1つの言葉がとても参考になった。
- ・「とにかく行動する」「異動があってもかかわる」「あるものを磨け」参考になるキーワードをいただきました。「人は人生の宝」地域に出向いて対話を重ね、宝を増やしていけるように頑張りたいと勇気をもらいました。
- ・本当に目からウロコでいた。団体支援というと、私がやらなきゃと思っていたのですが、私はココをやる、団体はココをやってとキッパリ言う、言える関係を作る事が大切と感じました。
- ・市や県の職員のあり方というよりかは、人間性であったり、人としてどう関わるべきか、信頼を得るためには自分がどう行動すべきか、などを学ぶことができ、これからの業務やプライベートの中でも意識し、行動していきたい。
- ・今村さんの活動事例、また業務や地域づくりに取り組む姿勢はとても参考になりました。
- ・公務員として何ができるのか、又、何をすべきかを学びました。

- ・穏やかな口調と誰もが協力したくなるような今村さんの魅力が地域の方を味方にするキーポイントであると感じました。皆が面倒だと覆う市民の声は「やりたい」意思なので、それを聞く大切さを学びました。
- ・心構えが素晴らしい。自治体職員のカガミだと思う。女性は強い。
- ・お話を聞いて良かったです。今回、自分にとって一番勉強になりました。
- ・住民の声に真剣に耳を傾けることの大事さ、様々な声に地域活性化のヒントがあるのだと感じた。
- ・とにかく行動すること、失敗して当たり前。地域づくりの具体的な手法が道標になりました。
- ・地域の資源を掘り出し、住民の方と良い関係を気づく大切さを理解できた。
- ・成功事例を軸に自らの体験談をリアルに語っていただけた。
- ・今回の講義の中で一番良かったです。今村さんの人柄がまちづくりにも生きています。自分の理想の職員像です。
- ・行政として「見守る」体制、今まさに悩んでいるところだったので、とても参考になった。
- ・住民の方との関わり方がとても参考になった。
- ・何もやっていないと言っているが、人の心に入っていたんだなと感じている。
- ・そこにあるものを生かしたまちづくりは、とても参考となった。
- ・丁寧かつ力強く、地域リーダーとはこういうものかと思った。
- ・公務員として団体との関わり方をうまく実践されている方だと思った。参考にしたい。

◎活用度3

- ・地域に足を運びニーズを知る。
- ・地域団体の特徴を捉え、自身の立場を上手く活用されてるなと思いました。また、課題とされている役所の人事異動を強みとしている点は感銘を受けました。
- ・公務員としてどのように地域を支えるべきなのかが分かりやすかった。
- ・自分自身も即決できる身ではないので、周囲の支えも力にして前に進んでいっていいのだ！！という事を学びました。
- ・田の講師同様、熱い思いが伝わった。私流地域づくりが自分でもできたらよいと思う。
- ・補助金を探すということはよくやっていたが表彰というのは目からウロコだった。外部から褒められるというのはすごいステータスになると思うので実践したい。
- ・行政職員としての立場や能力を活かしサポートを行っていける活動をしていこうと感じた。
- ・地域ニーズに応えるだけでなく、自分たちで出来る事はやってもらうように誘導する。地域ぐるみで取り組めるような雰囲気づくりをするイメージ。
- ・とても色々な事をやってきている方で魅力的なオーラを感じた。すごい人が行政にもいるものだと驚きました。
- ・何もしてないという発言の裏で、どれ程の努力、苦労があったのかと思いながら聞き入ってしまいました。
- ・講師の魅力（人間力）を感じる。
- ・事例と共にお話をしていただけたので、とても分かりやすかったです。

- ・ハード整備からのまちづくりという視点でしたが、地域との関わり方に違いはないと改めて思いました。今の自分に何ができるかを意識したいと思います。
- ・「私流地域づくりの支え方」が具体的でとても参考になった。長野市にもカタクリを活用している地域があるが、こんな盛り上がりはない。すごい。
- ・地域がやること、行政がやるべきことをうまく見極めて、行動におこしている所が大変参考になりました。お話がとても上手でした。
- ・取り組みのすごさ、人間力というか、圧倒された気がした。条件不利地域でありながら、前向きな姿勢で次々と行動していることが素晴らしいと感じた。
- ・「何かやらないと」と肩ひじを張っていたところがあったが、そうじゃないと気付かされた。困り者担当に私もなりたいたと思いました。
- ・行動力＝結果論ではなく、まず行動。自己流、地域の人のイイトコ探し。
- ・とにかく考えるよりまず行動。そして関わり続けることの大事さ、10年。
- ・きちんと分析して正しい道筋を通っておられるように感じました。すばらしい環境がうらやましいと思うのですが、実は自分の周りにもそんな環境はあるはずですか(?)ので方法を考えてみようと思います。
- ・住民に寄り添う姿勢が、今の活動につながっていると感じた。どんな人でもまずは気持ちを聞く事を大切にしたい。
- ・何もないと思っていた所から、他にはない地域資源を探し当て、交流人口が増えたという点がとても参考となる事例でした。自分の地元でもこういった資源を見つけられたらいいと思います。

◎活用度 2

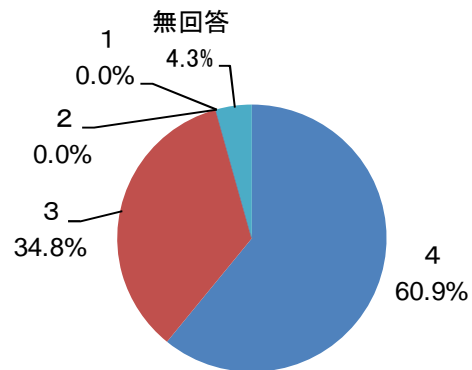
- ・彼女ならではの手法で、地域づくりに取り組んだ向き合った報告は非常におもしろかったです。
- ・行政と市民団体の活動、動きが良いバランスになっている。こんなコーディネーターは難しいがうまくいっている。

◎活用度 無回答

- ・観光資源は地域にあるという当たり前の事を再認識しました。しかし、その資源を見つける事って難しいなと感じました。でも、見つけます。
- ・地域との交わり方が非常に上手であると感じました。交わり方の考え方が参考になりました。
- ・地元の事を楽しそうに話をされている事が印象的でした。

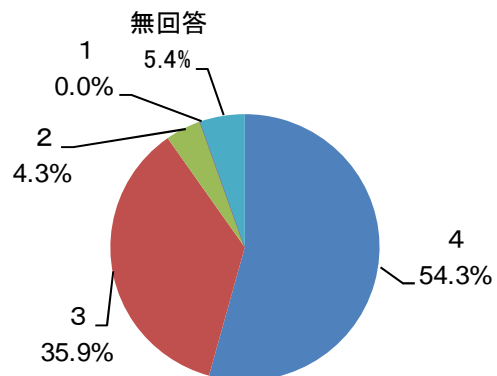
N= 92

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	56	60.9%
	3	32	34.8%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	4	4.3%
合計		92	100.0%



N= 92

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	50	54.3%
	3	33	35.9%
	2	4	4.3%
	1	0	0.0%
	無回答	5	5.4%
合計		92	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・「知識のない自分が誰かの気づきになれることもある」異動をマイナスと捉えず、気づきを発信していきたい。
- ・地域活動の方法を参考にしたいと思いました。
- ・課題に対する目線の当て方、人の巻き込み方、自分の関わり方。
- ・自己分析、現状把握について素直に伝えており、共感できる部分があり、非常に参考になった。
- ・思ったことは声に出してやってみる大切さに気付いた。
- ・柔軟な発想、行動力が参考になった。
- ・郵便の話は学生時代に学んでいたが、手段を活用できるかは重要。素晴らしい取り組みだと感心した。
- ・特産品の魅力をストーリーをつけて発信する重要性を学んだ。あらゆる分野で実践できるので、さっそく取り入れたい。
- ・うちわに切手を貼って送るという変わった発想にびっくりした。
- ・伝統工芸品というものを使い、まちづくり、活性化をはかれることが大切だと思いました。
- ・同じような組織で仕事をされていた先輩のお話は、現実的なイメージが湧きました。やはり、人と人とのつながりが大切だと思いました。
- ・地域に足を踏み入れる重要性を再認識した。そしてやりたいことを内に秘めず、積極的に外に出していきたい。
- ・雑誌から生まれたアイデアを形にしたのは素晴らしいと思いました。

- ・自分でゼロから始める。周囲を巻き込むモチベーションをもらった。まずは地に足を付けて周囲を見渡すことから始めたい。
- ・年代が同じこともあり、色々と参考になりました。
- ・若手職員でも、身近なところから自分ができることをやることで、様々な良い影響が出るのだということが分かりました。
- ・自分ができる事をコツコツ続けて行うことの大切さを学んだ。
- ・年代的にも近い方だったのですが、地域づくりにはキャリアなど関係ないんだなあと感じた発表でした。
- ・上司との雑談の中で生まれたことだと聞き、驚きました。何事も口に出すことが大事で、職場内でも話ができる雰囲気をつくりたいです。
- ・効果的なプレスリリース、タイミングと縁、季節感とインパクトが大切という点が特に参考になりました。
- ・日本伝統的工芸品の良さを再発見
- ・暑中見舞いの葉書として利用
- ・できることからコツコツやっていっていきることの大切さ、時に言葉に出してみることも必要だと思った。
- ・地域づくりは職員の成長できる場である。命をとられるわけではない。できることから、ゆるくやるのがきっかけになることに気付きました。自分も積極的ではありませんが行動してみようと思います。
- ・色々な物事への柔軟性を持って考える事で、地域がガラッと変わるような発想が生まれてくるということに改心を持ち、物事を色んな視点で見ながら行動したいと思いました。
- ・うちわを暑中見舞い業者として郵送するアイデアがとても斬新でした。その想いを実現する力がとても素晴らしいと感じました。
- ・発表の中で内気さも感じさせてながらも、同時にひたむきさが感じられた。精神的な部分で自分と似ている部分があり、共感できた。
- ・知らないことからこそ新しい視点を持つことができることや、消極的な時は大げさに考えているという部分に共感しました。うちわで暑中見舞い、すごく良いアイデアです。
- ・地味な話しぶりの中に大事なこととユーモアがつもっていた。
- ・売れなくなっていた「うちわ」をアイデア次第でヒット商品に変えられる！日常でもアンテナをはっておくべき。
- ・うちわを郵便で送る発想に驚きました。1つの実行が次につながり発展する。参考にしたいです。
- ・朴訥と語る姿勢に好感を持つことができ、具体的な事例の提示は良くイメージが湧いた。
- ・焦らずにやるというのが自分もそうしようと思った。
- ・一からやっていなく、便乗型の実践事例で勉強になった。
- ・房州うちわの事例は資源発掘の例としてとても参考になりました。やはり自ら地域に入っていくことが重要であることを実感しました。
- ・房州うちわについては知っていたが、その再生までの道のりについて学ぶことができた。
- ・5年目の職員がここまで活躍しているのであれば、自分も頑張らなければと思った。

- ・自分がやりたいもの、職員も主体的に動くこと、地域に入って声を聞くこと、同世代だからこそそのエネルギーをもらえた。

◎活用度 3

- ・伝統工芸の異なる活用。
- ・講師自身の現状把握がしっかりされており、今後の取組みの熟成が楽しみです。様々な支援、助言を受けた後の展開、結果を知りたいと思いました。
- ・“便乗する”という発想は、(実際そうですが)あまり行きつかなかったので勉強になりました。
- ・自分の思いをまず口に出してみても、自分が一步踏み出す事を恐れない。
- ・若い方だがやっている事はすごいので、何とか近づきたいと思う。
- ・自分は積極的ではないので、資料にあった焦らない、さぼらないなど気持ちの面で前向きになれた。
- ・行政のプレスや記者会見は大きな強みであると再確認が出来た。便乗も1つの手法であると感じた。
- ・あたり前の事や普通の事に価値を持たず発想の転換が重要だと思った。
- ・素人目線が新たな気づきになる。それが地域のプラスになることがあるのだと感じた。
- ・何も知らない所からでも動いて、世の中も動き出したということに、自分でもできるのかもと思えた。有難かった。
- ・少ない経験でありながら、小さな気づきが大切なんだということを再認識した。
- ・自分ももっと若い時にこのような研修を受講していれば・・・という気持ちになった。
- ・若い方でも地域づくり人財塾を通して、まず地域で行動を起こす事で、地域を変えていく事ができる事が分かり、とても良い刺激になりました。
- ・学びを得る場として趣味の場を挙げていたが、利害から離れた所では思いもよらない意見が出ることもあるので、個人的にも活用していきたい。
- ・伝統工芸品が地元にもあるので、良いヒントが得られました。
- ・プレスリリースは「知って欲しい事」ではなく、「知りたい、面白がられる事」を出すのが重要。
- ・若いのに頑張る姿に大変良い印象を持ちましたし、今後の活動に期待したいです。
- ・一生懸命さが伝わってきました。
- ・秋山さんの怖がりな部分が私と良く似ていると思った。そんな彼女も地域づくりに一步踏み出し、そして行動している姿を見て勇気をもらえた。
- ・若い方が頑張っている姿が素敵だと思いました。
- ・ひらめきと行動に移す。
- ・アイデア、発想力の重要性、空気感を変える。
- ・あの若さにして早速人財塾の成果を出されているとは驚きです。冷静に色々なものが見られる事で、将来もっと大きな仕事ができると感じました。冷静さだけなら自分もあるつもりだったのですが、環境とかも大事かと。
- ・うちのアイディア力とその実践力がすごいと思った。
- ・自分の立場(素人として)から「できること」からやることの大切さを感じた。
- ・思いつきを全部言ってみる、そして上司が興味を持つことをやってみるのは良いと思った。

◎活用度 2

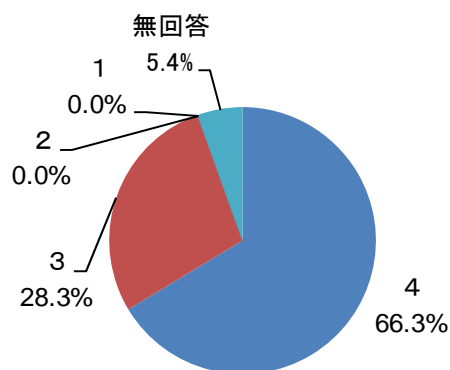
- ・伝統工芸について、知らないを強みに変える考え方にすごいと思いました。
- ・“一番厄介な難しい問題を最初に取り組む”の話、いいですね。
- ・地域づくりに「仕事感」を初めから出さない事を学んだ。「声に出す」事の重要性。

◎活用度 無回答

- ・うちのアイデア面白いです。すぐにでも真似したいアイデアでした。感心を通り越して感動するアイデアだったので、三沢でも違う使い方で観光につながる物がないか探してみます。
- ・うちの売るためのアイデアや進め方がとても参考になりました。
- ・若い考え方でフットワークも良く、すごいなと思った。
- ・セールスマンとしての公務員像。

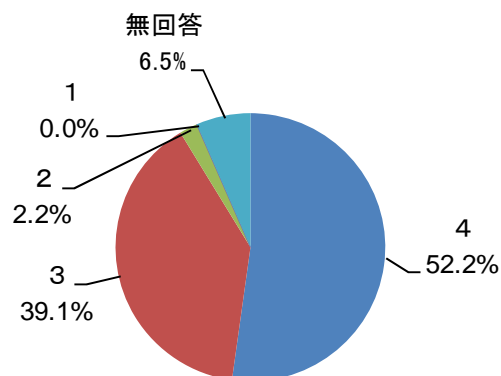
N= 92

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	61	66.3%
	3	26	28.3%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	5	5.4%
合計		92	100.0%



N= 92

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	48	52.2%
	3	36	39.1%
	2	2	2.2%
	1	0	0.0%
	無回答	6	6.5%
合計		92	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・プレゼンが素晴らしく、非常に参考になりました。ライフスタイルとして取組まれていることが、まちづくりの基本だと再認識しました。
- ・“伝える”ことがとても上手いと思いました。また、やはり「やってみる（本気で）」が重要であると感じました。
- ・ニュースは無料。もっと工夫して活用したい。
- ・地域課題に対する動き方。人を動かすための自分の意志力。
- ・質疑にあったベストバランスの話が大変参考になった。できないことは行わず、やれる範囲で内容を決めていきたい。
- ・ワークライフバランスを考えるきっかけになった。
- ・民間経験者ならではの発想なのか、そもそもの人間力なのか、かたよりがちな「公務員」の発想を変えるきっかけになります。
- ・業務外の活動は業務外の活動として、しっかり整理して取り組んでいきたいと思った。
- ・仕事以外で地域で活動していることがすごい。一度だけではなく継続していることが良いと思う。
- ・モノモノコウカンという独特な考えはとても参考になりました。
- ・自分の時間を使っての企画など素晴らしいと思います。
- ・自分でゼロから始める。周囲を巻き込むモチベーションをもらえた。まずは地に足を付けて周囲を見渡すことから始めたい。

- ・ 広告だと有料になるが、記事だと費用がかからないので、いかにニュース性のある PR ができるかが重要であると思った。
- ・ イベントの企画・PR が非常にうまく、とても参考になりました。
- ・ どんなことでも取りあえず参加することにより、つながりが持てる事が分かった。
- ・ 仕事とは別に地域とのコミュニティをつなげていることがすごいなと思いました。自分ができることを何か探すアドバイスを頂けました。
- ・ 民間から公務員になられたということからか、特にポジティブな方だと思いました。「自分と地域と仕事」を自分も考えていきたい。
- ・ 民間の考え方と行政とがうまく融合した事例で参考になりました。また明るい性格と開き直りは立派でした。
- ・ 公務ではなく個人的にプロジェクトを始めたことがすごいと思った。仕事としてしか視点を持てなかったもので、活動している人がいることを知り驚いています。自分の町を好きになることから始めてみようと思います。
- ・ モノモノコウカンプロジェクトに大変興味がわきました。親たちの交流もできて参考にしてみたいと思いました。
- ・ 人脈を広げる事で、できる事が増える、協力してくれる人が集まる事など、信頼関係を築くための大切さや必要性を感じた。やはり最後は自分がどれだけ地域をより良くしたいかという熱意を持っているかだと思うので、やる気と行動力を持って地域と関わっていきたい。
- ・ 自分が業務と関係なくても地域でやりたい事をする、周囲の人を巻き込みながらやっていく人間力を見せていただきました。
- ・ 仕事の中で見つけた問題点をプライベートで実施している点がすごいと感じました。苦と思わず仲間を見つけ、ベストバランスで挑む姿勢に感銘を受けました。
- ・ 人柄が明るいので、きっといいまちなんだろうという感じを持たせる人材だった。
- ・ 世の中を斜めに見る事で、新しいアイデアが産まれる！！担当課なんて関係ない！
- ・ 手伝いのイベントから自分から動き実行する。何でも一歩出る勇気をもらいました。ありがとうございました。
- ・ 同じ九州内でこのような取り組みをしている人がいるのかと思うと、モチベーションが上がった。
- ・ イベントの企画力、発想力がすごい！！
- ・ 「本気を出したら世界が変わる」という言葉が特に印象的だった。
- ・ 自分が中心になるという事を学んだ。
- ・ プライベートで地域活動を行っている姿は素晴らしい。
- ・ モノモノコウカンプロジェクトを自分の市にも取り入れたいと思った。
- ・ 少し見方を変えて身近なところからやっていくという考え方はすぐにでも実行していきたい。
- ・ 地域に飛び出す活動は、非常に力があるのだと思った。
- ・ やりたいが仕事とかぶっていなくても、趣味として活動されているバイタリティが素晴らしいと思った。

◎活用度 3

- ・ 時間外にその様な活動を行えるのはすごいと感心させられた。
- ・ 部署は関係ないという気持ちが強くなり、行動を起こしていきたいと思った。
- ・ 「地域に根ざした活動をしつつ、他の地域を知り、刺激を受け、又それを地域に還元していく。」という言葉が心に残りました。
- ・ 広報で取り上げられやすい方法を学べたので実践したい。
- ・ 仕事かどうかは関係ない。やれることはたくさんあるということを学んだ。
- ・ いろいろなイベントを仕掛けており、行動力に驚いた。
- ・ 地域でできることを見極めることが必要だなと感じました。当たり前にある物に価値を見出すことをしていきたいです。
- ・ 地域での活動と仕事と家庭とのバランスというのは本当に難しい課題であるように思う。田中さんは本当にカッコ良いと思う。
- ・ 出来ることをやる、出来ないことは無理しない。仲間を見つけ協働していく事、バランスを取ってやっていく事に大変参考になりました。
- ・ 地域からの事を参考にイベントを実施することで、本当のニーズに応えることができ、継続するイベントに定着するのだと感じた。
- ・ 仕事でないところでも活動して頑張っているのに励まされました。
- ・ 業務外でやっていたことが地域おこしにつながっている点は見習うべきことであった。
- ・ 民間経験が活かされているように感じた。
- ・ 魅力的な活動のお話、聞いていてとても楽しかったです。
- ・ 地域づくり人財塾を通して、受講された方が色々な地域で活躍する様子、効果的なマスコミへのプレスリリース、方法等を知ることができ、参考になりました。
- ・ 同じようにプライベートで頑張っていらっしゃるので励みになりました。
- ・ 仕事ではないところで地域活動に貢献されているのが、とてもできないと思ってしまったのですが、自分でできることからやろうと思います。
- ・ Think different.
- ・ 移住定住をして地域づくりを実践している人がいたことに驚いた。
- ・ 自分自身に関わりのあることで出来そうなこと、やれそうな事を「やってみる」ことが大切と感じた。
- ・ 担当であるとかないとか関係なく、やる気があれば何でもできる化の生を教えられた。
- ・ 知らない土地に飛びこんでいくバイタリティと地域の人に受け入れられる田中さんの人柄が素晴らしいと感じました。
- ・ 自ら考え自ら取組む模範となるような事例だった。「なくて困っている」「じゃあやろうか」このネットワークの軽さを見習いたいと思いました。
- ・ 仕事外に取り組まれて、すごいと思いました。
- ・ アイデア、思いつくことの重要性。

- どんどころいても、どんなことでも始める事、続ける事が大切な事だというのがとても伝わってきました。自分の好きな事じゃないと続いていかない、やらされてやるものではないと楽しまれている姿勢は美しいものがあります。
- モノモノ交換や、他のイベントなど地域の需要と活動がマッチしていた。
- モノモノコウカンプロジェクトについては、講師の私生活の中からヒントを得たということで、いつでも発想のヒントがあることが分かった。

◎活用度 2

- 地域の自慢を発信することが大事。まず自慢できるものを発見し、それをうまく外に出せるようにしたい。
- 元気あふれる人柄がいい。

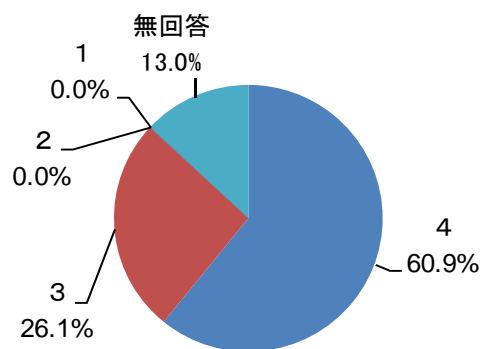
◎活用度 無回答

- 人財塾での人脈は今後の私の財産になるんだと感じました。自分の地域では見つけられないアイデア等も地域が変われば様々なアイデアがあるんだと分かりました。
- イベントで地域活性化をしており、イベント自体にも工夫していると感じました。
- 民間経験者で、しかもIターン者である講師が、いかに地域づくりに取り組んでいるかよく知る事ができた。「モノモノコウカン」プロジェクトは大変参考となる取組であった。
- 情報発信に工夫があり、これは非常に大切な事だと痛感した。
- マスコミや色々な人を巻き込んで活動をされてすごいなと思った。

【成果と振り返り】

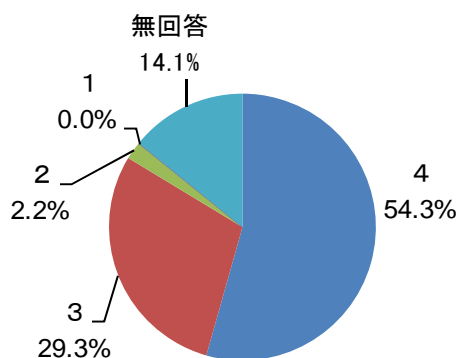
N= 92

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	56	60.9%
	3	24	26.1%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	12	13.0%
合計		92	100.0%



N= 92

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	50	54.3%
	3	27	29.3%
	2	2	2.2%
	1	0	0.0%
	無回答	13	14.1%
合計		92	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・受講者の皆様の意識の高まりを感じとることができました。しばらくは意識向上しますが、停滞する時の仕掛けが必要かと。
- ・本研修を経て得たヒントやモチベーションを吐き出す場としてとても良いと思います。
- ・様々な切り口で意見が聞けて参考になった。
- ・皆さんのやる気が伝わった。
- ・他の皆さんと違って、拙い発表ですが発表させていただいて有難うございました。
- ・参加者の熱い気持ちが伝わってきた。
- ・皆の行動宣言もすばらしかった。また前神先生のお話も短時間だったがなるほどと思わされた。全ての先生の話を知りたいと思った。
- ・発表した方々の思いを知り、やはり人であり、自分が楽しく魅力的な人間にならなければいけないと思う。
- ・たくさんの人の意見を聞くことができ大変参考になった。
- ・3日間振り返りがしっかりと出来たと思います。
- ・自分自身がどういう思いを今回で持ったかを外に出す良い機会と感じた。また色々な人の考えも聞け良かった。
- ・短い時間だったが、大変濃かった。研修を振り返る良い機会であった。
- ・「自分も続こう」とモチベーションアップにつながった。
- ・皆さんの決意が分かって大変楽しかった。多くの仲間がいる事が嬉しかったです。

- ・受講生と共に思いを共有したことで、自分のモチベーションを向上させることができました。
- ・自分の進むべき方向を整理できて良かった。
- ・いろいろな自治体の職員の行動宣言を聞き、決意を聞くことができ、とても良い刺激となりました。
「知行合一」を体現していきたいと思います。
- ・飯盛講師の「知行合一」という言葉が印象に残った。やはり、今回の研修はゴールではなく、ここからがスタートなのだと改めて決意した。
- ・八郎潟の加藤さんの宣言に感動しました。ありがとうございます。
- ・自分が研修で学んだことの確認。他の受講生の方々が感じたことを知ることができて良かったです。
- ・みんなで理解した事を話し合う場が持てて良かった。
- ・研修のボリュームが多く、理解には時間がかかるが、行動の中に少しずつ移していきたいと感じた。
- ・前に出て発表された方は、すでに一步踏み出していると思った。自分も一步踏み出すために想いを高めていきたい。
- ・研修を振り返ることができました。できることをやる、とにかくやってみようと思います。3日間有難うございました。
- ・まずは行動あるのみ。
- ・紙ベースで自分のこれからやっていきたい事を明確にすることで、方向性が決まり、これからの業務や行動に活かしていけるものとなった。初心を忘れず、この学びを大切に地域づくりに参加していきたい。
- ・自身の行動宣言を記入し、何を行動していくのか、アウトプットすることで意識を高める事ができた。
- ・すぐ実行するという意思で取り組みたい。他のメンバーの熱意に刺激を受けました。
- ・皆さんの熱い思いが伝わった。
- ・「行動宣言」発表された皆さんの熱意を感じ、自分を照らし合わせて行動できる部分をやろうと思った。
- ・自分の今まで学んだことや気付きを書いて表す事で確認できた。本当にいい研修でした。ありがとうございました。
- ・行動宣言として言葉にしてみることで、今回の研修について自分の頭の中で整理がついた。
- ・やるかやらないか、そしてそれを続けられるかが大事。
- ・復習としてよい。
- ・今回の研修を振り返ってみて、自分がいかに行動していなかったかを実感できた。知識を入れることができたので「知行合一」となれるように頑張りたいと思う。
- ・自分の今後について覚悟が持てた。
- ・発表はできなかったが、思ったことを実践していきたいと思います。
- ・巻き込まれるんじゃなくて、引き込まれるを重視！地道に活動。

◎活用度 3

- ・現在の担当業務がどうこうとかではなく、一人の地方公務員として、積極的に地域住民と交流することが地域を知るには一番有効であると感じた。
- ・3日間の研修で自分が今与えられた機会に感謝し、来る前に漠然と思っていた事を行動宣言できるようになりました。
- ・文字に改めてすることで目標が明確になった。
- ・講師のエールをいただき嬉しかった。
- ・同じ研修を受けた方、また講師の方の発言を振り返りながら聞いていた。1つでも実現につなげられたらと思った。
- ・少しずつでもやることをやる。そして、続けていくことを心掛けたと思いました。
- ・いきなりの行動宣言に驚きました。でも、宣言することで自分を変えるきっかけづくりになると思いました。
- ・何人もの「熱い思い」を持った仲間の声を聞くことができて良かった。
- ・同じ職員という立場から気付かされる場所がありました。
- ・「人財塾」をきっかけに地元でそれぞれ“とにかくやってみた”方々の説明は分かりやすく、実践のヒントが多々あった。
- ・大変ありがたい言葉をいただき、ありがとうございました。
- ・全体のまとめとなった。

◎活用度 2

- ・皆様積極的でしっかりしておられてすごい事です。学ぶことによって逆に引き詰る事がないおう更に学んでいきます。

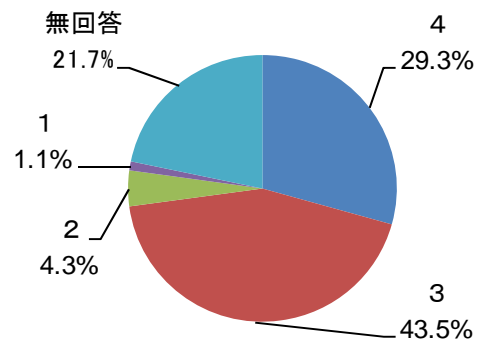
◎活用度 無回答

- ・まずは地元の「PR映像を作る」というテーマで人とのつながりを作ってみます。
- ・コーディネート力をつけてNPOの活動を支援していきたい。
- ・すぐに行動しようと思った。

【グループトーク】

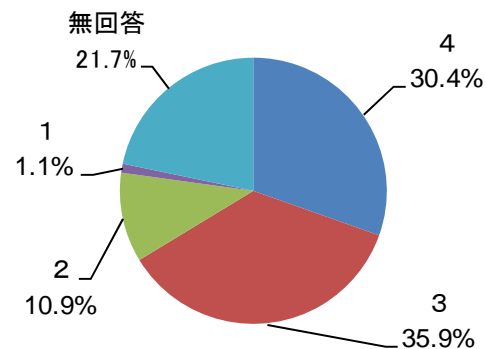
N= 92

<理解度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	27	29.3%
	3	40	43.5%
	2	4	4.3%
	1	1	1.1%
	無回答	20	21.7%
合計		92	100.0%



N= 92

<活用度>		回答数	%
↑ 高低 ↓	4	28	30.4%
	3	33	35.9%
	2	10	10.9%
	1	1	1.1%
	無回答	20	21.7%
合計		92	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・まちづくりの会議等でも、グループトークタイムを取り入れていけるなあと思いました。
- ・様々な切り口で意見が聞けて参考になった。
- ・いろいろな価値観を共有できて良かった。
- ・個人の意見は限界があり、他の方の意見を聞くことによって講義の整理ができた。
- ・他の市町村の職員と地域づくりについて話し合えるととても良い機会でした。
- ・このグループトークがあって全体がしまったと思う。意見交換は楽しかった。
- ・他の受講生の方々の意見や感想から、新たな気づきがあり、とても有意義な時間を過ごせました。
- ・いろんな自治体の方と話をする機会を得ることができたこと、一人で考えるより多くの気づきを与えてくれるきっかけとなったことが良かった。
- ・同じような考え、立場の方たちと意見を共有することができ心強かったです。
- ・他の人の考えや、普段関わることのない課の方々と話す機会があり、とても自分の気持ちや考えを整理する場となりました。
- ・グループでディスカッションし発表することで、人の考え方、別の視点での意見を聞く事ができ勉強になりました。
- ・他のメンバーと共有や新しい視点で考えを出し合えて良かった。
- ・大変勉強になった。
- ・時間が足りないので、なかなか意見交換ができなかった。
- ・いろいろな方の意見は、大変役に立つと再確認できた。

◎活用度3

- ・時間が短く、全体構成上、軽くなってしまった感がありました。全体交流（飲み会）の序盤で時間をとって面白いかもしれません。30～1時間フリーにしてはいかが。
- ・共有という観点から不可欠だと思いました。
- ・全国市町村職員の考え方がたくさん聞け、参考になった。
- ・他の方の視点や話のまとめ方、発表内容が勉強になった。
- ・グループトークを通して、1日1日の振り返りを行うことができた。
- ・自分の視点だけでは気づかなかったことを聞いて参考になった。
- ・地域づくりを行いたいと思う人たちの気づくポイントは同じなんだなと思いました。自分の言葉で発することが出来て良い経験になりました。
- ・自分の意見を含めて、色々な感じ方があると思った。捉え方等、他者の意見から改めて学び納得することもあり、すごく有意義であった。
- ・他者の見方での気づきが伺えておもしろかった。全班発表させなくても良いのではないかと思う。
- ・地域づくりには「人づくり」が重要であり、そのために行政が何をすべきなのか、地域ニーズを把握し、地域に合致した支援を選択すべき。
- ・振り返りができるため、良かった。
- ・様々な自治体の職員の考え方や思いを聞くことができ、とても参考になりました。ただ時間が短く、もう少し時間が欲しかったです。
- ・他自治体の職員と交流し、様々な事例を学ぶことができたが、時間の関係でかなりジタバタしてしまった。
- ・短い時間しか話すことは出来なかったが、同じグループの皆さんが地域活性に対し真摯に向かい合っていることが良く分かった。特に小さな自治体の方は住民との距離も近く、より危機感が大きいと感じた。
- ・2回目のグループトークで司会をしたのですが、まとめ部分がうまくいかなかったことが、少し悔いが残っている。
- ・同じ講義を受講しても、人それぞれ様々な受け取り方をすることが分かり、少し驚いたが気付く事ができた。
- ・知り合いが増える良い機会でした。
- ・皆さん若いのに意識高く大変素晴らしいと思います。自分としても年齢相応のスキルを持っていないといけないのですが、自分自身に求めるレベルにすら届かず恥ずかしい限りです。
- ・他市町村の抱える悩みや考えの意見を聞く機会となった。
- ・グループの人との気持ち等を共有できて良かった。
- ・1日目、2日目と違うグループで話し合えたのが良かった。その日1日の内容について、みんなで復習しつつ意見を整理することができた。

◎活用度 2

- ・少々時間が短かった事もあり、深い議論ができなかった点が少々残念であった。
- ・時間が短かったため、あまり深い議論ができず残念でした。
- ・あまりにも短い時間で顔見せ程度にしかお話できなかったのが残念です。
- ・同じ講義を聞いていても、感じる部分は異なり、それらを話し合うことで講義の内容を深めることができた。
- ・聞けなかった話を共有できたことが良かったと思いました。
- ・時間が短くて、話を深めることは難しかったが、どのような感想を持ったのか、得たものについて共有することができた。

◎活用度 1

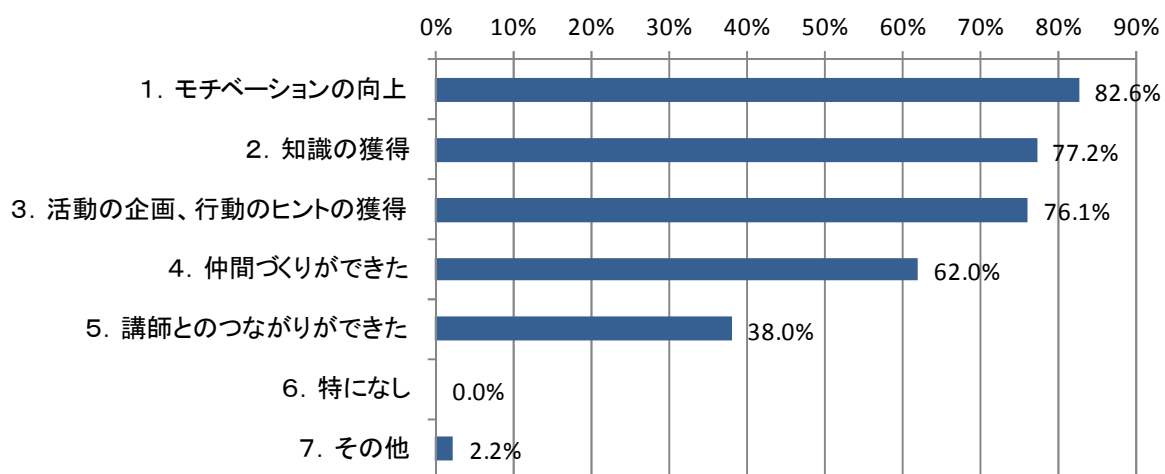
- ・時間が短すぎて、深みのある議論が出来ない。どうしてもやるならば、両日とも同じグループで行うべき。

(2) 研修全体について

①人財塾の良かった点についてお伺いします。下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。

N= 92

	回答数	%
1. モチベーションの向上	76	82.6%
2. 知識の獲得	71	77.2%
3. 活動の企画、行動のヒントの獲得	70	76.1%
4. 仲間づくりができた	57	62.0%
5. 講師とのつながりができた	35	38.0%
6. 特になし	0	0.0%
7. その他	2	2.2%



<感想>

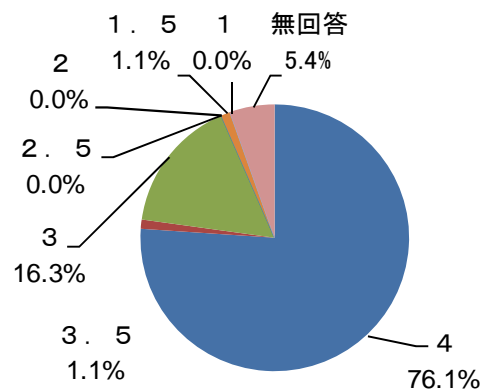
- ・全国の市町村の雰囲気が伝わってきました。
- ・飯盛講師と宮城講師のプラットフォームやエコシステムの考え方を知れたのは大きかった。具体的な人的ネットワークの仕組みづくりの考え方、実践法は大変参考になりました。
- ・地域ごとに違いはあるが、根本的な問題点は殿地方も同じであると感じた。様々な市町村の政策を参考とし、自ら市へ上手く反映させていけるようにしていきたい。
- ・講師との直接対話は、講義とはまた違い、内容の濃いものであった。
- ・ただ講義を受けるだけでなく、講師の方と直接対話できる機会を設けていただいたのは、講義にて生じた不明な点や実際の業務にて日頃から抱えている課題等を直接尋ねることができ、とても有意義であった。
- ・市役所には様々な職員がいるもので、その人のモチベーションなどに左右されながら仕事をしている自分を見つめ直す良い機会となりました。様々な方が抱える地域の課題にまず向き合う姿勢というものを大事にしていきたいと感じました。
- ・このような研修を受講することにより、モチベーションを持続させ、ネットワークを作り、全国の地域人と共に情報共有したい。
- ・全国でも指折りの成功事例、先進事例、ご本人から直接伺うことができる貴重な機会であった。

- ・講師の先生方の意識の高さに目が覚めました。これからの自身の仕事にプラスの効果が出ると思います。
- ・どの団体活動も講師の方も、ふとした気付き・疑問から“出来ること”をやっていって、それをつなげていくという事が大切であると感じました。
- ・発表するためにまとめる能力や、他の人の考えを聞き学びを深めることなどができた。
- ・様々なすばらしい講師の方々のお話を通じて、共通するワードを発見できた。地域づくりに正解な方法はないけど、指針には成り得ると感じた。
- ・講師の皆さまが距離を受講生ととても近くしていただいた点が素晴らしいと感じました。地域づくりとは？という問の答えが自分の内にも生まれたのも良かったです。
- ・同じ悩みを持った全国の仲間と悩みを共有できたことは貴重でした。
- ・講師の方も受講生も模索しながら、まちをより良くしていくために活動されていてとても刺激的だった。

②人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに又は、継続して行っていきたいと思うようになりましたか？

N= 92

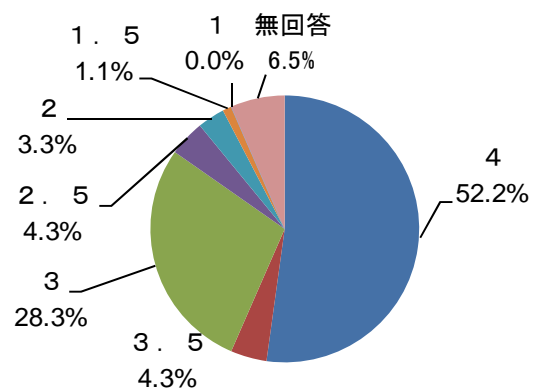
		回答数	%
↑ 思った	4	70	76.1%
	3.5	1	1.1%
	3	15	16.3%
	2.5	0	0.0%
	2	0	0.0%
↓ 思わない	1.5	1	1.1%
	1	0	0.0%
	無回答	5	5.4%
	合計	92	100.0%



③研修全体の進め方・運営についてどのようにお感じになりましたか？

N= 92

		回答数	%
↑ 思った	4	48	52.2%
	3.5	4	4.3%
	3	26	28.3%
	2.5	4	4.3%
	2	3	3.3%
↓ 思わない	1.5	1	1.1%
	1	0	0.0%
	無回答	6	6.5%
	合計	92	100.0%



④その他研修に関して改善点・お気づきの点をお聞かせください。

<講義内容>

- ・講師との直接対話ですが、講師によってはほとんど対話ではなく講話になっていたのでは、対話をする時間がほとんどありませんでした。
- ・講義をいただいた講師と対話する形がとれると深い対話につながると思います。
- ・講師との対話ではあまりやり取りができませんでした。ご自身のお仕事を熱くお話される姿を見ただけで、とても得るものがあったと思いました。
- ・講義の中で、失敗した経験や、特に困難であったというエピソードを詳しく知りたいと考えた。
- ・講義だけでなく、ケーススタディやグループ討議の時間がもっとあると、より集中を継続させられる研修になると思う。
- ・ワーク的な内容が入っていても良かったと思う。グループワークの時間等。
- ・グループワークの課題が曖昧で、かつ時間が短かったと思います。ワークシートがもう少し具体的であれば、効率的に話を進めることができるのではないのでしょうか。
- ・今回の研修は講義のほか、講師の方と直接対話することができるなど、盛り沢山の内容であったが、グループ対話の時間が少なかったように思える。せっかく討議しても発表グループが多かったため、その発表の内容に物足りなさを感じた。
- ・時間の関係から難しいだろうが、研修中に1回はグループワーク的な講義があれば、より能動的な内容になったと考える。
- ・失敗した事例の紹介や分析、その時自分ならどうするか、どうしたら良いと思うか、等のワークがあれば面白いでしょうか。
- ・短期間で行う研修内容としては多すぎる感じがしました。ある程度しぼっても良いのかなあと。
- ・既受講生との対話があると良いなと思いました。
- ・グループでの講師との直接対話に人財塾既受講者も入れてもらえて、直接細かい話も聞いてみたかった。

<構成>

- ・1日目のアイスブレイクの時間が意味がなかった。その時間より、講義後のグループでの対話時間をもっと取った方が良い。自己紹介で15~20分はいいから。2日目のグループトークの時間も同様で40分ほどあっても良いのでは？もう少し受講生同士の対話の時間が欲しい。3日間だと意外と色々な人と話すことができない。
- ・2泊3日では期間が短いと感じました。
- ・講義は時間が短い。
- ・短時間では、このような日程になると思います。正直、これ以上の期間で職場を離れることは難しい。更に効率の良い手法を検討いただき、引き続き企画いただければ嬉しいです。北海道から東京は遠いですね。
- ・講師との直接対話(4R:課外) これまでの3Rとは少しテイストを変えても良いかと思いました。(飲食有りWS等)

- ・2日目の直接対話の第4Rは、夕食後だと皆さんモチベーションが下がっていると感じた。
- ・直接会話は4回ではなくて2回にしてじっくり相談したい。
- ・講師との対話の時間で一人一人の時間をもう少し取れると嬉しいです。
- ・直接対話の時間が短かったです。もっと長くして欲しいです。夜中2時もどうかと思いますが。
- ・グループトークをする時間が短かったので、講義後自分が感じたこと、他の人が感じたことを話す時間と、グループ内での情報交換に時間がほしかったです。
- ・グループトークの時間があればその時間を「講師との直接対話」に回した方が良かったのではないかと（グループトークは少人数形式の直接対話でもできるため）。
- ・グループワークの時間はもう少しとってほしい。
- ・聞きっ放しなので、ワークショップに時間をとって欲しい。
- ・研修期間が短いため、少し詰め込み過ぎのような印象。特に2日目の5時以降の講義は無味乾燥のような感じがする。
- ・内容がとても濃密なので、これを5日間は厳しいかなと（年齢もありますが）。
- ・もう少し少人数で実施した方が、理解度が深まったのではないかと感じた。
- ・参加者は100名は多すぎて、半分くらいで良いように思いました。
- ・直接対話のグループ人数が少し多かった気がします。
- ・参加人数が多すぎる。50人程度まででは。

<交流・振り返り・情報交換の時間>

- ・課外は不要。交流の時間を増やしてほしい。ラウンジに生ビールを販売してほしい。
- ・時間外（夜間）の交流は、さらに勉強の場であったし、楽しかった。
- ・17時以降の意見交換は、懇親の場であった方が良い。
- ・グループを研修を通して1つにして、グループトークの時間を増やし、発表に向けてだけでなく、雑談や親密な関係になれるような時間がもう少し欲しいと思いました。
- ・研修生の交流が弱い。講義を受けて、その後1時間半程度でその日の振り返り。今後の活用などをファシリテーション～発表という流れでするのも良さそうだと思います。

<その他>

- ・参加者の名簿に皆さんの興味や一言のコメントがあれば、声をかけやすい様に感じました。
- ・自分以外の参加者がどのような業務を行っているかを、直接聞く以外の方法で知ることができれば良いと思った。
- ・全体の名刺名簿を研修の早いタイミングでもらうことが出来れば良かった。
- ・名刺を副幹事が集める際に、皆さんも誰に提出すべきか分からない中、副幹事も誰か分からないまま、話が進んでしまったので、まとめきれませんでした。
- ・講師の方との対話の前に、講師の方についてもう少し詳細な情報が欲しかったです（特に講義のなかった方）。

- ・直接対話の際、ある方が意見を言った後で「それは難しい」「それはできない」と内容を否定された方がいて、それ以上の議論に深まらない場面が複数回あった。否定された方の議論する時のマナー、モラルがなっていないと言わざるを得ない一方で、直接対話が始まる前に全体に向けて「自由は意見交換の場であり、否定はしない」という基本ルールをアナウンスした方が良いと感じた。
- ・講師との直接会話の調査の時に「希望した講師以外の人とは話せない」というアナウンスをしてほしい。他の講師と話ができず無念だった。
- ・資料が多く大変。予め冊子にまとめられているといい。
- ・この研修は、まちづくり担当という部署以外の全ての部署の職員が受講すると良い研修だと思いました。市で言うと、子育て、介護、保険など現場の課題を多く抱える部署の職員も良いのではないかと思います。それから、既受講者からの報告が大変参考になりました。
- ・地区別にフォローアップ研修があれば是非参加したいと思いました。
- ・地方で研修を開催して欲しい。まちおこしは地方がメインのはず。
- ・初日の最終コマ、田舎のヒロインズの方々との名刺交換の時間が無く非常に残念でした。
- ・非常に内容の濃い研修で、よい刺激をたくさん頂きました。講師の皆様、事務局の皆様に感謝致します。ありがとうございました。
- ・円滑な運営ありがとうございました。
- ・素晴らしい研修でしたので、続けて行って欲しいです。
- ・今回「地域づくり」の研修では市民が市が行う活動の連携についてヒントを得られないかという目的で臨んだ。講師の方々の実践と自治体職員との話し合いで1つの解決策の道筋が見つけれられた様に思う。
- ・講師も環境も整っている中、とても勉強になりました。
- ・講師の先生のお話が、実際もその道でご活躍されている方たちなので、内容がすぐに実践に移せるものもあり、大変参考になりました。とても魅力的でした。仲間づくりもでき、非常に充実した3日間でした。ありがとうございました。
- ・熱心な講師の皆様と受講生のおかげで、充実した3日間を過ごすことができた事を感謝します。
- ・とても良い研修でした。職場の後輩にも薦めたいと思います。
- ・2~30年前からすると、世の中の色々な現象が理論化されている（事を知った）。本講座も継続されているもので大変素晴らしい学びがありました。
- ・今後活かせる話がたくさん聞けたので、これから行動して起こすことで地元還元していきたい。
- ・特になし

(3) 今回の研修受講生を対象としたステップアップ研修として、どのようなことに取り組みたいですか？

<ケーススタディ・フィールドワーク>

- ・フィールドワークとして、古民家再生の先進事例を見てみたいです。
- ・今回の受講生の実際の活動現場の視察研修。自ら行動する感動と協働のまちづくりを実践する。
- ・課題を抱える地域へ出向き、現状を聞いてみたい。
- ・今回の研修であった実践事例の場所にフィールドワークとして実際に目で見て学ぶようなことができればと思う。
- ・他市成功事例、先進事例を用いたケーススタディ、グループ討議。
- ・今回の研修で学んだ事を自治体で実践して成功した所で研修を行う事で、より理解が深まると考えた。
- ・ケースメソッド研修
- ・今回の研修は講師の体験を交えた内容が中心であったので、次回は実践的な協働の取組み等を各市町村と情報共有を図り、ワークを行う内容の研修を取り組みたいと思います。
- ・良い地域づくりができている場所の視察ができればいいのではないかと思います。
- ・地域活性化先進地に行き、地元の生の声を聞き、更にモチベーション、問題意識を持ち、覚悟を持って地域づくり人に成長したい。
- ・仲間の自治体へ行く。
- ・地域めぐり、ツアー
- ・なかなか難しいかもしれないが、フィールドワーク等、実践的な取組に挑戦するなど。

<フォローアップ>

- ・フォローアップ研修等に参加してみたいと思ったが、北海道からの出席はハードルが高い。北海道開催（札幌市）をご検討願いたい。
- ・フォローアップ研修と各講師が行っている勉強会に来年度にかけて1回は参加したいと思います。同期研修生とのその後の報告会を開きたいです。
- ・フォローアップ研修を地方でも行ってほしい。
- ・行動宣言をしたその後の報告。
- ・定期的な報告会等。

<共有>

- ・受講生と情報共有していきたいと思います。
- ・皆さんの行動宣言を共有したい（コミュニケーションサイト等）。沢山の「気づき」を見つけることができそう。
- ・今回の内容を受けて、皆さんがどのようなアクションを起こされているか、事例を基に情報共有したい。
- ・各自自治体に戻ってから取り組んだことの情報交換や一緒に検討する。

- ・今回は地域づくりのスペシャリストによる情報提供という位置づけであったため、次回は参加者相互のワークショップ等による対話を通して情報共有したい。3日間お世話になりました。
- ・活動している受講生が報告し合い、悩みを共有・相談できる研修があるといいと思います。
- ・今回受講した方々の本研修後の取組について共有する。大変有意義な研修でした。ありがとうございました。
- ・得た知識とそれに対して感じた事を、他の受講生と共有し、発散、具体的行動へとつなげる収束プロセスを踏んでいきたい。

<講義の内容>

- ・実際に自治体が抱える課題に対する取組を検討し、1つのスキームを作成するなど実践的な作業を実施したい。
- ・インプットする機会が多かったと思うので、アウトプットの機会があればと思います。また“「行政職員」としてどのようなことができるか”というバイアスが各々あったような気がしました。それ以上に地域の一住民であるため、住民としてどのようなことができるかといった話が出来ればと思いました。
- ・地域づくり。
- ・地域の活性化に取り組めるようにしたいです。
- ・地域づくり人材ネットワーク（オフサイトミーティング）の交流会を開催することで、各地の地域づくりの実践例や職員としての参画の仕方を具体的に学ぶことができるように思う。
- ・人口や財政規模が同じ自治体の方たちと一緒に、課題やそれに対する取り組みなどについて話し合いたいです。具体的な話ができるような気がするのです。
- ・行動宣言したことの自分なりの確認が出来たら良いと思いました。
- ・祭り、特に奉納相撲の復活とコミュニティづくり。
- ・地域づくりの実践、実例や失敗談等の報告会の開催。九州ブロックも作ってもらいたい。
- ・まちづくりを事業化していく際のノウハウを教えていただきたい。
- ・具体的な活動支援。
- ・住民が主体的に行う活動のきっかけとなる創発の空間づくり。
- ・住民の方との接し方等を知りたい。
- ・すでに実施されていると思いますが、中規模の都市を対象にしていきたいと思います（過疎地ではあまり持ち帰ることができなさそうなので）。
- ・講師をしぼって、少数の講師の方とじっくり深く学びたい。
- ・もう一度、同じ講義でもいいので話を聞きたいと思います。ネットや勉強会に参加するなど、今回この研修で得たことを忘れないうちに再認識、再確認をしたいと思います。
- ・地域の区や自治会等、地域づくりを自主的に行っているような団体の意見を聞けるような、各自自治体職員と意欲のある区長や自治会長と一緒に受講できるような研修。
- ・平日3日ではなくて、金土日とか木金土など週休日を含めてほしい（私たちの市は研修にあまり積極的ではない）。

<個人>

- ・今までと同様、町民と共にまちづくりを進めたい。本町の特産品開発を進めたい。
- ・仕事に活用できる技能、知識の習得に努め、実務にいかしていく。仕事に関わらず、地域の情報を集めて形に残す、人を覚え話すことを確実に行っていきたい。
- ・現在の業務である全国都市緑化はちおうじフェア（イベント）の成功に向け、その一助となるように外部（民間）の力を借りて、市民と共に花緑創造の取組を進めたい。
- ・講義でも話があったが、地域づくりには知識よりも現場への係わりが重要となってくるので、今後はより積極的に外に出て、地域の方々との対話を深めていきたい。
- ・まずは、町内会長さんの顔と名前を覚えること！！自分にできる範囲のことから少しずつ取り組んでいきたい。
- ・地域の魅力再発見ではないですが、まず、地域資源を知ることから行いたい。そのためには“よそ者”の視点があるので、他市へ行ったり、我が市を見に来ていただいたりする様な研修があれば参加したいと感じました。
- ・もっと自分の地域を見て知って関わるべきだと感じたので、時間がある時は地域に足を運んで住民さんの生の声を聞き、まちづくりには何が必要か考えていきたい。
- ・保険師として、暮らしやすい地域づくりもそうですが、地域の人々が健康（身体的にも精神的にも）に暮らせる地域をつくっていきたい。
- ・行動力を持って、新しい発想を活かしていきたい。
- ・知識を高め、地域に飛び出し、地域の多くの人とつながること、特に経営者などから経営感覚を学び、地域づくりに活かしたい。ちいきづくりに人のつながりは必須。
- ・地域の資源を知り、知識を高め、発信していく、土台を作る。
- ・まだ明確にはなっていませんが、まずは一市民として地域活動に参加して、地域住民と対話して一緒に何か活動することから始めたいと考える。
- ・まずは日常の多忙さを楽しめるように工夫して、これまで以上に様々な気付きを求めたいです。
- ・住民と積極的にコミュニケーションをとること。人と人の繋がりを大切にしていきたい。
- ・地域ごと（市町村単位）に同様の研修を行い、その地域の課題に特化した議論をしていきたい。
- ・まずは地元のことを知ること、私自身も危機感を持つこと。地元のニーズをすくい上げて、人材の発掘を個人として始めてみようと思います。どうしても、組織として動いてしまうので、地元の小さなイベントに参加し知らなければいけないと思いました。また、人材を発掘できたら、ソーシャルビジネスへとつなげていけるように市として基盤を作ってあげないと、長期でのまちづくりは難しいと感じたので、支援するだけでなく、何か困った時に相談にのれてコーディネートできる行政マンになりたいです。
- ・いったん考えを整理して、もう一度同じ先生と話してみたい。
- ・飯盛先生のゼミ生の活動を生で見たい。学生目線、大人目線の解決策の比較。

■参考資料2. 全国地域づくり人財塾 課題解決編（フィールドワーク型）

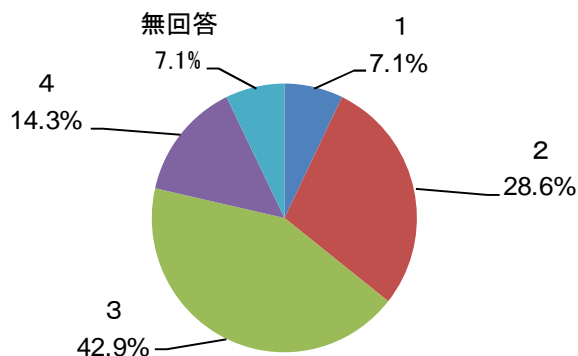
受講者アンケート・リーフレット [平成28年10月12日～14日]

■受講者アンケート

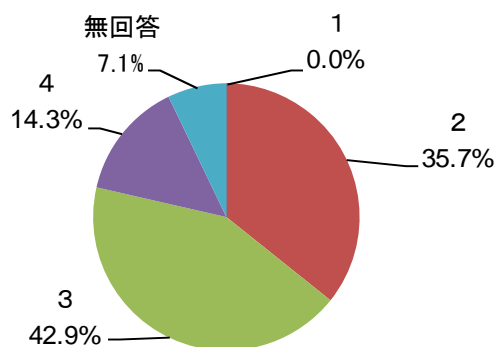
①各プログラムに対する評価

【事前課題の発表】

<理解度>		N=14	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	7.1%
	2	4	28.6%
	3	6	42.9%
	4	2	14.3%
	無回答	1	7.1%
合計		14	100.0%



<活用度>		N=14	
		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	5	35.7%
	3	6	42.9%
	4	2	14.3%
	無回答	1	7.1%
合計		14	100.0%



<感想>

◎活用度4

- ・人前でプレゼンすることは、あまりない為、実際に行えること、また、講評をいただけたことは有難い。
- ・結果的にグループでのテーマがそのまま利用することになったので、事前課題を読み込むことになった。個人的にプレゼンがうまくいなくて悔しかった。

◎活用度3

- ・参加者それぞれが抱えている悩みを聞き、それを解決したいという思いが形になっていることが知れた。
- ・自分の地域を知る上でも良かった。時間内に端的に伝えるという点では課題が残った。
- ・要点をまとめる訓練になった。作る段階での作策と発表時のアクションなど、他の発表を見ることで勉強になった。
- ・最初何をしたいのか全然わからなかった。まとまらなくて大変だった。
- ・他の人の発表を聞く中で、プレゼンの仕方を学習できました。

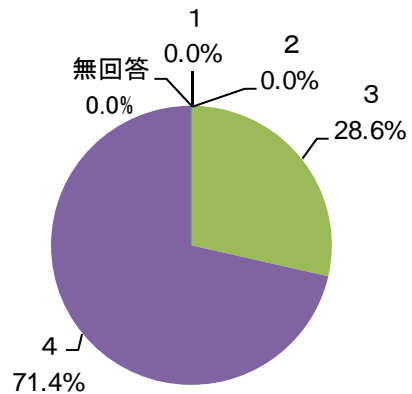
◎活用度 2

- ・バス内で自己紹介、地域部分が話せるのであれば、もう少しスライドで活動紹介、研修への意気込みを話したかった。
- ・着任前、地域に入る前の課題作成であった為、発表内容が自身の物となっていなかった。
- ・全体的な町の概要より、もっと具体的なそれぞれの活動を知りたかったです。

【フィールドワーク①】

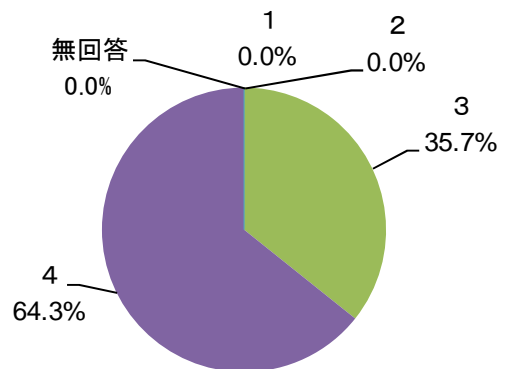
N=14

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	4	28.6%
	4	10	71.4%
	無回答	0	0.0%
合計		14	100.0%



N=14

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	5	35.7%
	4	9	64.3%
	無回答	0	0.0%
合計		14	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・月 40 万円という明確なビジョンで若者を引きつけるという仕組みがワクワクさせる、分かりやすいと感じました。
- ・熱いお言葉をいただき励みとなった。お金につながるアイデアはどこにでもあるので、地域に帰ってから広い視点で見ていきたい。
- ・マンパワー、地域の巻き込み方の重要性を見て知ることができた。同時にじっくりと継続していく必要があることを強く感じた。
- ・事業をする上での姿勢と行動力に圧倒された。初期投資減の面で、民泊を選んだこと、資源を地域の高齢者だと断言できることが素晴らしい。もうちょっと施設や人の声を聞きたかった。
- ・周辺等を自由に歩いて回る時間必要。人だけでなく環境チェックも理解の上で必要なため。
- ・多田さんのお話を聞いて、まずはやってみよう、そして続けることが大事だと思います。
- ・シンプルで分かりやすい話だった。一方、話の裏に含まれる小さな一歩の大きさを感じられた。活用できそうな点が多かった場所だった。
- ・多田さんのエネルギー、人を巻き込むことへの考え方など、とても勉強になりました。

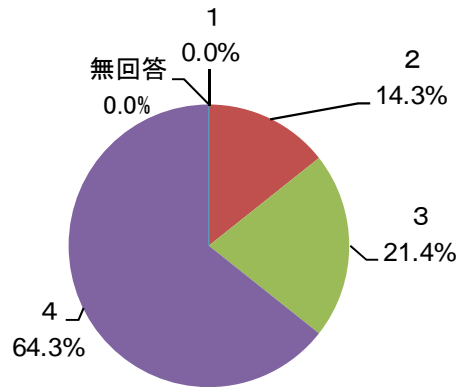
◎活用度 3

- ・多田さん家に民泊して一緒に呑む！先人の知得をもっと吸収する。
- ・少人数からはじめることの大事さ、しかしその裏にはしっかりとした計画があった。
- ・住民会議を通じて住民の方々に事例としてお伝えしておきます。
- ・宿がめちゃくちゃきれいで感動した！お金かかってるんやろうなーという感想。

【フィールドワーク②】

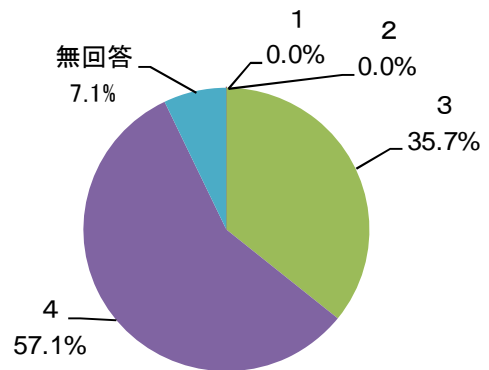
N=14

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	14.3%
	3	3	21.4%
	4	9	64.3%
	無回答	0	0.0%
	合計	14	100.0%



N=14

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	0	0.0%
	3	5	35.7%
	4	8	57.1%
	無回答	1	7.1%
	合計	14	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・様々な事業には、1つ1つに合った課題やストーリーがあって、当町でも参考にできる事業について吸収したいです。
- ・今回の宣言を持ちかえり、自分の地域のことを考えたプランを持ちこみ研修する！
- ・モノを売らずにコーディネート業を中心に行っているモデルのイメージがまだついていない部分がある。
- ・自分が思っていた形と全く異なる地域おこしの形を知ることができた。地域おこしの形は様々。
- ・周辺等を自由に歩いて回る時間必要。人だけでなく環境チェックも理解の上で必要なため。
- ・会社会的側面と、ワークショップ型の側面を上手に使い分けて両輪でやっていくというのが素晴らしいと思いました。
- ・地域づくりの実践をされていて、想い、考え方、そして長くたくさんの方々の事業を一步ずつ歩むことの大切さを感じました。帰って資料を熟読します。

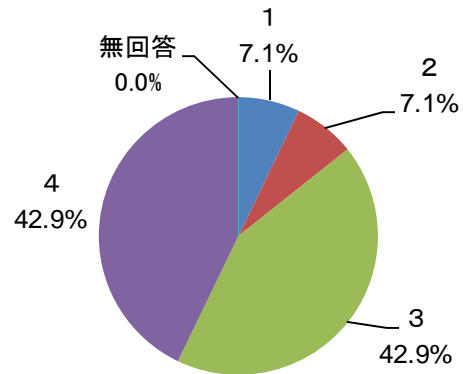
◎活用度 3

- まちをつくることは、とても必要だと感じたが、周りとの合意形成のやり方はとても勉強になった。
- コーディネーターとして目的意識がはっきりしているため、周りも参入しやすい。そして参入した人がうまく動けるシステムは見習いたい。参加者を当事者にうまく変換させる。
- 過去やってきたこと、現在町で活動していることの延長にある「ありたい姿」の参考例として学べると思った。
- 仕組みがすごいなど。自分の村ならどれができるかなと考えてみた。
- ボリュームが大きすぎて私の能力の小ささを感じてしまった。非常にインパクトの大きいプレゼンだった。内容が多様でかつ繁っているところに感心したと同時に今自分が活動していること、活動後に不安を感じるものになってしまった。

【グループワーク】

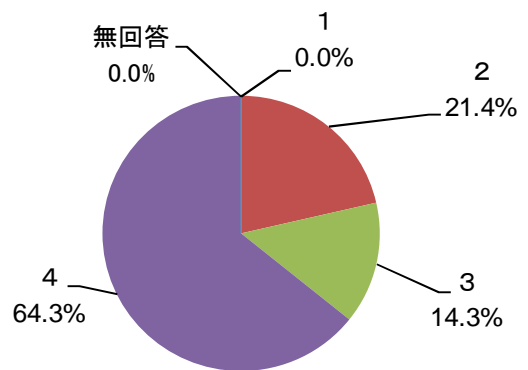
N=14

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	7.1%
	2	1	7.1%
	3	6	42.9%
	4	6	42.9%
	無回答	0	0.0%
合計		14	100.0%



N=14

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	21.4%
	3	2	14.3%
	4	9	64.3%
	無回答	0	0.0%
合計		14	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- 1つの事業を起こしていく奥深さ、大変さを少し経験できた。もっと沢山知識を深めていく必要があると感じた。
- 役割分担と時間配分を決めてやることの大切さを味わった。理論を通すためのデータにも力を入れたい。
- 自分の圧倒的力不足でチーム内であまり働けなかったことは反省。何かしら専門的に話せることを作る。だがチームとして活動して今まで経験することのなかった思考の仕方を学べたことはすごくプラスになった。

- ・毎日夜2時までみんなで話し合い、チーム力は3チームで一番上がったんじゃないかと思う。
- ・水野さんのリーダー力、ファシリテート力
- ・色々な背景や性格のグループの中で1つのものを作っていくプロセスが一通りできたのが良かった。
- ・事業計画を立てる事の難しさ、チームをうまく機能させる難しさを感じました。事業計画をしっかりと考えることが大切で何度も考えることが大事だと感じました。

◎活用度3

- ・チームで攻める必要を改めて感じた。1人で進めると出ない意見をまとめていく難しさを思い出しながら体験できた。

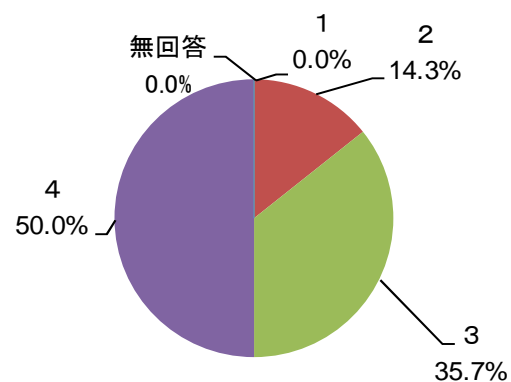
◎活用度2

- ・異なる環境、地域、フィールドにいる方々と討論するのは面白いですが、とても大変と感じました。
- ・決してきれいな形ではなかったが、グループワークとして何とか形はできかけた？
- ・テーマが私の現状と大きく離れていたため、直接的な活用度は高くないが、久しぶりにがっつり頭を使う時間、ファシリテートする機会を得ることができたと思っている。

【グループ発表】

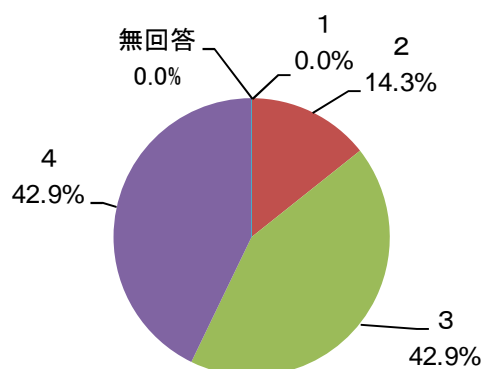
N=14

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	14.3%
	3	5	35.7%
	4	7	50.0%
	無回答	0	0.0%
合計		14	100.0%



N=14

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	2	14.3%
	3	6	42.9%
	4	6	42.9%
	無回答	0	0.0%
合計		14	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・役割分担していく大切さを思い出し、必要性を改めて感じる。
- ・どのようにプレゼンしていくか、色々な発表を見聞きし、参考にしていく点を見つけられた。
- ・テーマなど、それぞれの着眼点の違いや、経験の違いによる思考の差を見れた。地域の中での話し合いに活用できそう。
- ・数日間準備をして発表が終わってホッとしました。もっとプレゼンの仕方を学びたい。

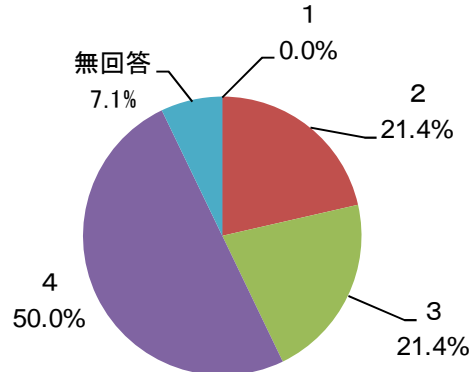
◎活用度 3

- ・自分たちの発表に集中しすぎ。他班の発表を良く聞けない部分もあって残念かったです。
- ・理論立ったプレゼンの構成、実現可能性を意識して発表したい。プレゼンのテクニックも、学んでいきたい。
- ・役割がしっかりと出来た。内容はともかく、ここまでにとどり着けて良かった。
- ・完成品もそうですが、プロセスのフィードバックももう少しまとめとしていただけたらより良かったと思います。
- ・女性視点の発表方法が私にとって目からウロコだった。擬体化等、今後のプレゼンで使ってみたい。

【行動宣言】

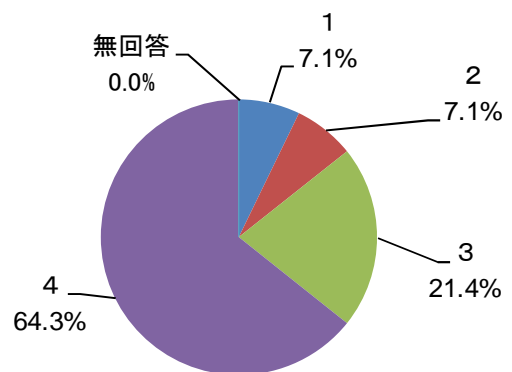
N=14

<理解度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	0	0.0%
	2	3	21.4%
	3	3	21.4%
	4	7	50.0%
	無回答	1	7.1%
合計		14	100.0%



N=14

<活用度>		回答数	%
↑ 低 高 ↓	1	1	7.1%
	2	1	7.1%
	3	3	21.4%
	4	9	64.3%
	無回答	0	0.0%
合計		14	100.0%



<感想>

◎活用度 4

- ・ 宣言した内容を実現する行動！
- ・ 自分について改めて見つめ直すきっかけになった。
- ・ 期限と数値目標を決めて実現させていきたい。3年しかないので無駄にできないと感じた。
- ・ 自分のこれからの活動について。
- ・ やることを言ってしまったからにはですね。
- ・ 3年後オープンに向けてがんばるゾ！
- ・ 宣言してしまったので、後は実行あるのみ。がんばります。

◎活用度 3

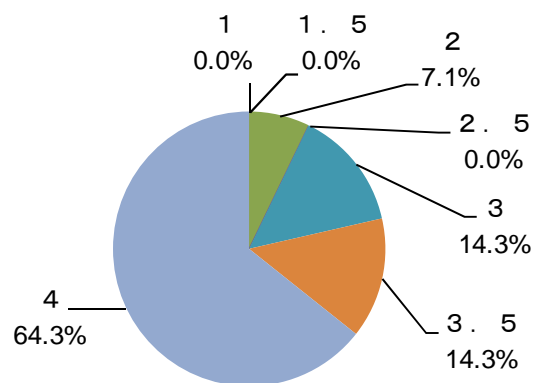
- ・ かなり抽象的な内容となってしまいましたが、実現を必ずします。
- ・ 自分の行動の具体性のなさを感じましたが、自分の今後、一歩ずつアクションを起こして行って行動したいと思いました。

◎活用度 2

- ・ 全体を通じて、私の課題は解決できなかった。むしろ、悩みがふくらんだように感じた。しかし、改めて考える機会となった。

(2) 本研修は現在取り組んでいるまたは取り組み予定の活動に活用できる内容でしたか？

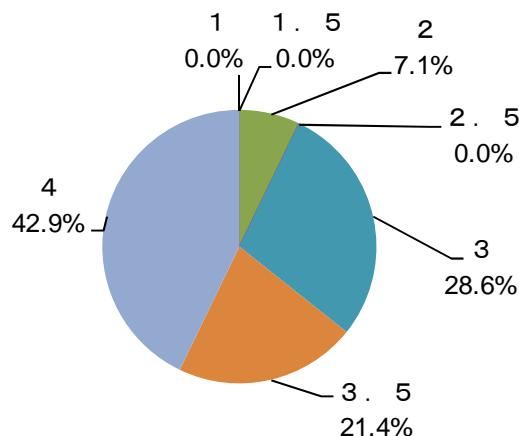
		N=14	
		回答数	%
↑ 活用できない ↓ 活用できる	1	0	0.0%
	1.5	0	0.0%
	2	1	7.1%
	2.5	0	0.0%
	3	2	14.3%
	3.5	2	14.3%
	4	9	64.3%
合計		14	100.0%



(3) 他の地域との交流・ネットワークについてお伺いします。

①本研修に参加して、他の地域のメンバーと交流は深まりましたか？

		N=14	
		回答数	%
↑ 交流できなかった 交流が深まった ↓	1	0	0.0%
	1.5	0	0.0%
	2	1	7.1%
	2.5	0	0.0%
	3	4	28.6%
	3.5	3	21.4%
	4	6	42.9%
合計		14	100.0%



②研修後も今回参加のメンバーと交流を深めるためのアイデアがあればお聞かせください

<SNS>

- ・オフ会やLINE グループが有効かと思います。
- ・SNS での交流⇒少人数での交流
- ・SNS の交換
- ・SNS の交換時間を作ると嬉しい。
- ・facebook とか？
- ・SNS 活用
- ・SNS

<その他>

- ・離れていても考えて意見交換できる。
- ・一定期間後の集合、スカイプ等でも可。
- ・また集まりがあればいいなど。
- ・最初のワークに参加者同士を知るアイスブレイクを入れると良い。
- ・それぞれの地域で抱えている問題を解決するグループワーク。
- ・ハードなグループワーク。
- ・とにかく自ら深めていくよう、どんどん首を突っ込んでいくしかない。
- ・他メンバーの活動を見に行きたい。
- ・その地域同士の強み弱みを比較し、自分の立ち位置を確認し合う。
- ・様々な人はいると思うが、「地域・町」を想う人財の存在に国にとっても財産。講師、主催者を含め、横軸ネットワークをもっと強化、連携したい。⇒「パーティー」「地域めぐり観光」を共にし、参加する仲間の強みを活かしてグループをつくる！⇒例) JC やロータリーではないが、もっと組織化する。但し、ヒエラルキーではない自由組織まさに地域づくりの為の「ポトラック」モデル他。

(4) 研修全体についてお伺いします。

①研修の開催時期、実施機関(1泊2日)、開催場所、参加条件はどうでしたか？

<開催時期>

- ・開催時期はちょうど良かったです。
- ・場所は良いが、時期的に10月は地域イベントが増える(他の地域はどうでしょう?)から避けて欲しい。
- ・開催時期、実施期間とも良かった。

<実施期間>

- ・実施期間はもう半日あっても良いかと思います。
- ・時間の管理(タイムスケジュール)の重要性もあるので、程良い。
- ・実施期間はもう1日長く取っても良いかと。
- ・ちょうど良かった。一見ハードスケジュールだが、ほど良い緊張感があって良かった。
- ・スケジュールがキツキツだった。
- ・期間が短いと思った。せつかく全体で課題を出し合ったのだから、もう一晩“会読”があったらいい議論ができたと思う。

<開催場所>

- ・開催場所というよりもやっている事業を視察できて良かったです。
- ・実に充実した3日間でした。どこでやるかよりも何をどうやるのかの見地では余計な誘惑がなかったのも良いと感じました。
- ・石川だったので参加しやすかった。期間も適当だと思う。
- ・今回石川県内で個人的にはタイミングの良い場所となりました。
- ・開催場所も良かったが、もう少しその場所を知りたかった。時間が短かった。
- ・石川という実践されてる方が多い環境での研修は良かったです。

<その他>

- ・できれば、協力隊と行政職員の比率をもう少し調整いただきたいです。(協力隊向け限定にしているだけでも良いと思います。)
- ・ご飯がおいしかった。

②本研修は期待に沿った内容でしたか？

- ・期待以上でした。自分の身の丈以上のことに取り組みました。
- ・期待以上に密の濃い研修できたえられました。
- ・はい！
- ・はい。
- ・期待通りの内容でしたが、期待通りの成果ではなく、自戒の念にかられています。・地域の実現の取り組みを知るとともに、自分の考えを相手に伝えることの難しさを感じることができ、期待に沿った内容であった。
- ・私には少し早い内容と感じていたが、結果自分の自信になりました。
- ・地域おこし協力隊の3年の任期後に向けて、具体的行動を行っている参加者とのディスカッション、情報交換がもっと出来ると思っていたところは少し物足りなかった。研修自体は大変良かったです。
- ・グループワークに関しては期待以上だったが、フィールドワークはもっと内に入っていけるような内容が良かった。
- ・主催者としての意向が解ってしまうので言えない部分もあるが、もっと掘り下げた内容でも・・・と感じた部分も・・・。
- ・プレゼン方法よりはまちづくり実務のノウハウや知恵を知りたかった。
- ・宿泊先がビジネスホテルだったので、地域での取組をされている所、春蘭の里などに泊まりたかったです。泊まれなくても部屋を見てみたかった。
- ・期待していた方向とは別で、内容の濃い研修でした。
- ・実践に使いそうなことが沢山あり、また自分のレベルに合わせてアドバイスいただき有難かったです。

(5) 人財塾では、JUMP、JIAM 等での 2 泊 3 日程度の大教室での講義中心の研修を行うとともに、当該研修の既受講者等を対象とした、今回のような課題解決型の比較的少人数の研修を実施しています。大教室での研修とは別に、既受講者等を対象とした研修を実施するとしたら、どのような内容の研修が望ましいと思いますか？

- ・ 個別ケースを検証・助言する内容
- ・ 与えられたテーマ（全国的な課題等）に対するアプローチからソリューションまでのワークショップ、講義。
- ・ 実例を解決するグループワークなど。
- ・ 実際の地域をモデルにしたビジネスプランの構築。フィールドワークとして実際にその場を確認する。
- ・ 問題を抱えている地域に実際に行って、その地域の課題を解決していくという研修。
- ・ 何であれ意義はあると思うが、協力隊については活動費ゼロ円の人もいることを前提に呼び掛けて欲しい。研修の交通費は別途塾が面倒みてくれるとか。本年度はもうどこにも行けない。
- ・ 自分の事業計画書を持ち寄ってブラッシュアップさせる研修。
- ・ ケーススタディを用意して、グループで事業化 or プロジェクト化をしていく研修。議論化の練習 + 実現化の体験を目的に。
- ・ ファシリテーションの手法を使い、自分たちの思いを共有させる。
- ・ 3 年後に向けて個人的に進め方をどうすれば良いのか考えたい。

(6) 今回の研修についてのご感想をご自由にお書きください。

- ・ タイムスケジュールの過密感はありましたが、内容の充実度はすごく高かったです。個人的には食事の時間（夕食）が早く、飲みと別にさせていただくと、もう少し集中できたように感じます。
- ・ 自身に足りない部分と、今後活かしていくべき事の発見ができて有意義であった。
- ・ とても刺激的な 3 日間になりました。今回の刺激から今後のバイブルの 1 つになると思います。楽しく過ごせました。
- ・ 2 日間連続の深夜までの会議はつらかったが、グループのメンバーとのつながりを持つことができた。ビジネスプランの作成手法は今後の起業につなげていきたい。
- ・ 研修の内容を必ず活かします。
- ・ 色々と参考になりました。ここで学んだ事を持ちかえってからが本当の勝負だと思うので、楽しんで頑張ります。
- ・ 自分の意識にはなかったテーマについても考える良いきっかけになった。そして、その中から地域に持って帰れるもの、自分がすべきことが少しはっきりしてきたので良かった。実践の前の下準備、計画、もう少し詰めます。
- ・ 主催者、関係者、講義をしてくださった（訪問先、参加メンバー）皆さま、本当にありがとうございました。同じような課題・目的を少しでも共有できる皆さんに出会い対話できただけでも本当に嬉しかった。感謝いたします！！

- ・眠かったけど（笑）良い話がたくさん聞けて良かった。
- ・参加できて本当に良かったです。何より考えを行動にうつす第一歩となると思います。今回知り会った仲間とも今後切磋琢磨していきたいです。夜遅くまでお付き合いいただきありがとうございます。
- ・悩みを解決できなかったことは残念だったが、予想していなかった情報が手に入ったことが大きかった。
- ・ハードな日々でしたが、とても刺激になりました。1つでも実践におこしていきます。
- ・「研修企画について」

この度の研修における学びと成果は貴重なものでした。ただ一方で、率直な感想として、以下に掲げた疑問を呈する研修でもありました。

- ◎やや性急さを感じる限定された（一方的な事業プラン）を求めるためのテーマではなかったか？
- ◎個別の複雑な課題が山積する現場での悩みとは遠い、リアリティなき「プログラム」ではなかったか？
- ◎受講生側の視点でなく、主催者であり大きく括ると「地方創生」の名のもとに政府が求める「解」ゆえの策を導くことが優先された研修になっていなかったか？
- ◎心身共に疲労 MAX の中で、小刻みに配分されるプログラムから本物の思考が生まれるか？
- ◎有能な講師からの専門的なプレゼンを理解するためには事前学習が必要ではないか？

心身疲労もピークに達し、ほぼ集中力、思考力が停止する中で、なんとなくその場の空気に言葉だけつじつまを合わせたかのような「気力の果てた」自分に違和感を感じつつ、帰宅後、心身共に“セイジョウ”に回復した今、改めてこの5つの感想が心に深く残っていることに気づきました。とはいえ、本研修のようにテーマの壮大さと政府の意向を担った立場での企画の重責はお察しします。

しかし、個人も地域も、そして国も「どんなビジョンを持てるか？」地つながりで繋がる関係性のゆくえに、明日ばかりを問うフォアキャスト思考ではなく、バックキャストに変換できる余裕ある深い洞察や知恵、また取り組みにつながる行動が必要ではないかと考えさせられています。

平成28年度



全国地域づくり人財塾

－ 課題解決編（フィールドワーク型）－

総務省では、「全国地域づくり人財塾」等の受講を経て地域づくりの実践を始めた方等を対象に、課題解決の糸口発見や更なる活動へのステップアップの場とするために、本講座を開催いたします。

「地域づくり人」として更なる実践を考えている方、全国の有志とのネットワークを構築したい方、新しい事業・取組を検討されている方、是非ご参加ください。

グループによる実践的なプランニングを通じて実現のための手法を学んでみませんか。

- 日程：**平成28年10月12日(水)～14日(金)[2泊3日]
- テーマ：**地域資源を活かした事業創造
- 講師：**飯盛 義徳 慶應義塾大学SFC研究所 所長／総合政策学部 教授(総務省「人材力活性化研究会」座長)
- 会場：**春蘭の里実行委員会(石川県能登町)、株式会社御祓川(石川県七尾市)
- 対象：**地方公共団体職員又は地域づくりに取り組むNPO関係者等の皆様
- ※ 3日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできません。
- ※ 事前課題として、地域の状況や課題、研修で学びたいことなどについてのプレゼン資料の作成(発表時間10分程度の分量、Microsoft社のPower Pointで作成)が必要となります。
- 定員：**15名(受付は先着順となります。お申込み受付後、受講案内、事前課題の詳細をお送りします。)
- 宿泊：**キャッスル真名井(穴水町)[相部屋]、ルートイン七尾駅東(七尾市)[個室] ※外泊不可
- 経費：**18,000円
- ※ 研修、宿泊、食事(1日目夕食、2日目朝食・昼食、3日目朝食・昼食)が含まれます。
- ※ 2日目夕食は交流会を予定(各自負担)。
- 申込方法：**申込書に必要事項をご記入の上、ファックスまたはメールにてお申し込みください。
- ※ 申込期限：平成28年9月30日(金)まで。

■メイン講師 慶應義塾大学SFC研究所 所長／総合政策学部 教授 飯盛 義徳 氏



地域づくりの第一人者である慶應義塾大学飯盛教授は、実践を通じて地域の元気の具体的方策を探究されています。その豊富なお経験と、先進事例の成功要因に基づいて、「リーダーの役割を果たす人材」のほか、「リーダーを支えるための人材」など地域づくりにおける人材力の観点から、参加者の皆さんが実践されている、地域づくり活動の課題についてアドバイスをいただきます。

<ご略歴>

佐賀県生まれ。慶應義塾大学大学院経営管理研究科単位取得退学、博士(経営学)。1987年、松下電器産業株式会社入社。富士通株式会社出向などを経て、1992年、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程入学。1994年、同校修了後、飯盛教材株式会社入社。1999年、アントレプレナー育成スクールNPO法人鳳雛塾を設立。2002年、慶應義塾大学大学院経営管理研究科博士課程入学。2005年、慶應義塾大学環境情報学部専任講師就任。2008年、慶應義塾大学総合政策学部准教授。2014年から現職。「域学連携」を各地で推進。総務省人材力活性化研究会座長、総務省過疎問題懇談会委員、総務省地域づくり懇談会委員などを務める。

お問合せ

総務省 地域力創造グループ 人材力活性化・連携交流室

担当：清水課長補佐、萩原係長 Tel：03-5253-5391

お申込み

(株)価値総合研究所 全国地域づくり人財塾係 担当：八木、目黒

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1

Tel：03-5205-7901 Fax：03-5205-7922 Mail：zinzai@vmi.co.jp

■プログラム構成

※プログラムは都合により変更となる可能性があります。

1

【事前課題】現在の地域活動の状況・課題の整理

参加者が各地域で実践している地域づくり活動の状況、抱えている課題及び本研修で学びたいことについて事前にまとめていただき、当日発表していただきます。

2

【フィールドワーク】地域の取組の視察

実際に地域に赴き、地域の取組を関係者から伺います。

【フィールドワーク①春蘭の里実行委員会】 (石川県能登町)

それまで当たり前のように共生してきた豊かな自然を最大限に活かした村づくり・村おこしを目的に、地域の異業種7名で「春蘭の里実行委員会」を結成。農家民宿や廃校を活用した交流宿泊施設、小型風力発電や親水公園などを住民主導で整備。この地元の自然と文化を活かしたグリーン・ツーリズム型観光「春蘭の里」は、現在12集落にまたがり、30軒の農家民宿群を形成。1度に200人を受入れられ体制整備により、毎年1万人が訪れる里づくりを展開しています。ここでは地域資源の活かすポイント等を学びます。

【ホームページ：<http://shunran.info/>】

【フィールドワーク②株式会社御祓川】 (石川県七尾市)

石川県七尾市の中心部を流れる御祓川の「再生」と、その界隈の賑わいづくりを目的とする株式会社御祓川は、民間出資のみで設立されたまちづくり会社。地域の資源を活かし守る「まち育て事業」、地域の経済循環を創り出す「みせ育て事業」、地域の担い手を育て続ける「ひと育て事業」を柱に、ヒトやモノをつなぎ、場をつくり、事業の「コーディネート」をしながら、小さくてもそこにある文化・思想・商品が世界に通用する「小さな世界都市・七尾」の実現に向け活動しています。ここではまちづくりのコーディネートのポイントを学びます。

【ホームページ：<http://www.misogigawa.com/>】

3

【グループワーク】課題の共有と解決糸口の発見

事前課題を、さまざまな地域から集う参加者間で共有し、代表的な課題をケーススタディとして取り上げ、多面的な視点から、その解決策をグループワーク形式(1グループ5名程度)で討議します。参加者間で議論を深め、課題解決の糸口を探します。

4

【成果発表】課題解決策と実行計画案の発表

各地域の課題について、グループワークで議論した解決策および地域での実行計画案を全体発表します。

■特別講師、現地講師の紹介

■特別講師 総務省 地域力アドバイザー 牧野 益巳 氏

総務省人材力活性化研究会構成員。日本マイクロソフトが行う、自治体、大学、NPOなどと連携して、地域のICTリーダーを育成しながら取り組む「地域活性化協働プログラム」のご経験を踏まえ、参加者の皆さんが実践されている、地域づくり活動の課題についてアドバイスをいただきます。

■現地講師 春蘭の里実行委員会 事務局長 多田 喜一郎 氏

平成8年の春蘭の里実行委員会設立に参画。翌年、自宅を改装して民宿「春蘭の宿」を開業。各民宿月収40万を目指し、元気な高齢者がいる内に若者が戻って来れる地域づくりを進める。総務省地域力創造アドバイザー。

■現地講師 株式会社御祓川 代表取締役社長 森山 奈美 氏

七尾生まれの七尾育ち。父親のまちづくり活動を子どもの頃から見続け、大学では「都市計画」を専攻。卒業後はまちづくりシンクタンクに就職。仕事で「株式会社御祓川」の計画書を書き、会社設立と同時に入社。平成19年から現職。

■集合

日時・場所

10月12日(水) 11:00 JR金沢駅 新幹線改札口(外) 集合

※昼食は済ませてからお集まりください。

■プログラム詳細

■10月12日(水)【事前課題発表】

11:00-11:30 受付(JR金沢駅)

11:30 JR金沢駅 出発(バスで移動)

※車中にて開講・オリエンテーション

13:30 到着

14:00-19:30【事前課題の発表・講評等】

①事前課題発表・講評

②グループワーク ※宿泊は「キャッスル真名井」(相部屋)



■10月13日(木)【フィールドワーク・グループワーク】

9:00-11:30【フィールドワーク①】

・「春蘭の里(能登町)」を現地視察

13:30-15:30【フィールドワーク②】

・「(株)御祓川(七尾市)」を現地視察

16:00-19:00【グループワーク①】

・フィールドワークを踏まえたグループワークを実施

19:30【交流会】 ※宿泊は「ルートイン七尾駅東」(個室)



■10月14日(金)【グループワーク・成果発表】

8:30-11:00【グループワーク②】

・グループワークで作成した計画案の発表と講評

11:00-13:00【発表・総括】

・課題解決策を検討し、地域に戻ってからの実行計画案を作成

13:45-14:50【総括講義・修了式】

15:00 七尾出発(バスで移動)

17:00 JR金沢駅解散



■受講生の声

■田中 慶悟 志布志市(鹿児島県)企画政策課 平成27年度受講

非常に濃密で、めくるめく知的刺激の3日間でした。特に、ものごとを考える上での現地現物の重要性、得たものをどのようにアウトプットすべきか、あり方を体得することができました。ここでの出会いや経験は一生の宝物になるはずです。

■岩田 るみ 美馬市(徳島県)地域おこし協力隊 平成27年度受講

★平成28年度地域おこし協力隊ビジネスアワード採択【食と農と手仕事の海外交流・発信プロジェクト】

フィールドワークでは、仕掛け人からお話を直接うかがえる贅沢な内容でした。課題解決ワークショップは、「面白かった」の一言では片付けられない大きなものをいただきました。アイデア、刺激、エネルギー。ビジョンもより明確になりました。

■中村 匡希 / 木田 桃子 竜王町(滋賀県)地域おこし協力隊 平成27年度受講

★竜王町 空き家プロジェクトひだまり学舎 クラウドファンディング達成

こんなに濃い研修・体験ができると思いませんでした。とても役に立ったし、勇気づけられたし、やるんだという気持ちが湧いてきました。人財塾で得たこと、知り合った方々が今の糧や刺激となっています。

全国地域づくり人財塾 — 課題解決編(フィールドワーク型) — 受講申込書

平成28年10月12日(木)～14日(金)(3日間)

・必要事項をご記入いただき、下記の申込先に
FAX又はメールでお申し込み下さい。

申込締切: 9月30日(金)

申込先:
(株)価値総合研究所 全国地域づくり人財塾係 担当 八木、目黒
FAX:03-5205-7922 Mail:zinzai@vmi.co.jp

- ・申込は先着順となります。定員に到達次第、締切とさせていただきます。
- ・研修受講の際には、事前課題に取り組んでいただきます。詳細は、受講通知送付時にお知らせします。

氏 名 ふりがな	所 属 ・ 役 職	性 別
	携 帯 T E L	男 ・ 女

取り組んでいる 地域づくりの 活動概要	
---------------------------	--

連絡先 (受講決定通知 の送付先)	氏 名 ふりがな	所 属 ・ 役 職	
	〒		
	TEL		
	E-mail		

2日目交流会の出欠	出 席 ・ 欠 席
-----------	-----------

■参考資料3. 人材力活性化研究会 資料

第19回人材力活性化研究会

議事次第

- 開催日時：平成28年6月17日（金）13：00～15：00
- 開催場所：中央合同庁舎第7号館西館14階1415会議室
- 議事
 1. 「全国地域づくり人財塾」実績報告について
 - （1）「全国地域づくり人財塾」（@JIAM）実施報告
 - （2）「全国地域づくり人財塾」（@総務省自治大学校）
 - （3）「全国地域づくり人財塾」フォローアップ研修について
 2. 「全国地域づくり人財塾」～平成27年度までの展開～
 3. 第18回研究会における主な意見について
 4. 平成28年度における人材研・人財塾の展開について
 5. 「全国地域づくり人財塾」（地方開催）について
 6. 「全国地域づくり人財塾」@JAMPのカリキュラムについて
 7. 課題解決編（フィールドワーク型・少人数型）について
 8. 修了生の地域づくり活動に対する支援について
 9. その他
- 配付資料
 - ・ 資料1 「全国地域づくり人財塾」実績報告について
 - ・ 資料2 「全国地域づくり人財塾」フォローアップ研修について
 - ・ 資料3 全国地域づくり人財塾～平成27年度までの展開～
 - ・ 資料4 第18回研究会における主な意見について
 - ・ 資料5 平成28年度における人材研・人財塾の展開（案）
 - ・ 資料6-1 「全国地域づくり人財塾」（地方開催）（案）
 - ・ 資料6-2 平成28年度「全国地域づくり人財塾」（地方開催 in 仙台）のカリキュラム（案）
 - ・ 資料7 平成28年度「全国地域づくり人財塾」@JAMPのカリキュラム（案）
 - ・ 資料8 課題解決編（フィールドワーク型・少人数型）（案）
 - ・ 資料9 修了生の地域づくり活動への支援について（案）
 - ・ 参考資料①（資料7関連）「全国地域づくり人財塾」外部講師一覧（H23～28）
 - ・ 参考資料②（資料7関連）事例発表希望者

「全国地域づくり人財塾」実績報告について(1)

資料1

開催日時・会場

平成28年5月11日(水)～13日(金) 全国市町村国際文化研修所 (滋賀県大津市)

参加者の状況

参加者数 36名(男性27人 女性9人)※年齢層・参加団体区分・地域の内訳は以下のとおり

～29歳	10人	最年少 23歳 最年長 69歳 平均 37歳	市	24人	北海道	0人	近畿	16人
30～39歳	12人		町	8人	東北	1人	中国	1人
40～49歳	10人		その他	4人	関東	3人	四国	2人
50～59歳	3人				中部	8人	九州	5人
60歳～	1人							

研修概要

- 人材力活性化研究会の構成員等が実践事例を基に研修を実施
- 講師との直接対話(3R)、オフィスアワー(課外)の実施
- 人材塾の卒塾生(4名)による事例報告等

受講生の声(アンケートより抜粋)

(研修時間・研修内容関係)

- ・講義の時間を約1時間とし、その後質疑応答の時間を確保するとよかったのではないか。
- ・オフィスアワーは1人の講師のみならず他の講師のところへも行けるとよかったのではないか。
- ・グループで何か企画するようなカリキュラムがあればよいのではないか。

(ステップアップ研修の要望等)

- ・卒塾生が地域に帰り、研修で得た知識をどのように活用して地域づくりに役立てているのか、実際に現地で視察する研修。
- ・各受講生が事例や課題を発表し、それについて改善策や解決策を検討するプログラムが良い。
- ・地域づくり活動を実践した後の悩みや失敗を相談したり、アドバイスをもらえるような、今回の直接対話のような時間があれば良い。
- ・地域資源発掘のフィードワークがあれば参加したい。



1

「全国地域づくり人財塾」実績報告について(2)

開催日時・会場

平成28年6月2日(木)～3日(金) 自治大学校 (東京都立川市)

参加者の状況

参加者数 108人(男性87人 女性21人)※年齢層・参加団体区分・地域の内訳は以下のとおり

～34歳	7人	最年少 32歳 最年長 54歳 平均 42.2歳	都道府県	24人	北海道	4人	近畿	7人
35～39歳	26人		市	66人	東北	11人	中国	13人
40～44歳	47人		指定都市	(9人)	関東	17人	四国	7人
45～49歳	23人		町村	15人	中部	29人	九州	20人
50歳～	5人		その他	3人				

研修概要

- 政策専門課程の研修課目として8時限を確保して実施
- 人材力活性化研究会の構成員及び有識者が実践事例を基に講義

受講生の声(アンケートより抜粋)

(研修時間・参加内容関係)

- ・1コマ70分にとらわれることなく講義時間を設定してはどうか。
- ・質疑の時間も含め講義時間を長くしてはどうか。
- ・講義内容を多様なジャンルから構成して欲しい。
- ・具体的な行動のヒントが得られるよう、実践を交えた話が聞きたい。
- ・成功事例のみならず、失敗事例も聞きたい。
- ・グループトークの時間が欲しい。

(ステップアップ研修の要望等)

- ・実際に活動に取り組み、その活動について受講後も持ち寄って検証したり振り返りができたりする場があるとよい。
- ・行政から地域へのアプローチ事例や講義で紹介のあった取り組みの視察。
- ・受講生同士の意見交換ができるワークショップ型の研修。



2

「全国地域づくり人財塾」フォローアップ研修について

資料2

概要



人材力活性化研究会の構成員や大学講師を招聘した講義のほか、参加者が自分の地域についてプレゼンを行い、それに対して他の参加者からフィードバックを行う形式で開催。

東日本支部においては、平成25年4月以降、3か月毎に開催されている。また、西日本においてはこれまで四国、中国、関西地区において、それぞれテーマを設定して不定期に開催されている。

開催状況

年度	日時	場所	テーマ	
東日本支部	25 平成25年4月17日 平成25年7月19日 平成25年10月3日 平成26年1月29日	長池公園自然館	あったらいいな、こんな〇〇(市)	
	26 平成26年4月23日 平成26年7月9日 平成26年10月8日 平成27年1月7日	長池公園自然館 地域活性化センター 地域活性化センター 地域活性化センター	あったらいいな、こんな〇〇(市) あったらいいな、こんな〇〇(市) よりよい“コーディネーター”とは？ 人財塾での行動宣言の実践状況の報告、抱負	
	27 平成27年4月15日 平成27年7月29日 平成27年10月21日 平成28年1月21日	地域活性化センター 長池公園自然館 ルネこだいら フォーシーズンズ志木ふれあいプラザ	今、これから 指定管理者制度の10年を検証する “みんなが集まる場”とは？ 地域とかがわかる“楽しさ”と“難しさ”	
	28 平成28年4月28日	千葉市生涯学習センター	地域の未来イメージをつくる	
	西日本支部	25 平成26年2月23日～25日	松山市ほか	移住対策
		26 平成26年10月11日～12日	周南市	若手による地域づくり
		27 平成27年9月26日～27日	河内長野市	開催地における地域づくり(中山間地の活動拠点整備・運用、地区まちづくり会の活動)

全国地域づくり人財塾～平成27年度までの展開～

資料3

人材力活性化研究会の開催

地域づくり人育成3つのツール

『人材力活性化プログラム』(23年3月策定)

『地域づくり活動のリーダー育成のためのカリキュラム』(23年3月策定)

『地域づくり人の育成に関する手引き』(24年3月策定)

『地域づくり人育成ハンドブック』として再編集(25年3月[27年3月改訂])

STEP!



○人財塾(課題解決編)
ケーススタディ型・フィールドワーク型
○フォローアップ研修

○全国地域づくり人財塾
(平成28年3月31日現在修了者
1,365名)

・自治大学校
・市町村アカデミー
・全国市町村国際文化研修所

○一日人材力活性化研究会

○地域における「地域づくり人育成講座」
※「域学連携」地域づくり人育成支援事業
※地域づくり人育成支援事業

地域コーディネーター育成研究事業
※現地研修3地域

修了生を対象とした地域づくり活動調査を取りまとめ、優良事例を横展開
→全地方自治体あて送付

○地域主催の「地域づくり人育成講座」
人材力活性化研究会及び総務省による後援名義

平成22年度

平成23年度

平成24年度

平成25年度

平成26年度

平成27年度

【人材育成全般】

- 行政（特に知事や市町村長）の人材育成に対する理解度をどう高めるかが一番の問題ではないか。全国津々浦々で人材育成が重要であると認識してもらう必要があるのではないか。
- 総務省から全国の地方自治体に対して、人材育成を積極的に推進できる環境をつくるための、具体的なモデルケースを提示していくことが重要ではないか。

【研修内容について】

- 初級・中級・上級という考え方もあるが、入口となる初級のあとはステップアップ研修とフォローアップ研修だけで運用することで足りるのではないか。
- マネジメント知識をもっと学びたいというニーズがあるのであれば、企業研修的な要素を取り入れるべきではないか。また、地域に入っていく職員のコミュニケーション手法などを教育するニーズが高まっていくのではないか。
- 地方版の総合戦略の内容を踏まえ、ICTをテーマとしたカリキュラムが必要ではないか。
- フィールドワークを初級編に導入することで、更に受講生の参加意欲が向上するのではないか。一方で、フィールドワークには分かった気になってしまうという欠点があるため、見たものを総括する時間が求められるのではないか。
- 自治大の校のカリキュラムは、2日間を総括する時間を確保する必要があるのではないか。
- 課題解決編の受講資格要件は、初心者にはハードルが高いのではないか。
- 身近な地域への出前講座のような研修事業を実施することが必要なのではないか。その際、研修の誘致や応募を受け付けることで、より効果的な事業となるのではないか。
- 募集定員を減らして、個別の時間を増やして講師との接触時間を長くすることで受講者の満足度が高まるのではないか。
- 直接対話の生産性を高めるため、勉強したいことを事前に提出してもらうのが効果的ではないか。

第18回研究会における主な意見について（2）

【修了生に対するインセンティブの付与】

- 人財塾の修了生が、自らの地域において人材育成のリーダーシップを発揮して、コーディネーター役にもなることができるような場合、総務省が当該修了生に対して例えば「地域経営学者」としてライセンスを与えるようなことができないか。
- 人財塾修了生が自らの職場や地域に戻ってから、新しい展開ができるような仕組みを創設し、発信すべきではないか。
- 人材育成の中長期的出口をどうするか、どのようなものがインセンティブにつながるかが重要だが中長期的な課題である。

【フォローアップ研修】

- フォローアップ研修は、一定の地域ごとに支部を設けること等により、より地理的に参加しやすい環境を構築することができないか。そうすることで、参加者が増えるのではないか。

平成28年度における人材研・人財塾の展開(案)

調査研究

人材力活性化に関する調査研究

- ・今後の人材力活性化の取り組みの展開にかかる課題等について調査・分析等

フォローアップ
研修

(自主開催)

人材力活性化研究会構成員

実践編①

全国地域づくり人財塾

- ・JIAM(平成28年5月11日～13日)
- ・自治大(平成28年6月2日～3日)
- ・JAMP(平成28年10月26日～28日)
(大人数型)

実践編②

全国地域づくり人財塾

- (地方開催in仙台)
- ・宮城県及び仙台市との共催
(1泊2日)
(大人数型・地方版)

実践編③

課題解決編

- (フィールドワーク型)
※内容未確定
(少人数・地方版)

【以下について具体的に検討】

- 全国地域づくり人財塾(地方開催)の検討(資料6関係)
- 「全国地域づくり人財塾」(@JAMP)のカリキュラムの検討(資料7関係)
- 課題解決編(フィールドワーク型・少人数型)の検討(資料8関係)

全国地域づくり人財塾(地方開催)(案)

資料6-1

(開催目的)

地域活性化においては、様々な知識・経験を持った人が、その知識・経験とアイデアを活かしながら、それぞれ活動に取り組み、地域で様々な活動が展開されている状況こそが重要。そのような状況を生み出すために必要となる地域づくり活動を自らの手で企画し実践できる人材を全国各地域において育成するため、人材力活性化研究会の構成員が直接赴いて育成することを目的とする。

開催候補地について

- 人材力活性化研究会の実践編となる全国地域づくり人財塾は、現在、
 - ・全国市町村国際文化研修所(滋賀県大津市)・・・実績として主に西日本の受講者が中心
 - ・市町村職員中央研修所(千葉県千葉市)・・・実績として主に関東近郊の受講生が中心
 - ・総務省自治大学校(東京都立川市)・・・実績として全国の受講生を受入れしているが政策専門課程で実施を開催しているところ、このため東日本地域(東北地方中心)を対象として実施することが適当と考えられる。
- また、東日本大震災からの復興に関連して活発に地域づくり活動が実践されており、住民の関心も高い。
- 以上から、東北地方の中心地であり空路・鉄道において全国から受講生が集まりやすい仙台市において開催することが適当。

来年度以降の開催計画(案)

- 全国を北海道・東北・北陸・関東甲信越・東海・近畿・中国四国・九州沖縄の8ブロックに分けて年に2ブロックにおいて実施することとすべきか(地域バランス重視型)
→(デメリット)地域の開催意向を反映させることができない
- 若しくは、あらかじめ公募により二つの開催地を柔軟に決定する方式とすべきか(開催地意向重視型)
→(デメリット)地域バランスを反映させないため、開催地が偏る恐れがある

平成28年度 全国地域づくり人財塾(地方開催 in仙台)カリキュラム(案)

資料6-2

日時:平成28年8月1日(月)~2日(火)
 場所:仙台国際センター
 定員:100名※最大135名
 主催:総務省(共催予定)宮城県・仙台市

月日	時限	時間	会場	講義内容	備考	
				開講挨拶(総務省・宮城県・仙台市)	※受付は12:00開始 ※13:20着席	
8月1日 (月)	1	13:30~13:45	展示棟 会議室1	【導入講義】 講師:総務省人材力活性化・連携交流室(15分) 人材力の活性化について(仮)		
	2	13:45~14:40		【講義】 講師:特定非営利活動法人NPOフュージョン長池 富永一夫会長(55分) NPOフュージョン長池の実践~多様で美しい共生の地域を創造する人財とは~(仮)		
	3	14:55~16:05		【講義】 講師:柳谷自治公民館 豊重 哲郎館長(70分) 地域再生~行政に頼らない地域づくり~(仮)		
	4	16:20~17:30		【講義】 講師:慶應義塾大学SFC研究所長、総合政策学部 飯盛 義徳教授(70分) 「地域づくりのマネジメント~つながりをつくり創発を生む仕組みづくり~」(仮)		
	課外	18:00~19:30	展示棟 会議室2	交流会(仙台国際センター内会議室)	交流会 ※各地域のPRコー ナー設置検討(持ち込 みを可能とする) ※実費負担あり	
8月2日 (火)	1	9:00~10:10	展示棟 会議室1	【講義】 講師:一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 松村 豪太代表理事(70分)		
	2	10:25~11:55	(分科会) 会議等小会 議室3~7 (講義) 展示棟会議 室1	【分科会①】(90分) 小会議室※最大60名入替制 ・飯盛講師 ・富永講師 ・豊重講師 ・小澤講師 ・前神講師	【講義】:展示棟会議室1 講師①:牧野講師(45分) ICTを活用した地域づくり(仮) 講師②:人材力活性化・連携交流室長(45分) 地域力創造施策の動向(仮)	※事前アンケートによ る希望聴取
		11:55~12:45		昼食(50分)※仙台国際センター内	※実費負担あり ※パネルディスカッ ション打合せ	
	3	12:45~14:15	(分科会) 会議等小会 議室3~7 (講義) 展示棟会議 室1	【分科会②】(90分) 小会議室※最大60名入替制 ・飯盛講師 ・富永講師 ・豊重講師 ・小澤講師 ・前神講師	【講義】:展示棟会議室1 講師①:牧野講師(45分) ICTを活用した地域づくり(仮) 講師②:人材力活性化・連携交流室長(45分) 地域力創造施策の動向(仮)	※事前アンケートによ る希望聴取
	4	14:30~16:00	展示棟 会議室1	【パネルディスカッション】(90分) テーマ:地方創生の本格化と人材育成について(仮) 講師:人材力活性化研究会構成員及び地域づくりに取り組む外部講師 ・コーディネーター 飯盛 義徳 慶應義塾大学SFC研究所長、総合政策学部教授 ・パネリスト 豊重 哲郎 柳谷自治公民館長 ・パネリスト 小澤 浩子 赤羽消防団副団長 ・パネリスト 島 康子 津軽海峡マグロ女子会 ・パネリスト 渡辺 一馬 (一社)ワカツク代表理事【調整中】 ・パネリスト 相澤 謙一郎 タイムカプセル(株)代表取締役【調整中】		
	5	課外	展示棟 会議室1	【人財塾修了生による自主研修が実施される場合には事例発表等に活用】		

月日	曜日	1時限 (9:25-10:35)	2時限 (10:50-12:00)	3時限 (13:00-14:10)	4時限 (14:25-15:35)	5時限 (15:50-17:00)	課外 (17:00~)	
10/26	水		11:00-12:00 入寮受付 11:30- 昼食 12:45- 開講オリエンテーション 入寮オリエンテーション	【導入】 (13:00-13:15) 人材力の活性化 について 総務省人材力活性化 ・連携交流室長	【実践事例】 地域再生 ～行政に頼らない 感動の地域づくり～	【実践事例】	【グループトーク】 (17:00-17:30)	
				【実践事例】 (13:15-14:10) NPOフュージョン長池の実 践～多様で美しい共生の地 域を創造する人財とは～ NPOフュージョン長池(※1) 理事長 富永 一夫	柳谷自治公民館長 豊重 哲郎		18:00- 交流会	
10/27	木	【グループ トーク】 (9:00 -9:25)	【実践事例】 地域づくりのマネジメ ントつながりをつく り創発を生む仕組みづ くりー(講義) 慶應義塾大学SFC研究所長 総合政策学部 教授 飯盛 義徳	【実践事例】	【講師との直接対話】	【講師との直接対話】	【講師との直接対話】	【グループトーク】 (17:00~17:30)
								19:30-課外(直接対話)
10/28	金	【グループ トーク】 (9:00 -9:25)	【事例報告】 全国地域づくり人財塾 既受講者からの報告	【成果発表と振り返り】	14:10-14:20 閉講			

課題解決編(フィールドワーク型・少人数型)(案)

「全国地域づくり人財塾」修了生の事後アンケート等においてフィールドワーク型研修の要望が多いこと等を踏まえ、人財塾修了生や地域づくりの実践をする者等20名程度を対象に、地域づくりの現地に赴き当該事例を参考として地域の抱えている課題の共有と課題解決策及び実行計画案の作成等を内容とする研修事業を検討する。

研修計画(案)

・開催日時及び開催地域:未定(②⑥の地域コーディネーター育成研究事業と同様に開催地を複数とすることも可能)
※最近の課題解決編(フィールドワーク型)開催地は、⑦三重県伊勢市、⑤滋賀県米原市

・研修カリキュラム(案)

1.【事前課題】現在の地域活動の状況・地域課題の整理

参加者が各地域で実践している地域づくり活動の状況、抱えている課題及び本研修で学びたいことについて
当日発表

2.【フィールドワーク】地域の取組の視察

実際に現地に赴き、関係者から地域の取組を伺う

3.【グループワーク】課題の共有と解決糸口の発見

事前課題を参加者間で共有し、代表的な課題をケーススタディとして取り上げ、現地視察での気づき等多面的な視点から、その解決策をグループワーク形式で討議

4.【成果発表】課題解決策と実行計画案の発表

グループワークで議論した解決策及び地域での実行計画案を全体発表

・その他(昨年度からの運用改善)

→参加要件を緩和(ペア参加を前提とせず個人参加を可能とする)し、修了生及び地域づくりを実践する方を対象として幅広く募集

→参加しやすい開催日程を調整し、募集期間をできる限り長く確保することで参加者数を確保

平成27年度の『「全国地域づくり人財塾」修了者の地域づくり活動調査』において、修了生が地域づくり活動の中心メンバーとなり継続して活動している状況や、自らの地域に限らず広域において活動している状況等が明らかになった。人材力活性化研究会として修了生にインセンティブを付与するとともに、その活動を積極的に後押しするため必要な検討を行う。

インセンティブの付与

- ・どのような仕組みがインセンティブの付与につながるのかを検討する必要があるのではないか。
- ・研究会の議論を踏まえ、修了生が地域に戻った際、新たな取り組みにつながる仕組みを検討する必要があるか。
- 「特に活躍する者」として研究会の構成員全員が認める者に対して、特別な措置を講じることができるか。
- (例) ①人材力活性化研究会として、総務省に対して修了生を推薦することができる仕組みを構築する
 - ②①の推薦を受けた総務省は、一定の審査を経て地域力創造アドバイザーとして「地域人材ネット」に登録
 - ③②により、各地域において修了生が地域力創造アドバイザーとして活躍する際、その立場が明確となるばかりでなく、関係各市町村においてもその活動を支援しやすい環境が整う

(参考) 地域人材ネット 外部専門家 (=地域力創造アドバイザー) のデータベース

- 地域独自の魅力や価値の向上の取組を支援する民間専門家や先進市町村で活躍している職員（課）を登録
- 民間専門家（304名）、先進市町村で活躍している職員（23名（組織を含む））（平成28年4月1日現在 計327名）
- 地域力創造アドバイザー検索ページ <http://www.soumu.go.jp/ganbaru/jinzai/index.html>
- 1市町村当たり、以下に示す額を上限額として、原則として連続した任意の3年間を財政支援

外部専門家活用区分	初年度	第2年度	第3年度
先進自治体職員（組織）活用	2,400		

(参考) 『地域人材ネット※』の登録に当たっての要件

以下の要件に該当する方を登録の対象としている。

- ① 地域活性化の取組のモデルとなる先進的な事例において中核的な役割を担う人材またはその取組を支援した外部専門家
- ② 現地での継続的な指導・助言が可能であり、幅広いノウハウ等を提供できること
- ③ 特定の専門分野だけでなく地域おこし全般に貢献できること

※ 地域独自の魅力や価値の向上の取組を支援する民間専門家や先進市町村で活躍している職員をデータベースにして総務省ホームページに公開

全国地域づくり人財塾外部講師一覧

参考資料①

研修名	会場	開催日	受講者数	講師
平成23年度 地域づくり人育成講座	全国市町村国際文化研修所	H23.12.13～15	56名	・株式会社いろどり代表取締役 横石 知二氏 ・森ゼミ代表 森 吉弘氏
	市町村職員中央研修所	H24.3.12～14	125名	・株式会社いろどり代表取締役 横石 知二氏 ・森ゼミ代表 森 吉弘氏
平成24年度 地域づくり人育成講座	全国市町村国際文化研修所	H25.1.9～11	72名	・株式会社いろどり代表取締役 横石 知二氏 ・森ゼミ代表 森 吉弘氏
	市町村職員中央研修所	H25.3.11～13	81名	・総務省地域力創造・緑の分権改革アドバイザー 椎川 忍氏
平成25年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H25.9.25～27	51名	・NPO法人吉備野工房ちみち 理事長 加藤 せい子氏 ・(分科会)滋賀県立大学 助教 上田 洋平氏 ・(分科会)滋賀県南部健康福祉事務所 副主幹 中西 大輔氏 ・(分科会)愛媛県社会福祉士会 会長 井上 俊氏 ・森ゼミ 主宰 森 吉弘氏
	市町村職員中央研修所	H25.10.30～11.1	91名	・NHK制作局生活・食料番組部 チーフディレクター 黒川 敬氏 ・人間牧場主宰 若松 進一氏 ・(分科会)伊予市双海町 地域おこし協力隊 富田 敏氏
平成26年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H26.6.18～20	55名	・特定非営利活動法人グリーンバレー理事長 大南 信也氏
	市町村職員中央研修所	H26.10.29～31	81名	・(分科会)森ゼミ 主宰 森 吉弘氏 ・建築家 西村 浩氏
平成27年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H27.5.12～14	45名	・明治大学農学部教授 小田切 徳美氏 ・森ゼミ代表 森 吉弘氏 ・(直接対話)森ゼミ代表 森 吉弘氏
	市町村職員中央研修所	H27.10.28～30	87名	・農業法人せいわの里まめや 代表取締役 北川 静子氏
平成28年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H28.5.11～13	36名	・山梨市管財課 副主幹 磯村 賢一氏
	市町村職員中央研修所	H28.10.26～28	—	—

第20回人材力活性化研究会

議事次第

- 開催日時 平成29年2月22日(水)13:00～15:00
- 開催場所 総務省(合同庁舎2号館) 総務省11階会議室
- 議 事
 1. 「全国地域づくり人財塾」実施報告について
 2. 「全国地域づくり人財塾」修了生の活動への支援について
 3. その他
- 配付資料
 - ・ 資料1-1 「全国地域づくり人財塾」実績報告について
 - ・ 資料1-2 「全国地域づくり人財塾」フォローアップ研修について
 - ・ 資料2 第19回研究会における主な意見
 - ・ 資料3-1 平成29年度「全国地域づくり人財塾」開催計画(案)
 - ・ 資料3-2 平成29年度「全国地域づくり人財塾」(@JIAM)のカリキュラム(案)
 - ・ 資料3-3 平成29年度「全国地域づくり人財塾」(@自治大学校)のカリキュラム(案)
 - ・ 資料4 平成29年度「全国地域づくり人財塾」地方開催(案)
 - ・ 資料5 「全国地域づくり人財塾」修了生の活動への支援について(案)
 - ・ 資料6 「人材力活性化に関する調査研究事業」報告書骨子(案)

「全国地域づくり人財塾」実績報告について

「全国地域づくり人財塾」@地方開催 IN仙台

開催日時・会場

平成28年8月1(月)～2日(火) 仙台国際センター展示棟会議室
(仙台市青葉区青葉山無番地)

参加者の状況

参加者申込者数 84名(男性 57人 女性 27人)※参加団体区分・地域の内訳は以下のとおり

市	38人	北海道	1人	近畿	2人
指定都市	(3人)	東北	63人	中国	4人
町村	12人	関東	8人	四国	0人
一部事務組合	0人	北信越	3人	九州	1人
その他	26人	東海	0人	その他	2人

研修概要

- 人材力活性化研究会構成員が実践事例を基に研修及び直接対話を実施
- 外部講師 松村 豪太 氏(一般社団法人ISHINOMAKI 2.0 代表理事)
- 外部専門家を交えたパネルディスカッション 等

受講生の声(アンケートより抜粋)

- (研修全体)**
- ・講義の中で、成功だけでなく失敗した点についても話が聞きたい。
 - ・直接対話では講師全員まわられるようにすると良い。
 - ・受講生同士がもっと交流できるようにして欲しい。
- (ステップアップ研修の要望等)**
- ・ディスカッション等の少人数講座があれば参加したい。
 - ・ケースを用いてファシリテーション研修やフィールドワーク型の研修に参加したい。
 - ・受講生同士の実際抱えている課題について議論したい。
- (フォローアップについて)**
- ・研修後、それぞれの地域での取組について話し合う場がほしい。
- (仙台開催について)**
- ・仙台開催はとても良かった。東北地域間の人をつながりを作ることが出来た。



「全国地域づくり人財塾課題解決編(フィールドワーク型)」

開催日時・会場

平成28年10月12日(水)～14日(金) 石川県鳳珠郡穴水町、石川県七尾市

参加者の状況

参加者数 14名(男性9人 女性5人)※うち人財塾修了者は1名

市	7人(うち地域おこし協力隊員6名)	北海道	0人	近畿	3人
指定都市	0人	東北	3人	中国	1人
町村	7人(うち地域おこし協力隊員6名)	関東	0人	四国	1人
一部事務組合	0人	北信越	3人	九州	3人
その他	0人	東海	0人	—	

研修概要

- 受講者の事前課題の発表、飯盛座長が実践事例を基に講義
- 飯盛座長及び牧野委員から事前課題に対する講評
- グループワークによるテーマ選定、フィールドワーク(春蘭の里・株式会社御祓川)、具体的実行計画検討・取りまとめ・発表
- 飯盛座長による全体講評、受講生による行動宣言の作成・発表

受講生の声(アンケートより一部抜粋)

(研修全般)

- ・グループワークは十分な内容、時間だった。
- ・フィールドワーク先のもと内に入り込んで話を聞きたかった。
- ・協力隊と行政職員の比率の調整が必要。

(ステップアップ研修の要望等)

- ・ケーススタディを利用した研修があれば参加したい。
- ・自分の事業計画書を持ち寄ってブラッシュアップさせる研修があれば参加したい。



「全国地域づくり人財塾」@市町村職員中央研修所

開催日時・会場

平成28年10月26日(水)～28日(金) 市町村職員中央研修所(千葉県千葉市)

参加者の状況

参加者数 94名(男性72人 女性22人)※年齢層・参加団体区分・地域の内訳は以下のとおり

～29歳	29人	最年少 22歳 最年長 62歳 平均 36.5歳	市	69人	北海道	6人	近畿	2人
30～39歳	33人		指定都市	(3人)	東北	16人	中国	4人
40～49歳	27人		町村	20人	関東	29人	四国	2人
50～59歳	4人		一部事務組合	0人	北信越	6人	九州	18人
60歳～	1人		その他	5人	東海	6人	その他	5人

研修概要

- 人材力活性化研究会構成員が実践事例を基に研修及び直接対話を実施
- 外部講師 大津 愛梨氏(NPO法人田舎のヒロインズ理事長)
- 人財塾修了生(4名)による事例報告 等

受講生の声(アンケートより抜粋)

(研修全般)

- ・研修生同士議論する時間が短かったので、より深く議論する時間がほしい。
- ・参加者が多いように感じた。
- ・講義以外にも直接対話できる機会があり、有意義であった。

(ステップアップ研修の要望等)

- ・地方での研修を開催してほしい。
- ・先進事例を用いたケーススタディやグループ討議があれば参加したい。
- ・直接対話に人財塾既受講者も呼んでみてはどうか。

(フォローアップについて)

- ・定期的な報告会等があれば参加したい。



「全国地域づくり人財塾」フォローアップ研修について 資料1-2

概要

人材力活性化研究会の構成員や大学講師を招聘した講義のほか、参加者が自分の地域についてプレゼンを行い、それに対して他の参加者からフィードバックを行う形式で開催。

東日本支部においては、平成25年4月以降、3か月毎に開催されている。また、西日本においてはこれまで四国、中国、関西地区において、それぞれテーマを設定して不定期に開催されている。また、平成28年度の地方開催を機に仙台での自主研修がスタートした。

開催状況

年度	日時	場所	テーマ	
東日本支部	25 平成25年4月17日 平成25年7月19日 平成25年10月3日 平成26年1月29日	長池公園自然館	あったらいいな、こんな〇〇(市)	
	26 平成26年4月23日 平成26年7月9日 平成26年10月8日 平成27年1月7日	長池公園自然館 地域活性化センター 地域活性化センター 地域活性化センター	あったらいいな、こんな〇〇(市) あったらいいな、こんな〇〇(市) よりよい“コーディネーター”とは？ 人財塾での行動宣言の実践状況の報告、抱負	
	27 平成27年4月15日 平成27年7月29日 平成27年10月21日 平成28年1月21日	地域活性化センター 長池公園自然館 ルネこだいら フォーシーズンズ志木ふれあいプラザ	今、これから 指定管理者制度の10年を検証する “みんなが集まる場”とは？ 地域とかわる“楽しさ”と“難しさ”	
	28 平成28年4月28日 平成28年7月28日 平成28年11月7日 平成29年1月20日	千葉市生産学習センター 山武市ふれあいセンター 首都大学東京 地域活性化センター	地域の未来イメージをつくる～千葉市の新たな取り組みをケースに～ 図書館が発信する山武市の魅力！ 学生との交流で、新たな創発を！ 人財力とは何か…いま再び考える	
	西日本支部	25 平成26年2月23日～25日	松山市ほか	移住対策
		26 平成26年10月11日～12日	周南市	若手による地域づくり
		27 平成27年9月26日～27日	河内長野市	開催地における地域づくり(中山間地の活動拠点整備・運用、地区まちづくり会の活動)
	仙台	28 平成28年8月2日	仙台国際センター	地域と関わる中であなたが大切にしたいことは？

第19回研究会における主な意見 資料2

【人材育成全般について】

○行政(特に知事や市町村長)として人材育成に積極的ではない(参加歴がない)地方自治体に対してどのように参加を呼びかけていくかが重要なのではないかな。

【研修内容について】

- オフィスアワーの運用は受講生に非常に分かりにくいことから、利用しづらい時間帯になってしまっているのではないかな。実際には全く動かない受講生が多かったのはそのためではないかな。
- 受講生がフリーになる時間帯をもう少し増やしていくべきではないかな。
- 福祉、六次産業、人材・リーダー養成などのテーマを受講者が、申し込み時にあらかじめ選択できる時間帯を設けるべきではないかな。
- 修了生の事例報告の時間を更に増やすべきではないかな。また、受講生が事例報告者と意見交換できる時間を確保すべきではないかな。
- 今後は人財塾でなければ得られないものや、特徴を伝えていく必要があるのではないかな。特徴の大きな1つが全国から集まることで、全国ネットワークやその先にあるものを伝えながら、参加率を上げて、そのネットワークが活発に動いていく流れを創出することが重要ではないかな。

【地方開催について】

- 地方開催地は、東京からの利便性が悪く旅費が確保できない地域を優先して開催するべきではないかな。
- 特に修了生にとっては地方開催が自主研修の呼び水となるのではないかな。したがって、全国の地域において開催するべきではないかな。

平成29年度「全国地域づくり人財塾」等開催計画(案)

月	開催予定	備考
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国地域づくり人財塾 @全国市町村国際文化研修所(JIAM) 5月10日(水)～12日(金) 定員:60名を予定 	人材力活性化研究会?
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国地域づくり人財塾 @自治大学校政策専門課程 6月1日(木)～2日(金) 定員:120名を予定 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国地域づくり人財塾 地方開催 未定 定員:100名を予定 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国地域づくり人財塾 @市町村職員中央研修所 10月25日(水)～27日(金) 定員:80名を予定 	
2月		人材力活性化研究会?

※現時点で想定されるもののみを記載している。

平成29年度「全国地域づくり人財塾」@JIAMのカリキュラムについて(案)

資料3-2

課外	1時限(9:25~10:35)	2時限(10:50~12:00)	3時限(13:00~14:10)	4時限(14:25~15:35)	5時限(15:50~17:00)	課外
5月10日(火)		受付(11:00~) 屋食(11:30~) 開講・オリエンテーション(12:45~)	【講義1:導入】 (13:00~13:15) 「人材力の活性化について」 総務省 飯塚室長 【講義2:実践事例】 (13:15~14:10) INPOフュージョン長池の実践 ~多様で美しい共生の地域を 創造する人財とは~ 富永 講師	【講義3:実践事例】 「地域再生~行政に頼らない 感動の地域づくり~」 豊重 講師	【講義4:実践事例】 呂南町商工観光課 寺本 講師	17:00~17:30 【グループ・トーク】 本日の振り返り ■進め方 3~4名のグループで「気づいたこと、学んだこと」「実践に活かしたいこと」について意見交換を行う
5月11日(水)	【講義5:実践事例】 地域づくりのマネジメント~つながりをつくり創発を生む仕組みづくり~(講義) 飯盛講師	【講義6:実践事例】 玉坤講師【調整中】	【講師との直接対話1R】 ■進め方 講師ごとに、参加者を事前に振り分け、参加者からの質問に講師が応える形式で対話を行う。 ※飯盛講師ほか4名程度を受講者数に合わせて調整	【講師との直接対話2R】 ■進め方 講師を代えて、1Rと同様の形式を進める。 ※飯盛講師ほか4名程度を受講者数に合わせて調整	【講師との直接対話3R】 ■進め方 講師を代えて、1Rと同様の形式を進める。 ※飯盛講師ほか4名程度を受講者数に合わせて調整	17:00~17:30 【グループ・トーク】 本日の振り返り (案) 19:00~20:00 交流の時間とする 又は テーマを設定して選択し、自由に講師と意見交換できる時間とする
5月12日(金)	【グループ・トーク】 前日夜のグループでの意見交換の内容を発表し、グループ間で共有する	【講義7:事例報告①】 全国地域づくり人財塾既受講者からの報告 ※2名で約1時間 裾野市議会議員 小田氏 栃木市総合施策地域づくり推進課 山本氏	【講義8:事例報告②】 全国地域づくり人財塾既受講者からの報告 ※2名で約1時間 西予市野村産業建設課 宇都宮氏 朝来市あさご暮らし応援課 高本氏	14:10~ 【閉講式】		

平成29年度 自治大学校 政策専門課程
全国地域づくり人財塾(案)

月日	時限	時間	講義内容
6月1日 (木)	3	13:00~13:10 13:10~14:10	【開講挨拶】 講師:総務省地域力創造審議官 時澤忠(10分) 【合同講義】 講師:NPOフュージョン長池 富永 一夫会長(60分) 「創業の人財と後継の人財～NPOフュージョン長池の実践～」
	4	14:25~15:35	【合同講義】 ※未定 (140分)
	5	15:50~17:00	
6月2日 (金)	1	9:25~10:35	【合同講義】 講師:柳谷自治公民館 豊重哲郎館長(70分) 「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」
	2	10:50~12:00	【合同講義】 ※未定 (140分)
	3	13:00~14:10	
	4	14:25~15:35	【合同講義】 ※未定 (70分)
	5	15:50~17:00	【合同講義】 講師:慶應義塾大学総合政策学部 飯盛 義徳教授(70分) 「地域づくりのマネジメントーつながりをつくり創発を生む仕組みづくりー」

※ 検討中

(開催目的)

地域活性化においては、様々な知識・経験を持った人が、その知識・経験とアイデアを活かしながら、それぞれ活動に取り組み、地域で様々な活動が展開されている状況こそが重要。そのような状況を生み出すために必要となる地域づくり活動を自らの手で企画し実践できる人材を全国各地域において育成するため、人材力活性化研究会の構成員が直接赴いて育成することを目的とする。

来年度以降の開催計画 (案)

○全国を北海道・東北・北陸・関東甲信越・東海・近畿・中国四国・九州沖縄の8ブロックに分けて年に1ブロックにおいて実施することとする(地域バランス重視型)

→前回の研究会における構成員の意見を踏まえ、九州地方において開催することが適当か。
または、ある程度近隣の地域から受講生が集まりやすい都市地域を検討すべきか。

<(参考)仙台開催に当たり事前に考慮した事項>

- ・全国からの受講生が宿泊できる場所が研修場所又は近隣において確保できること
- ・約100名が余裕をもって使用できる会場を確保できること(直接対話会場の確保も含む)

○若しくは、あらかじめ公募により二つの開催地を柔軟に決定する方式とすべきか(開催地意向重視型)

→開催地を公募することとすべきか。※複数応募があった際には、どのように決定すべきか。

1

(参考)平成28年度 全国地域づくり人財塾 (地方開催 in仙台)

地域活性化においては、様々な知識・経験を持った人が、その知識・経験とアイデアを活かしながら、それぞれ活動に取り組み、地域で様々な活動が展開されている状況こそが重要。そのような状況を生み出すために必要となる地域づくり活動を自らの手で企画し実践できる人材を、人材力活性化研究会の構成員が中心となって育成する。

開催概要

場所: 仙台国際センター展示棟会議室
 仙台市青葉区青葉山無番地
 日時: 平成28年8月1日(月)~2日(火)
 定員: 100名 ※当日受講者84名(男性 57人 女性 27人)
 対象: 地域づくりに関心のある行政職員・地域づくり団体・NPO関係者
 主催: 総務省 (共催)宮城県・仙台市



主な研修講師

※人材力活性化研究会構成員を中心に東北地方で活躍する有識者を招聘

- 飯盛 義徳 (慶應義塾大学SFC研究所所長、総合政策学部教授)
- 小澤 浩子 (赤羽消防団 副団長)
- 富永 一夫 (NPO法人 NPOフュージョン長池 会長)
- 豊重 哲郎 (柳谷自治公民館 館長)
- 前神 有里 (一般財団法人 地域活性化センター総務企画部クリエイティブ事業室 室長)
- 牧野 益巳 (日本マイクロソフト株式会社社会長室 業務執行役員シチズンシップリード)
- 松村 豪太 (一般社団法人ISHINOMAKI2.0 代表理事)

<パネリスト>

津軽海峽マグロ女子会 島 康子・(一社) IMPACT Foundation 佐々木 大・(一社) ワカツク 渡辺 一馬



プログラム詳細

■8月1日(月)

※1日目の昼食は済ませて、ご参加ください

12:00-13:00 受付
13:20-13:30 開講・オリエンテーション

13:30-13:45 【導入講義】

『人材力の活性化について』 講師：総務省人材力活性化・連携交流室

13:45-14:40 【講義】

『NPOフュージョン長池の実践～多様で美しい共生の地域を創造する人材とは～』
NPO法人 NPOフュージョン長池 会長 富永 一夫 氏

14:55-16:05 【講義】

『地域再生～行政に頼らない地域づくり～』 柳谷自治公民館 館長 豊重 哲郎 氏

16:20-17:30 【講義】

『地域づくりマネジメント ― つながりをつくり開発を生む仕組みづくり ―』
慶應義塾大学SFC研究所 所長/総合政策学部 教授 飯盛 義徳 氏

18:00-19:30 【交流会】

仙台国際センター内会議室
参加者間の交流を深める懇親会を開催します (会費制 4,000円)

■8月2日(火)

※2日目の昼食は各自でご用意ください
※施設内カフェ、国際センター 駅の 카페は混雑する場合があります
※施設内に売店、コンビニエンスストアはありません

9:00-10:10 【講義】

『震災を契機とした創造的まちづくりモデル』
一般社団法人ISHINOMAKI 2.0 代表理事 松村 豪太 氏

10:25-11:55 【選択講義1】

※「講師との直接対話」と「リレー講義」を両方を受講していただきます
※「講師との直接対話」は、コース①～⑤から1つのコースを受講していただきます(会場の都合により第2希望以降になる場合もあります)

11:55-12:45 昼食・休憩

12:45-14:15 【選択講義2】

※「リレー講義」の受講は必須です(「リレー講義」の内容は【選択講義1】と【選択講義2】同じです)

「講師との直接対話」

下記の①～⑤のコースから1つお選びください。

コース①：飯盛講師 | コース④：小澤講師

コース②：富永講師 | コース⑤：前神講師

コース③：豊重講師 | (各90分)

「リレー講義」(必須)

牧野講師

『ICTを活用した地域づくり』(45分)

総務省地域力活性化・連携交流室長

『地域力創造施策の動向』(45分)

14:30-16:00 【パネルディスカッション】

テーマ：地方創生の本格化と人材育成について

<コーディネーター> 飯盛 義徳 慶應義塾大学SFC研究所 所長/総合政策学部 教授

<パネリスト> 豊重 哲郎 柳谷自治公民館 館長

小澤 浩子 赤羽消防団 副団長

島 康子 津軽海峡マクロ女子会

竹川 隆司 一般社団法人IMPACT Foundation Japan エグゼクティブ・ディレクター

渡辺 一馬 一般社団法人ワカツク 代表理事

16:00 閉講

講師紹介(講義順)

※H28年8月1日現在の役職

■特定非営利活動法人 NPOフュージョン長池 会長 富永 一夫 氏

東京都多摩ニュータウンに暮らす普通のサラリーマンが、ある日突然会社を辞めて地域に戻り、人と人のつながりが希薄なベトナムで少し昔の日本の町ならどこにでもあったような暖かい人間関係を築き、2012年には、緑の都市賞(国土交通大臣賞)を受賞。『都市郊外』の新興住宅地と既存の住民との間で地域づくりの活動を実践してきた講師の経験をもとに、このような点に留意しながら地域活動を展開すべきか、その要諦を講義いたします。

■柳谷自治公民館 館長 豊重 哲郎 氏

柳谷(やねだん)は、鹿児島県肝属半島に位置し、集落ぐるみで豊かな生き方を旨とする「むら」です。土着農を活用した環境保全型農業や生きた福祉活動が高く評価され、第6回日本計画行政学会「計画賞」の最優秀賞を受賞。また、「むらづくり日本一」も受賞。全住民参加型の活動の地域づくりを実践している豊重自治公民館長の経験をもとに、行政に頼らない自立した地域づくりのポイントと、地域人材の力を引き出し、活動に巻き込むためのポイントを講義いたします。

■慶應義塾大学SFC研究所 所長/総合政策学部 教授 飯盛 義徳 氏

地域づくりの第一人者である慶應義塾大学飯盛教授は、実践を通じて地域の元気の具体的な方策を探求されています。そのご経験から、先進事例の成功要因に基づき、「個々の人材の活かし方」「リーダーの役割を果たす人材」のほか、「リーダーを支えるための人材」など地域づくりにおける人材力の観点から講義いたします。

■一般社団法人ISHINOMAKI 2.0 代表理事 松村 豪太 氏

石巻をバトンアップしたい。震災の前の街に戻すのではなく、新しい木々を作りたい。被災した街の二階に集まった有志たちの思いから「ISHINOMAKI 2.0」は生まれ、合言葉は「世界で一番面白い街を作ろう」。古しいがらみは断ち切り、世代や立場を超えて、誰もが主役の未来を作る。プロジェクトや場所やメディアを融合させて、楽しく、遊ぶように未来を作るという観点から講義いたします。

■一般財団法人地域活性化センター 総務企画部 クリエイティブ事業室長 前神 有里 氏

地域包括ケア・高齢者虐待防止を担当したことをきっかけに、地域に深く関わる地域づくりを実践。2011年から地域担当職員となり、市町・地域おこし協力隊・地域の人と地域活性化と地域包括ケアのまちづくりに取り組んできた経験をもとに、公務員が職務経験を地域で生かす・地域での経験を職務で生かすためのポイントを講義いたします。

■日本マイクロソフト株式会社 会長室 業務執行役員 シチズンシップリード 牧野 益巳 氏

地方創生の深化に伴い、地域のICT(情報通信技術)活用を支えるICTリーダーのニーズは、今後ますます高まります。少子化に伴う高齢化社会においては、より少ない労力でより多くの生産物と付加価値を生み出すことが活性化のカギとなります。コミュニティとその担い手、行政と企業とをICTで結ぶ新たな地域協働のポイントと、その先進事例について講義いたします。

パネルディスカッション パネリスト紹介 (50音順)

■赤羽消防団 副団長 小澤 浩子 氏

近年、防災、応急だけでなく、有事における国民保護、災害学習や地域行事等を通じた地域の未来を担う人材の育成、様々な組織や人との連携等においても、消防団への期待はますます高まっています。パネルディスカッションでは、消防団が安全を守ることでもちが育つ、そして、そのまともにも消防団や地域を担う人材を育てていくという観点からアドバイスいたします。

■津軽海峡マクロ女子会 島 康子 氏

ふるさと大開がNHK連続テレビ小説「私の青空」の舞台となったことをきっかけに、おもしろがる心で地域を元気にする試みを進められています。パネルディスカッションでは、まちおこしグループなど自らも楽しむ地域活動という観点からアドバイスいたします。

■一般社団法人IMPACT Foundation Japan エグゼクティブ・ディレクター 竹川 隆司 氏

カタル国東日本大震災復興基金「カタルフレンド基金」の支援を受け、小中高生、大学生、企業、生産者など、どんな人でも新しいビジネスの創出に向かってチャレンジする「おこす(起こす・興す)人」の支援プロジェクト「INTILAQ」に取り組む。パネルディスカッションでは、起業・事業家養成の観点からアドバイスいたします。

■一般社団法人ワカツク 代表理事 渡辺 一馬 氏

学生時代に企画したベンチャーサークル・デュナミス卒業と同時に会社法人化して「世界を変える人材を数多く生み出す仕組みを創る」ことを目的にベンチャーサークル事業を開始。震災後、一般社団法人ワカツクを立ち上げ、ホップアップやインターンのコアネットワーク事業を展開。パネルディスカッションでは、若者の挑戦という観点からアドバイスいたします。

有料駐車場

【地下駐車場】普通車96台 <料金> 最初の1時間は200円 その後30分ごとに100円

【せんだい青葉山交流広場】普通車66台～346台 <料金> 30分ごとに100円

平成27年度の『「全国地域づくり人財塾」修了者の地域づくり活動調査』において、修了生が地域づくり活動の中心メンバーとなり継続して活動している状況や、自らの地域に限らず広域において活動している状況等が明らかになった。人材力活性化研究会として修了生の地域づくり活動にインセンティブを付与する仕組みとともに、その活動を積極的に後押しするための支援措置について、第19回の研究会に引き続き必要な検討を行う。

第19回研究会における論点と主な意見

（論点）

どのような仕組みがインセンティブの付与につながるのかを検討する必要があるのではないか。また、修了生が地域に戻った際、新たな取り組みにつながる仕組みを検討する必要があるのではないか。

（論点に対する主な意見）

- ・ 地域づくりの活動が認められ、職場においても動きやすくなるような裏付けとなるものがよいのではないか。
- ・ 人財塾の講師陣として加わるような地域経営学者というライセンスを設けることがよいのではないか。
- ・ インセンティブという意味で、例えば「認定ファンドレイザー」のように名刺に書けるものがよいのではないか。
- ・ 認定クラスとしての「アドバンスドコース」のような仕組みを設けることとし、修了生のインセンティブに結び付けることがよいのではないか。
- ・ 「外部専門家(地域力創造アドバイザー)」への登録(財政支援)はハードルが高いのではないか。
- ・ 仮に地域力創造アドバイザーに登録するとしても、責任が重いので、段階を設けることが必要ではないか。
- ・ 観光振興の核となる人材を育てていくために観光庁で取り組んでいる「観光カリスマ」のような仕組みを設けることがよいのではないか。そんなものが1段階、最初のフェーズであったらよいのではないか。
- ・ 総務省(地域力創造グループ)に対して修了生から直接アプローチすることができる仕組みを設けるべきではないか。

インセンティブの付与について

- **人財塾修了者の中から、その後の活動が顕著な方を人材力活性化研究会において選定し、表彰するとともに「地域づくり人（仮称）」の名称使用を認めてはどうか。**

（選定等の手続き）

「全国地域づくり人財塾」の修了生の中から、特に顕著な活動実績を有する者を以下の方法により選定・表彰

- ①人材力活性化研究会において選定
- ②総務省が表彰するとともに、「地域づくり人(仮称)」として登録

【選定基準（案）】※顕著な活動実績を有する山形市 後藤 好邦氏及び米沢市 相田 隆行氏をベースに作成した

- ・ 業種、世代などそれぞれの立場や枠にとらわれない活動に取り組んでいる
- ・ 活動を通じて異なる世代の地域づくり人（新しい地域リーダー）の育成に取り組んでいる
- ・ 地域活動団体を越えて（広域で）相互交流とネットワークを構築している

（選定・表彰の効果）

総務省人材力活性化・連携交流室において、「地域づくり人(仮称)」をイメージすることができるよう、ロゴマークのデザインを作成し、選定・表彰を受けた者に対し当該ロゴマークの使用を許諾することにより、組織内部においても、また、対外的にも「地域づくり人(仮称)」として活動できる環境を創出することができる。

「全国地域づくり人財塾修了生」の活動への支援について（案）③

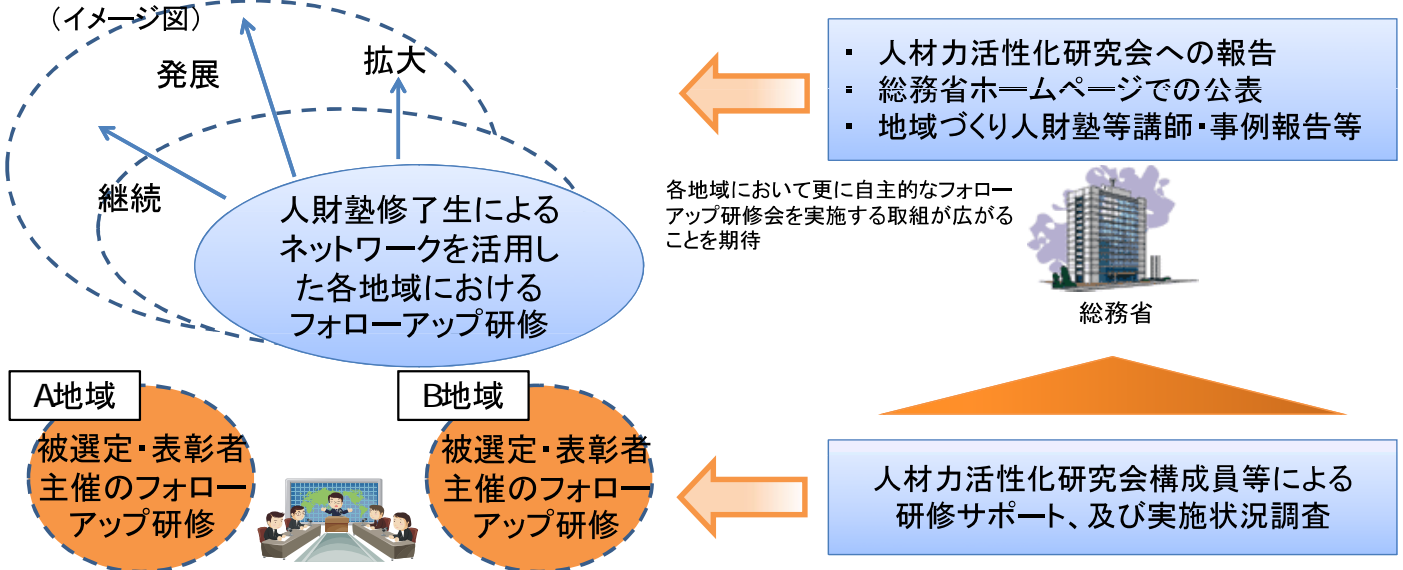
活動を積極的に後押しするための支援措置

○ 選定・表彰を受けた者がフォローアップ研修を開催する際、人材力活性化研究会構成員等の派遣に係る旅費及び謝金（総務省基準による）を支援することとしてはどうか。

（被選定・表彰者の活動を財政面から支援する）

総務省において、選定・表彰を受けた者が主催するフォローアップ研修を支援する。具体的な支援内容として人材力活性化研究会構成員又は地域力創造アドバイザーの招聘に係る経費等を支援することとしてはどうか。

（イメージ図）



人財塾修了生の活動への支援について（案）

参考（第19回提出）

平成27年度の『「全国地域づくり人財塾」修了者の地域づくり活動調査』において、修了生が地域づくり活動の中心メンバーとなり継続して活動している状況や、自らの地域に限らず広域において活動している状況等が明らかになった。人材力活性化研究会として修了生にインセンティブを付与するとともに、その活動を積極的に後押しするため必要な検討を行う。

インセンティブの付与

- ・どのような仕組みがインセンティブの付与につながるのかを検討する必要があるのではないか。
- ・研究会の議論を踏まえ、修了生が地域に戻った際、新たな取り組みにつながる仕組みを検討する必要があるか。
- 「特に活躍する者」として研究会の構成員全員が認める者に対して、特別な措置を講じることができるか。
- （例）①人材力活性化研究会として、総務省に対して修了生を推薦することができる仕組みを構築する
 - ②①の推薦を受けた総務省は、一定の審査を経て地域力創造アドバイザーとして「地域人材ネット」に登録
 - ③②により、各地域において修了生が地域力創造アドバイザーとして活躍する際、その立場が明確となるばかりでなく、関係各市町村においてもその活動を支援しやすい環境が整う

（参考）地域人材ネット 外部専門家（＝地域力創造アドバイザー）のデータベース

- 地域独自の魅力や価値の向上の取組を支援する民間専門家や先進市町村で活躍している職員（課）を登録
- 民間専門家（304名）、先進市町村で活躍している職員（23名（組織を含む））（平成28年4月1日現在 計327名）
- 地域力創造アドバイザー検索ページ <http://www.soumu.go.jp/ganbaru/jinzai/index.html>
- 1市町村当たり、以下に示す額を上限額として、原則として連続した任意の3年間を財政支援

外部専門家活用区分	初年度	第2年度	第3年度
先進自治体職員（組織）活用	2,400		

(参考) 『地域人材ネット※』の登録に当たっての要件

以下の要件に該当する方を登録の対象としている。

- ① 地域活性化の取組のモデルとなる先進的な事例において中核的な役割を担う人材またはその取組を支援した外部専門家
- ② 現地での継続的な指導・助言が可能であり、幅広いノウハウ等を提供できること
- ③ 特定の専門分野だけでなく地域おこし全般に貢献できること

※ 地域独自の魅力や価値の向上の取組を支援する民間専門家や先進市町村で活躍している職員をデータベースにして総務省ホームページに公開

「人材力活性化に関する調査研究事業」報告書骨子（案）

序章 調査の目的

1. 調査の目的

※全国地域づくり人財塾のほか、課題解決編（フィールドワーク型）と地方開催（in 仙台）を実施。

第Ⅰ章 全国地域づくり人財塾

1. 全国地域づくり人財塾とは

2. 今年度の実施状況（JIAM、JAMP、自治大学校、及び地方開催（in 仙台））

3. 全国地域づくり人財塾フォローアップ研修

第Ⅱ章 全国地域づくり人財塾課題解決編

1. 全国地域づくり人財塾課題解決編

2. フィールドワーク型の実施状況

第Ⅲ章 人材力活性化研究会

1. 第19回研究会

2. 第20回研究会

第Ⅳ章 本年度の調査研究事業の成果と今後の方向性

1. 本年度の調査研究事業の成果と課題

2. 今後の展開に向けて

参考資料：全国地域づくり人財塾初級編 受講者アンケート等

平成28年度 人材力活性化に関する調査研究事業 報告書
平成29年3月

総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課 人材力活性化・連携交流室
〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2
電話 03-5253-5111 (代)

(事業請負) 株式会社価値総合研究所
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-2
電話 : 03-5205-7901 FAX : 03-5205-7922

